

れざるを知り、宗族を以て請を爲す。遂に之を斬る。

卷の第二百九十三

後周紀四

世宗睿文孝武皇帝中

顯德三年、三月甲午朔、上、水寨を行視し、(三) 汜橋に至り、自ら一石を取り、馬上に之を持して、

寨に至り、以て(三) 礮に供す。從官、橋を過ぐる者、人ごとに一石を齎す。

【一】 顯德三年。西紀九五六年。

【五】 連弩。弩の、數矢或は數十矢を連發す可き者。

太祖皇帝、(四) 皮船に乗り、壽春壕中に入る。城上、(五) 連弩を發して之を射る。矢の大き屋椽の

【二】 汜橋。汜水の上に於て橋を爲るなり。

【六】 史、張瓊の勇を言ふ。後、

如し。牙將館陶の張瓊、遽に身を以て之を蔽ふ。

【三】 礮。砲と同じ。

太祖、登極し、瓊を以て侍衛親兵を總べしむ。

矢、瓊の髀に中り、死して復た蘇る。鏃、骨に

【四】 皮船。牛皮を縫うて之を爲る。

【七】 天祐。唐の昭宗の年號。

著きて、出す可からず。瓊、酒一大卮を飲み、

人をして骨を破りて之を出さしむ。流血數升。(六) 神色自若たり。

唐主復た右僕射孫晟を以て司空と爲

し、禮部尙書王崇質と與に表を奉じて入見せしめ、稱すらく、

(七) 『天祐より以來、海内分崩し、或は

唐主復た右僕射孫晟を以て司空と爲

(一〇) 一方に跨據し、或は遷革して代を異にす。臣、先業を紹襲し、江表を奄有せり。顧ふに瞻烏未だ定まらざるを以て、附鳳何に従はん。今、天命、歸する有り、聲教遠く被る。願はくは兩浙・湖南に比し、仰ぎて正朔を奉じ、謹みて土疆を守らんことを。乞ふ。薄伐の威を收め、其の後れて服するの罪を赦し、首として下國に於て、外臣と作らしめんことを。則ち遠きを柔くるの徳、云に誰か服せざらん」と。又、金千兩・銀十萬兩・羅綺二千匹を獻す。晟、馮延己に謂つて曰はく、(一一)「此行當に左相に在るべし。晟若し之を辭せば、則ち先帝に負かん」と。既に行く。免れざるを知り、中夜歎息し、崇質に謂つて曰はく、「君が家の百口、宜しく自ら謀を爲すべし。吾、之を思ふこと熟せり。終に、(一二) 永陵の(一三) 一培の土に負かず。餘は知る所無し」と。

- 【八】 一方に跨據するは、四方刺據の國をいふ。
- 【九】 遷革して代を異にすは、中國數、主を易ふるをいふ。
- 【一〇】 瞻烏云云。詩に曰はく、烏を瞻るに爰に誰の屋に止まると。漢の耿純曰はく、龍鱗を攀ぢ、鳳翼に附すと。此れ、未だ眞主を見ざれば、從つて歸附する無きを言ふ。
- 【一一】 兩浙は錢鏐より以來、湖南は馬殷より以來、皆、奕世、中國に奉事す。
- 【一二】 薄伐。詩に云はく、薄りて西戎を伐つと。薄は迫なり、鐘鼓有るを伐といふ。
- 【一三】 唐、馮延己を左僕射と爲し、位、孫晟の上に在り、故に晟然云ふ。
- 【一四】 永陵。唐主の父昇の墓なり。
- 【一五】 一培の土。一畝の土といふが如し。
- 【一六】 南漢主が諸弟を誅する、と、竝に前に見ゆ。

南漢の甘泉宮使林延遇、陰險にして計數多し。南漢主、之を倚信す。(一七) 諸弟を誅滅するは、皆延遇の謀なり。乙未、卒す。國人相賀す。延遇病甚だしきや、内給事龔澄樞を薦めて自ら代らしむ。南

漢主、即日、澄樞を擢でて、承宣院及び内侍省に知たらしむ。澄樞は番禺の人なり。

光舒黃招安巡檢使行光州刺史何超、(一八) 安・隨・申・蔡四州の兵數萬を以て、光州を攻む。丙申、超奏す、「唐の光州の刺史張紹、城を棄てて走り、都監張承翰、城を以て降る」と。丁酉、行舒州刺史郭令圖、舒州を抜く。唐の(一九) 蕪州の將李福、其知州王承雋を殺し、州を擧げて來り降る。六宅使齊藏珍を遣はして黃州を攻めしむ。

彰武留後李彥頽、性貪虐なり。部民、羌胡と、亂を作して之を攻む。上、彥頽を召して朝に還らしむ。

(二〇) 秦鳳の平ぐや、上、俘にする所の蜀の兵を赦し、以て軍籍に隸す。淮南を征するに従ひ、復た亡げて唐に降る。癸卯、唐主表して、百五十人を獻す。上悉く命じて之を斬らしむ。

舒州の人、郭令圖を逐ふ。鐵騎都指揮使洛陽の王審琦、輕騎を選び、夜、舒州を襲ひ、復た之を取る。令圖、乃ち(二一) 歸るを得たり。馬希崇及び王延政の子繼沂、(二二) 皆、揚州に在り、詔して、之を撫存す。

【一七】 龔澄樞、林延遇に繼ぎて事を用ひ、南漢遂に亡ぶ。

【一八】 光州より西南のかた安州に至るまで六百里。隨州より東のかた安州に至るまで二百四十里。東北のかた申州に至るまで二百五十里。申州より東のかた光州に至るまで二百五十五里。光州より北のかた蔡州に至るまで二百五十里。

【一九】 舒州より西のかた蕪州に至るまで二百九十八里。蕪州より西のかた黃州に至るまで二百一十里。三州、皆、江に瀕す。

【二〇】 延州より召して還らしむ。

【二一】 事、前卷前年に見ゆ。

【二二】 復た舒州に歸るを得。

【二三】 楚閩、世、中國に事ふ。其後、南唐の俘にする所と爲り、揚州に囚へらる。周、揚州を得、故に之を撫存す。

丙午、孫晟等、(一)上の所に至る。庚戌、上、中使を遣はし、孫晟を以て壽春城下に詣り、(二)且つ之を招諭す。仁贍、晟を見、(三)戎服して城上に拜す。晟、仁贍に謂つて曰はく、「君、國の厚恩を受く。門を開きて寇を納る可からず」と。上、之を聞きて甚だ怒る。晟曰はく、「臣、宰相たり。豈に節度使に外に叛するを教ふ可けんや」と。(四)上乃ち之を釋く。唐主、李德明・孫晟をして、上に言ひ、帝號を去り、(五)壽・濠・泗・楚・光・海六州の地を割き、仍ほ歲ごとに金帛百萬を輸せんことを請ひ、以て兵を罷めんことを求めしむ。上、淮南の地、已に半は周の有と爲り、諸將の捷奏日に至るを以て、盡く江北の地を得んと欲し、許さず。德明、周の兵の日に進むを見、奏して稱す、「唐主、陛下の兵力此の如きの盛なるを知らず。願はくは臣に五日の誅を寬くせよ。歸りて唐主に白して、盡く江北の地を獻するを得ん」と。上乃ち之を許す。晟因つて奏し、(六)王崇質を遣はし、德明と俱に歸らしむ。上、供奉官安弘道を遣はし、德明等を送りて金陵に歸らしめ、唐主に詔書を賜ふ。其略に曰はく、「但だ帝號を存せん。(七)何ぞ歲寒に爽はん。儻し大に事ふるの心を堅くせば、終に人に儉に迫らし」と。

【一】 行在所に至るなり。
 【二】 邊帥が宰相を見る禮を以て晟を拜す。
 【三】 孫晟の辭直なり。周の世宗、亦、何を以て之を罪せん。
 【四】 六州の地は、皆、淮に瀕す。周既に之を得ば、唐、長淮の險を失はん。たとひ周、唐の請に従つて兵を罷むとも、江北の地、他日、亦、守る能はざらん。
 【五】 王崇質、孫晟に副として來り使す。
 【六】 爽は差ふなり。歲寒くして、松柏の、凋むに後るるを知る。此約、差はざるなり。唐主が自ら江南に帝たるを許す。
 【七】 諸郡。江北の諸郡をいふなり。
 又曰はく、(三〇)「諸郡の悉

く來るを俟ち、即ち大軍之れ立ちどころに罷めん。言、此に盡く。更に、(三)煩はしく云はず。苟くも「未だ然らず」と曰はば、請ふ茲より絶たん」と。又、其將相に書を賜ひ、熟議して來らしむ。唐主復た上表して謝す。李德明、盛に上の威徳及び甲兵の強きを稱し、唐主に、江北の地を割かんことを勸む。唐主、悦ばず。宋齊丘、地を割くを以て益無しと爲す。德明は輕佻にして、言多く實に過ぐ。(三)國人も亦之を信せず。樞密使陳覺、副使李徵古、素より德明及び孫晟を惡み、王崇質をして其言に異ならしめ、因つて德明を唐主に讒して曰はく、「德明、國を賣り利を求む」と。唐主大に怒り、德明を市に斬る。吳程、常州を攻め、其外郭を破り、唐の常州團練使趙仁澤を執へ、錢唐に送る。仁澤、吳越王弘俶を見、拜せず。(三)責むるに約に負くを以てす。弘俶怒り、其口を決きて耳に至る。元德昭、(三)其忠を憐み、爲めに良藥を傳け、死せざるを得たり。唐主、吳越の兵、常州に在るを以て、其の潤州に侵逼せんことを恐れ、宣潤大都督燕王弘冀の年少きを以て、其の兵に習はざらんことを恐れ、微して金陵に還らしむ。部將趙鐸、弘冀に言つて曰はく、「大王は元帥にして、衆心の恃む所なり。逆め自ら退き歸らば、所部必ず亂れん」と。弘冀、之を然りとし、辭して徵に就かず、諸將を部分し、

【三】 煩はしく云はず。多言せずとの意。
 【三】 國人。南唐の通國の人を謂ふ。
 【三】 唐、吳越と、本、好を通じ、而して吳越、周の命を以てして唐を攻む、故に其の約に負くを責む。
 【三】 唐、忠臣無きに非ざるなり、用ふる能はざるのみ。
 【三】 常州より西北のかた潤州に至るまで一百七十一里。

戰守の備を爲す。龍武都虞候柴克宏は、(三六)再用の子なり。沈黙にして施を好み、家産を事とせず。宿衛を典ると雖も、日に賓客と、博奕飲酒し、未だ嘗て兵を言はず。時人以爲へらく將帥の才に非ずと。是に至りて、『克宏、久しく官を遷らず』と言ふ者有り。唐主、以て撫州の刺史と爲す。克宏、死を行陳に效さんと請ふ。其母も亦表して稱す、(三七)『克宏は父の風有り。將と爲す可し。苟くも任に勝へずんば、分、孛戮を甘んせん』と。唐主乃ち克宏を以て右武衛將軍と爲し、兵を將ゐて袁州の刺史陸孟俊に會して常州を救はしむ。時に唐の精兵、悉く江北に在り、克宏の將ゐる所の數千人、皆、羸老なり。樞密使李徵古、復た鐵仗の朽蠹せる者を以て之に給す。克宏、徵古に訴ふ。徵古、之を慢罵す。衆皆憤恚す。克宏、怡然たり。潤州に至る。徵古、使を遣はして召して還らしめ、神衛統軍朱匡彞を以て之に代らしむ。燕王弘冀、克宏に謂ふ、『君但だ前み戰へよ。吾當に論奏すべし』と。乃ち表す、『克宏の才略、以て功を成す可し。常州の危きこと且莫に在り。宜しく中ごろにして主將を易ふべからず』と。克宏、兵を引ききて徑に常州に趣く。徵古復た使を遣はして之を召す。克宏曰はく、『吾、日を計りて賊を破らんとす。汝來りて吾を召すは、必ず奸人ならん』と。命じて之を斬らしむ。使者曰はく、『李樞密の命を受けて來る』と。克宏曰はく、『李樞密來らば、吾亦之を斬

【三六】 柴再用、楊氏に事へて將と爲り、屢、戰功を立つ。又、徐溫父子に事ふるに及ぶ。
 【三七】 胡三省曰はく、趙括の母は、背て其子を保任せず、柴克宏の母は、自ら其子を稱薦す。皆、知るの審かなるなり。孛は子なり。其子と、甘んじて同じく戮せらるるを言ふなりと。

らん』と。初め(三八)鮑修讓・羅晟、福州に在り、吳程と隙有り。是に至りて、程、之を抑挫す。二人皆怨む。是より先、唐主、中書舍人喬匡彞を遣はし、吳越に使せしむ。壬子、柴克宏、常州に至り、其船を蒙ふに幕を以てし、甲士を其中に匿し、『匡彞を迎ふ』と聲言す。吳越の邏者、以て告ぐ。程曰はく、『兵交はれば、使、其間に在り。妄に以て疑と爲す可からず』と。唐の兵、岸に登り、徑に吳越の營に薄る。羅晟、力戰せず、之を縦ちて程の帳に趣かしむ。程僅に身を以て免る。克宏大に吳越の兵を破り、斬首萬級。朱匡業、行營に至る。克宏、之に事ふること甚だ謹む。吳程、錢唐に至る。吳越王弘俶、悉く其官を奪ふ。

甲寅、蜀主、捧聖控鶴都指揮使李廷珪を以て左右衛聖諸軍馬步都指揮使と爲す。仍は衛聖・匡聖の歩騎を分ちて左右十軍と爲し、武定節度使呂彥琦等を以て(三九)使と爲し、廷珪、之を總ぶること、(四〇)趙廷隱の任の如し。

初め柴克宏、宣州巡檢使と爲り、始めて至るや、城塹、修まらず、器械皆闕く。吏云はく、『田頌・王茂章・李遇が相繼ぎて叛せしより、後人、敢て之を治むる者無し』と。克宏曰はく、『時移り事異なり。安んぞ此理有らん』と。悉く之を繕完す。(四一)是

【三八】 漢の天福十二年、吳越、鮑修讓をして福州に成せしむ。是年、吳程を以て福州に鎮せしむ。
 【三九】 左傳の語を用ふ。軍使と爲すなり。
 【四〇】 蜀、李仁罕が誅せられしより、趙廷隱、専ら宿衛諸軍を總ぶ。後、安思謙の譴する所と爲りて罷む。事、竝に前に見ゆ。
 【四一】 唐の天福三年、田頌、宣州を以て楊行密に叛し、天福二年、王茂章叛し、梁の乾化二年、李遇叛す。事、竝に前に見ゆ。
 【四二】 史、宣州、全きを獲るば、亦、柴克宏の力なるを言ふ。

に由りて、路彥銖、之を攻むれども、克たず。吳程敗れぬと聞き、乙卯、引き歸る。唐主、克宏を以て奉化節度使と爲す。克宏復た請うて兵を將ゐて壽州を救はんとす。未だ至らずして卒す。

河陽節度使白重贊、天子南征するを以て、北漢の虚に乗じて入寇せんことを慮り、守備を繕完し、且つ兵を西京に請ふ。西京留守王晏、初め、之を與へず、又、事の非常に出でんことを慮り、乃ち自ら兵を將ゐて之に赴く。重贊、晏が詔を奉せずして來るを以て、拒みて納れず。人を遣はして之に謂つて曰はしむ、

「令公、昔、陝服に在り、已に大功を立てたり。河陽は小城なり。枉駕を煩はさず」と。晏、慙作して還る。孟洛の民、數日驚き擾る。

唐主、諸道兵馬元帥齊王景達に命じ、兵を將ゐて周を拒がしめ、陳覺を以て監軍使と爲し、前の武安節度使邊鎬を應援都軍使と爲す。中書舍人韓熙載、上書して曰はく、「信は親王よりも信なるは莫く、重きは元帥よりも重きは莫し。安んぞ監軍使を用ふるを爲さん」と。唐主、從はず。鴻臚卿潘承祐を遣はし、泉建に詣り、驍勇を召募せしむ。承祐、前の永安節度使許文禎・靜江指揮使陳德誠・建州の人鄭彥華・林仁肇を薦む。唐主、文禎を以て西面行營應援使と爲し、彥華・仁肇を皆將と爲す。仁肇は仁翰の弟なり。

【四四】 天福十二年に晏が陝城を擧げて漢の高祖に降りしを謂ふ。晏、時に兼中書令たり、故に令公と稱す。
【四五】 慙作。慙愧なり。
【四六】 王晏が兵を出したるに白重贊が之を拒みたるを以て、兵交はりて其禍に罹らんことを恐る。
【四七】 邊鎬、潭州を失ひしを以て節を奪はる。今、之を敘用す。
【四八】 李仁翰は、二百八十四卷晉の武帝開運元年に見ゆ。唐主の保大二年なり。

夏四月甲子、侍衛親軍都指揮使歸德節度使李重進を以て廬壽等州招討使と爲し、武寧節度使武行德を以て濠州城下都部署と爲す。

唐の右衛將軍陸孟俊、常州より、兵萬餘人を將ゐて、泰州に趣く。周の兵遁れ去る。孟俊、復た之を取らば、其足を折れ」と。令坤始めて固守の志有り。帝、壽春に至りてより以來、諸軍に命じ、晝夜、城を攻めしむ。久しくして、克たず。會、大に雨ふり、營中水の深さ數尺、攻具及び士卒、失亡すること頗る多し。糧運、繼がず。李德明、期を失して、至らず。乃ち師を旋さ

唐の右衛將軍陸孟俊、常州より、兵萬餘人を將ゐて、泰州に趣く。周の兵遁れ去る。孟俊、復た之を取らば、其足を折れ」と。令坤始めて固守の志有り。帝、壽春に至りてより以來、諸軍に命じ、晝夜、城を攻めしむ。久しくして、克たず。會、大に雨ふり、營中水の深さ數尺、攻具及び士卒、失亡すること頗る多し。糧運、繼がず。李德明、期を失して、至らず。乃ち師を旋さ

【四九】 常州より北のかた泰州に至るまで一百九十七里。
【五〇】 復た泰州を取る。
【五一】 蜀岡は揚州城の西に在り。
【五二】 陸孟俊、蜀岡に據りて以て周の兵の投路を斷つ、故に韓令坤懼れて走る。
【五三】 援兵至る、故に復た揚州に入る。
【五四】 六合縣は揚州に屬す、州の西北一百三十里に在り。今の江蘇省金陵道六合縣。
【五五】 揚州より西北に歸るに

は、須く六合を過ぐべし。故に然云ふ。
【五六】 時に、周の兵、方舟を以て礮を載せ、肥河の中流より、壽春城を撃つ。又、巨竹數十萬を束ね、竿上に板屋を施し、號して竹籠と曰ひ、甲士を載せて以て之を攻む。會、肥水暴に漲り、礮舟・竹籠、皆漂うて南岸に向ひ、唐の兵の焚く所と爲る。
【五七】 李德明、歸りて金陵に至り、誅せらる。

んと議す。或るひと帝に勸む、「東して濠州に幸し、『壽州已に破れり』と聲言せよ」と。之に従ふ。己巳、帝、壽春より、淮に循うて東し、乙亥、濠州に至る。韓令坤、唐の兵を城東に敗り、陸孟俊を擒にす。初め、孟俊が馬希夢を廢して希崇を立てるや、故の舒州の刺史楊昭暉の族を滅ぼし、而して其財を取る。楊氏、女有り、美なり。希崇に獻す。令坤、揚州に入るや、希崇、楊氏を以て令坤に遺る。令坤、之を嬖す。既に孟俊を獲、將に帝の所に械送せんとす。楊氏、簾下に在り、忽ち膺を撫して慟哭す。令坤驚きて之に問ふ。對へて曰はく、「孟俊、昔、潭州に在るとき、妾が家二百口を殺せり。今日、之を見る。請ふ其冤を復せよ」と。令坤乃ち之を殺す。

唐の齊王景達、兵二萬を將る、瓜步より江を濟り、六合を距ること二十餘里、柵を設けて進まず。諸將、之を擊たんと欲す。

太祖皇帝曰はく、「彼、柵を設けて自ら固むるは、我を懼るるなり。今、吾が衆、二千に満たず。若し往きて之を擊たば、則ち彼、吾が衆の寡きを見ん。其の來るを俟ちて之を擊たんに如かず。之を破らんこと必せり」と。居ること數日、唐、兵を出して六合に趣く。太祖皇帝、奮擊して大に之を破る。殺獲、五千人に近し。餘衆尙ほ萬餘、走りて江を度り、舟を争ひ、溺死する者甚だ衆し。是に於て唐の精卒盡く。是戰や、士卒、力を致さざる者有り。

【五八】 壽州より東のかた濠州に至るまで三百八十里。
【五九】 事、二百九十卷太祖廣順元年に見ゆ。

太祖皇帝、陽に督戰を爲し、劍を以て其皮笠を斫る。明日、徧く其皮笠を閱し、劍の跡有る者數十人、皆、之を斬る。是に由りて、部兵、敢て死を盡さざるもの莫し。是より先、唐主、揚州の守を失ひしを聞き、四旁に命じ、兵を發して之を取らしむ。己卯、韓令坤、奏す、「揚州の兵萬餘人を灣頭堰に敗り、漣州の刺史秦進崇を獲たり」と。

張永德、奏す、「泗州の萬餘人を曲溪堰に敗る」と。

丙戌、宣徽南院使向訓を以て、淮南節度使兼沿江招討使と爲す。渦口に奏す、「新に浮梁を作りて成る」と。丁亥、帝、濠州より渦口に如く。

帝、進取に銳にして、自ら揚州に至らんと欲す。范質等、兵疲れ食少きを以て、泣諫して止む。又嘗て翰林學士竇儀を怒り、之を殺さんと欲す。范質入りて之を救ふ。帝、望見して其意を識り、即ち起ちて之を避く。質趨り前み、地に伏して叩頭し、諫めて曰はく、「儀の罪は死に至らず。臣、宰相と爲り、陛下の近臣を枉殺するを致すは、罪、皆、臣に在り」と。之に繼ぐに泣を以てす。帝、意解け、乃ち之を釋す。

北漢、神武帝を交城の北山に葬り、廟を世祖と號す。五月壬辰朔、渦口を以て鎮淮軍と爲す。

【六〇】 灣頭堰。揚州江都縣に在り。
【六一】 唐、蓋し漣州を漣水縣（今、江蘇省淮揚道）に置く。漣水より西南のかた楚州に至るまで六十里。
【六二】 曲溪。盱眙縣の西南十里に在り。
【六三】 渦口は渦水の淮に入るの口。渦口城より東南のかた濠州に至るまで九十里。
【六四】 交城。隋、晉陽縣を分ちて交城縣を置く。縣の西北の古の交城を取りて名と爲す。今の山西省襄寧道交城縣。

丙申、唐の永安節度使陳誨、福州の兵を南臺江に敗り、俘斬千餘級。唐主、(蓋)永安を更め命けて忠義軍と曰ふ。誨は徳誠の父なり。

戊戌、帝、侍衛親軍都指揮使李重進等を留めて壽州を圍ましめ、(六五)渦口より北に歸り、乙卯、大梁に至る。

六月壬申、淮南の諸州の繫囚を赦し、李氏の非理の賦役を除き、事、民に便ならざる者有れば、長吏に委ねて以て聞せしむ。

侍衛歩軍都指揮使彰信節度使李繼勳、壽州の城南に營す。唐の劉仁贍、繼勳が備無きを伺ひ、兵を出して之を撃ち、士卒數百人を殺し、其攻具を焚く。

唐の駕部員外郎朱元、事を奏するに因り、兵を用ふる方略を論ず。唐主、以て能と爲し、命じて兵を將ゐて江北の諸州を復せしむ。

秋七月辛卯朔、周行逢を以て武平節度使と爲し、武安・靜江等の軍事を制置せしむ。行逢既に湖湘を兼ね總べ、乃ち前人の弊を矯め、心を民事に留め、(六六)馬氏の横賦を除き、貪吏・猾民の、民の害を爲す者は、皆、之を去り、廉平の吏を擇びて刺史・縣令と爲す。朗州は、民夷雜居し、劉言・王逵の舊將、多く驕横なり。行逢、壹に法を以て之を治し、寛假する所無し。衆、怨懟し且つ懼る。大將有り、

六〇〇

【六五】 管の開運二年、唐、建州に克ち、永安軍を置く。
【六六】 渦口より大梁に至るまで七百四十里。
【六七】 馬氏、希範より以來、始めて賦を境内に加ふ。

其黨十餘人と、亂を作さんと謀る。行逢、之を知り、大に諸將を會し、座中に於て之を擒にし、(六八)數めて曰はく、『吾、惡衣糲食して、府庫を充實するは、正に汝が曹の爲めなり。何を負きて反する。今日の會は、汝と訣するなり』と。立ちどころに之を槌殺す。座上、股栗す。行逢曰はく、『諸君は罪無し。皆宜しく自ら安んずべし』と。樂飲して罷む。行逢、計數多く、善く隱伏を發す。將卒、亂を謀り及び叛亡する者有れば、行逢必ず先づ覺り、擒へて之を殺す。所部、凜然たり。然れども性猜忍にして、常に人を散遣し、密に諸州の事を誦はしむ。其の邵州に之く者、事の復命す可き無し。但だ『刺史劉光委多く宴飲す』と言ふ。行逢曰はく、

【六八】 數。責むるなり。
【六九】 兵柄を解きて衡州に歸らんことを求むるなり。
【七〇】 府舍。朗州の府舍なり。

『光委數、聚まり飲む。我を謀らんと欲するか』と。即ち召し還して之を殺す。親衛指揮使衡州の刺史張文表、罪を獲んことを恐れ、(七一)治所に歸らんことを求む。行逢、之を許す。文表、歲時の饋獻甚だ厚く、及び謹みて左右に事ふ。是に由りて免るを得たり。行逢の妻鄧國夫人鄧氏、陋にして而も剛決、善く生を治む。嘗て行逢を諫む、『法を用ふること太だ嚴にして、人、親附する者無し』と。行逢怒りて曰はく、『汝は婦人なり。何を知らん』と。鄧氏、悦ばず。因つて請うて村墅に之き、田園を視、遂に復た府舍に歸らず。行逢屢、人を遣はして之を迎ふれども、至らず。一旦、自ら僮僕を帥る、來りて税を輸す。行逢就きて之を見て曰はく、『吾、節度使たり。夫人何ぞ自ら苦しむこと此の如くなる』と。鄧氏曰はく、『税は官物なり。公、節度

使たり。先づ税を輸せずんば、何を以て下を率ゐん。且つ獨り、里正と爲り、人に代りて税を輸し、以て楚撻を免れし時を記せずや」と。行逢、之と與に歸らんと欲す。可かずして曰はく、「公、誅殺太だ過ぐ。常に恐る、一旦、變有らんことを。村墅は逃匿を爲し易きのみ」と。行逢慙ぢ怒る。其僚屬曰はく、「夫人の言、直なり。公宜しく之を納るべし」と。行逢の婿唐徳、吏に補せられんことを求む。行逢曰はく、「汝の才、吏と爲るに堪へず。吾今汝に私するは則ち可なり。汝、官に居りて無狀ならば、吾、敢て法を以て汝に貸さざらん。則ち親戚の恩絶えん」と。之に耕牛・農具を與へて之を遣る。行逢、少き時、嘗て事に坐して黥せられ、辰州の銅阬に隸す。或るひと行逢に説く、「公の面に文有り。恐らくは朝廷の使者の嗤ふ所と爲らん。請ふ藥を以て之を滅せ」と。行逢曰はく、「吾聞く、漢に黥布有り、英雄たるを害せずと。吾何ぞ焉を恥ぢん」と。劉言・王達より以來、屢兵を擧げ、將吏、功を積み、及び羈縻する所の蠻夷、檢校官の三公に至る者、千を以て數ふ。前の天策府學士徐仲雅、馬希廣が廢せられしより、門を杜ちて出でず。行逢、之を慕ひ、節度判官に署す。仲雅曰はく、「行逢、昔、我に趨事せり。奈何ぞ之が幕吏と爲らん」と。疾と辭して至らず。行逢、迫脅して固く之を召し、面のあたり文牒を授く。終に辭して取らず。

【七〇】 肯へて府舎に歸らざるなり。

【七一】 唐の文宗の世、天下の銅阬五十、辰州は其數に在らず。辰州の銅阬は蓋し馬氏の置く所なり。

【七二】 黥布の事、八卷秦の二世二年に見ゆ。

【七三】 漢の諸蠻夷を謂ふ。

【七四】 馬希廣の廢せらるること二百八十九卷漢の乾祐三年に見ゆ。

行逢怒り、之を邵州に放つ。既にして召して還らしむ。會、行逢の生日に、諸道各使を遣はし、賀を致す。行逢、矜る色有り。仲雅に謂つて曰はく、「吾、三府を兼ね鎮せしより、四鄰も亦我を畏るるか」と。仲雅曰はく、「侍中の境内、天に彌りて太保、地に徧くして司空なり。四鄰那ぞ畏れざるを得ん」と。行逢復た之を邵州に放つ。竟に屈する能はず。僧仁及といふもの有り、行逢の信任する所と爲り、軍府の事、皆、之に預る。亦、檢校司空を加へられ、數妻を娶り、出入の導從、王公の如し。

辛亥、宣懿皇后符氏、歿す。

唐の將、朱元、舒州を取。刺史郭令圖、城を棄てて走る。李平、蘄州を取。唐主、元を以て舒州團練使と爲し、平を蘄州の刺史と爲す。元、又、和州を取。初め唐人、茶鹽を以て民に強ひ、而して其粟帛を徵す。之を博徵と謂ふ。又、營田を淮南に興す。民甚だ之に苦しむ。周の師至るに及び、争うて牛酒を奉じて迎勞す。而るに將帥、之を恤まず、専ら俘掠を事とし、民を視ること土芥の如し。民、皆、望を失ひ、山澤に相聚まり、堡壁を立てて自ら固め、農器を操りて兵と爲し、紙を積みて甲と爲す。時の人、之を白甲軍と謂ふ。周の兵、之を討ち、屢、敗る所と爲る。先に得る所の唐の諸州、多く復た唐の有と爲る。唐の援兵、紫金山に營し、壽

【七五】 三府。武平・武安・靜江軍府なり。

【七六】 周行逢、侍中を加へらる、故に徐仲雅、之を稱す。

【七七】 朱元・李平は、皆、李守貞が遣はして救を唐に求めしめし所の者なり。事、二百八十八卷漢の乾祐元年に見ゆ。

【七八】 博徵。博は易ふるなり。茶鹽を以て博易して其粟帛を徵するを言ふ。

【七九】 紫金山。壽春の南に在り。即ち八公山。

春城中と、烽火相應ず。淮南節度使向訓、奏して請ふ、「廣陵の兵を以て、力を併せて壽春を攻め、城に克つを俟ち、更に進取を圖らん」と。詔して之を許す。訓、府庫を封じ、以て揚州の主者に授け、揚州の牙將に命じ、部を分ちて城中を按行せしめ、秋毫も犯さず。揚州の民感悦す。軍還るや、或は糗糒を負うて以て之を送る。滁州の守將も亦城を棄てて去る。皆、兵を引き壽春に趣く。唐の諸將、險に據りて以て周の師を邀へんと請ふ。宋齊丘曰はく、「此の如くせば則ち怨益深からん」と。乃ち諸將に命じ、各、自ら保守し、擅に出でて周の兵を撃つを得る母らしむ。是に由りて、壽春の圍益急なり。齊王景達、濠州に軍し、遙に壽州の聲援を爲す。軍政、皆、陳覺に出で、景達は紙尾に署するのみ。兵五萬を擁し、決戦す意無し。將吏、覺を畏れ、敢て言ふ者無し。

八月戊辰、端明殿學士王朴・司天少監王處訥、顯德欽天曆を撰し、之を上る。詔して、來歲より之を行はしむ。

殿前都指揮使義成節度使張永德、下蔡に屯す。唐の將林仁肇、水陸軍を以て壽春を援く。永德、之と戰ふ。仁肇、船を以て薪芻を實し、風に因りて火を縱ち、下蔡の浮梁を焚かんと欲す。俄にして風回り、唐の兵敗れ退く。永德、鐵綆千餘尺を爲り、浮梁を距ること十餘歩、横さまに淮流を絶ち、繫ぐに巨木を以てす。是に由りて、唐の兵、近づく能はず。

【八一】 糗は米麥を熬りて之を爲る。糒は乾飯なり。

【八二】 初め王處訥、私に明玄曆を家に造る。唐の世に行ふ所の崇玄曆に因りて之を明かにするなり。帝、王朴が曆數に通するを以て、乃ち朴に詔して撰定せしむ。歩日・歩月・歩星・歩發を以て、斂めて四篇と爲し、合はせて曆經と爲し、併せて顯德三年七政細行曆一卷を著はし、以て欽天曆と爲す。

九月丙午、端明殿學士左散騎常侍權知開封府事王朴を以て戶部侍郎と爲し、樞密副使に充つ。

冬十月癸酉、李重進・奏す、「唐人、盛唐に寇す。鐵騎都指揮使王彥昇等、擊ちて之を破り、斬首三千餘級」と。彥昇は蜀の人なり。

丙子、上、侍臣に謂ふ、「近朝、穀帛を徵斂すること、多く、收穫紡績の畢るを俟たず」と。乃ち三司に詔して、今より、夏税は六月を以てし、秋税は十月を以て起徵せしむ。民間、之を便とす。

山南東道節度使守太尉兼中書令安審琦、襄州に鎮すること十餘年、是に至りて入朝す。守太師に除し、遣りて鎮に還らしむ。既に行くや、上、宰相に問ふ、「卿が曹、之を送りしか」と。對へて曰はく、「送りて城南に至りしが、審琦深く、聖恩に感せり」と。上曰はく、「近朝多くは誠信を以て諸侯を待たず。諸侯、忠節を効さんと欲する者有りと雖も、其道、由無し。王者但だ能く其信を失ふ母くば、何ぞ諸侯の心を歸せざるを患へんや」と。

壬午、張永德・奏す、「唐の兵を下蔡に敗る」と。是時、唐復た水軍を以て永德を攻む。永德、夜、善く遊ぶ者をして、其船下に没し、糜ぐに鐵鎖を以てせしめ、兵を縱ちて之を撃つ。船、進退するを

【八三】 近朝。近代なり。

【八四】 五代會要に曰はく、二税の起徵は、皆、月の一日を以てす。

【八五】 漢の天福十二年、安審琦、襄州に鎮し、是に至りて十年。

【八六】 五代以來、方鎮入朝する者、或は留めて遣らず、或は之を易置す。今、官を加へて遣りて鎮に還す。故に恩に感す。

得ず、溺死する者甚だ衆し。永徳、金帯を解き、以て善く遊ぶ者を賞す。

甲申、

太祖皇帝を以て、定國節度使・兼殿前都指揮使と爲す。

太祖皇帝、渭州軍事判官趙普を表して節度推官と爲す。

張永徳、李重進と、相悦ばず。永徳、密に「重進、二心有り」と表す。帝、

之を信せず。時に二將各、重兵を擁し、衆心憂へ恐る。重進、一日、單騎

にて、永徳の營に詣り、從容として宴飲し、永徳に謂つて曰はく、「吾、

公と、幸に肺腑を以て、俱に將帥と爲る。奚ぞ相疑ふこと此の若きの

深きや」と。永徳の意乃ち解く。衆心亦安んず。唐主、之を聞き、蠟丸を

以て重進に遣り、誘ふに厚利を以てす。其書は、皆、謗毀及び反間の語な

り。重進、之を奏す。初め唐の使者孫晟・鍾謨、帝に從つて大梁に至る。

帝、之を待つこと甚だ厚し。朝會毎に、中書省の官の後に班す。時に召見し、飲ましむるに醇酒を以

てし、問ふに唐の事を以てす。晟但言ふ、「唐主、陛下の神武を畏れ、陛下に事へて二心無し」と。

唐の蠟書を得るに及び、帝大に怒り、晟を召し、責むるに對ふる所の實ならざるを以てす。晟、色を

正しくして抗辭し、死を請ふのみ。問ふに唐の虚實を以てす。黙して對へず。十一月乙巳、帝、都承

【六七】定國軍は即ち同州の匡國軍なり。太祖登極し、御名を避け、始めて改めて定國軍と爲す。史、亦、後に改むる所の軍號を以て之を書す。

【六八】李重進は時に壽州の城下に在り、張永徳は下蔡に營す。

【六九】李重進は太祖の甥、張永徳は太祖の婿なり。故に然云ふ。

旨曹翰に命じ、晟を右軍巡院に送り、更に帝の意を以て之に問はしむ。翰、之と飲み、酒數行にして、從容として之に問ふ。晟、終に言はず。翰乃ち謂つて曰はく、「救有り、相公に死を賜ふ」と。晟、神色怡然として、袍笏を索め、衣冠を整へ、南に向つて拜して曰はく、「臣謹みて死を以て國に報ゆ」と。乃ち刑に就く。從者百餘人を并せて、皆、之を殺し、鍾謨を耀州司馬に貶す。

既にして帝、晟の忠節を憐み、之を殺ししを悔い、謨を召して衛尉少卿に拜す。

帝、華山の隱士・眞源の陳搏を召し、問ふに

飛升黃白の術を以てす。對へて曰はく、「陛下

下は天子たり。當に天下を治むるを以て務と爲

すべし。安んぞ此を用ふるを爲さんと」と。戊申、

遣りて山に還らしめ、州縣の長吏に詔し、常

に之を存問せしむ。

十二月壬申、張永徳を以て殿前都點檢と爲す。

中使に分ち命じて、陳・蔡・宋・毫・潁・兗・曹・單等の州の丁夫を發し、下蔡に城かしむ。

後周世宗睿文孝武皇帝顯徳三年

【六〇】侍衛親軍は左右軍に分ち、各、巡院あり、以て繫囚を鞠す。

【六一】唐の授くる所の官を以て之を稱す。

【六二】孫晟は節を事ふる所に盡すと謂ふ可し。

【六三】眞源、漢の古縣、隋には谷陽縣と爲す。唐の高宗乾封元年、老子の生まるる所の地なるを以て、改めて眞源縣と爲す。亳州に屬す。州の西六十里に在り。今の河南省開封

道鹿邑縣の東十里に在り。【六四】飛升とは羽化して升仙するを謂ふ。黃白とは白金を煉りて黄金と爲すを謂ふ。【六五】後唐以來、車駕行幸し、及び出征するときは、大内都點檢の官を置く。後周、驍勇の士を選びて、殿前の諸班に充て、始めて殿前都點檢を都指揮使の上に置く。宋の太祖が殿前都點檢を以て登極せしより、是後、復た除授せず。

是歲、唐主、詔して、淮南の營田の民を害すること尤も甚だしき者は、之を罷めしむ。兵部郎中陳處堯を遣はし、重幣を持し、海に浮びて契丹に詣り、兵を乞はしむ。契丹、之が爲めに兵を出す能はず、而して處堯を留めて遣らず。處堯、剛直にして口辯有り。之を久しくして忿懣す。數、契丹主を面責す。契丹主、亦、之を罪せざるなり。

蜀の(五)陵・榮州の獠・反す。(七)弓箭庫使趙季文、討ちて之を平ぐ。吳越王弘俶、境内の民兵を括し、勞擾すること頗る多し。判明州錢弘億、手疏して切に諫む。之を罷む。

四年、春正月己丑朔、北漢・大赦し、天會と改元す。翰林學士衛融を以て中書侍郎・同平章事と爲し、內客省使段恆を樞密使と爲す。

宰相、屢、皇子を立てて王と爲さんと請ふ。上曰はく、「諸子皆幼なり。且つ功臣の子、皆、未だ恩を加へず。而るに獨り朕が子を先にするは、能く自ら安んせんや」と。

(三) 周の兵、壽春を圍むこと連年、未だ下らず。城中、食盡く。齊王景達、濠州より、應援使永安節

之を罷めしむ。兵部郎中

【六】 晉の太元中、益州の刺史毛球、西城戌を漢の武陽縣の東境に置く。周の閔帝元年、此に於て陵州を置く。榮州は古の夜郎國、漢開きて南安縣の地と爲す。蕭齊、此に於て南安郡を置く。隋、郡を廢し、其地を以て資陽郡に屬す。唐の武德の初、資州の大牢・成遠の二縣を割きて榮州を置く。今の四川省建昌道榮縣。

【七】 唐に内弓箭庫使あり、五代、内の字を去る。

【一】 上の諸子、宗訓、是を恭帝と爲す。次は熙讓・熙謹・熙誨。

【二】 前年、周の兵始めて濠州を攻む。

度使許文稷・都軍使邊鎬、北面招討使朱元を遣はし、兵數萬を將り、淮を泝りて之を救はしむ。紫金山に軍し、十餘寨を列ぬること連珠の如くし、城中と、烽火晨夕相應す。又、甬道を築き、壽春に抵り、糧を運びて以て之に饋らんと欲す。綿亘數十里、將に壽春に及ばんとす。李重進邀へ撃ちて大に之を破る。死する者五千人。其二寨を奪ふ。丁未、重進、以て聞す。戊申、詔す、「來月を以て淮上に幸せん」と。劉仁贍、邊鎬を以て城を守らしめ、自ら衆を帥りて決戦せんと請ふ。齊王景達、許さず。仁贍、憤邑して疾を成す。其幼子崇諫、夜、舟を泛べて淮北に度らんとし、小校の執ふる所と爲る。仁贍、命じて之を腰斬せしむ。左左、敢て救ふもの莫し。監軍使周廷構、中門に哭し、以て之を救ふ。仁贍、許さず。廷構、復た救を夫人に求めしむ。夫人曰はく、「妾、崇諫に於て、愛せざるに非ざるなり。然れども軍法は私す可からず、名節は虧く可からず。若し之を貸さば、則ち劉氏は不忠の門と爲らん。妾と公と、何の面目ありて將士を見んや」と。趣し命じて之を斬らしめ、然る後喪を成す。將士皆感泣す。議者、唐の援兵尙ほ彊きを以て、多く兵を罷めんと請ふ。帝、之を疑ふ。李穀、疾に寢ねて第に在り。二月丙寅、帝、范質・王溥をして就きて之と謀らしむ。穀・上疏して以爲はく、「壽春は危困し、破れんこと旦夕に在り。若し戀駕親しく征せば、則ち將士争ひ奮ひ、援兵震ひ恐れ、城中、亡ぶるを知り、必ず下す可からん」と。上悦ぶ。庚午、有司に詔し、更めて(三)祭器・(四)祭玉等を造らしめ、國子博士蒞崇

【三】 祭器。樽・彝・簠・簋。豆の屬なり。

【四】 祭玉。若璽は天を禮し、瑣琮は地を禮し、青圭は東方

義に命じ、制度を討論し、之が圖を爲らしむ。

甲戌、王朴を以て權東京留守、兼判開封府事とし、三司使張美を以て大内都巡檢と爲し、侍衛都虞候韓通を以て京城内外都巡檢と爲す。乙亥、帝、大梁を發す。是より先、周、唐と戰ふや、唐の水軍、銳敏にして、周人、以て之に敵する無し。帝、毎に以て恨と爲す。壽春より返り、大梁城の西汴水の側に於て、戰艦數百艘を造り、唐の降卒に命じ、北人に水戰を教へしむ。數月の後、縱横出沒すること、殆ど唐の兵に勝る。是に至りて、右驍衛大將軍王環に命じ、水軍數千を將ゐ、閔河より、潁に沁うて淮に入らしむ。唐人、之を見て大に驚く。乙酉、帝、下蔡に至る。三月己丑夜、帝、淮を度り、壽春城下に抵る。庚寅旦、躬ら甲冑を擐し、紫金山の南に軍し、

太祖皇帝に命じ、唐の先鋒の寨及び山北の一寨を撃たしむ。皆、之を破り、斬獲三千餘級、其甬道を斷つ。是に由りて、唐の兵、首尾、相救ふ能はず。暮に至りて、帝、兵を分ちて諸寨を守らしめ、下蔡に還る。

唐の 朱元、功を恃み、頗る元帥の節度に違ふ。陳覺、元と隙有り、屢「元、反覆す。兵を將ゐしむ可からず」と表す。唐主、武昌節度使楊守忠を以て之に代らしむ。守忠、濠州に至る。覺、齊王景

を禮し、赤璋は南方を禮し、白琥は西方を禮し、玄璜は北方を禮するなり。

【五】閔河、本、琵琶溝と曰ふ。又、蔡河と名づく。

【六】潁。潁河なり。

【七】朱元、其の舒和を復するの功を恃むなり。

達の命を以て、元を召して濠州に至りて事を計らしめ、將に其兵を奪はんとす。元、之を聞きて憤怒し、自殺せんと欲す。門下の客宋垰、元に説きて曰はく、「大丈夫、何に往きてか富貴ならざらん。何ぞ必ずしも妻子の爲めに死せんや」と。辛卯夜、元、先鋒壕寨使朱仁裕等と、寨萬餘人を擧げて降る。

裨將時厚卿、從はず。元、之を殺す。帝、其餘衆の流に沁うて東に潰えんことを慮り、遽に虎捷左廂都指揮使趙晁に命じ、水軍數千を將ゐて、淮に沁うて下らしむ。壬辰旦、帝、趙歩に軍す。諸將、唐の紫金山の寨を撃ち、大に之を破り、殺獲萬餘人、許文稹、邊鎬、楊守忠を擒にす。餘衆

【八】廣順元年、侍衛馬軍を改めて龍捷左右軍と曰ひ、歩軍を虎捷左右軍と曰ふ。

【九】趙歩は淮河の北岸水濱に在り、舟を泊するの地、人、岸を坎ちて道を爲り、以て上下す、之を歩と謂ふ。趙歩は、趙氏、其地に居るを以て、名を得たり。

【一〇】荊山。濠州鍾離縣の西八十三里に在り。即ち梁の武帝、堰を築くの地。

【一一】鎮淮軍。時に渦口に置く。

果して淮に沁うて東に走る。帝、趙歩より、騎數百を將ゐ、北岸に循うて之を追ひ、諸將、歩騎を以て、南岸に循うて之を追ふ。水軍、中流よりして下る。唐の兵、戰溺して死し及び降る者殆ど四萬人、船艦糧仗を獲ること、十萬を以て數ふ。晡時、帝、馳せて荊山洪に至る。趙歩を距ること二百餘里。是夜、鎮淮軍に宿す。癸酉、從官始めて至る。劉仁贍、援兵敗れぬと聞き、吭を扼して歎息す。甲午、近縣の丁夫を發し、鎮淮軍に城き、二城と爲し、淮水を夾み、下蔡の浮梁を其間に徙し、濠、壽の應援の路を扼す。會、淮水漲る。唐の濠州都監彭城の郭廷謂、水軍を以て淮に泝り、備へざるを掩うて浮梁を焚かんと欲す。右龍武統

軍趙匡贊、之を覘ひ知り、兵を伏し邀へ撃ちて之を破る。

唐の齊王景達及び陳覺、皆濠州より、奔りて金陵に歸る。惟だ靜江指揮使陳德誠、軍を全くして還る。戊戌、淮南節度使向訓を以て武寧節度使、淮南道行營都監と爲し、兵を將ゐて鎮淮軍に成せしむ。己亥、上、鎮淮軍より、復た下蔡に如く。庚子、劉仁贍に詔を賜ひ、自ら禍福を擇ばしむ。唐主、議し、自ら諸將を督して周を拒がんとす。中書舍人喬匡舜、上疏して切に諫む。唐主、以て衆を沮むと爲し、撫州に流す。唐主、神衛統軍朱匡業、劉存忠に問ふに守禦の方略を以てす。匡業、羅隱の詩を誦して曰はく、『時來れば天地皆力を同じくし、運去れば英雄も自由ならず』と。存忠、匡業の言を以て然りと爲す。唐主怒り、匡業を撫州副使に貶し、存忠を饒州に流す。既にして竟に敢て自ら行かず。甲辰、帝、

兵を壽春の城北に耀かす。唐の清淮節度使兼侍中劉仁贍、病甚だしく、人を知らず。丙午、監軍使周延構、營田副使孫羽等、仁贍の表を作り、使を遣はして之を奉じて來り降る。丁未、帝、仁贍に詔を賜ひ、閻門使萬年の張保續を遣はし、城に入りて宣諭せしむ。仁贍の子崇讚、復た出でて罪を謝す。戊申、帝大に甲兵を陳ね、降を壽春の城北に受く。延構等、仁贍を昇きて城を出づ。仁贍、臥して起つ能はず。帝、慰勞賜賚し、復た城に入りて疾を養はしむ。庚戌、壽州を徙して下蔡に治す。州境の死罪以下を赦し、州民の唐の文書を受け、山林に聚まる者、竝に召して業に復せしめ、罪を問

【一】陳德誠は諱の子なり。

【二】下蔡は今の安徽省淮涇道壽縣の北に在り。

ふ勿く、嘗て其に殺傷せらるる者有るも、讎訟するを得る母く、曩日の政令、民に便ならざる者有れば、本州をして條奏せしむ。辛亥、劉仁贍を以て天平節度使兼中書令と爲す。制辭の略に曰はく、『忠を事ふる所に盡し、節を抗げて虧くる無し。前代の名臣、幾人か比するに堪へん。朕の叛を伐つや、爾を得たるを多と爲す』と。是日、卒す。爵彭城郡王を追賜す。唐主、之を聞き、亦、太師を贈る。帝復た清淮軍を以て忠正軍と爲し、以て仁贍の節を旌はす。右羽林統軍楊信を以て忠正節度使、同平章事と爲す。

前の許州司馬韓倫は、侍衛馬軍都指揮使令坤の父なり。令坤、鎮安節度使を領し、倫、陳州に居り、政事に干預し、貪汚不法にして、公私の患と爲り、人の訟ふる所と爲る。令坤屢、之が爲めに泣きて請ふ。癸丑、詔して、倫の死を免し、沙門島に流す。倫、後、赦さるるを得、還りて洛陽に居り、光祿卿致仕柴守禮及び當時の將相王溥、王晏、王彥超の父と游處し、勢を恃みて恣横なり。洛陽の人、之を畏れ、之を十阿父と謂ふ。帝既に太祖の嗣と爲り、人、敢て守禮の子と言ふ者無し。但だ元舅を以て之を處し、其俸給を優にす。未だ嘗て大梁に至らず。嘗て小忿を以て人を殺す。有司、敢て詰らず、帝、知れども問はず。詔して、壽州の倉を開きて、飢民を振はしむ。丙辰、帝、北に還る。夏四月己巳、大梁に至る。

【三】楊氏、壽州を以て忠正軍を置き、後改めて清淮軍と爲す。今復た忠正軍と爲し、以て劉仁贍の節を旌はす。

【四】陳州。鎮安軍の治所。

【五】沙門島。登州蓬萊縣(今山東省膠東道)に在り、沙門寨を置く。

詔して、永福殿を修めしめ、宦官孫延希に命じ、其役を董さしむ。丁丑、帝、其所に至り、役徒を見るに、(一七) 棟を削りてヒと爲し、瓦中に飯を噉ふ者有り。(帝) 大に怒り、延希を市に斬る。

帝の(一八) 秦鳳に克つや、蜀の兵數千人を以て懷恩軍と爲す。乙亥、(一九) 懷恩指揮使蕭知遠等將士八百餘人を遣りて西に還らしむ。

壬午、李穀、疾を扶けて入見す。帝、命じて、拜せず、御坐の側に坐せしむ。穀、祿位を懇辭す。許さず。

甲申、江南の降卒を分ちて六軍・三十指揮と爲し、懷德軍と號す。乙酉、詔して、汴水を疏し、北して(二〇) 五丈河に入らしむ。是に由りて、齊・魯の舟楫、皆、大梁に達す。

五月丁酉、太祖皇帝を以て義成節度使を領せしむ。詔して、律令の文の古くして知り難く、格敕の煩雜にして壹ならざるを以て、(二一) 御史知雜事張湜等に命じ、訓釋詳定し、(二二) 刑統を爲らしむ。

唐の郭廷謂、水軍を將りて渦口の浮梁を斷ち、又、襲うて武寧節度使武行德を定遠に敗る。行德懼

- 【一七】 棟。木札なり。
- 【一八】 事、前卷二年に見ゆ。
- 【一九】 既に以て中國の威德を示し、又、之をして、已に淮南數千里の地を克平するを言はしめ、以て蜀人を恐動せんと欲す。
- 【二〇】 河、都城より曹濟及び郟を歴、其廣さ五丈、舊名五丈河。宋の開寶六年、詔して名を廣濟河と改む。
- 【二一】 唐の制、御史臺、侍御史六人あり、久次の者一人を以て雜事に知たらしむ。之を雜端と謂ふ。
- 【二二】 刑統の一書、宋の世を終るまで之を行ふ。

に身を以て免る。唐主、廷謂を以て滁州團練使と爲し、(二三) 上淮水陸應援使に充つ。蜀人多く言ふ、『左右衛聖馬步都指揮使保安節度使同平章事李廷珪、將と爲りて(二四) 敗覆せり。應に復た兵を典るべからず』と。廷珪も亦自ら罷め去らんと請ふ。六月乙丑、蜀主、廷珪に檢校太尉を加へ、軍職を罷む。李太后、兵を典る者多く其人に非ざるを以て、蜀主に謂つて曰はく、(二五) 『吾、昔、莊宗の河に跨り梁と戦ひ、先帝の太原に在りて二蜀を平げしを見るに、諸將、大功有るに非ざれば、兵を典るを得る無し。故に士卒畏れ服せり。今、(二六) 王昭遠は廝養に出で、伊審徵・韓保貞・趙崇韜は、皆、膏粱乳臭の子にして、素より兵に習はず、徒らに舊恩を以て人の上に實く。平時誰か敢て言ふ者ぞ。一旦、疆場、事有らば、安んぞ能く大敵を禦がんや。吾を以て之を觀れば、惟だ(二七) 高彥儔のみ、太原の舊人にして、終に汝に負かざらん。自餘は任するに足る者無し』と。蜀主、從ふ能はず。

- 【二三】 上淮。淮水の上游をいふ。
- 【二四】 敗覆。敗軍して秦鳳階成四州の地を覆没せしを謂ふなり。
- 【二五】 李太后は、本、唐の莊宗の後宮にして、莊宗、以て蜀の高祖に賜ふ、故に能く二主の時の事を言ふ。
- 【二六】 王昭遠は、成都の人、年十三にして、東郭禪師智諱に事へて童子と爲る。蜀の高祖、嘗て僧を府に飯す。昭遠、巾履を執りて智諱に隨うて以て入る。高祖、其の慧黠なるを愛す。時に後主、方に學に就く。昭遠をして左右に給事せしむ。是に由りて、親狎せらる。
- 【二七】 趙崇韜は延隱の子。僅に高彥儔一人、能く死を以て國に殉ず。蜀主の死するに至りて、其母も亦食はずして卒す。婦人の志節、此の如し。丈夫、これに愧づる有る者多し。

丁丑、前の華州の刺史王祚を以て潁州團練使と爲す。祚は溥の父なり。溥、宰相と爲り、祚に賓客

有れば、溥常に朝服して侍立す。客、坐して・席に安んぜず。祚曰はく、〔元〕「獬犬、爲めに起つに足らず」と。

秋七月丁亥、上、〔三〇〕定遠軍及び壽春城南の敗を治し、武寧節度使兼中書令武行徳を以て左衛上將軍と爲し、河陽節度使李繼勳を右衛大將軍と爲す。

北漢主、〔三一〕初めて七廟を立つ。

司空兼門下侍郎同平章事李穀、疾に臥すこと二年、凡そ九たび表して位を辭す。八月乙亥、罷めて本官を守り、毎月肩輿して一たび便殿に詣りて政事を議せしむ。

樞密副使戸部侍郎王朴を以て檢校太保とし、樞密使に充つ。

懷恩軍、成都に至る。蜀主、〔三二〕梓州別駕胡立等八十人を遣りて東に還らしめ、且つ書を致して謝を爲し、好を通せんと請ふ。癸未、立等、大梁に至る。帝、蜀主の抗禮するを以て、之に答へず。蜀主、之を聞き、怒りて曰はく、「朕、天子と爲り、天地を郊祀するの時、爾猶ほ賊を作せり。何ぞ敢て是の如くなる」と。

九月、中書舍人竇儼、上疏す、「請ふ、有司に令して、古今の禮儀を討論し、大周の通禮を作り、鍾

〔元〕 獬は豚に同じ。

〔三〇〕 定遠は縣名、濠州に屬す。軍の字は衍なり。定遠の敗は、上の五月に見え、壽春城南の敗は、去年六月に見ゆ。

〔三一〕 北漢主、自ら以へらく、高祖・隱帝の後を承け、僭竊者と同じからずと。然れども地狭く國貧しく、日に兵に困しむ。今始めて能く七廟を立て、以て天子の制に倣ふ。

〔三二〕 是年四月、懷恩軍を遣りて西に還らしむ。今方に成都に至る。

〔三三〕 胡立等が蜀に禽にせらるること、前卷二年に見ゆ。

律を考正し、大周の正樂を作らしめんと。又以爲はく、「政を爲すの本は、人を擇ぶよりも大なるは莫く、人を擇ぶの重きは、宰相よりも先なるは莫し。有唐の末より、輕しく名器を用ひ、始めて輔弼と爲れば、即ち三公・僕射の官を兼ぬ。故に其の未だ之を得ざるや、則ち趨競を以て心と爲し、既に之を得るや、則ち容黙を以て事と爲し、但だ、密勿の務めを解き、崇重の官を守り、林亭に逍遙し、宗族を保安せんことを思ふ。乞ふ、〔三四〕即日の宰相をして、南宮の三品・兩省の給舍以上に於て、各、知る所を擧げしめん。若し陛下、素より其の賢なるを知らば、自ら・登庸す可し。若し其れ未だならば、且く本官を以て政事を權知せしめ、若し其の職を察し、若し果して能く、堪稱せば、其官已に高きは則ち平章事に除し、未だ高からざるは則ち稍く更に官を遷し、權知すること故の如く、若し稱はざる有らば、則ち其政事を罷め、其の擧ぐる者を責めん。又、〔三五〕班行の中、員有りて職無き者太半なり。乞ふ、其才器を量り、授くるに外任を以てし、之を事に試み、還りて舊官を以て登敘し、其治狀を考へ、能者は之を進め、否ざる者は之を黜けん。又、請ふ、盜賊をして自ら相糾告せしめ、其の告ぐる所の貲産の半を以て之を賞せん。或は〔三六〕親戚、之が首たらば、則ち其徒侶を論じ、而して其の首たる所の

〔三四〕 即日の宰相とは現に相位に在る者を謂ふ。全唐文には、即日の二字無く、相を臣に作る。南宮とは尙書省を謂ふ。三品とは六部尙書を謂ふ。兩省とは中書・門下省を謂ふ。給舍とは給事中・中書舍人を謂ふ。

〔三五〕 堪稱。其任に堪へ其職に稱ふなり。

〔三六〕 諸衛將軍・東宮の官屬・内諸使の類の如し。

〔三七〕 或は親戚相與に盜を爲し、其中、能く自首する者あれば、之を赦し、其徒侶は其罪を論ずるなり。

者を赦さん。此の如くせば、則ち盜、聚まる能はざらん。又、新鄭の鄉村、圍して義營を爲り、各將佐を立て、一戸、盜を爲せば、其一村を累はし、一戸、盜を被れば、其一將を罪し、盜の發する有る毎に、則ち鼓を鳴らし火を擧げ、丁壯雲のごとく集まり、盜少く民多く、能く脱るる者無し。是に由りて、鄰縣 充斥し、而して一境獨り清し。請ふ、它縣に令して、皆之に效はしめん。亦、盜を止むるの一術なり。又、累朝已來、屢 詔書を下し、民に多く種る廣く耕すを聽し、止だ舊税を輸せしむ。其の既に種うるに及びては、則ち有司、畝を履みて之を増す。故に民皆疑ひ懼れ、而して田、闢くを加へず。夫れ 政を爲すの先は、信を敦くするに如くは莫し。信苟に著はるれば、則ち田、廣からざるは無し。田廣ければ則ち穀多し。穀多ければ則ち之を民に藏するは、猶ほ之を官に藏するがごときなり」と。又言ふ、「陛下、南のかた江淮を征し、一舉して 八州を得、再び駕して壽春を平ぐ。威靈の加はる所、前に強敵無し。今、衆を以て寡を撃ち、治を以て亂を伐たば、勢、克たざる無からん。但だ之を行ふこと、速かなるを貴ぶ。則ち彼民は俘馘の災を免れ、此民は轉輸の困を息めん」と。帝、覽て之を善しとす。儼は儀の弟なり。

冬十月戊午、賢良方正・直言極諫・經學優深・師法と爲す可く、吏理を詳閑し、教化に達するの等の科を設く。

【三】 充斥すると、獨り清きは、皆、盜を言ふなり。
 【四】 八州。光・黃・舒・蕪・和・揚・滌・秦を謂ふ。
 【五】 事、上の三月に見ゆ。
 【六】 此れ謂はゆる制舉なり。

癸亥、北漢の麟州の刺史楊重訓、城を擧げて降る。以て麟州防禦使と爲す。

己巳、王朴を以て東京留守と爲し、便宜を以て事に從ふを聽し、三司使張美を以て大内都點檢に充つ。壬申、帝、大梁を發し、十一月丙戌、鎮淮軍に至る。是夜、五鼓、淮を濟り、丁亥、濠州の城西に至る。濠州の東北十八里に灘有り。唐人、其上に柵し、水を環らして自ら固め、謂へらく周の兵必ず渉る能はじと。戊子、帝、自ら之を攻め、内殿直康保裔に命じ、甲士數百を帥ひ、橐駝に乗りて水を渉らしむ。

太祖皇帝、騎兵を帥ひて之に繼ぎ、遂に之を抜く。李重進、濠州の南關城を破る。癸巳、帝自ら濠州を攻む。王審琦、其水寨を抜く。唐人、戰船數百を城北に屯し、巨木を淮水に植ゑ、以て周の兵を限る。帝、水軍に命じて之を攻めしむ。其木を抜き、戰船七十餘艘を焚き、斬首二千餘級。又攻めて其羊馬城を抜く。城中震ひ恐る。丙申夜、唐の濠州團練使郭廷謂、上表して言はく、「臣が家は江南に在り。今若し遽に降らば、恐らくは唐の種族する所と爲らん。請ふ先づ使を遣はし、金陵に詣りて命を稟け、然る後出で降らん」と。帝、之を許す。辛丑、帝、唐に戰船數百艘有り。渙水の東に在り。濠州を救はんと欲すと聞き、自ら兵を將ひて、夜、水陸を發して之を撃つ。癸卯、大に唐の兵を洞口に破る。斬首五千餘級、降卒二千餘

【一】 太祖の廣順二年、楊重訓、麟州を以て款を歸す。中間必ず又、北漢に歸するなり。
 【二】 渙水は、宿亳の間を逕、東南して巖石山の西に至りて、南して淮に入る。
 【三】 洞口。濠州（今の安徽省淮泗道鳳陽縣）の東九十里に浮山有り、山下に穴有り、浮山洞と名づく。洞口は浮山の洞口なるべし。

人。因つて鼓行して東す。至る所皆下る。乙巳、泗州の城下に至る。太祖皇帝、先づ其南を攻め、因つて城門を焚き、水寨及び月城を破る。帝、月城樓に居り、將士を督して城を攻む。

北漢主、位に即きてより以來、方に境内を安集し、未だ外略するに違あらず。是月、契丹、其大同節度使侍中崔勳を遣はし、兵を將ゐて來りて北漢に會し、同じく入寇せんと欲す。北漢主、其忠武節度使同平章事李存瓌を遣はし、兵を將ゐて之に會し、南して潞州を侵さしむ。其城下に至りて還る。北漢主、契丹の恃むに足らざるを知る。而れども敢て遽に之と絶たず、勳に贈送すること甚だ厚し。

十二月乙卯、唐の泗州の守將范再遇、城を擧げて降る。再遇を以て宿州團練使と爲す。上自ら泗州の城下に至り、軍中の芻蕘する者に禁じ、民田を犯すを得る母らしむ。民皆感悅し、争うて芻粟を獻す。既に泗州に克つ。一卒の敢て擅に城に入る者無し。帝、唐の戰船數百艘、洞口に泊するを聞き、騎を遣はして之を調はしむ。唐の兵、退きて清口を保つ。戊午、上自ら親軍を將ゐて淮北より進み、太祖皇帝に命じ、步騎を將ゐて淮南より進ましむ。諸將、水軍を以て、中流より進み、共に唐の兵を

- 【四五】 月城。水に臨みて城を築き、兩頭、水を抱き、形、却月の如し。
- 【四六】 顯德元年、冬十一月、北漢主、位に即く。
- 【四七】 忠武軍は許州、周に屬す。李存瓌遙に領するのみ。
- 【四八】 猶ほ、之に倚りて以て聲援と爲さんと欲す。
- 【四九】 清口。即ち清河の口なり。

追ふ。時に淮濱久しく行人無く、葭葦、織るが如く、泥淖・溝壟多し。士卒、勝氣に乘じ、芟涉して争ひ進み、皆、其勞を忘る。庚申、追うて唐の兵に及び、且つ戰ひ且つ行く、金鼓の聲、數十里に聞ゆ。辛酉、楚州の西北に至り、大に之を破る。唐の兵、淮に涇うて東に下る者有り。帝自ら之を追ふ。太祖皇帝、前鋒と爲り、行くこと六十里、其保義節度使濠泗楚海都應援使陳承昭を擒にして以て歸る。獲る所の戰船、燒沈の餘、三百餘艘を得、士卒、殺溺の餘、七千餘人を得たり。唐の戰船の、淮上に在る者、是に於て盡く。

- 【五〇】 芟涉。草行を芟と爲し、水行を涉と爲す。
- 【五一】 泗州より西のかた濠州に至るまで一百七十五里。東北のかた楚州に至るまで二百二十里。
- 【五二】 保義軍は陝州、周に屬す。陳承昭、遂に領するのみ。
- 【五三】 史、李延鄒の忠壯なるを言ふ。
- 【五四】 事、上の五月に見ゆ。

郭延謂の使者、金陵より還り、唐の救ふ能はざるを知り、錄事參軍鄒陽の李延鄒に命じ、降表を草せしむ。延鄒、責むるに忠義を以てす。延謂、兵を以て之に臨む。延鄒、筆を擲ちて曰はく、「大丈夫、終に、國に負きて叛臣の爲めに降表を作らず」と。延謂、之を斬り、濠州を擧げて降る。兵萬人、糧數萬斛を得たり。唐主、李延鄒の子を賞するに官を以てす。壬戌、帝、淮を濟り、楚州に至り、城の西北に營す。乙丑、唐の雄武軍使知連水縣事崔萬迪降る。丙寅、郭延謂を以て亳州防禦使と爲す。戊辰、帝、楚州を攻め、其月城に克つ。庚午、郭延謂、行宮に見ゆ。帝曰はく、「朕、南征して以來、江南の諸將、敗亡相繼ぐ。獨り卿のみ能く渦口の浮梁を斷ち、定遠寨を破る。國に報ゆる所

以足れり。濠州は小城なり。李璟をして自ら守らしめば、能く之を守らんか」と。濠州の兵を將ゐて天長を攻めしむ。帝、鐵騎左廂都指揮使武守琦を遣はし、騎數百を將ゐて揚州に趨かしむ。高郵に至る。唐人、悉く揚州の官府・民居を焚き、其人を驅りて南して江を渡る。後數日にして、周の兵至る。城中、癘病十餘人を餘すのみ。癸酉、守琦、以て聞す。帝、泰州の備無きを聞き、兵を遣はして之を襲はしむ。丁丑、泰州を拔く。

南漢の中書侍郎同平章事盧贍卒す。

南漢主、唐屢敗ると聞き、憂色に形はる。使を遣はして周に入貢せしむ。

湖南の閉づる所と爲る。乃ち戰艦を治め、武備を修む。既にして酒を縱にし酣飲して曰はく、「吾が身、免るを得ば幸なり。何ぞ後世を慮るに暇あらんや」と。

唐の使者陳處堯、契丹に在り、契丹主に白し、請うて南して太原に遊ぶ。北漢主、厚く之を禮す。留まること數日にして北に還る。竟に契丹に卒す。

去年、唐主、陳處堯を遣はして契丹に如き、師を乞ふ。

去年、唐主、陳處堯を遣はして契丹に如き、師を乞ふ。

卷の第二百九十四

後周紀五

世宗睿文孝武皇帝下

顯德五年、春正月乙酉、匡國軍を廢す。

唐、中興と改元す。

丁亥、右龍武將軍王漢璋奏す、「海州に克つ」と。

己丑、侍衛馬軍都指揮使韓令坤を以て揚州の軍府の事を權せしむ。

上、戰艦を引き淮より江に入らんと欲す。北神堰に阻てられ、度を

を得ず。楚州の西北、鶴水を鑿りて以て其道を通せんと欲し、使を遣はし

て行視せしむ。還りて言ふ、「地形、便ならず。功を計るに甚だ多し」と。

上、自ら往きて之を視、授くるに規畫を以てし、楚州の民夫を發して之を

浚はしむ。旬日にして成り、功を用ふるに甚だ省し。巨艦數百艘、皆、

後周世宗睿文孝武皇帝顯德五年

- 【一】 顯德五年、西紀九五八年。
- 【二】 唐末、同州を以て匡國軍を置く。
- 【三】 北神鎮は楚州の城北五里に在り。吳王夫差、溝をもて江淮に通ず。後人、此に於て堰を立つるは、淮水は低く溝水は高きを以て、其洩を防ぐなり。舟行、堰を度りて淮に入る。
- 【四】 鶴水、楚州城西の老鶴河是れなり。

江に達す。唐人、大に驚き、以て神と爲す。

壬辰、(五) 靜海軍を抜き、始めて吳越の路を通ず。是より先、帝、左諫議大夫長安の尹日就等を遣はし、吳越に使せしめ、之に語りて曰はく、(六)「卿、今去くには、海に汎ぶと雖も、還る比ほひ、淮南已に平ぎ、當に陸より歸るべきのみ」と。已にして果して然り。

甲辰、蜀の右補闕章九齡、蜀主に見えて言はく、「政事の治まらざるは、奸佞の・朝に在るに由る」と。蜀主、「奸佞とは誰と爲す」と問ふ。李昊・王昭遠を指して以て對ふ。(七) 蜀主怒り、九齡を以て大臣を毀斥すと爲し、維州録事參軍に貶す。

周の兵、楚州を攻めて四旬を踰ゆ。唐の楚州防禦使張彥卿、固く守りて下らず。乙巳、帝自ら諸將を督して之を攻め、城下に宿す。丁未、之に克つ。彥卿、都監鄭昭業と與に、猶ほ衆を帥ゐて拒ぎ戰ふ。矢刃皆盡く。彥卿、繩牀を擧げ、以て鬪うて死す。所部千餘人、死に至るまで、一人の降る者無し。
(八) 高保融、指揮使魏璘を遣はし、戰船百艘を將ゐて東に下り、唐を伐つに會せしめ、鄂州に至る。

【五】 是より先、唐、海陵の東境に於て靜海都鎮置院を置く。西のかた海陵に至るまで二百七十五里。宋白曰はく、靜海軍は、本、揚州の狼山鎮の地。南唐、狼山の北に於て、靜海制置院を立つ。周、之を得、靜海軍を建つ。尋ぎて升せて通州と爲すと。今の江蘇省蘇常道南通縣。

【六】 靜海軍より東南のかた江口に至り、狼山の西に於て江を度りて陸に登り、福山鎮に至れば、則ち蘇州常熟縣の界にして、吳越の境なり。

【七】 亂に臨むの君は、各、其臣を賢とす。卒に蜀を亡ぼせる者は、吳昭遠なり。

【八】 紀事本末には、高保融の上に荊南節度使の五字あり。

庚戌、蜀、永寧軍を果州に置き、通州を以て之に隸す。

唐、天長を以て雄州と爲し、建武軍使易文贊を以て刺史と爲す。二月甲寅、文贊、城を擧げて降る。戊午、帝、楚州を發し、丁卯、揚州に至り、韓令坤に命じ、丁夫萬餘を發し、(九) 故城の東南隅に築き、小城を爲らしめ、以て之に治す。

乙亥、黃州の刺史司超・奏す、「控鶴右廂都指揮使王審琦と與に、唐の舒州を攻め、其刺史施仁望を擒にす」と。

丙子、建雄節度使眞定の楊廷璋・奏す、「北漢の兵を隰州城下に敗る」と。時に隰州の刺史孫議・暴に卒す。廷璋、都監閑廐使李謙溥に謂つて曰はく、「今大駕南征す。(一〇) 澤州、守將無くば、河東必ず心を生せん。若し奏請して報を待たば、則ち孤城危からん」と。即ち謙溥に牒し、隰州の事を權せしむ。謙溥至り、則ち守備を修む。未だ幾ばくならずして、北漢の兵果して至る。諸將、速かに之を救はんと請ふ。廷璋曰はく、「隰州は城堅く將良なり。未だ克ち易からざるなり」と。北漢、城を攻め、久しくして下らず。廷璋、其の疲困して備無きを度り、潛に謙溥と約し、各、死士百餘を募り、(一一) 夜、其營を襲ふ。北漢の兵驚き潰ゆ。斬首千餘級。北漢の兵遂に解き去る。

【九】 揚州の古城は、西は蜀岡に據り、北は雷陂を包む。

【一〇】 澤州。當に隰州に作るべし。

【一一】 晉州より西北のかた隰州に至るまで二百五十里。楊廷璋蓋し軍を潛めて至り、隰州と約して表裏相應するなり。

三月、壬午朔、帝、泰州に如く。

丁亥、唐、大赦し、交泰と改元す。

唐の太弟景遂、前後凡そ十たび表して位を辭し、且つ言ふ、「今、國危けれども扶くる能はず。請ふ出でて藩鎮に就かん。」燕王弘冀は、嫡長にして軍功有り。宜しく嗣と爲すべし。謹みて太弟の寶冊を奏上す」と。齊王景達、亦、敗軍を以て元帥を辭す。唐主乃ち景遂を立てて晉王と爲し、天策上將軍・江南西道兵馬元帥・洪州大都督・太尉・尚書令を加へ、景達を以て浙西道元帥・潤州大都督と爲す。景達、(一三)浙西方に兵を用ふるを以て固辭す。撫州大都督に改む。弘冀を立てて皇太子と爲し、庶政を參決せしむ。弘冀、人と爲り、猜忌嚴刻なり。景遂の左右、未だ東宮を出でざる者有れば、立ちどころに之を斥逐す。(一四)其弟安定公從嘉、之を畏れ、敢て事に預らず、専ら經籍を以て自ら娛む。

辛卯、上、(一五)迎鑾鎮に如く。屢、江口に至り、水軍を遣はし、唐の兵を撃ちて之を破る。上、唐の戰艦數百艘・(一六)東沛州に泊し、將に海口に趣き、蘇杭の路を扼せんとすと聞き、殿前都虞候慕容延釗を遣はし、步騎を將る、右神武統軍宋延渥をして、

【一三】弘冀は唐主の嫡長子なり。軍功とは、柴克弘を用ひて、吳越の兵を敗り、以て常州の圍を解きしを謂ふ。事、前卷三年に見ゆ。
【一四】吳越の師、常州に於て敗れ退くと雖も、然も猶ほ遂に中國に應ず。
【一五】從嘉は是れ後主煜と爲す。
【一六】迎鑾鎮。本、唐の白沙なり。吳、迎鑾鎮と爲す。今の江蘇省淮揚道儀徵縣。
【一七】東沛州。泰州の東南、大江の中に在り。元是れ海嶼沙島の地。今の江蘇省金陵道海門縣の界に在り。州は當に洲に作るべし。

水軍を將る、江に循うて下らしむ。甲午、延釗奏す、「大に唐の兵を東沛州に破る」と。上、李重進を遣はし、兵を將りて(一七)廬州に趣かしむ。唐主、上の江上に在るを聞き、遂に南度せんことを恐れ、又、號を降し藩と稱するを恥ぢ、乃ち兵部侍郎陳覺を遣はし、表を奉じ、位を太子弘冀に傳へ、命を中國に聽かしめんと請ふ。時に淮南、惟だ廬・舒・蕪・黃のみ未だ下らず。丙申、覺、迎鑾に至り、周の兵の盛なるを見、上に白し、人を遣はして江を度りて表を取り、四州の地を獻じ、江を畫して境と爲さんと請ひ、以て兵を息めんことを求む。辭指甚だ哀し。上曰はく、「朕、本、師を興し、止だ江北を取ら。今爾の主能く國を擧げて内附せば、朕復た何をか求めん」と。覺、拜謝して退く。丁酉、覺、請うて其屬閩門承旨劉承遇を遣はして金陵に如かしむ。上、唐主に書を賜ひ、「皇帝恭しく江南の國主に問ふ」と稱し、之を慰納す。戊戌、吳越奏す、「上直指揮使處州の刺史邵可遷・秀州の刺史路彥銖を遣はし、戰艦四百艘・士卒萬七千人を以て、(一八)通州の南岸に屯せしむ」と。唐主復た劉承遇を遣はし、表を奉じて唐國主と稱し、江北の四州を獻じ、歲ごとに貢物數十萬を輸せんと請ふ。是に於て江北悉く平ぎ、(一九)州十四・縣六十を得。庚子、上、唐主に書を賜ひ、諭すに「緣江の諸軍及び兩浙・湖南・荆南の兵、竝に當に罷め歸るべし。其廬・蕪・

【一七】唐末、楊行密、廬州より起り、既に國を建て、遂に重鎮と爲る。周の師、淮を度り、舒・蕪・黃、先づ皆、款附す。獨り廬のみ未だ下らず。蓋し宿兵多く、周の師、敢て輕しく犯さざるなり。
【一八】周既に靜海軍に克ち、通州を置く。通州の南岸は、蘇州の常熟縣福山鎮の地、即ち東管の南沙なり。
【一九】光・壽・廬・舒・蕪・黃・滁・和・濠・泗・楚・揚・泰・通の十四州。

黃の三道も、亦、(三〇)兵を近外に斂めしめよ。彼の將士及び家屬が道に就くを俟ち、人を遣はし將校を召し、城邑を以て之に付す可し。江中の舟艦、須く往來すべき者有らば、竝に(三一)北岸に就きて之を引かしめよ」といふを以てす。辛丑、陳覺、辭して行く。又、唐主に書を賜ひ、諭すに、必ずしも位を子に傳へざるべきを以てす。壬寅、上、迎鑾より、復た揚州に如く。癸卯、(三二)吳越・荆南の軍に詔し、各本道に歸らしめ、錢弘俁に犒軍帛三萬匹・高保融に一萬匹を賜ふ。甲辰、保信軍を廬州に置き、右龍武統軍趙匡贊を以て節度使と爲す。丙午、唐主、馮延己を遣はし、(三三)銀・絹・錢・茶・穀共に百萬を獻じ、以て軍を犒ふ。己酉、宋延渥に命じ、水軍三千を將ゐ、江に浜りて巡警せしむ。庚戌、救して、(三四)故の淮南節度使楊行密・故の昇府節度使徐溫等の墓は、竝に守戸を量給し、其の江南の羣臣の墓の江北に在る者も、亦長吏に委ね、時を以て檢校せしむ。辛亥、唐主、其臨汝公徐遠を遣はし、己に代りて來りて(三五)壽を上らしむ。

是月、(三六)汴口を浚へ、河流を導き、淮に達す。是に於て江淮の舟楫始めて通す。

- 【三〇】 周の遣はして進みて廬・蕪・黃を攻めしむる所の軍を謂ふ。近外は近郊の外を謂ふ。
- 【三一】 凡そ唐の舟艦の・北岸に在る者は、皆、引きて南岸に就かしむるを許す。
- 【三二】 吳越の軍は南沙に臨み、荆南の軍は鄂州に至る。各、之を犒ひ、罷め歸らしむ。
- 【三三】 銀兩・絹匹・錢貫・茶斤・穀石、各、萬を以て計り、其數共に百萬と爲す。
- 【三四】 其僭諡を削り、其故鎮を存す。昇府は即ち金陵。金陵は唐の昇州なり、故に昇府と曰ふ。
- 【三五】 酒を奉じて壽を上るを言ふ。聖節に非ざるなり。帝は九月二十四日に生る。
- 【三六】 此れ即ち唐の時の運路なり。江淮割據せしより、運漕、通ぜず、水路澀塞す。今復た之を浚ふ。

夏四月乙卯、帝、揚州より北に還る。

新に(三七)太廟を作りて成る。庚申、神主、廟に入る。

辛酉夜、錢唐の城南火あり、延きて内城に及び、官府廬舍幾ど盡く。壬戌旦、火將に鎮國倉に及び

んとす。吳越王弘俁、久しく疾む。自ら務めて出でて火を救ふ。火止み、左右に謂つて曰はく、『吾が疾、災に因りて愈えたり』と。衆心稍安んず。

帝の南征するや、契丹、虚に乗じて入寇す。壬申、帝、大梁に至り、張

永徳に命じ、兵を將ゐて北邊を備禦せしむ。

五月辛巳朔、日、之を食する有り。

詔して、南征の士卒及び淮南の新附の民を賞勞す。

辛卯、

太祖皇帝を以て忠武節度使を領せしめ、安審琦を徙して平盧節度使と爲す。

成徳節度使郭崇、契丹の(三九)東城を攻めて之を拔く。以て其の入寇に報ゆるなり。

唐主、(四〇)周の諱を避け、名を景と更む。令を下して、帝號を去り、國主と稱す。凡そ天子の儀制、皆、降損する有り。年號を去り、周の正朔を用ひ、仍ほ太廟に告ぐ。左僕

- 【三七】 太祖廣順三年、太廟を大梁に作る、是に至りて始めて成る。五代會要によれば、太祖廣順元年七月、高祖璽を追尊して睿和皇帝と爲し、廟を信祖と號し、曾祖諱を明憲皇帝と爲し、廟を僖祖と號し、祖胤を翼順皇帝と爲し、廟を義祖と號し、考簡を章肅皇帝と爲し、廟を慶祖と號す。
- 【三八】 東城。漢の勃海郡の東州縣。隋、東城と改む。唐、瀛州に屬す。今の直隸省津海道河間縣の東北六十里。
- 【三九】 周の信祖の諱を避くるなり。

射同平章事馮延巳、罷めて太子太傅と爲り、門下侍郎同平章事嚴續、罷めて少傅と爲り、樞密使兵部侍郎陳覺、罷めて本官を守る。初め馮延巳、中原を取るの策を以て唐主に説く。是に由りて寵有り。延巳、嘗て烈祖の兵を戡むを笑つて齷齪と爲し、曰はく、(三〇)「安陸の喪ふ所、纔に數千の兵なるに、之が爲めに食を輟め、咨嗟する者旬日なるは、此れ田舍翁の識量なるのみ。安んぞ與に大事を成すに足らん。豈に今上の師數萬を外に暴し、而も毬を撃ち宴樂すること平日に異なる無きが如くならんや。眞に英主なり」と。延巳、其黨と談論し、常に天下を以て己が任と爲し、更に相唱和す。翰林學士常夢錫、屢、延巳等の浮誕にして信す可からざるを言ふ。唐主、聽かず。夢錫曰はく、「奸言は忠に似たり。陛下悟らずんば、國必ず亡びん」と。周に臣服するに及びて、延巳の黨、相與に言ひ、周を謂つて大朝と爲す者有り。夢錫大に笑つて曰はく、「諸公、常に君を堯舜に致さんと欲せり。何の意ぞ今日自ら小朝と爲すか」と。衆、默然たり。唐主の内附せしより、帝止だ其使者に因りて書を賜ひ、未だ嘗て使を遣はして其國に至らしめず。己酉、始めて(三一)太僕卿馮延魯、衛尉少卿鍾謨に命じ、唐に使せしめ、賜ふに御衣・玉帶等及び犒軍帛十萬・并せて(三二)今年の欽天曆を以てす。劉承遇が(三三)金陵より還るや、唐主、陳覺をして帝に白さしむるに、「江南には、(三四)鹵田無し。願は

- 【三〇】 晉の高祖の天福五年の李承裕の安州の敗を謂ふなり。
- 【三一】 二人は、本、皆、唐の臣なり。
- 【三二】 是年正月、始めて王朴が上る所の欽天曆を行ふ。
- 【三三】 上の三月に見ゆ。
- 【三四】 海濱は鹹鹵、以て鹽を煮る可し。鹵田は鹹地なり。

くは海陵監を得て南に屬し、以て軍を贍らさん」といふを以てす。帝曰はく、「海陵は江北に在り。(三五)以て交居し難し。當に別に處分有るべし」と。是に至りて、詔して、歲ごとに鹽三十萬斛を支し、以て江南に給せしめ、俘獲する所の江南の士卒、稍稍之を歸す。六月壬子、昭義節度使李筠・奏す、「北漢の石會關を撃ち、其六寨を拔く」と。乙卯、晉州・奏す、「都監李謙溥、北漢を撃ち、孝義を破る」と。高保融、使を遣はし、蜀主に勸め、藩と周に稱せしむ。蜀主、報するに(三六)「前歲、胡立を遣はして書を周に致せるに、而も答へず」といふを以てす。秋七月丙戌、初めて(三七)大周刑統を行ふ。帝、田租を均しくせんと欲す。丁亥、(三八)元稹の均田圖を以て、徧く諸道に賜ふ。閏月、唐の(三九)清源節度使兼中書令留從効、牙將蔡仲贊を遣はし、商人の服を衣、絹表を以て革帶の中に置き、問道より來りて藩と稱す。唐の江西元帥晉王景遂の(四〇)洪州に赴くや、時方に兵を用ふるを以て、啓して大臣を求めて以て自ら副とす。唐主、樞密副使工部侍郎李徵古を以

- 【三五】 周の官吏をして唐の官吏と雜居せしめ難きを言ふ。
- 【三六】 孝義。漢の中陽縣の地。唐、貞觀元年、改めて孝義と曰ふ、汾州に屬し、州の東南に在り。今の山西省冀寧道孝義縣。
- 【三七】 前卷前年に見ゆ。
- 【三八】 刑統の事、顯德四年五月の條に見ゆ。
- 【三九】 時に詔して曰はく、近ごろ元稹の長慶集を覽、同州に在る時上る所の均田表を見るに、當時の利病を較し、曲さに其情を盡し、一境の生靈をして、咸、其賜を受けしむ。方冊に傳へ、披尋するを得可し。因つて、素を製し圖を成し其事を直書せしむと。
- 【四〇】 唐、清源軍を泉州に置く。
- 【四一】 上の三月に見ゆ。

て鎮南節度副使と爲す。徵古、傲狠にして專恣なり。景遂、寛厚なりと雖も、久しくして堪ふる能はず。常に、徵古を斬り、自ら有司に拘せられんと欲す。左右諫めて止む。景遂、忽忽として樂しまず。太子弘冀、東宮に在り、不法多し。唐主怒り、嘗て毬杖を以て之を撃ちて曰はく、「吾當に復た景遂を召すべし」と。昭慶宮使袁從範、景遂に従つて洪州都押牙と爲る。或るひと從範の子を景遂に諧す。景遂、之を殺さんと欲す。從範、是に由りて怨望す。弘冀、之を聞き、密に從範を遣はして之を毒せしむ。八月庚辰、景遂、毬を撃ち、渴くこと甚だし。從範、漿を進む。景遂、之を飲みて卒す。未だ殞せざるに、體已に潰ゆ。唐主、之を知らず、皇太弟を贈り、諡して文成と曰ふ。

辛巳、南漢の中宗、殂す。長子繼興、帝位に即ぎ、名を銀と更む。大寶と改元す。銀、年十六、國事、皆、宦官玉清宮使龔澄、樞及び女侍中盧瓊仙等に決す。臺省の官は位に備はるのみ。

甲申、唐始めて進奏院を大梁に置く。

壬辰、西上閣門使靈壽の曹彬に命じ、吳越に使せしめ、吳越王弘俶に騎軍の甲五千及び他の兵器を賜ふ。彬、事畢り亟かに返り、饋遺を受けず。吳越の人、輕舟を以て追うて之に與ふること、數四に至る。彬曰はく、「吾、終に受けずんば、是れ名を竊むなり」と。盡く其數を籍し、歸りて之を獻す。帝曰はく、「曩の奉使、乞留して厭く無く、四方をして朝命を輕んせしむ。卿、能く是の如くなるは甚だ善し。然れども彼、以て卿に遺る。卿自ら之を取れ」と。彬始めて拜受し、悉く以て親識に散じ、家には留むる者無し。

【四二】 南漢の中宗、時に年三十九。
 【四三】 廠史に曰はく、劉氏、離宮を作りて以て遊獵し、南宮・大明・昌華・甘泉・玩華・秀華・玉清・太微の諸宮有り、皆、宮使を置きて、之を領せしむと。
 【四四】 臣屬するが故なり。
 【四五】 鋼は堅鐵なり。

辛丑、馮延魯・鍾謨、唐より來る。唐主、手表して恩を謝す。其略に曰はく、「天地の恩は厚く、父母の恩は深し。子、父に謝せず。人何ぞ天に報いん。惟だ赤心有り、大造に酬ゆ可きのみ」と。又、藩方に比して詔書を賜はんと乞ふ。又、「情事有り、鍾謨をして上奏せしむ」と稱し、早く還らしめんことを乞ふ。唐主復た謨をして帝に白さしむ、「位を太子に傳へんと欲す」と。九月丁巳、延魯を以て刑部侍郎と爲し、謨を給事中と爲す。唐主復た吏部尚書知樞密院殷崇義を遣はし、來りて天清節を賀せしむ。帝、蜀を伐たんと謀り、冬十月己卯、戶部侍郎高防を以て西南面水陸制置使と爲し、右贊善大夫李玉を判官と爲す。

【四六】 手表。手づから之を書するなり。
 【四七】 天清節。帝、九月二十四日に生れ、以て天清節と爲す。
 【四八】 馮延魯が擒にせらるること、二百九十二年に見ゆ。
 【四九】 許文禎・邊鑑が擒にせらるること、前卷前年に見ゆ。周廷構が降ること、亦、是年に見ゆ。
 【五〇】 先に書を遣ること上の六月に見ゆ。

甲午、帝、馮延魯及び左監門衛上將軍許文禎・右千牛衛上將軍邊鑑・衛尉卿周廷構を唐に歸す。唐主、文禎等は皆敗軍の俘なるを以て、棄てて復た用ひず。高保融、再び蜀主に書を遣り、臣と周に稱せんことを勸む。蜀主、將相を集めて之を議す。李

吳曰はく、『之に從はば則ち君父の辱なり。之に違はば則ち周の師必ず至らん。諸將能く周を拒がんか』と。諸將皆曰はく、『陛下の聖明なる江山の險固なるを以て、豈に風を望みて屈服す可けんや。馬に秣ひ兵を厲ぐは、正に今日の爲めなり。臣等、請ふ死を以て社稷を衛らん』と。丁酉、蜀主、吳に命じて書を草せしめ、極言して之を拒絶す。

左散騎常侍(五)須城の艾穎等三十四人に詔し、諸州に分行せしめ、田租を均定せしむ。庚子、諸州併びに鄉村に詔し、率、百戸を以て團と爲し、團ごとに(五)耆長三人を置かしむ。帝、心を農事に留め、木を刻みて耕夫・蠶婦を爲り、之を殿庭に置く。

武勝節度使宋延渥に命じ、水軍を以て江を巡らしむ。高保融・秦す、『聞く、王師將に蜀を伐たんとすと。請ふ水軍を以て三峽に趣かん』と。詔して之を褒む。

十一月庚戌(五)寶儼に敕し、大周の通禮・大周の正樂を編集せしむ。

辛亥、南漢、文武光明孝皇帝を昭陵に葬り、廟を中宗と號す。

乙丑、唐主復た禮部侍郎鍾謨を遣はして入見せしむ。

李玉、長安に至る。或るひと言ふ、『蜀の(五)歸安鎮は、長安の南三百餘里に在り。襲ひ取る可きな

り』と。玉、之を信じ、永興節度使王彦超に牒し、兵二百を索む。彦超以爲はく、『歸安は、道阻隘にして取り難し』と。玉曰はく、『吾自ら密旨を奉せり』と。彦超、已むを得ずして之を與ふ。玉將を以て往く。十二月、蜀の歸安鎮使李承勳、險に據りて之を邀へ、玉を斬る。其衆皆没す。

乙酉、蜀主、右衛聖歩軍都指揮使趙崇韜を以て北面招討使と爲す。丙戌、奉靈肅衛都指揮使武信節度使兼中書令孟貽業を以て(五)昭武文州都招討使

と爲し、左衛聖馬軍都指揮使趙思進を東面招討使と爲し、山南西道節度使韓保貞を北面都招討使と爲し、兵六萬を將り、分ちて要害に屯せしめ、以て周に備ふ。

丙戌、詔し、(五)凡そ諸色の課戸及び俸戸は、竝に勅して州縣に歸せしめ、其幕職・州縣の官は、今より、竝に俸錢及び米麥を支せしむ。

初め唐の太傅兼中書令楚公宋齊丘、多く朋黨を樹て、以て専ら朝權を固くせんと欲す。躁進の士、争うて之に付き、推獎して以て國の元老と爲す。

樞密使陳覺・副使李徵古、齊丘の勢を恃み、尤も驕慢なり。許文積等が紫金山に敗るるに及び、(五)覺、齊丘・景達と與に、濠州より遁れ歸る。國人恟懼す。唐主嘗て歎じて曰

【五】 須城縣は郟州を帶ぶ、即ち唐の須昌縣なり。後唐、獻祖の廟諱を避けて、改めて須城と曰ふ。今の山東省東臨道東平縣の西北十五里。艾は姓なり。
【五二】 耆は老なり。團ごとに老者三人を以て之が長と爲す。
【五三】 去年、寶儼、禮樂を定めんと請ふ疏、前卷に見ゆ。
【五四】 歸安鎮は當に蜀の金州(今の陝西省漢中道安康縣)の界に在るべし。

【五四】 昭武軍は利州。利州より以て文州に至るまで、委ぬるに江油劍閣の險を控扼するを以てす。
【五五】 唐初、諸司に公廩本錢を置き、以て貿易して息を取り、員の多少を計りて月料と爲す。其後、諸司の公廩本錢を罷め、天下の上戸七千人を以て胥士と爲し、而して其課を收め、官の多少を計りて之を給す。此れ謂はゆる課戸なり。唐、又、一歳の税を薄斂し、高戸を以て之を主らしめ、月ごとに息を收めて俸を給す。此れ謂はゆる俸戸なり。

【五六】 事、前卷前年に見ゆ。

はく、「吾が國家、一朝にして此に至る」と。因つて泣下る。微古曰はく、「陛下、當に兵を治めて以て敵を拵ぐべし。涕泣して何をか爲さん。豈に酒を飲みて量を過すか、將た乳母、至らざるか」と。唐主・色變す。而して微古、舉止自若たり。會、司天・奏す、「天文、變有り。人主、宜しく位を避けて災を禳ふべし」と。唐主乃ち曰はく、「禍難方に殷なり。吾、萬機を釋て去り・心を冲寂に棲まさんと欲す。誰か以て國を託す可き者ぞ」と。微古曰はく、「宋公は造國手なり。陛下如し萬機を厭はば、何ぞ國を擧げて之に授けざる」と。覺曰はく、「陛下、深く禁中に居り、國事、皆、宋公に委ね、先づ行うて後に聞し、臣等時に入侍し、釋老を談せんのみ」と。唐主、心慍り、即ち中書舍人・豫章の陳喬に命じ、詔を草せしめて之を行はんとす。喬、惶恐して見えんことを請うて曰はく、「陛下、一たび此詔を署せば、臣、復た見ゆるを得ざらん」と。因つて極めて其の不可なるを言ふ。唐主笑つて曰はく、「爾も亦其の非なるを知るか」と。乃ち止む。是に由りて、晉王出で鎮するに因りて、微古を以て之が副と爲す。覺、周より還るや、亦、近職を罷む。鍾謨、素より李德明と善し。

【五】 德明の死せるを以て齊丘を怨む。使を奉じて唐に歸るに及び、唐主に言つて曰はく、「齊丘、國の危きに乘じ、遽に篡竊を謀り、陳覺・李微古、之が羽翼と爲る。理、容る可からず」と。陳覺が周より還るや、矯めて帝の命を以て唐主に謂つて曰はく、「聞く、江南、連歲、命を拒みしは、皆、宰相

【六七】 洪州は豫章郡。
【六八】 事、上に見ゆ。
【六九】 李德明が死すること前卷三年に見ゆ。
【七〇】 上の三月に見ゆ。

嚴續の謀なりと。當に我が爲めに之を斬るべし」と。唐主、覺が素より續と隙有るを知り、固より未だ之を信せず。鍾謨、之を、周に覆せんと請ふ。唐主乃ち謨が復命するに因りて上言す、「久しく王師を拒むは、皆、臣の愚迷にして、續の罪に非ず」と。帝、之を聞き、大に驚きて曰はく、「審し此の如くならば、則ち續は乃ち忠臣なり。朕、天下の主と爲り、豈に人に教へて忠臣を殺さしめんや」と。謨還り、以て唐主に白す。唐主、齊丘等を誅せんと欲し、復た謨を遣はし、入りて帝に稟さしむ。帝、以はく、「異國の臣は、可否する所無し」と。己亥、唐主、知樞密院殷崇義に命じて、詔を草せしめ、齊丘・覺、微古の罪惡を暴し、齊丘が九華山の舊隱に歸るを聽し、官爵は悉く故の如く、覺には國子博士を責授し、宣州に安置し、微古は官爵を削奪し、自盡を賜ひ、黨與は、皆、問はず。使を遣はして周に告ぐ。

丙午、蜀、峽路巡檢制置使高彥儔を以て招討使と爲す。

平盧節度使太師中書令陳王安審琦の僕夫安友進、其妻妾と通す。妾、事の泄れんことを恐れ、友進と、審琦を殺さんと謀る。友進、可かず。妾曰はく、「然らずんば、我當に反つて汝を告ぐべし」と。友進、懼れて之に従ふ。

【六一】 其言の虚實を周に審覆するなり。
【六二】 嚴續果して能く其主の爲めに謀を設けて以て周を拒がば、乃ち忠臣なりとの意。
【六三】 宋齊丘が九華山に隱るること、二百七十七卷唐の明宗長興二年に見ゆ。吳の睿皇の太和三年なり。

六年、春正月癸丑、審琦醉うて熟寢す。妾、審琦が枕する所の劔を取り、友進に授けて之を殺し、仍ほ盡く侍婢の帳下に在る者を殺し、以て口を滅す。後數日、其子守忠、始めて之を知り、友進等を執へて之を高す。

初め有司將に正仗を立てんとし、樂縣を殿庭に宿設す。帝、之を觀、鍾磬に設くれども擊たざる者有るを見、樂工に問ふ、皆對ふる能はず。乃ち竇儼に命じ、古今を討論し、雅樂を考正せしむ。王朴素より音律を曉る。帝、樂事を以て之に詢ふ。朴、上疏して以爲は、禮は以て形を檢し、樂は以て心を治む。形、外に順に、心、内に和して、然して天下治まらざる者は、未だ之れ有らざるなり。是を以て、禮樂、上に修まり、萬國、下に化する。聖人の教、肅ならずして成り、其政、嚴ならずして治まるは、此道を用ふればなり。夫れ樂は人心に生じ、而して聲は物に成る。物聲既に成り、復た能く人の心を感じ。昔、黃帝、九寸の管を吹き、黃鍾の正聲を得、之を半にして清聲を爲り、之を倍して緩聲を爲り、之を三分損益し、以て十二律を生じ、十二律旋りて宮と相爲り、以て七調を生じ、一均と爲す。凡そ十二均、八十四調にして大に備はる。秦の學を滅ばすに遭ひ、歷代、樂を治むる者、能く之を用ふること罕なり。

- 【一】 縣は懸に同じ。
- 【二】 宿設。前一夕、之を設くるを謂ふ。
- 【三】 孝經に載する所の孔子の言。
- 【四】 其の一を三分して之を損益し、上生下生して、十二律備はる。
- 【五】 朴の言に曰はく、秦よりして下つた、旋宮の聲廢し、東漢に逮びて、太子承胤鄭有りて之を興すと雖も、亦人亡して音息む。漢より隋に至るまで、十代に垂なんとし、凡そ數百年、有る所の者は、黃

り、唐の太宗の世に、祖孝孫、張文收、大樂を考正し、八十四調を備ふ。安史の亂に、器と工と、什に八九を亡ふ。黃巢に至りて、蕩盡して遺る無し。時に太常博士殷盈孫有り、考工記を按じ、鍾十二、編鍾二百四十を鑄、處士蕭承訓、石磬を校定す。今の縣に在る者は是れなり。鐘磬の狀有りと雖も、殊えて相應するの和無し。其鍾は音律を問はず、但だ循環して擊ち、編鍾・編磬は、徒らに懸るのみ。絲竹匏土は、僅に七聲有り、名づけて黃鍾の宮と爲す。其の存する者九曲。之を考ふるに、三曲、律に協ひ、六曲、諸調を參涉す。蓋し樂の廢缺、今よりも甚だしきは無し。陛下、武功既に著はれ、意を禮樂に垂る。臣が嘗て律呂を學び、古今の樂録を宣示するを以て、臣に命じて討論せしむ。臣謹みて古法の如く、(一) 柷黍を以て尺を定め、長さ九寸、徑三分、黃鍾の管を爲る。今の黃鍾の聲と相應す。因りて之を推し、十二律を得。以爲ふに衆管互に吹くは、聲を用ふること便ならず。乃ち律準を作る。十有三弦、其長さ九尺、皆、黃鍾の聲に應ず。次を以て柱を設け、十一律及び黃鍾の清聲と爲し、旋りて七律を用ひ、以て一均と爲す。均の主たる者は宮なり。徵・商・羽・角・變宮・變徵、焉に次ぐ。其均主の聲を發し、本音の律に歸し、迭に應じて亂れず。乃ち其調を成す。凡そ八十一調。此法久しく絶え、臣の獨見に出

- 【六】 一百九十二卷貞觀元年に見ゆ。
- 【七】 安史。安祿山。史思明の二人。
- 【八】 鍾。大鐘なり。
- 【九】 編鍾。小鐘十六枚、同じく一處に在るをいふ。
- 【一〇】 柷は黑黍なり。
- 【一一】 律準は蓋し梁の武帝の遺法にして、梁の武帝は、又、之を京房に本づく。

乞ふ百官を集め、其得失を校へよ」と。詔して、之に従ふ。百官、皆、以て然りと爲す。乃ち之を行ふ。

唐の宋齊丘、九華山に至る。唐主、命じて其第を鎖し、牆を穴りて飲食を給せしむ。齊丘、歎じて曰はく、「吾、昔、謀を獻じて、讓皇帝の族を泰州に幽せり。宜なり其の此に及べるや」と。乃ち縊れて死す。諡して醜繆と曰ふ。初め翰林學士常夢錫、宣政院に知たり、機政に參預し、深く齊丘の黨を疾み、數、唐主に言つて曰はく、「此屬を去らずんば、國必ず危亡せん」と。馮延己、魏岑の徒と、日に爭論有り。之を久しくして、宣政院を罷む。夢錫、鬱鬱として、志を得ず、復た事に預らず、酒を縱にし疾を成して卒す。齊丘が死するに及び、唐主曰はく、「常夢錫、平生、齊丘を殺さんと欲せり。恨むらくは之を見しめざるを」と。夢錫に左僕射を贈る。

二月丙子朔、王朴に命じ、河陰に如き、河隄を按行し、斗門を汴口に立てしむ。壬午、侍衛都指揮使韓通、宣徽南院使、吳廷祚に命じ、徐・宿・宋・單等の州の丁夫數萬を發し、汴水を浚はしむ。甲申、馬軍都指揮使韓令坤に命じ、大梁の城東より、汴水を導きて、蔡水に入れ、以て陳頴の漕を通せしむ。歩軍都指揮使袁彥に命じ、五丈渠を浚ひ、東して曹濟の梁山泊を過ぎ、以て青鄆の漕を通せしむ。

- 【一】 事、二百八十一卷晉の天福二年に見ゆ。
- 【二】 延祚。當に延祚に作るべし。下同じ。
- 【三】 汴水は大梁城の東に在り分れて蔡渠と爲る。九域志に曰はく、浚儀縣の琵琶溝は即ち蔡河なりと。

畿内及び滑・亳の丁夫數千を發し、以て其役に供す。

丁亥、開封府・奏す、「田稅、舊一十萬二千餘頃、今、按行し、羨苗四萬二千餘頃を得たり」と。敕して、三萬八千頃を減せしむ。諸州の行苗使還り、奏する所の羨苗、之を減すること此に倣ふ。

淮南 饑う。上、命じて米を以て之に貸さしむ。或るひと曰はく、「民貧し。恐らくは償ふ能はざらん」と。上曰はく、「民は吾が子なり。安んぞ子。倒懸して、父之が爲めに解かざる有らんや。安にか其の必ず償ふを責むること此に倣ふ」と。

庚申、樞密使王朴・卒す。上、其喪に臨み、玉鉞を以て地を卓し、慟哭すること數四、自ら止むる能はず。朴、性剛にして銳敏、智略、人に過ぐ。上、是を以て之を惜む。

甲子、詔して、北鄙未だ復せざるを以て、將に 滄州に幸せんとし、義武節度使孫行友に命じ、(二七) 西山路を扞がしめ、宣徽南院使吳廷祚を以て、

東京留守を權せしめ、開封府の事に判たらしめ、三司使張美をして大内都部署を權せしむ。丁卯、侍衛親軍都虞候韓通等に命じ、水陸軍を將ゐて先づ發せしむ。甲戌、上、大梁を發す。夏四月庚寅、韓通・奏す、「滄州より、水道を治め、契丹の境に入り、(二八) 乾寧軍の南に柵し、壞防を補ひ、(二九) 游口三十

- 【一】 大兵の後、必ず凶年あり。
- 【二】 大梁より滄州に至るまで一千二百里。
- 【三】 定州の西山路を扞ぎ、以て北漢が契丹を救ふを防ぐなり。
- 【四】 時に乾寧軍を滄州永安縣に置く。今の直隸省津海道滄縣の西一百里に在り。
- 【五】 游口とは、水の至らざる處に於て之を開き、以て漲溢に備へて游水を洩らすなり。

六を開き、遂に瀛莫に通せり』と。辛卯、上、滄州に至る。即日、步騎數萬を帥ゐて滄州を發し、直に契丹の境に趨く。河北の州縣、車駕の過ぐる所に非ざれば、民間皆之を知らず。壬辰、上、乾寧軍に至る。契丹の寧州の刺史王洪、城を擧げて降る。乙未、大に水軍を治め、諸將に分ち命じ、水陸俱に下らしむ。韓通を以て陸路都部署と爲し、

太祖皇帝を水路都部署と爲す。丁酉、上、龍舟に御し、流に沿うて北し、舳艫相連なること數十里。己亥、獨流口に至り、流に沂りて西し、辛丑、益津關に至る。契丹の守將終廷輝、城を以て降る。是より以西、水路漸く隘く、巨艦に勝ふる能はず。乃ち之を捨つ。壬寅、上、陸に登りて西し、野次に宿す。侍衛の士、一旅に及ばず。從官皆恐懼す。胡騎、羣を連ねて其左右に出づれども、敢て逼らず。癸卯、

太祖皇帝、先づ瓦橋關に至る。契丹の守將姚内斌、城を擧げて降る。上、瓦橋關に入る。内斌は平州の人なり。甲辰、契丹の莫州の刺史劉楚信、城を擧げて降る。五月乙巳朔、侍衛親軍都指揮使天平節度使李重進等、始めて兵を引ききて繼ぎ至る。契丹の瀛州の刺史高彥暉、城を擧げて降る。彥暉は薊州の人なり。是に於

- 【一〇】 瀛州と莫州と相去ること百十里。
- 【一一】 滄州より西に行くこと九十八里、即ち契丹の瀛州の界、北行すること五百七十五里、直に幽州に抵る。
- 【一二】 契丹蓋し寧州を乾寧軍に置く。
- 【一三】 獨流口、乾寧軍の北一百一十里に在り。
- 【一四】 益津關、莫州文安縣(今、直隸省津海道)に在り。乾寧軍の西北一百六十里に在り。
- 【一五】 五百人を一旅と爲す。
- 【一六】 瓦橋關、涿州歸義縣(今の直隸省保定道雄縣の西北三十五里)に在り、益津關の東八十里に在り。

て、關南悉く平ぐ。丙午、諸將を行宮に宴し、幽州を取らんと議す。諸將以爲へらく、『陛下、京を離れて四十二日、兵、刃に血らずして、燕南の地を取る。此れ不世の功なり。今、虜騎皆幽州の北に聚まる。未だ宜しく深く入るべからず』と。上、悦ばず。是日、先鋒都指揮使劉重進を趣し、先づ發して固安に據らしめ、上自ら安陽水に至り、命じて橋を作らしむ。會、日暮る。還りて瓦橋に宿す。是日、上、不豫にして止む。契丹主、使者を遣はし、日に馳すること七百里、晉陽に詣り、北漢主に命じ、兵を發して周の邊を撓さしむ。上南に歸ると聞き、乃ち兵を罷む。戊申、孫行友奏す、『易州を抜き、契丹の刺史李在欽を擒にす』と。之を獻す。軍市に斬る。己酉、瓦橋關を以て雄州と爲し、容城、歸義の二縣を割きて之に隸す。益津關を以て霸州と爲し、文安、大城の二縣を割きて之に隸す。庚戌、李重進に命じ、兵

後周世宗睿文武皇帝顯德六年

- 【一七】 關南、瓦橋關以南をいふなり。
- 【一八】 甲戌より丙午に至るまで三十三日のみ。疑ふらくは誤あらん。
- 【一九】 固安、漢の縣名、唐には涿州に屬す。今の直隸省保定道易縣の東南に在り。縣より西北のかた燕京に至るまで二百二十里。
- 【二〇】 軍市、軍中に市有り、軍人各、土物を以て自ら相貿易するを聽す。
- 【二一】 容城、漢の縣、唐の武德中、改めて會縣と爲し、天寶中、容城縣と改む。今の直隸
- 省保定道容城縣の西北。
- 【二二】 歸義縣は、本、涿州の屬邑。
- 【二三】 霸州より燕京に至るまで三百五十五里。
- 【二四】 文安、漢の舊縣。今の直隸省津海道文安縣。
- 【二五】 大城縣は益津關の東南一百五里に在り。今の直隸省津海道大城縣。
- 【二六】 濱州は、本、贍國軍、周の顯德三年、升せて州と爲す。今の山東省濟南道濱縣。
- 【二七】 棣州は樂安郡、秦の齊郡の地。今の山東省濟南道惠民縣の南七十里。

を將ゐて土門を出で、北漢を撃たしむ。辛亥、侍衛馬步都指揮使韓令坤を以て霸州都部署と爲し、義成節度留後陳思讓を雄州都部署と爲し、各部兵を將ゐて以て之に戌せしむ。壬子、上、(三六)雄州より南に還る。己巳、李重進・奏す、「北漢の兵を百井に敗り、斬首二千餘級」と。甲戌、帝、大梁に至る。六月乙亥朔、昭義節度使李筠・奏す、「北漢を撃ち、遼州を拔き、其刺史張丕を獲たり」と。丙子、鄭州・奏す、「河、(三七)原武に決す」と。宣徽南院使吳廷祚に命じ、近縣の二萬餘夫を發して之を塞がしむ。

唐の清源節度使留從効、使を遣はして入貢し、進奏院を京師に置き、直に中朝に隸せんと請ふ。詔して報じて以はく、「江南近ごろ服し、方に

綏懷を務む。卿久しく金陵を奉ず。未だ圖を改む可からず。若し邸を上都に置き、(四一)彼と抗衡せんに、受けて之を有たば、罪、朕に在り。卿、遠く職貢を修めば、忠勤を表するに足る。勉めて舊君に事へ、且く宜しく故の如くなるべし。此の如くならば、則ち卿に於ては始終の義を篤くし、朕に於ては遠きを柔くるの宜を盡すなり。惟れ乃、方に通ず。諒に予が意に達せん」と。唐主、其子紀公從善を遣はし、鍾謨と俱に入貢せしむ。上、謨に問うて曰はく、「江南も亦兵を治め守備を修むるか」と。對へて曰はく、「既に大國に臣事す。敢て復た爾せず」と。上曰はく、「然らず。曩時には則ち仇敵たれども、今日は則ち一

【三六】 雄州より大梁に至るまで一千二百里。

【三七】 原武縣は鄭州に屬す、州の北六十里に在り。今の河南省河北道原武縣。

【四〇】 中朝は中國を謂ふ。留從効、唐の國勢削弱するを以て、復た之に臣事するを欲せず。

【四一】 唐と肩を比し周に事ふるは是れ抗衡するなり。

家たり。吾、汝が國と、大義已に定まる。他の虞無きを保す。然れども人生は期し難し。後世に至りては、則ち事、知る可からず。歸りて汝が主に語れ、「吾が時に及びて、城郭を完くし、甲兵を繕ひ、要害に據守し、子孫の計を爲す可し」と。謨歸りて以て唐主に告ぐ。唐主乃ち金陵に城き、凡そ諸州城の完からざる者は之を葺き、戍兵の少き者は之を益す。

臣光曰はく、或るひと臣に問ふ、五代の帝王、唐の莊宗・周の世宗、皆、英武と稱せらる。二主孰れか賢ると。臣、之に應へて曰はく、夫れ天子は、萬國を統治し、其の

服せざるを討ち、其の微弱なるを撫で、其號令を行ひ、其法度を壹にし、信義を敦明し、以て兆民を兼愛する所以の者なり。莊宗既に梁を滅ぼし、海内震動す。(四二)湖南の馬氏、子希範を遣はして入貢せしむ。莊宗曰はく、「此の如く、馬氏の業、終に高郁の奪ふ所と爲らんと。今、兒有ること此

【四二】 二百七十二卷唐の莊宗同光元年に見ゆ。
【四三】 二百七十六卷唐の明宗天成四年に見ゆ。
【四四】 事竝に梁の均王及び唐の莊宗紀に見ゆ。
【四五】 二百九十二卷顯德二年に見ゆ。

の如し。郁豈に能く之を得んや」と。郁は馬氏の良佐なり。希範の兄希聲、莊宗の言を聞き、卒に其父の命を矯めて之を殺せり。此れ乃ち市道商賈の爲す所なり。豈に帝王の體ならんや。蓋し莊宗は善く戰ふ者なり。故に能く弱晉を以て彊梁に勝つ。既に之を得、曾ち數年ならずして、外内離叛し、身を置くに所無し。誠に、兵を用ふるの術を知れども、天下を爲むるの道を知らざるに由るが故なり。世宗は信令を以て羣臣を御し、正義を以て諸國に責む。(四五)王

環は降らざるを以て賞を受け、劉仁贍は堅く守るを以て褒を蒙り、嚴續は忠を盡せるを以て存するを獲、蜀の兵は反殺するを以て誅せられ、馮道は節を失ふを以て棄てられ、張美は私恩を以て疎んせらる。江南未だ服せざれば、則ち親ら矢石を犯し、必ず克つを期し、既に服すれば、則ち之を愛すること子の如く、誠を推し言を盡し、之が爲めに遠く慮る。其宏規大度、豈に莊宗と同日に語るを得んや。書に曰はく、【四六】『偏無く黨無く、王道蕩蕩たり』と。又曰はく、【四七】『大邦は其力を畏れ、小邦は其徳に懐く』と。世宗、之に近し。

辛巳、建雄節度使楊廷璋・奏す、『北漢を撃ち、堡寨一十三を降せり』と。癸未、皇后符氏を立つ。【四八】宣懿皇后の女弟なり。

皇子宗訓を立てて梁王と爲し、左衛上將軍を領せしめ、宗讓を燕公と爲し、左驍衛上將軍を領せしむ。

上、樞密使魏仁浦を相とせんと欲す。議者以へらく、【四九】仁浦は科第に由らず、相と爲す可からずと。上曰はく、『古より、文武の才略ある者を用ひて輔佐と爲せり。豈に盡く科第に由らんや』と。己丑、王溥に門下侍郎を加へ、范質と皆樞密院事を參知せしめ、仁浦を以て中書侍郎・同平章事と爲し、樞密使は故の如し。仁浦、權要に處ると雖も、

而も能く謙謹なり。上、性嚴急なり。近職、旨に忤ふ者有れば、仁浦多く罪を引きて己に歸し、以て之を救ひ、全活する所、什に七八。故に刀筆の吏より起りて位を宰相に致せりと雖も、時の人、以て忝むと爲さず。又、宣徽南院使吳延祚を以て左驍衛上將軍と爲し、樞密使に充て、歸德節度使侍衛親軍都虞候韓通・鎮寧節度使兼殿前都點檢張永徳に、竝に同平章事を加ふ。仍は通を以て侍衛親軍副都指揮使に充て、

太祖皇帝を以て殿前都點檢を兼ねしむ。上嘗て大臣の相と爲す可き者を兵部尚書張昭に問ふ。昭、李濤を薦む。上、愕然として曰はく、『濤は輕薄にして大臣の體無し。朕、相を問ふ。而るに卿、首として之を薦むるは、何ぞや』と。對へて曰はく、

『陛下の責むる所の者は細行なり、臣が擧ぐる所の者は大節なり。昔、晉の高祖の世に、張彥澤、不幸を虐殺す。【五〇】濤、累疏して之を誅せんと請ひ、以爲はく、『殺さずんば、必ず國の患を爲さん』と。漢の隱帝の世に、【五一】濤亦上疏して、先帝の兵權を解かんことを請へり。夫れ國家の安危未だ形れざるに、而も能く之を見る。此れ眞に宰相の器なり。臣是を以て之を薦む』と。上曰はく、『卿の言甚だ善く、且つ至公なり。然れども濤の如きは、終に之を中書に置く可からず』と。濤、談諧を喜み、邊幅を修めず、弟潛と俱に文學を以て名を著はし、甚だ友愛なりと雖も、而も諛浪多く、長幼の體無し。上、是を以て之を薄んず。上、翰林學士

後周世宗睿文孝武皇帝顯徳六年

六四七

【四六】 前卷四年に見ゆ。
 【四七】 上の正月に見ゆ。
 【四八】 前卷三年に見ゆ。
 【四九】 二百九十一卷二年に見ゆ。
 【五〇】 二百九十二卷二年に見ゆ。
 【五一】 尙書洪範の言。
 【五二】 尙書武成の言。
 【五三】 宣懿皇后殂すること、前卷三年に見ゆ。
 【五四】 宗讓は、後、名を熙讓と更む。恭帝が位を嗣げるを以て、宗の字を避くる也。
 【五五】 魏仁浦、樞密院の吏を以て、歴仕して樞密使に至る。

【五六】 二百八十三卷晉の高祖天福七年に見ゆ。
 【五七】 二百八十八卷漢の隱帝乾祐元年に見ゆ。

單父の王著は幕府の舊僚なるを以て、屢之を相とせんと欲す。其の酒を嗜みて檢無きを以てして罷む。癸巳、大漸なり。范質等を召し、入りて願命を受けしむ。上曰はく、「王著は藩邸の故人なり。朕若し起たずんば、當に之を相とすべし」と。質等出で、相謂つて曰はく、「著は終日、醉郷に遊ぶ。豈に相と爲すに堪へんや。慎みて此言を泄らす勿れ」と。是日、上殂す。上、藩に在るとき、多く務めて韜晦す。位に即くに及び、高平の寇を破り、人、始めて其英武に服す。其の軍を御するや、號令嚴明にして、人、敢て犯すもの莫し。城を攻め敵に對するや、矢石、其左右に落ち、人、皆、色を失へども、而も上は略しも容を動かさず、機に應じて策を決し、人の意表に出づ。又、治を爲すに勤め、百司の簿籍、目を過ぐれば忘るる所無し。姦を發き伏を擿げ、聰察なること神の如し。閑暇には則ち儒者を召し、前史を讀ましめ、大義を商榷す。性、絲竹珍玩の物を好まず。常に言はく、「太祖、王峻・王殷の惡を養成し、君臣の分終らざるを致せり」と。故に羣臣、過有れば則ち面のあたり之を質責し、服すれば則ち之を赦し、功有れば則ち厚く之を賞し、文武參用し、各其能を盡す。人、其明を畏れて而も其惠に懐かざるは無し。故に能く敵を破り地を廣め、向ふ所、前無し。然れども法を用ふること太だ嚴に、羣臣の職事、小しく擧らざる有れば、往往、之を極刑に寘き、素より才幹聲名有りと雖も、開宥する所無し。尋ぎ

【五八】 單父縣は單州を帶ぶ。
 【五九】 世宗、時に年三十九。
 【六〇】 二百九十二卷元年に見ゆ。
 【六一】 王峻を貶し王殷を誅すること、二百九十一卷太祖の廣順三年に見ゆ。

て亦之を悔ゆ。末年寢く寛なり。登遐の日、遠邇、焉を哀慕す。甲午、遺詔を宣し、梁王宗訓に命じて、皇帝の位に即かしむ。生れて七年なり。

秋七月壬戌、侍衛親軍都指揮使李重進を以て淮南節度使を領せしめ、副都指揮使韓通をして天平節度使を領せしめ、太祖皇帝をして歸德節度使を領せしめ、山南東道節度使同平章事向拱を以て西京留守と爲す。庚申、拱に兼侍中を加ふ。拱は即ち向訓なり。恭帝の名を避けて焉を改む。

丙寅、大赦す。
 唐主、金陵は周の境を去ること、纔に一水を隔て、洪州は險固にして上游に居るを以て、羣臣を集め、徙りて之に都せんと議す。羣臣、多く、徙るを欲せず。惟だ樞密副使給事中唐鑑、之を勸む。乃ち命じて豫章を経營し、都城の制を爲さしむ。唐、淮上に兵を用ひ、及び江北を割き、周に臣事せしより、歲時貢獻し、府藏空しく竭き、錢益少く、物價騰貴す。禮部侍郎鍾謨、大錢の、一五十に當るを鑄んと請ふ。中書舍人韓熙載、鐵錢を鑄んと請ふ。唐主、始め、皆、從はず。謨、陳請して已ます。乃ち之に從ふ。是月、始めて當十

【六一】 登遐。崩御なり。
 【六二】 帝は世宗の第四子なり。此時に當りて、至少く國疑ひ、宿衛の將士、多く心を宋の太祖皇帝に歸し、明年正月、遂に出師に因りて翼戴し、而して天下、宋と爲り、建隆と改元す。
 【六三】 帝、後、宋に禪り、宋、奉じて鄭王と爲す。後崩じ、諡して恭帝と曰ふ。
 【六四】 時に周の境、南は江に至り、金陵は北のかた江に至るまで二十二里のみ。
 【六五】 洪州は江南の要會に據り、其地、金陵の上游に居る。
 【六六】 顯德二年、冬十二月、周の師、淮を渡り、五年、春三月、唐、江北を割く。

の大錢を鑄、文を永通泉貨と曰ふ。又、當二の錢を鑄、文を唐國通寶と曰ふ。(六)開元錢と並び行ふ。

八月戊子、蜀主、李昊を以て武信節度使を領せしむ。右補闕李起・上言す、『故事に、宰相、方鎮を領する者無し』と。蜀主曰はく、『昊の家は冗費多し。厚祿を以て之を優にするのみ』と。起は邛州の人、性・犇直なり。李昊嘗て之に語りて曰はく、『子の才を以て、苟くも能く慎默せば、當に翰林學士と爲るべし』と。起曰はく、『舌無きを俟ちて乃ち言はざらんのみ』と。

庚寅、皇弟宗讓を立てて曹王と爲し、名を(六)熙讓と更む。熙謹を紀王と爲し、熙誨を新王と爲す。

九月丙午、唐の太子弘冀・卒す。有司、(七)浙西の功を引き、諡して武宣と曰ふ。(七)句容の尉(七)全椒の張洎・上言す、『太子の徳は、孝敬を主とす。今諡するに武功を以てするは、微を防ぎて徳を慎む所以に非ざるなり』と。乃ち更めて諡して文獻と曰ふ。洎を擢でて(七)上元の尉と爲す。唐の禮部侍郎知尚書省事鍾謨、數、使を奉じて周に入り、世宗の命を唐

主に傳ふ。世宗及び唐主、皆、厚く之を待つ。此を恃みて其國に驕横なり。三省の事、皆、焉に預る。文獻太子、朝政を總ぶ。謨、東宮の官を兼ねんことを求むれども得ず。乃ち其の善き所の闕式を薦めて司議郎と爲し、百司の關啓を掌らしむ。(七)李德明の死するや、唐鎬、其謀に預る。謨、鎬が賊を受けしを聞き、嘗て面のあたり之を詰る。鎬甚だ懼る。謨、天威都虞候張繼と善し。數、私第に於て人を屏けて語り、夜分に至る。鎬、諸を唐主に諧して曰はく、『謨と繼と、氣類、同じからず。而して過ちて相親狎す。謨は屢、上國に使し、繼は北人なり。其の異謀有らんことを恐る』と。又言ふ、『永通大錢、民多く盜鑄し、法を犯す者衆し』と。文獻太子卒するに及び、唐主、其母弟鄭王從嘉を立てんと欲す。謨嘗て紀公從善と、同じく使を周に奉じ、相厚く善し。唐主に言つて曰はく、『(七)從嘉は徳輕く志懦なり。又酷だ釋氏を信ず。人主の才に非ず。從善は果敢凝重なり。宜しく嗣と爲すべし』と。唐主、是に由りて怒る。尋ぎて從嘉を徙して吳王・尚書令・知政事と爲し、東宮に居らしむ。冬十月、(七)謨、張繼をして所部の兵を以て、都城を巡徼せしめんと請ふ。唐主乃ち詔を下し、謨が官を侵すの罪を暴し、國子司業に貶し、饒州に流し、張繼を貶して宣州副使と爲す。未だ幾くならずして、皆、之を殺す。永通錢を廢す。十一月壬寅朔、睿武孝文皇帝を(七)慶陵に葬り、廟を世宗と號す。

【六八】開元錢は、唐の武徳の初、鑄る所なり。

【六九】宗を更めて熙と爲すは、帝の名を避くるなり。歐史に曰はく、本朝の乾徳三年十月、熙讓卒す。熙讓・熙誨は、終る所を知らずと。蓋し之を諱むなり。

【七〇】柴克宏を遣はして吳越の兵を常州に敗りしを謂ふ。

【七一】句容縣は昇州に屬す、州の東九十里に在り。今の江蘇省金陵道句容縣。

【七二】全椒。漢の縣名、隋改めて滁水縣と曰ふ。大業の初め、復た全椒と曰ふ。滁州に屬す。州の南五十里に在り。今の安徽省淮河道全椒縣。

【七三】唐、金陵に都し、上元を以て赤縣と爲し、句容を畿縣と爲す。畿縣の尉より赤縣の尉に升るを擢と爲す。

【七四】李德明の死すること、前卷三年に見ゆ。

【七五】胡三省曰はく、人の父子の間に居りて、長を廢し少を立てんと欲す。宜なり鍾謨の死するやと。

【七六】正に唐鎬が諧する所と合す。遂に罪を招く。

【七七】慶陵。鄭州管城縣(今の河南省開封道鄭縣)に在り。

南漢主、中書舍人鍾允章が藩府の舊僚なるを以て、擢てて尚書右丞・參政事と爲し、甚だ之に委任す。允章、法を亂る者數人を誅して以て綱紀を正さんと請ふ。南漢主、從ふ能はず。宦官、聞きて之を惡む。南漢主、將に圓丘に祀らんとす。前三日、允章、禮官を帥りて壇に登り、四顧し指揮して神位を設けしむ。内侍監許彥眞、之を望みて曰はく、「此れ反を謀るなり」と。即ち劍を帯びて壇に登る。允章、之を叱す。彥眞、馳せて宮に入り、「允章、郊祀の日に於て亂を作さんと欲す」と告ぐ。南漢主曰はく、「朕、允章を待つこと厚し。豈に此れ有らんや」と。玉清宮使龔澄樞・内侍監李托等、共に之を證し、彥眞の言を以て然りと爲す。乃ち允章を收め、含章樓下に繋ぎ、宦者に命じ、禮部尚書薛用丕と與に之を雜治せしむ。用丕素より允章と善し。告ぐるに必ず免れざるを以てす。允章、用丕の手を執り、泣きて曰はく、「老夫、今日、猶ほ机上の肉のごときのみ。仇人の烹る所と爲るを分とす。但だ邕昌が幼にして吾が冤を知らざるを恨む。其の長するに及びて、公、我が爲めに之を語れ」と。彥眞、之を聞き、罵りて曰はく、「反賊、其子をして仇を報いしめんと欲するか」と。復た南漢主に白して曰はく、「允章、二子と、共に壇に登り、潛に禱る所有りき」と。俱に之を斬る。是より、宦官益横なり。李托は封州の人なり。辛亥、南漢主、圓丘に祀り、大赦す。未だ幾くならずして、龔澄樞を以て左龍虎觀軍容使・内太師と爲し、軍國の事、皆、決を取る。凡そ羣臣の才能有る

【七〇】 胡三省曰はく、鍾允章、讒を被り、不測の罪を抱き、正に、累、妻子に及ばんことを恐れ、乃ち是言を爲す。是れ自ら之に禍するなりと。

もの及び 進士の狀頭、或は僧道の與に談ず可き者、皆、先づ簞室に下し、然る後進むを得。亦、自ら宮して以て進を求むる者有り、亦、死を免れて宮する者有り。是に由りて、宦者、二萬人に近く、貴顯にして事を用ふるの人は、大抵皆宦者なり。士人を謂つて門外の人と爲し、事に預るを得ざらむ。卒に此を以て國を亡ぼす。

唐、洪州を更め命けて南昌府と曰ひ、南都を建つ。武清節度使何敬洙を以て南都留守と爲し、兵部尚書陳繼善を以て南昌の尹と爲す。

周人の秦鳳を攻むるや、蜀中懼す。都官郎中徐及甫、自ら才略を負み、仕へて志を得ず、陰に黨與を結び、前蜀の高祖の孫少府少監王令儀を奉じて主と爲し、以て亂を作さんと謀る。會、周の兵退きて止む。是に至りて、其黨、告ぐる者有り。之を收捕す。及甫、自殺す。十二月甲午、令儀に死を賜ふ。

【七九】 進士の第一人を狀頭と謂ふ。
【八〇】 宋の開寶四年に至りて、南漢亡ぶ。

【八一】 武清軍は衡州、湖南に屬す。何敬洙、遂に領するのみ。
【八二】 將に徙りて豫章に都せんとするなり。
【八三】 前蜀主王建の廟を高祖と號す。
【八四】 荆は姓、罕儒は名。

端明殿學士兵部侍郎竇儀、唐に使す。天、雪雨る。唐主、詔を庶下に受けんと欲す。儀曰はく、「使者、詔を奉じて來る。敢て舊禮を失はず。若し雪、服を霑さば、請ふ他日を俟たん」と。唐主乃ち詔を庭に拜す。

契丹主、其舅を遣はして唐に使せしむ。泰州團練使荆罕儒、客を募り、之を殺さしむ。唐人、

夜、契丹の使者を清風驛に宴す。酒酣にして、起ちて衣を更む。久しくして返らず。之を視れば其首を失へり。是より、契丹、唐と絶つ。罕儒は冀州の人なり。

國譯資治通鑑第十六卷大尾

資治通鑑卷第二百七十六

後唐紀五

明宗聖德和武欽孝皇帝中之上

天成二年秋七月。以歸德節度使王晏球爲北面副招討使。○丙寅。升夔州爲寧江軍。以西
方鄴爲節度使。○癸酉。以與高季興夔忠萬三州爲豆盧革韋說之罪。皆賜死。○流段凝於
遼州。溫韜於德州。劉訓於濮州。○任圜請致仕居磁州。許之。○八月。己卯朔。日有食之。○冊
禮使至長沙。楚王殷始建國。立宮殿。置百官。皆如天子。或微更其名。翰林學士曰文苑學士。
知制誥曰知辭制。樞密院曰左右機要司。羣下稱之曰殿下。令曰教。以姚彥章爲左丞相。許
德勳爲右丞相。李鐸爲司徒。崔穎爲司空。拓跋恆爲僕射。張彥瑤。張迎。判機要司。然管內官
屬皆稱攝。惟朝桂節度使。先除後請命。恆本姓元。避殷父諱改焉。○九月。帝謂安重誨曰。從
榮左右有矯宣朕旨。令勿接儒生。恐弱人志氣者。朕以從榮年少。臨大藩。故擇名儒使輔導
之。今奸人所言乃如此。欲斬之。重誨請嚴戒而已。○北都留守李彥超請復姓符。從之。○丙
寅。以樞密使孔循兼東都留守。○壬申。契丹來請修好。遣使報之。○冬。十月。乙酉。帝發洛陽。
將如汴州。丁亥。至滎陽。民間訛言。帝欲自擊吳。又云。欲制置東方諸侯。宣武節度使檢校侍
中朱守殷疑懼。判官高密孫晟勸守殷反。守殷遂乘城拒守。帝遣宣徽使范延光往諭之。延
光曰。不早擊之。則汴城堅矣。願得五百騎與俱。帝從之。延光募發。未明行二百里。抵大梁城
下。與汴人戰。汴人大驚。戊子。帝至京水。遣御營使石敬瑭將親兵。倍道繼之。或謂安重誨曰。

失職在外之人。乘賊未破。或能爲患。不如除之。重誨以爲然。奏遣使。賜任圜死。端明殿學士趙鳳。哭謂重誨曰。任圜義士。安肯爲逆。公濫刑如此。何以贊國。使者至磁州。圍聚其族。酣飲然後死。神情不撓。○己丑。帝至大梁。四面進攻。吏民縋城出降者甚衆。守殷知事不濟。盡殺其族。引頸命左右斬之。乘城者望見乘輿。相帥開門降。孫晟奔吳。徐知誥客之。○戊戌。詔免三司逋負。近二百萬緡。○辛丑。吳大丞相都督中外諸軍事。諸道都統鎮海寧國節度使兼中書令東海王徐溫卒。初。溫子行軍司馬忠義節度使同平章事知詢。以其兄知誥非徐氏子。數請代之。執吳政。溫曰。汝曹皆不如也。嚴可求及行軍副使徐玠。屢勸溫。以知詢代。知誥溫以知誥孝謹。不忍也。陳夫人曰。知誥自我家貧賤時養之。柰何富貴而棄之。可求等言之不已。溫欲帥諸藩鎮入朝。勸吳王稱帝。將行有疾。乃遣知詢奉表勸進。因留代。知誥執政。知誥草表。欲求洪州節度使。俟旦上之。是夕。溫凶問至。乃止。知詢亟歸金陵。吳主贈溫齊王。諡曰忠武。○山南西道節度使張筠。久疾。將佐請見。不許。副使符彥琳等疑其已死。恐左右有奸謀。請權交符印。筠怒。收彥琳及判官都指揮使下獄。誣以謀反。詔取彥琳等。詣闕。按之無狀。釋之。徙筠爲西都留守。○癸卯。以保義節度使石敬瑭爲宣武節度使。兼侍衛親軍馬步都指揮使。○十一月。庚戌。吳王卽皇帝位。追尊孝武王曰武皇帝。景王曰景皇帝。宣王曰宣皇帝。○安重誨議伐吳。帝不從。○甲子。吳大赦。改元乾貞。○丙子。吳主尊太妃王氏曰皇太后。以徐知詢爲諸道副都統。鎮海寧國節度使。兼侍中。加徐知誥都督中外諸軍事。○十二月。戊寅朔。孟知祥發民丁二十萬。修成都城。○吳主立兄廬江公濛爲常山王。弟鄆陽公澈爲平原王。兄子南昌公珙爲建安王。○初。晉陽相者周玄豹嘗言。帝貴不可言。帝卽位。欲召詣闕。趙鳳曰。玄豹言陛下當爲天子。今已驗矣。無所復詢。若置之京師。則輕躁狂險之人。必輻輳其門。爭問吉凶。自古術士妄言。致入族滅者多矣。非所以靖國家也。帝乃就除光祿卿。

致仕。厚賜金帛而已。○中書舍人馬縞請用漢光武故事。七廟之外。別立親廟。中書門下奏。請如漢孝德孝仁皇例。稱皇不稱帝。帝欲兼稱帝。羣臣乃引德明玄元興聖皇帝例。皆立廟京師。帝令立於應州舊宅。自高祖考妣以下。皆追諡曰皇帝。皇后墓曰陵。○漢主如康州。○是歲。蔚代緣邊。粟斗不過十錢。

三年春正月丁巳。吳主立子璉爲江都王。璘爲江夏王。璆爲宜春王。宣帝子廬陵公玠爲南陽王。○昭義節度使毛璋。所爲驕僭。時服赭袍。縱酒爲戲。左右有諫者。剖其心而視之。帝聞之。徵爲右金吾衛上將軍。○契丹陷平州。○二月丁丑朔。日有食之。○帝將如鄴都。時扈駕諸軍家屬。甫遷大梁。又聞將如鄴都。皆不悅。詢有流言。帝聞之。不果行。○吳自莊宗滅梁以來。使者往來不絕。庚辰。吳使者至。安重誨以爲楊溥敢與朝廷抗禮。遣使覲覘。拒而不受。自是遂與吳絕。○張筠至長安。守兵閉門拒之。筠單騎入朝。以爲左衛上將軍。○壬辰。寧江節度使西方鄴。攻拔歸州。未幾。荆南復取之。○樞密使同平章事孔循。性狡佞。安重誨親信之。帝欲爲皇子娶重誨女。循謂重誨曰。公職居近密。不宜復與皇子爲昏。重誨辭之。久之。或謂重誨曰。循善離間人。不可置之密地。循知之。陰遣人結王德妃。求納其女。德妃請娶。循女爲從厚婦。帝許之。重誨大怒。乙未。以循同平章事。充忠武節度使。兼東都留守。重誨性強復。秦州節度使華溫琪入朝。請留闕下。帝嘉之。除左驍衛上將軍。月別賜錢穀。歲餘。帝謂重誨曰。溫琪舊人。宜擇一重鎮處之。重誨對以無闕。它日帝屢言之。重誨慍曰。臣累奏無闕。惟樞密使可代耳。帝曰。亦可。重誨無以對。溫琪聞之。懼。數月不出。重誨惡成德節度使同平章事王建立。奏建立與王都交結。有異志。建立亦奏重誨專權。求入朝。面言其狀。帝召之。既至。言重誨與宣徽使判三司張延朗結昏。相表裏。弄威福。三月辛亥。帝見重誨。氣色甚怒。謂曰。今與卿一鎮。自休息。以王建立代卿。張延朗亦除外官。重誨曰。臣披荆棘。事陛下數十年。值陛

下龍飛承乏機密數年間天下幸無事今一旦棄之外鎮臣願聞其罪帝不憚而起以語宣徽使朱弘昭弘昭曰陛下平日待重誨如左右手奈何以小忿棄之願垂三思帝尋召重誨慰撫之明日建立辭歸鎮帝曰卿比奏欲入分朕憂今復去何之會門下侍郎兼刑部尚書同平章事鄭珣請致仕己未以珣為左僕射致仕癸亥以建立為右僕射兼中書侍郎同平章事判三司○孟知祥屢與董璋爭鹽利璋誘商旅販東川鹽入西川知祥患之乃於漢州置三場重征之歲得錢七萬緡商旅不復之東川○楚王殷如岳州遣六軍使袁詮副使王環監軍馬希瞻將水軍擊荆南高季興以水軍逆戰至劉郎洑希瞻夜匿戰艦數十艘於港中詰旦兩軍合戰希瞻出戰艦橫擊之季興大敗俘斬以千數進逼江陵季興請和歸史光憲于楚軍還楚王殷讓環不遂取荆南環曰江陵在中朝及吳蜀之間四戰之地也宜存之以為吾扞蔽殷悅環每戰身先士卒與衆同甘苦常置鍼藥於座右戰罷索傷者於帳前自傅治之士卒隸環麾下者相賀曰吾屬得死所矣故所向有功○楚大舉水軍擊漢圍封州漢主以周易筮之遇大有於是大赦改元大有命左右街使蘇章將神弩三千戰艦百艘救封州章至賀江沈鐵絙於水兩岸作巨輪挽絙築長堤以隱之伏壯士於堤中章以輕舟逆戰陽不利楚人逐之入堤中挽輪舉絙楚艦不能進退以強弩夾水射之楚兵大敗解圍遁去漢主以章為封州團練使○夏四月以鄴都留守從榮為河東節度使北都留守以客省使太原馮贇為副留守夾馬指揮使新平楊思權為步軍都指揮使以佐之戊寅以宣武節度使石敬瑭為鄴都留守天雄節度使加同平章事以樞密使范延光為成德節度使丙戌以樞密使安重誨兼河南尹以河南尹從厚為宣武節度使仍判六軍諸衛事○吳右雄武軍使苗璘靜江統軍王彥章將水軍萬人攻楚岳州至君山楚王殷遣右丞相許德勳將戰艦千艘禦之德勳曰吳人掩吾不備見大軍必懼而走乃潛軍角子湖使王環夜帥戰艦三

百絕吳歸路暹明吳人進軍荆江口將會荆南兵攻岳州丁亥至道人磯德勳命戰棹都虞候詹信以輕舟三百出吳軍後德勳以大軍當其前夾擊之吳軍大敗虜璘及彥章以歸○初義武節度使兼中書令王都鎮易定十餘年自除刺史以下官租賦皆贍本軍及安重誨用事稍以法制裁之帝亦以都篡父位惡之時契丹數犯塞朝廷多屯兵於幽易間大將往來都陰為之備浸成猜阻都恐朝廷移之它鎮腹心和昭訓勸都為自全之計都乃求昏於盧龍節度使趙德鈞又知成德節度使王建立與安重誨有隙遣使結為兄弟陰與之謀復河北故事建立陽許而密奏之都又以蠟書遺青徐潞益梓五帥離間之又遣人說北面副招討使歸德節度使王晏球晏球不從乃以金遺晏球帳下使圖之不克癸巳晏球以都反狀聞詔宣徽使張延朗與北面諸將議討之○戊戌吳徙常山王濛為臨川王○庚子詔削奪王都官爵壬寅以王晏球為北面招討使權知定州行州事以橫海節度使安審通為副招討使以鄭州防禦使張虔劄為都監發諸道兵會討定州是日晏球攻定州拔其北關城都以重賂求救於奚酋秃餒五月秃餒以萬騎突入定州晏球退保曲陽都與秃餒就攻之晏球與戰於嘉山下大破之秃餒以二千騎奔還定州晏球追至城門因進攻之得其西關城定州城堅不可攻晏球增修西關城以為行府使三州民輸稅供軍食而守之○辛酉以天雄節度副使趙敬怡為樞密使○王晏球聞契丹發兵救定州將大軍趣望都遣張延朗分兵退保新樂延朗遂之真定留趙州刺史朱建豐將兵修新樂城契丹已自它道入定州與王都夜襲新樂破之殺建豐乙丑王晏球張延朗會於行唐丙寅至曲陽王都乘勝悉其衆與契丹五千騎合萬餘人邀晏球等於曲陽丁卯戰于城南晏球集諸將校令之曰王都輕而驕可一戰擒也今日諸君報國之時也悉去弓矢以短兵擊之回顧者斬於是騎兵先進奮槌揮劍直衝其陣大破之僵尸蔽野契丹死者過半餘衆北走都與秃餒得數騎僅免

盧龍節度使趙德鈞邀擊契丹北走者殆無孑遺。○吳遣使求和於楚。請苗璘。王彥章。楚王殷歸之。使許德勳餞之。德勳謂二人曰。楚國雖小。舊臣宿將猶在。願吳朝勿以措懷。必俟衆駒爭阜棧。然後可圖也。時殷多內寵。嫡庶無別。諸子驕奢。故德勳語及之。○六月辛巳。高季興復請稱藩于吳。吳進季興爵秦王。帝詔楚王殷討之。殷遣許德勳將兵攻荆南。以其子希範爲監軍。次沙頭。季興從子雲猛指揮使從嗣。單騎造楚壁。請與希範挑戰。決勝。副指揮使廖匡齊出與之鬪。拉殺之。季興懼。明日請和。德勳還。匡齊。贛人也。○王晏球知定州有備。未易急攻。朱弘昭。張虔釗。宣言大將畏怯。有詔促令攻城。晏球不得已。乙未。攻之。殺傷將士三千人。○先是。詔發西川兵戍夔州。孟知祥遣左肅邊指揮使毛重威將三千人往。頃之。知祥奏夔忠萬三州已平。請召戍兵還。以省饋運。帝不許。知祥陰使人誘之。重威帥其衆鼓譟逃歸。帝命按其罪。知祥請而免之。○陝州行軍司馬王宗壽請葬故蜀主王衍。秋七月。贈衍順正公。以諸侯禮葬之。○北面招討使安審通卒。○東都民有犯私麴者。留守孔循族之。或請聽民造麴。而於秋稅畝收五錢。己未。勅從之。○壬戌。契丹復遣其酋長惕隱將七千騎救定州。王晏球逆戰於唐河北。大破之。甲子。追至易州。時久雨水漲。契丹爲唐所俘斬。及陷溺死者不可勝數。○戊辰。以威武節度使王延鈞爲閩王。○契丹北走。道路泥濘。人馬飢疲。入幽州境。八月壬戌。趙德鈞遣牙將武從諫將精騎邀擊之。分兵扼險要。生擒惕隱等數百人。餘衆散投村落。村民以白梃擊之。其得脫歸國者不過數十人。自是契丹沮氣。不敢輕犯塞。○初。莊宗狗地河北。獲小兒畜之宮中。及長。賜姓名李繼陶。帝卽位。縱遣之。王都得之。使衣黃袍。坐堞間。謂王晏球曰。此莊宗皇帝子也。已卽帝位。公受先朝厚恩。曾不念乎。晏球曰。公作此小數。竟何益。吾今教公二策。不悉衆決戰。則束手出降耳。自餘無以求生也。○王建立以目不知書。請罷判三司。不許。○乙未。吳大赦。○吳越王鏐欲立中子傳瓘爲嗣。謂諸子曰。各

言汝功。吾擇多者而立之。傳瓘兄傳瑋。傳瑒。皆推傳瓘。乃奏請以兩鎮授傳瓘。閏月丁未。詔以傳瓘爲鎮海鎮東節度使。○戊申。趙德鈞獻契丹俘惕隱等諸將。皆請誅之。帝曰。此曹皆虜中之驍將。殺之則虜絕望。不若存之。以紓邊患。乃赦惕隱等酋長五十人。置之親衛。餘六百人悉斬之。○契丹遣梅老季素等入貢。○初。盧文進來降。契丹以蕃漢都提舉使張希崇代之。爲盧龍節度使。守平州。遣親將以三百騎監之。希崇本書生。爲幽州牙將。沒於契丹。性和易。契丹將稍親信之。因與其部曲謀南歸。部曲泣曰。歸固寢食所不忘也。然虜衆我寡。奈何。希崇曰。吾誘其將殺之。兵必潰去。此去虜帳千餘里。比其知而徵兵。吾屬去遠矣。衆曰善。乃先爲窋。實以石灰。明日召虜將飲醉。并從者殺之。投諸窋中。其營在城北。亟發兵攻之。契丹衆皆潰去。希崇悉舉其所部二萬餘口來奔。詔以爲汝州刺史。○吳王太后殂。○九月辛巳。荆南敗楚兵于白田。執楚岳州刺史李廷規歸于吳。○乙未。勅以溫韜發諸陵。段凝反覆。令所在賜死。○己亥。以武寧節度使房知溫兼荆南行營招討使。知荆南行府事。分遣中使發諸道兵赴襄陽。以討高季興。○辛丑。徙慶州防禦使竇廷琬爲金州刺史。冬十月。廷琬據慶州拒命。○丙午。以橫海節度使李從敏兼北面行營副招討使。從敏。帝之從子也。○戊申。詔靜難節度使李敬周發兵討竇廷琬。○王都據定州。守備固。伺察嚴。諸將屢有謀。翻城應官軍者。皆不果。帝遣使者促王晏球攻城。晏球與使者聯騎巡城。指之曰。城高峻如此。借使主人聽外兵登城。亦非梯衝所及。徒多殺精兵。無損於賊。如此何爲。不若食三州之租。愛民養兵。以俟之。彼必內潰。帝從之。○十一月。有司請爲哀帝立廟。詔立廟於曹州。○平盧節度使晉忠武公霍彥威卒。○忠州刺史王雅取歸州。○庚寅。皇子從厚納孔循女爲妃。循因之。得之大梁。厚結王德妃之黨。乞留安重誨具奏其事。力排之。禮畢。促令歸鎮。○甲午。以中書侍郎同平章事王建立同平章事。充平盧節度使。○丙申。上問趙鳳。帝王賜人鐵券。何

也。對曰：與之立誓，令其子孫長享爵祿耳。上曰：先朝受此賜者，止三人：崇韜、繼麟、尋皆族滅，朕得脫如毫釐耳。因歎息久之。趙鳳曰：帝王心存大信，固不必刻之金石也。○十二月甲辰，李敬周奏拔慶州，族寶廷琬。○荆南節度使高季興寢疾，命其子行軍司馬忠義節度使同平章事從誨。權知軍府事。丙辰，季興卒。吳主以從誨為荆南節度使，兼侍中。○史館修撰張昭遠上言：臣竊見先朝時，皇弟皇子皆喜俳優，入則飾姬妾，出則誇僕馬，習尚如此，何道能賢？諸皇子宜精擇師傅，令皇子屈身師事之，講禮義之經，論安危之理，古者人君即位，則建太子，所以明嫡庶之分，塞禍亂之源。今卜嗣建儲，臣未敢輕議。至於恩澤賜與之間，昏姻省侍之際，嫡庶長幼，宜有所分，示以等威，絕其僥冀。帝賞歎其言，而不能用。○閩王延鈞，度民二萬為僧，由是閩中多僧。○河東節度使北都留守從榮，年少驕狠，不親政務。帝遣左右素與從榮善者，往與之處，使從容諷導之。其人私謂從榮曰：河南相公，恭謹好善，親禮端士，有老成之風，相公齒長，宜自策勵，勿令聲問出河南之下。從榮不悅，退告步軍都指揮使楊思權曰：朝廷之人，皆推從厚而短我，我其廢乎？思權曰：相公手握強兵，且有思權在，何憂？因勸從榮多募部曲，繕甲兵，陰為自固之備。又謂帝左右曰：君每舉弟而抑其兄，我輩豈不能助之邪？其人懼，以告副留守馮贇。贇密奏之。帝召思權詣闕，以從榮故，亦弗之罪也。

四年春正月，馮贇入為宣徽使，謂執政曰：從榮剛僻而輕易，宜選重德輔之。○王都、禿餒欲突圍走，不得出。二月癸卯，定州都指揮使馬讓能開門納官軍，都舉族自焚，擒禿餒及契丹二千人。辛亥，以王晏球為天平節度使，與趙德鈞並加兼侍中。禿餒至大梁，斬於市。○樞密使趙敬怡卒。○甲子，帝發大梁。○丁卯，門下侍郎同平章事崔協卒於須水。○庚午，帝至洛陽。○王晏球在定州城下，日以私財饗士，自始攻至克城，未嘗戮一卒。三月辛巳，晏球入朝。帝美其功，晏球謝久，頗饋運而已。○皇子右衛大將軍從爽，性剛，安重誨用事，從爽不為之。

屈帝東巡，以從璨為皇城使，從璨與客宴於會節園，酒酣，戲登御榻，重誨奏請誅之。丙戌，賜從璨死。○橫山蠻寇邵州。○楚王殷命其子武安節度副使判長沙府希聲知政事，總錄內外諸軍事。自是國政先歷希聲，乃聞於殷。○夏四月庚子朔，禁鐵錫錢，時湖南專用錫錢，銅錢一直錫錢，百流入中國，法不能禁。○丙午，楚六軍副使王環敗荆南兵于石首。○初，令緣邊置場，市党項馬，不令詣闕，先是党項皆詣闕，以貢馬為名，國家約其直，酬之，加以館穀，賜與歲費五十餘萬緡，有司苦其耗蠹，故止之。○壬子，以皇子從榮為河南尹，判六軍諸衛事，從厚為河東節度使，北都留守。○契丹寇雲州。○甲寅，以端明殿學士兵部侍郎趙鳳為門下侍郎，同平章事。○五月乙酉，中書言：太常改諡哀帝曰昭宣，光烈孝皇帝，廟號景宗，既稱宗，則應入太廟，在別廟，則不應稱宗，乃去廟號。○帝將祀南郊，遣客省使李仁矩以詔諭兩川，令西川獻錢一百萬緡，東川五十萬緡，皆辭以軍用不足。西川獻五十萬緡，東川獻十萬緡。仁矩帝在藩鎮時，客將也，為安重誨所厚，恃恩驕慢，至梓州，董璋置宴召之，日中不往，方擁妓酣飲，璋怒，從卒徒執兵入驛，立仁矩於階下，而詬之曰：公但聞西川斬李客省，謂我獨不能邪？仁矩流涕拜請，僅而得免。既而厚賂仁矩以謝之。仁矩還言璋不法，未幾，帝復遣通事舍人李彥珣詣東川，入境，失小禮，璋拘其從者，彥珣奔還。○高季興之叛也，其子從誨切諫不聽，從誨既襲位，謂僚佐曰：唐近而吳遠，非計也。乃因楚王殷以謝罪於唐，又遣山南東道節度使安元信書求保奏，復修職貢。丙申，元信以從誨書聞，帝許之。○契丹寇雲州。○六月戊申，復以鄴都為魏州，留守皇城使竝停。○庚申，高從誨自稱前荆南行軍司馬，歸州刺史。上表求內附。秋七月甲申，以從誨為荆南節度使，兼侍中。己丑，罷荆南招討使。○八月，吳武昌節度使兼侍中李簡，以疾求還江都。癸丑，卒。子採石徐知詢簡，嘗也。擅留簡親兵二千入于金陵，表薦簡子彥忠，代父鎮鄂州。徐知誥以龍武統軍柴再用為武昌節度使，知詢怒。

曰。劉崇俊。兄之親。三世為濠州。彥忠。吾妻族。獨不得邪。○初。楚王殷用都軍判官高郁為謀主。國賴以富強。鄰國皆疾之。莊宗入洛。殷遣其子希範入貢。莊宗愛其警敏。曰。比聞馬氏當為高郁所奪。今有子如此。郁安能得之。高季興亦屢以流言問郁於殷。殷不聽。乃遣使。遣節度副使知政事希聲書。盛稱郁功名。願為兄弟。使者言於希聲。曰。高公常云。馬氏政事。皆出高郁。此子孫之憂也。希聲信之。行軍司馬楊昭遂。希聲之妻族也。謀代郁任。日譖之於希聲。希聲屢言於殷。稱郁奢僭。且外交鄰藩。請誅之。殷曰。成吾功業。皆郁力也。汝勿為此言。希聲固請。罷其兵柄。乃左遷郁行軍司馬。郁謂所親曰。亟營西山。吾將歸老。獮子漸大。能咋人矣。希聲聞之。益怒。明日。矯以殷命。殺郁於府舍。勝諭中外。誣郁謀叛。并誅其族黨。至暮。殷尚未知。是日大霧。殷謂左右曰。吾昔從孫儒度淮。每殺不辜。多致茲異。馬步院豈有冤死者乎。明日。吏以郁死告。殷撫膺大慟。曰。吾老耄。政非己出。使我勳舊。橫罹冤酷。既而顧左右曰。吾亦何可久處此乎。○九月。上與馮道從容語。及年穀屢登。四方無事。道曰。臣常記昔在先皇幕府。奉使中山。歷井陘之險。臣憂馬蹶。執轡甚謹。幸而無失。逮至平路。放轡自逸。俄至顛隕。凡為天下者。亦猶是也。上深以為然。上又問道。今歲雖豐。百姓瞻足否。道曰。農家歲凶則死於流殍。歲豐則傷於穀賤。豐凶皆病者。惟農家為然。臣記進士聶夷中詩云。二月賣新絲。五月糶新穀。醫得眼下瘡。剜却心頭肉。語雖鄙俚。曲盡田家之情狀。農於四人之中。最為勤苦。人主不可不知也。上悅。命左右錄其詩。常諷誦之。○鄜州兵戍東川者。歸本道。董璋擅留其壯者。選羸老歸之。仍收其甲兵。○癸巳。西川右都押牙孟容弟。為資州稅官。坐自盜抵死。觀察判官馮瑒。中門副使王處回。為之請。孟知祥曰。雖吾弟犯法。亦不可貸。況它人乎。○吳越王鏐居其國。好自大。朝廷使者。曲意奉之。則贈遺豐厚。不然則禮遇疎薄。嘗遣安重誨書。辭禮頗倨。帝遣供奉官烏昭遇。韓致。使吳越。昭遇與致有隙。使還。致奏。昭遇見鏐。稱臣拜舞。謂鏐

為殿下。及私以國事告鏐。安重誨奏。賜昭遇死。癸巳。制。鏐以太師致仕。自餘官爵皆削之。凡吳越進奏官。使者綱吏。令所在繫治之。鏐令子傳瓊等。上表訟冤。皆不省。○初。朔方節度使韓洙卒。弟澄為留後。未幾。定遠軍使李匡賓。聚黨據保靜鎮。作亂。朔方不安。冬。十月。丁酉。韓澄遣使齋絹表。乞朝廷命帥。前磁州刺史康福。善胡語。上退朝。多召入便殿。訪以時事。福以胡語對。安重誨惡之。常戒之曰。康福汝但妄奏事。會當斬汝。福懼。求外補。重誨以靈州深入胡境。為帥者多遇害。戊戌。以福為朔方河西節度使。福見上。涕泣辭之。上命重誨為福更它鎮。重誨曰。福自刺史。無功建節。尚復何求。且成命已行。難以復改。上不得已。謂福曰。重誨不肯。朕意也。福辭行。上遣將軍牛知柔。河中都指揮使衛審餘等。將兵萬人。衛送之。審餘。徐州人也。○辛亥。割閬果二州。置保寧軍。壬子。以內客省使李仁矩為節度使。○先是。西川常發芻糧。饋峽路。孟知祥辭以本道兵自多。難以奉它鎮。詔不許。屢督之。甲寅。知祥奏。稱財力乏。不奉詔。○吳諸道副都統鎮海寧國節度使兼侍中徐知詢。自以握兵據上流。意輕。徐知誥。數與知誥爭權。內相猜忌。知誥患之。內樞密使王令謀曰。公輔政日久。挾天子以令境內。誰敢不從。知詢年少。恩信未洽於人。無能為也。知詢待諸弟薄。諸弟皆怨之。徐玠知。知詢不可輔。反持其短。以附知誥。吳越王鏐。遣知詢金玉鞍勒器皿。皆飾以龍鳳。知詢不以為嫌。乘用之。知詢典客。周廷望。說知詢曰。公誠能捐寶貨。以結朝中勳舊。使皆歸心於公。則彼誰與處。知詢從之。使廷望如江都。諭意。廷望與知誥親吏周宗善。密輸款於知誥。亦以知誥陰謀告知詢。知詢召知誥詣金陵。除父溫喪。知誥稱吳主之命。不許。周宗謂廷望曰。人言侍中有不臣七事。宜亟入謝。廷望還。以告知詢。十一月。知詢入朝。知誥留知詢為統軍。鎮海節度使。遣右雄武都指揮使柯厚。徵金陵兵。還江都。知誥自是始專吳政。知詢責知誥曰。先王違世。兄為人子。初不臨喪。可乎。知誥曰。爾挺劍待我。我何敢往。爾為人臣。畜乘輿服御物。亦可

乎。知詢又以廷望所言詰知誥。知誥曰：以爾所為告我者，亦廷望也。遂斬廷望。○壬辰，吳主加尊號曰睿聖文明光孝皇帝。大赦。改元大和。○康福行至方渠，羌胡出兵邀福。福擊走之。至青剛峽，遇吐蕃野利大蟲二族，數千帳，皆不覺。唐兵至，福遣衛審崧掩擊，大破之。殺獲殆盡。由是威聲大振。遂進至靈州。自是朔方始受代。○十二月，吳加徐知誥兼中書令，領寧國節度使。知誥召徐知詢，飲以金鍾，酌酒賜之。曰：願弟壽千歲。知詢疑有毒，引它器均之。跟獻。知誥曰：願與兄各享五百歲。知誥變色。左右顧不肯受。知詢捧酒不退。左右莫知所為。伶人申漸高徑前為誥諧語，掠二酒合飲之。懷金鍾趨出。知誥密遣人以良藥解之，已腦潰而卒。○奉國節度使知建州王延稟稱疾，退居里第。請以建州授其子繼雄。庚子，詔以繼雄為建州刺史。○安重誨既以李仁矩鎮閬州，使與綿州刺史武虔裕皆將兵赴治。虔裕帝之故吏，重誨之外兄也。重誨使仁矩調董璋反狀。仁矩增飾而奏之。朝廷又使武信節度使夏魯奇治遂州城隍，繕甲兵，益兵戍之。璋大懼。時道路傳言，又將割綿龍為節鎮。孟知祥亦懼。璋素與知祥有隙，未嘗通問。至是，璋遣使詣成都，請為其子娶知祥女。知祥許之。謀併力以拒朝廷。

資治通鑑卷第二百七十六

資治通鑑卷第二百七十七

後唐紀六

明宗聖德和武欽孝皇帝中之下

長興元年春正月，董璋遣兵築七寨於劍門。辛巳，孟知祥遣趙季良如梓州修好。○鴻臚少卿郭在徽奏請鑄當五千三千一大錢，朝廷以其指虛為實，無識妄言。左遷衛尉少卿。同正。○吳徙平原王澈為德化王。○二月乙未朔，趙季良還成都，謂孟知祥曰：董公貪殘好勝，志大謀短，終為西川之患。都指揮使李仁罕、張業欲置宴召知祥，先二日有尼告二將謀以宴日害知祥。知祥詰之無狀。丁酉，推始言者軍校都延昌王行本腰斬之。戊戌，就宴盡去。左右獨詣仁罕第，仁罕叩頭流涕曰：老兵惟盡死以報德。由是諸將皆親附而服之。○壬子，孟知祥、董璋同上表言兩川聞朝廷於閬中建節，綿遂益兵無不憂恐。上以詔書慰諭之。○乙卯，上祀圓丘，大赦。改元鳳翔。節度使兼中書令李從暉入朝陪祀。三月壬申，制徙從暉為宣武節度使。○癸酉，吳主立江都王璉為太子。○丙子，以宣徽使朱弘昭為鳳翔節度使。○康福奏克保靜鎮，斬李匡賓。○復以安義為昭義軍。○帝將立曹淑妃為后，淑妃謂王德妃曰：吾素病中煩，倦於接對，妹代我為之。德妃曰：中宮敵偶至尊，誰敢干之。庚寅，立淑妃為皇后。德妃事，后恭謹，后亦憐之。初，王德妃因安重誨得進，常德之帝性儉約，及在位久，宮中用度稍侈，重誨每規諫。妃取外庫錦造地衣，重誨切諫，引劉后為戒。妃由是怨之。○高從誨遣使奉表詣吳，告以墳墓在中國，恐為唐所討。吳兵援之不及，謝絕之。吳遣兵擊之，不克。○董璋

恐綿州刺史武虔裕窺其所爲。夏四月甲午朔，表兼行軍司馬，囚之府廷。○宣武節度使苻習自恃宿將，論議多抗。安重誨重誨求其過失，奏之。丁酉，詔習以太子太師致仕。○戊戌，加孟知祥兼中書令。夏魯奇同平章事。○初，帝在真定，李從珂與安重誨飲酒，爭言。從珂殿重誨，重誨走免。既醒，悔謝。重誨終銜之。至是，重誨用事，自皇子從榮從厚皆敬事不暇。時從珂爲河中節度使，同平章事。重誨屢短之於帝，帝不聽。重誨乃矯以帝命諭河東牙內指揮使楊彥溫，使逐之。是日，從珂出城閱馬。彥溫勒兵閉門拒之。從珂使人扣門詰之曰：「吾待汝厚，何爲如是？」對曰：「彥溫非敢負恩，受樞密院宣耳。請公入朝，從珂止于虞鄉，遣使以狀聞。使者至，壬寅，帝問重誨曰：「彥溫安得此言？」對曰：「此姦人妄言耳。宜速討之。」帝疑之，欲誘致彥溫，訊其事。除彥溫絳州刺史，重誨固請發兵擊之。乃命西都留守索自通步軍都指揮使藥彥稠將兵討之。帝令彥稠必生致彥溫，吾欲面訊之。召從珂詣洛陽，從珂知爲重誨所構，馳入自明。○加安重誨兼中書令。○李從珂至洛陽，上責之，使歸第，絕朝請。辛亥，索自通等拔河中，斬楊彥溫。癸丑，傳首來獻。上怒藥彥稠不生致，深責之。安重誨諷馮道趙鳳奏從珂失守，宜加罪。上曰：「吾兒爲姦黨所傾，未明曲直，公輩何爲發此言？意不欲置之人間邪？此皆非公輩之意也。」二人惶恐而退。它日，趙鳳又言之，上不應。明日，重誨自言之。上曰：「朕昔爲小校家貧，賴此小兒拾馬糞自贖，以至今日爲天子，曾不能庇之邪？卿欲如何處之？」於卿爲便。重誨曰：「陛下父子之間，臣何敢言。惟陛下裁之。」上曰：「使閑居私第，亦可矣。何用復言？」丙辰，以索自通爲河中節度使。自通至鎮，承重誨指籍軍府甲仗數上之，以爲從珂私造。賴王德妃居中保護，從珂由是得免。士大夫不敢與從珂往來。惟禮部郎中史館修撰呂琦居相近，時往見之。從珂每有奏請，皆咨琦而後行。○戊午，帝加尊號曰：「聖明神武文德恭孝皇帝。」○安重誨言：「昭義節度使王建立過魏州，有搖衆之語。」五月丙寅，制以太傅致仕。○董璋閱集民兵，皆剪

髮黥面，復於劍門北置永定關，布列烽火。○孟知祥累表請割雲安等十三鹽監，隸西川。以鹽直贍軍。江屯兵辛卯許之。○六月癸巳朔，日有食之。○辛亥，敕防禦團練使刺史行軍司馬節度副使自今皆朝廷除之。諸道無得奏薦。○董璋遣兵掠遂闕鎮。秋七月戊辰，兩川以朝廷繼遣兵屯遂闕，復有論奏，自是東北商旅少敢入蜀。○八月乙未，捧聖軍使李行德十將張儉引告密人邊彥溫告安重誨發兵。云欲自討淮南，又引占相者問命。帝以問侍衛都指揮使安從進。藥彥稠二人曰：「此姦人欲離間陛下勳舊耳。重誨事陛下三十年，幸而富貴，何苦謀反？」臣等請以宗族保之。帝乃斬彥溫，召重誨慰撫之。君臣相泣。○以前忠武節度使張延朗行工部尚書充三司使。三司使之名自此始。○吳徐知誥以海州都指揮使王傳拯有威名，得士心，值團練使陳宣罷歸，知誥許以傳拯代之。既而復遣宣還海州，徵傳拯還江都。傳拯怒，以爲宣毀之。己亥，帥麾下入辭宣，因斬宣，焚掠城郭，帥其衆五千來奔。知誥曰：「是吾過也，免其妻子。漣水制置使王巖將兵入海州，以巖爲威衛大將軍，知海州。傳拯縮之子也。其季父輿爲光州刺史，傳拯遣間使持書至光州，輿執之以聞。因求罷歸。知誥以輿爲控鶴都虞候。時政在徐氏，典兵宿衛者尤難其人。知誥以輿重厚慎密，故用之。○壬寅，趙鳳奏竊聞近有姦人誣陷大臣，搖國柱石，行之未盡。帝乃收李行德張儉皆族之。○立皇子從榮爲秦王。丙辰，立從厚爲宋王。○董璋之子光業爲宮苑使，在洛陽。璋與書曰：「朝廷割吾支郡爲節鎮，屯兵三千，是殺我必矣。汝見樞要爲吾言，如朝廷更發一騎入斜谷，吾必反。與汝訣矣。」光業以書示樞密承旨李虔徽，未幾，朝廷又遣別將苟咸父將兵戍閬州。光業謂虔徽曰：「此兵未至，吾父必反。吾不敢自愛，恐煩朝廷調發，願止此兵。吾父保無它。」虔徽以告安重誨。重誨不從。璋聞之，遂反。利闕遂三鎮以聞。且言：「已聚兵將攻三鎮。」重誨曰：「臣久知其如此。陛下含容不討耳。」帝曰：「我不負人，人負我，則討之。」○九月癸亥，西川進奏官蘇愿白孟知祥

云朝廷欲大發兵討兩川。知祥謀於副使趙季良。季良請以東川兵先取遂閬。然後併兵守劍門。則大軍雖來。吾無內顧之憂矣。知祥從之。遣使約董璋。同舉兵。璋移檄利閬。遂三鎮。數其離間朝廷。引兵擊閬州。庚午。知祥以都指揮使李仁罕爲行營都部署。漢州刺史趙廷隱副之。簡州刺史張業爲先鋒。指揮使將兵三萬攻遂州。別將牙內都指揮使侯弘實先登。指揮使孟思恭將兵四千會璋攻閬州。○安重誨久專大權。中外惡之者衆。王德妃及武德使孟漢瓊浸用事。數短重誨於上。重誨內憂懼。表解機務。上曰。朕無間於卿。誣罔者朕既誅之矣。卿何爲爾。甲戌。重誨復面奏曰。臣以寒賤致位至此。忽爲人誣。以反非陛下至明。臣無種矣。由臣才薄任重。恐終不能鎮浮言。願賜一鎮。以全餘生。上不許。重誨求之不已。上怒曰。聽卿去。朕不患無人。前成德節度使范延光勸上留重誨。且曰。重誨去。誰能代之。上曰。卿豈不可。延光曰。臣受驅策日淺。且才不逮重誨。何敢當此。上遣孟漢瓊詣中書議重誨事。馮道曰。諸公果愛安令。宜解其樞務。爲便。趙鳳曰。公失言。乃奏大臣不可輕動。○東川兵至閬州。諸將皆曰。董璋久蓄反謀。以金帛啗其士卒。銳氣不可當。宜深溝高壘。以挫之。不過旬日。大軍至。賊自走矣。李仁矩曰。蜀兵懦弱。安能當我精卒。遂出戰。兵未交而潰歸。董璋晝夜攻之。庚辰。城陷。殺仁矩。滅其族。初。璋爲梁將。指揮使姚洪嘗隸麾下。至是。將兵千人戍閬州。璋密以書誘之。洪投諸廁。城陷。璋執洪而讓之曰。吾自行間獎拔汝。今日何相負。洪曰。老賊。汝昔爲李氏奴。掃馬糞。得鬻炙。感恩無窮。今天子用汝。爲節度使。何負於汝。而反邪。汝猶負天子。吾受汝何恩。而云相負哉。汝奴材固無恥。吾義士豈忍爲汝所爲乎。吾寧爲天子死。不能與人奴竝生。璋怒。然鑊於前。令壯士十人。封其肉。自啗之。洪至死。罵不絕聲。帝置洪二子於近衛。厚給其家。○甲申。以范延光爲樞密使。安重誨如故。○丙戌。下制。削董璋官爵。與兵討之。丁亥。以孟知祥兼西南供饋使。以天雄節度石敬瑭爲東川行營都招討使。以夏魯奇爲之副。

璋使孟思恭分兵攻集州。思恭輕進敗歸。璋怒。遣還成都。知祥免其官。戊子。以石敬瑭權知東川事。庚寅。以右武衛上將軍王思同爲西都留守。兼行營馬步都虞候。爲伐蜀前鋒。○漢主遣其將梁克貞、李守鄴攻交州。拔之。執靜海節度使曲承美以歸。以其將李進守交州。○冬十月。癸巳。李仁罕圍遂州。夏魯奇嬰城固守。孟知祥命都押牙高敬柔帥資州義軍二萬人築長城環之。魯奇遣馬軍都指揮使康文通出戰。文通聞閬州陷。遂以其衆降於仁罕。戊戌。董璋引兵趣利州。遇雨糧運不繼。還閬州。知祥聞之。驚曰。比破閬中。正欲徑取利州。其帥不武。必望風自遁。吾獲其倉廩。據漫天之險。北軍終不能西救。武信。今董公僻處閬州。遠棄劍閣。非計也。欲遣兵三千助守劍門。璋固辭曰。此已有備。○錢鏐因朝廷冊閩王使者裴羽還。附表引咎。其子傳瓘及將佐屢爲鏐上表自訴。癸卯。敕聽兩浙綱使自便。○以宣徽北院使馮贇爲左衛上將軍。北都留守。○丁未。族誅董光業。○楚王殷寢疾。遣使詣闕。請傳位於其子希聲。朝廷疑殷已死。辛亥。以希聲爲起復武安節度使。兼侍中。○孟知祥以故蜀鎮江節度使張武爲峽路行營招討使。將水軍趣夔州。以左飛棹指揮使袁彥超副之。癸丑。東川兵陷徵合巴蓬果五州。○丙辰。吳左僕射同平章事嚴可求卒。徐知誥以其長子大將軍景通爲兵部尙書。參政事。知誥將出鎮金陵。故也。○漢將梁克貞入占城。取其寶貨以歸。○十一月。戊辰。張武至渝州。刺史張環降之。遂取瀘州。遣先鋒將朱偓分兵趣黔涪。○己巳。楚王殷卒。遺命諸子。兄弟相繼。寘劍於祠堂。曰。違吾命者戮之。諸將議。遣兵守四境。然後發喪。兵部侍郎黃損曰。吾喪君有君。何備之有。宜遣使詣鄰道告終。稱嗣而已。○石敬瑭入散關。階州刺史王弘贇。瀘州刺史馮暉。與前鋒馬步都虞候王思同。步軍都指揮使趙在禮。引兵出。入頭山後。過劍門之南。還襲劍門。克之。殺東川兵三千人。獲都指揮使齊彥溫。據而守之。暉。魏州人也。甲戌。弘贇等破劍州。而大軍不繼。乃焚其廬舍。取其資糧。還保劍門。乙亥。詔。

削孟知祥官爵。己卯，董璋遣使至成都告急。知祥聞劍門失守，大懼曰：董公果誤我。庚辰，遣牙內都指揮使李肇將兵五千赴之，戒之曰：爾倍道兼行，先據劍州。北軍無能為也。又遣使詣遂州，令趙廷隱將萬人會屯劍州。又遣故蜀永平節度使李筠將兵四千趣龍州守要害。時天寒，士卒恐懼，觀望不進。廷隱流涕諭之曰：今北軍勢盛，汝曹不力戰却敵，則妻子皆為人矣。衆心乃奮。董璋自閬州將兩川兵屯木馬寨。先是，西川牙內指揮使太谷龐福誠、昭信指揮使謝鏗屯來蘇村，聞劍門失守，相謂曰：使北軍更得劍州，則二蜀勢危矣。遽引部兵千餘人，間道趣劍州。始至，官軍萬餘人自北山大下。會日暮，二人謀曰：衆寡不敵，速明則吾屬無遺矣。福誠夜引兵數百，升北山大譟於官軍營後。鏗帥餘衆操短兵，自其前急擊之。官軍大驚，空營遁去。復保劍門。十餘日不出。孟知祥聞之喜曰：吾始謂弘贇等克劍門，徑據劍州，堅守其城，或引兵直趣梓州。董公必棄閬州奔還。我軍失援，亦須解遂州之圍。如此則內外受敵，兩川震動，勢可憂危。今乃焚毀劍州運糧，東歸劍門，頓兵不進，吾事濟矣。官軍分道趣文州，將襲龍州。爲西川定遠指揮使潘福超、義勝都頭太原沙延祚所敗。甲申，張武卒於渝州。知祥命袁彥超代將其兵。朱偓將至涪州，武泰節度使楊漢賓棄黔南奔忠州。偓追至豐都，還取涪州。知祥以成都支使崔善權、武泰留後董璋遣前陵州刺史王暉將兵三千會李肇等分屯劍州南山。○丙戌，馬希聲襲位，稱遺命去建國之制，復藩鎮之舊。○契丹東丹王突欲自以失職，帥部曲四十人越海自登州來奔。○十二月，壬辰，石敬瑭至劍門。乙未，進屯劍州北山。趙廷隱陳于牙城後山，李肇、王暉、陳于河橋。敬瑭引步兵進擊，廷隱、廷擇善射者五百人伏敬瑭歸路，按甲待之。矛稍欲相及，乃揚旗鼓譟擊之。北軍退走，顛墜下山，俘斬百餘人。敬瑭又使騎兵衝河橋，李肇以彊弩射之。騎兵不能進，薄暮，敬瑭引去。廷隱引兵躡之，與伏兵合擊敗之。敬瑭還屯劍門。○癸卯，夔州奏復取開州。○庚戌，以武安節度使馬

希聲爲武安靜江節度使，加兼中書令。○石敬瑭征蜀未有功，使者自軍前來，多言道險狹，進兵甚難。關右之人疲於轉餉，往往竄匿山谷，聚爲盜賊，上憂之。壬子，謂近臣曰：誰能辦吾事者？吾當自行耳。安重誨曰：臣職忝機密，軍威不振，臣之罪也。臣請自往督戰。上許之。重誨即拜辭。癸丑，遂行。日馳數百里。西方藩鎮聞之，無不惶駭。錢帛芻糧，晝夜輦運。赴利州。人畜斃踏於山谷者不可勝紀。時上已疎重誨，石敬瑭本不欲西征，及重誨離上側，乃敢累表奏論以爲蜀不可伐，上頗然之。○西川兵先戍夔州者千五百人，上悉縱歸。二年春，正月，壬戌，孟知祥奉表謝。○庚午，李仁罕陷遂州。夏，魯奇自殺。○癸酉，石敬瑭復引兵至劍州。屯于北山。孟知祥梟夏魯奇首以示之。魯奇二子從敬瑭在軍中，泣請往取其首葬之。敬瑭曰：知祥長者，必葬而父，豈不愈於身首異處乎？既而知祥果收葬之，敬瑭與趙廷隱戰不利，復還劍門。○丙戌，加高從誨兼中書令。○東川歸合州于武信軍。○初，鳳翔節度使朱弘昭諂事安重誨，連得大鎮。重誨過鳳翔，弘昭迎拜馬首，館於府舍，延入寢室。妻子羅拜奉進酒食，禮甚謹。重誨爲弘昭泣言：讒人交構，幾不免。賴主上明察，得保宗族。重誨既去，弘昭即奏重誨怨望，有惡言，不可令至行營。恐奪石敬瑭兵柄。又遣敬瑭書言：重誨舉措孟浪，若至軍前，恐將士疑駭，不戰自潰。宜逆止之。敬瑭大懼，即上言。重誨至，恐人情有變，宜急徵還。宣徽使孟漢瓊自西方還，亦言重誨過惡。有詔召重誨還。○二月，己丑朔，石敬瑭以遂闐既陷，糧運不繼，燒營北歸。軍前以告孟知祥。知祥匿其書，謂趙季良曰：北軍漸進，奈何？季良曰：不過綿州，必遁。知祥問其故，曰：我逸彼勞，彼懸軍千里，糧盡能無遁乎？知祥大笑，以書示之。○安重誨至三泉，得詔亟歸。過鳳翔，朱弘昭不內。重誨懼，馳騎而東。○兩川兵追石敬瑭至利州。壬辰，昭武節度使李彥琦棄城走。甲午，兩川兵入利州。孟知祥以趙廷隱爲昭武留後。廷隱遣使密言於知祥曰：董璋多詐，可與同憂，不可與共樂。它日必爲公患，因其至劍

州勞軍。請圖之。并兩川之衆。可以得志於天下。知祥不許。璋入。廷隱營。留宿而去。廷隱歎曰。不從吾謀。禍難未已。○庚子。孟知祥以武信留後李仁罕爲峽路行營招討使。使將水軍東略地。○辛丑。以樞密使兼中書令安重誨爲護國節度使。趙鳳言於上曰。重誨陛下家臣。其心終不叛主。但以不能周防。爲人所讒。陛下不察其心。死無日矣。上以爲朋黨。不悅。○乙巳。趙廷隱李肇自劾。引還。留兵五千戍利州。丙午。董璋亦還東川。留兵三千戍果閬。○丁巳。李仁罕陷忠州。○吳徐知誥欲以中書侍郎內樞密使宋齊丘爲相。齊丘自以資望素淺。欲以退讓。爲高謁歸洪州。葬父。因入九華山。止于應天寺。啓求隱居。吳主下詔徵之。知誥亦以書招之。皆不至。知誥遣其子景通。自入山敦諭。齊丘始還朝。除右僕射致仕。更命應天寺曰微賢寺。○三月。己未朔。李仁罕陷萬州。庚申。陷雲安監。○辛酉。賜契丹東丹王突欲。姓東丹。名慕華。以爲懷化節度使。瑞慎等州觀察使。其部曲及先所俘契丹將惕隱等。皆賜姓名。惕隱姓狄。名懷忠。○李仁罕至夔州。寧江節度使安崇阮棄鎮。與楊漢賓自均房逃歸。壬戌。仁罕陷夔州。○帝既解安重誨樞務。乃召李從珂。泣謂曰。如重誨意。汝安得復見吾。丙寅。以從珂爲左衛大將軍。○壬申。橫海節度使同平章事孔循卒。○乙酉。復以錢鏐爲天平兵馬都元帥。尚父吳越國王。遣監門上將軍張籤。往諭旨。以晁日致仕。安重誨矯制也。○丁亥。以太常卿李愚爲中書侍郎。同平章事。○夏。四月。辛卯。以王德妃爲淑妃。○閩奉國節度使兼中書令王延稟。聞閩王延鈞有疾。以次子繼昇知建州。留後帥建州刺史繼雄。將水軍襲福州。癸卯。延稟攻西門。繼雄攻東門。延鈞遣樓船指揮使王仁達。將水軍拒之。仁達伏甲舟中。僞立白幟。請降。繼雄喜。屏左右。登仁達舟。慰撫之。仁達斬繼雄。梟首於西門。延稟方縱火攻城。見之。慟哭。仁達因縱兵擊之。衆潰。左右以斛舁延稟而走。甲辰。追擒之。延鈞見之曰。果煩老兄再下。延稟慙不能對。延鈞囚于別室。遣使者如建州。招撫其黨。其黨殺使者。奉繼昇及弟

繼倫奔吳越。仁達。延鈞從子也。○以宣徽北院使趙壽爲樞密使。○己酉。天雄節度使同平章事石敬瑭。兼六軍諸衛副使。○辛亥。以朱弘昭爲宣徽南院使。○五月。閩王延鈞斬王延稟於市。復其姓名曰周彥琛。遣其弟都教練使延政。如建州。撫慰吏民。○丁卯。罷畝稅。麴錢。城中官造麴。減舊半價。鄉村聽百姓自造。民甚便之。○己卯。以孟漢瓊知內侍省事。充宣徽北院使。漢瓊本趙王鎔奴也。時范延光。趙延壽。雖爲樞密使。懲安重誨以剛愎得罪。每於政事。不敢可否。獨漢瓊與王淑妃居中用事。人皆憚之。先是。宮中須索。稍踰常度。重誨輒執奏。由是。非分之求殆絕。至是。漢瓊直以中宮之命。取府庫物。不復關。由樞密院及三司。亦無文書所取。不可勝紀。○辛巳。以相州刺史孟鵠爲左驍衛大將軍。充三司使。○昭武留後趙廷隱。自成都赴利州。踰月。請兵。進取興元及秦鳳。孟知祥以兵疲民困。不許。○護國節度使兼中書令安重誨。內不自安。表請致仕。閏月。庚寅。制以太子太師致仕。是日。其子崇贊。崇緒。逃奔河中。壬辰。以保義節度使李從璋爲護國節度使。甲午。遣步軍指揮使藥彥稠。將兵趣河中。安崇贊等至河中。重誨驚曰。汝安得來。既而曰。吾知之矣。此非渠意。爲人所使耳。吾以死狗國。夫復何言。乃執二子。表送詣闕。明日。有中使至。見重誨。慟哭久之。重誨問其故。中使曰。人言令公有異志。朝廷已遣藥彥稠將兵至矣。重誨曰。吾受國恩。死不足報。敢有異志。更煩家發兵。貽主上之憂。罪益重矣。崇贊等至。陝。有詔繫獄。皇城使翟光鄴。素惡重誨。帝遣詣河中。察之。曰。重誨果有異志。則誅之。光鄴至河中。李從璋以甲士圍其第。自入見重誨。拜于庭下。重誨驚。降階答拜。從璋奮槌擊其首。妻張氏驚救。亦槌殺之。奏至。己亥。下詔。以重誨離間孟知祥。董璋。錢鏐。爲重誨罪。又誣其欲自擊淮南。以圖兵柄。遣元隨。竊二子歸本道。并二子誅之。○丙午。帝遣西川進奏官蘇愿。東川軍將劉澄。各還本鎮。諭以安重誨專命。與兵致討。今已伏辜。○六月。乙丑。復以李從珂同平章事。充西都留守。○丙子。命諸道均民田稅。○

閩王延鈞好神仙之術。道士陳守元。巫者徐彥林。與盛韜共誘之。作寶皇宮。極土木之盛。以守元為宮主。○秋九月己亥。更賜東丹慕華姓名。曰李贊華。○吳鎮南節度使同平章事徐知諫卒。以諸道副都統鎮海節度使守中書令徐知詢代之。賜爵東海郡王。徐知誥之召知詢入朝也。知諫豫其謀。知詢遇其喪於塗。撫棺泣曰。弟用心如此。我亦無憾。然何面見先王於地下乎。○辛丑。加樞密使范延光同平章事。○辛亥。赦解縱五坊鷹隼。內外無得更進。馮道曰。陛下可謂仁及禽獸。上曰。不然。朕昔嘗從武皇獵。時秋稼方熟。有獸逸入田中。遣騎取之。比及得獸。餘稼無幾。以是思之。獵有損無益。故不為耳。○冬十月丁卯。洋州指揮使李進唐攻通州拔之。○壬午。以王延政為建州刺史。○十一月甲申朔。日有食之。○癸巳。蘇愿至成都。孟知祥聞甥妹在朝廷者。皆無恙。遣使告董璋。欲與之。俱上表謝罪。璋怒曰。孟公親戚皆完固。宜歸附。璋已族滅。尚何謝。為詔書。皆在蘇愿腹中。劉澄安得豫聞。璋豈不知邪。由是復為怨敵。○乙未。李仁罕自夔州引兵還成都。○吳中書令徐知誥表稱。輔政歲久。請歸老金陵。乃以知誥為鎮海寧國節度使。鎮金陵。餘官如故。總錄朝政。如徐溫故事。以其子兵部尚書參政事景通為司徒。同平章事。知中外左右諸軍事。留江都輔政。以內樞使同平章事王令謀為左僕射。兼門下侍郎。以宋齊丘為右僕射。兼中書侍郎。並同平章事。兼內樞使。以佐景通。賜德勝節度使張崇爵清河王。崇在廬州貪暴。州人苦之。屢嘗入朝。厚以貨結權要。由是常得還鎮。為廬州患者二十餘年。○十二月甲寅朔。初聽百姓自鑄農器。并雜鐵器。每田二畝。夏秋輸農具三錢。○武安靜江節度使馬希聲。聞梁太祖嗜食雞。慕之。既襲位。日殺五十雞為膳。居喪無戚容。庚申。葬武穆王于衡陽。將發引。頓食雞。雞數盤。前吏部侍郎潘起。譏之曰。昔阮籍居喪。食蒸豚。何代無賢。○癸亥。徐知誥至金陵。○昭武留後趙延隱。自孟知祥以利州城塹已完。頃在劍州。與牙內都指揮使李肇同功。願以昭武讓肇。知祥褒諭不許。廷

隱。三讓。癸酉。知祥召廷隱還成都。以肇代之。○閩陳守元等。稱寶皇之命。謂閩王延鈞曰。苟能避位受道。當為天子六十年。延鈞信之。丙子。命其子節度副使繼鵬。權軍府事。延鈞避位受籙。道名玄錫。○愛州將楊廷藝。養假子三千人。圖復交州。漢交州守將李進知之。受其賂。不以聞。是歲。廷藝舉兵圍交州。漢主遣承旨程寶救之。未至。城陷。進逃歸。漢主殺之。寶圍交州。廷藝出戰。寶敗死。

三年春正月。樞密使范延光言。自靈州至邠州。方渠鎮。使臣及外國入貢者。多為党項所掠。請發兵擊之。己丑。遣靜難節度使藥彥稠。前朔方節度使康福。將步騎七千討党項。○乙未。孟知祥妻福慶長公主卒。○孟知祥以朝廷恩意優厚。而董璋塞綿州路。不聽遣使入謝。與節度副使趙季良等謀。欲發使自峽江上表。掌書記李昊曰。公不與東川謀。而獨遣使。則異日負約之責在我矣。乃復遣使語之。璋不從。二月。趙季良與諸將議。遣昭武都監太原高彥儔。將兵攻取壁州。以絕山南兵轉入山後諸州者。孟知祥謀於僚佐。李昊曰。朝廷遣蘇愿等西歸。未嘗報謝。今遣兵侵軼。公若不顧墳墓甥姪。則不若傳檄舉兵。直取梁洋。安用壁州乎。知祥乃止。季良由是惡昊。○辛未。初令國子監校定九經。雕印賣之。○藥彥稠等奏。破党項十九族。俘二千七百人。○賜高從誨爵渤海王。○吳徐知誥作禮賢院於府舍。聚圖書。延士大夫與孫晟及海陵陳覺談議時事。○孟知祥三遣使說董璋。以主上加禮於兩川。苟不奉表謝罪。恐復致討。璋不從。三月辛丑。遣李昊詣梓州。極論利害。璋見昊。詬怒不許。昊還。言於知祥曰。璋不通謀議。且有窺西川之志。公宜備之。○甲辰。閩王延鈞復位。○吳越武肅王錢鏐疾。謂將吏曰。吾疾必不起。諸兒皆愚懦。誰可為帥者。眾泣曰。兩鎮令公。仁孝有功。孰不愛戴。鏐乃悉出印鑰。授傳瓘曰。將吏推爾。宜善守之。又曰。子孫善事中國。勿以易姓廢事。大之禮。庚戌。卒。年八十一。傳瓘與兄弟同幄行喪。內牙指揮使陸仁章曰。令公嗣先王霸業。將吏

且暮趨謁。當與諸公子異處。乃命主者更設一幄。扶傳瓘居之。告將吏曰。自今惟謁令公。禁諸公子從者。無得妄入。晝夜警衛。未嘗休息。謬末年。左右皆附傳瓘。獨仁章數以事犯之。至是。傳瓘勞之。仁章曰。先王在位。仁章不知事。令公今日盡節。猶事先王也。傳瓘嘉歎久之。傳瓘既襲位。更名元瓘。兄弟名傳者。皆更爲元。以遺命去國儀。用藩鎮法。除民田荒絕者租稅。命處州刺史曹仲達。權知政事。置擇能院。掌選舉殿最。以浙西營田副使沈崧領之。內牙指揮使富陽劉仁杞。及陸仁章久用事。仁章性剛。仁杞好毀短人。皆爲衆所惡。一日。諸將共詣府門。請誅之。元瓘使從子仁俊諭之曰。二將事先王久。吾方圖其功。汝曹乃欲逞私憾而殺之。可乎。吾爲汝主。汝當稟吾命。不然。吾當歸臨安。以避賢路。衆懼而退。乃以仁章爲衢州刺史。仁杞爲湖州刺史。中外有上書告訐者。元瓘皆置不問。由是將吏輯睦。○初。契丹舍利。刺與惕隱。皆爲趙德鈞所擒。契丹屢遣使請之。上謀於羣臣。德鈞等皆曰。契丹所以數年不犯邊。數求和者。以此輩在南故也。縱之。則邊患復生。上以問冀州刺史楊檀。對曰。前刺契丹之驍將。彘助王都。謀危社稷。幸而擒之。陛下免其死。爲賜已多。契丹失之。如喪手足。彼在朝廷數年。知中國虛實。若得歸。爲患必深。彼纔出塞。則南向發矢矣。恐悔之無及。上乃止。檀沙陀人也。○上欲授李贊華以河南藩鎮。羣臣皆以爲不可。上曰。吾與其父約爲昆弟。故贊華歸我。吾老矣。後世繼體之君。雖欲招之。其可致乎。夏四月癸亥。以贊華爲義成節度使。爲選朝士爲僚屬。輔之。贊華但優游自奉。不豫政事。上嘉之。雖時有不法。亦不問。以莊宗後宮夏氏妻之。贊華好飲。入血。姬妾多刺臂以吮之。婢僕小過。或抉目。或刀割火灼。夏氏不忍其殘。奏離昏爲尼。○乙丑。加宋王從厚兼中書令。○東川節度使董璋。會諸將謀襲成都。皆曰。必克。前陵州刺史王暉曰。劍南萬里。成都爲大。時方盛夏。師出無名。必無成功。孟知祥聞之。遣馬軍都指揮使潘仁嗣。將三千人。詣漢州。謂之。璋入境。破白楊林鎮。執戍將武弘禮。聲勢甚

盛。知祥憂之。趙季良曰。璋爲人勇而無恩。士卒不附。城守則難克。野戰則成擒矣。今不守巢穴。公之利也。璋用兵。精銳皆在前鋒。公宜以羸兵誘之。以勁兵待之。始雖小衄。後必大捷。璋素有威名。今舉兵暴至。人心危懼。公當自出禦之。以彊衆心。趙廷隱以季良言爲然。曰。璋輕而無謀。舉兵必敗。當爲公擒之。辛巳。以廷隱爲行營馬步軍都部署。將三萬人拒之。五月壬午朔。廷隱入辭。董璋檄書至。又有遺季良廷隱及李肇書。誣之云。季良廷隱與已通謀。召已令來。知祥以書授廷隱。廷隱不視。投之於地。曰。不過爲反間。欲令公殺副使與廷隱耳。再拜而行。知祥曰。事必濟矣。肇素不知書。視之曰。璋教我反耳。囚其使者。然亦擁衆爲自全計。璋兵至漢州。潘仁嗣與戰于赤水。大敗。爲璋所擒。璋遂克漢州。癸未。知祥留趙季良。高敬柔守成都。自將兵八千趣漢州。至彌牟鎮。趙廷隱陳於鎮北。甲申。暉明廷隱陳於雞蹤橋。義勝定遠都知兵馬使張公鐸。陳於其後。俄而璋望西川兵盛。退陳於武侯廟下。璋帳下驍卒大譟曰。日中曝我輩。何爲璋乃上馬。前鋒始交。東川右廂馬步都指揮使張守進。降於知祥。言璋兵盡此。無復後繼。當急擊之。知祥登高冢督戰。左明義指揮使毛重威。左衝山指揮使李瑋。守雞蹤橋。皆爲東川兵所殺。趙廷隱三戰不利。牙內都指揮副使侯弘實兵亦却。知祥懼。以馬箠指後陳。張公鐸帥衆大呼而進。東川兵大敗。死者數千人。擒東川中都指揮使元瑣。牙內副指揮使董光演等八十餘人。璋拊膺曰。親兵皆盡。吾何依乎。與數騎遁去。餘衆七千人降。復得潘仁嗣。知祥引兵追璋。至五侯津。東川馬步都指揮使元瓌降。西川兵入漢州府第。求璋不得。士卒爭璋軍資。故璋走得免。趙廷隱追至赤水。又降其卒三千人。是夕。知祥宿維縣。命李昊草榜諭東川吏民。及草書勞問璋。且言將如梓州。詢負約之由。請見伐之罪。乙酉。知祥會廷隱於赤水。遂西還。命廷隱將兵攻梓州。璋至梓州。肩輿而入。王暉迎問曰。太尉全軍出征。今還者無十人。何也。璋涕泣不能對。至府第。方食。暉與璋從子牙內都虞候延浩帥

兵三百大譟而入。璋引妻子登城。子光嗣自殺。璋至北門樓呼指揮使潘稠使討亂兵。稠引十卒登城斬璋首及取光嗣首以授王暉。暉舉城迎降。趙隱入梓州封府庫以待知祥。李肇聞璋敗始斬其使以聞。丙戌知祥入成都。丁亥復將兵八千如梓州。至新都趙隱獻董璋首。己丑發玄武趙廷隱帥東川將吏來迎。○康福奏党項鈔盜者已伏誅餘皆降附。○壬辰孟知祥有疾癸巳疾甚中門副使王處回侍左右庖人進食必空器而出以安衆心。李仁罕自遂州來趙廷隱迎于板橋仁罕不稱東川之功侵侮廷隱廷隱大怒乙未知祥疾瘳丁酉入梓州戊戌犒賞將士既罷知祥謂李仁罕趙廷隱曰二將誰當鎮此仁罕曰令公再與蜀州亦行耳廷隱不對知祥愕然退命李吳草牒俟二將有所推則命一人為留後吳曰昔梁祖莊宗皆兼領四鎮今二將不讓惟公自領之為便耳公宜亟還府更與趙僕射議之。○己亥契丹使者迭羅卿辭歸國上曰朕志在安邊不可不少副其求乃遣薊骨舍利與之俱歸契丹以不得薊刺自是數寇雲州及振武。○孟知祥命李仁罕歸遂州留趙廷隱東川巡檢以李吳行梓州軍府事吳曰二虎方爭僕不敢受命願從公還乃以都押牙王彥銖為東川監押癸卯知祥至成都趙廷隱尋亦引兵西還知祥謂李吳曰吾得東川為患益深吳請其故知祥曰自吾發梓州得仁罕七狀皆云公宜自領東川不然諸將不服廷隱言本不敢當東川因仁罕不讓遂有爭心耳君為我曉廷隱復以閬州為保寧軍益以果蓬渠開四州往鎮之吾自領東川以絕仁罕之望廷隱猶不平請與仁罕鬪勝者為東川吳深解之乃受命六月以廷隱為保寧留後戊午趙季良帥將吏請知祥兼鎮東川許之季良等又請知祥稱王權行制書賞功臣不許董璋之攻知祥也。山南西道節度使王思同以聞范延光言於上曰若兩川併於一賊撫衆守險則取之益難宜及其交爭早圖之上命王思同以興元之兵密規進取未幾聞璋敗死延光曰知祥雖據全蜀然士卒皆東方人知祥恐其思歸為變亦

欲倚朝廷之重以威其衆陛下不留意撫之彼則無從自新上曰知祥吾故人為人離間至此何屈意之有乃遣供奉官李存瓊賜知祥詔曰董璋狐狼自貽族滅卿丘園親戚皆保全所宜成家世之美名守君臣之大節存瓊克寧之子知祥之甥也。○閩王延鈞謂陳守元曰為我問寶皇既為六十年天子後當如何明日守元入白昨夕奏章得寶皇旨當為大羅仙主徐彥林等亦曰北廟崇順王嘗見寶皇其言與守元同延鈞益自負始謀稱帝表朝廷云錢鏐卒請以臣為吳越王馬殷卒請以臣為尚書令朝廷不報自是職貢遂絕。

資治通鑑卷第二百七十七

後唐紀 明宗聖德和武欽孝皇帝中之下長興三年

資治通鑑卷第二百七十八

後唐紀七

明宗聖德和武欽孝皇帝下

長興三年秋七月朔朔方奏夏州党項入寇擊敗之追至賀蘭山○己丑加鎮海鎮東軍節度使錢元瓘守中書令○庚寅李存瓌至成都孟知祥拜泣受詔○武安靜江節度使馬希聲以湖南比年大旱命閉南嶽及境內諸神祠門竟不雨辛卯希聲卒六軍使袁詮潘約等迎鎮南節度使希範於朗州而立之○乙未孟知祥遣李存瓌還上表謝罪且告福慶公主之喪自是復稱藩○庚子以西京留守同平章事李從珂為鳳翔節度使○廢武興軍復以鳳興文三州隸山南西道○丁未以門下侍郎同平章事趙鳳同平章事充安國節度使○八月庚申馬希範至長沙辛酉襲位○甲子孟知祥令李昊為武泰趙季良等五留後草表請以知祥為蜀王行墨制仍自求旌節昊曰比者諸將攻取方鎮即有其地今又自求節表及明公封爵然則輕重之權皆在羣下矣借使明公自請豈不可邪知祥大悟更令昊為己草表請行墨制補兩川刺史已下又表請以季良等五留後為節度使初安重誨欲圖兩川自知祥殺李嚴每除刺史皆以東兵衛送之小州不減五百人夏魯奇李仁矩武虔裕各數千人皆以牙隊為名及知祥克遂聞利夔黔梓六鎮得東兵無慮三萬人恐朝廷徵還表請其妻子○吳徐知誥廣金陵城周圍二十里○初契丹既疆寇抄盧龍諸州皆徧幽州城門之外虜騎充斥每自涿州運糧入幽州虜多伏兵於閻溝掠取之及趙德鈞為節度使城閻

溝而戍之為良鄉縣糧道稍通幽州東十里之外人不敢樵牧德鈞於州東五十里城瀋縣而戍之近州之民始得稼穡至是又於州東北百餘里城三河縣以通薊州運路虜騎來爭德鈞擊却之九月庚辰朔奏城三河畢邊人賴之○壬午以鎮南節度使馬希範為武安節度使兼侍中○孟知祥命其子仁贊攝行軍司馬兼都總轄兩川牙內馬步都軍事○冬十月己酉朔帝復遣李存瓌如成都凡劔南自節度使刺史以下官聽知祥差署訖奏聞朝廷更不除人唯不遣戍兵妻子然其兵亦不復徵也○秦王從榮喜為詩聚浮華之士高輦等於幕府與相唱和頗自矜伐每置酒輒令僚屬賦詩有不如意者面毀裂抵棄壬子從榮入謁帝語之曰吾雖不知書然喜聞儒生講經義開益人智思吾見莊宗好為詩將家子文非素習徒取人竊笑汝勿效也○丙辰幽州奏契丹屯捺刺泊○前彰義節度使李金全屢獻馬上不愛曰卿在鎮為治何如勿但以獻馬為事金全吐谷渾人也○壬申大理少卿康澄上書曰臣聞童謠非禍福之本妖祥豈隆替之源故雖雉升鼎而桑穀生朝不能止殷宗之盛神馬長嘶而玉龜告兆不能延晉祚之長是知國家有不足懼者五有深可畏者六陰陽不調不足懼三辰失行不足懼小人訛言不足懼山崩川涸不足懼盜賊傷稼不足懼賢人藏匿深可畏四民遷業深可畏上下相狗深可畏廉恥道消深可畏毀譽亂真深可畏直言蔑聞深可畏不足懼者願陛下存而勿論深可畏者願陛下修而靡忒優詔獎之○秦王從榮為人鷹視輕佻峻急既判六軍諸衛事復參朝政多驕縱不法初安重誨為樞密使上專屬任之從榮及宋王從厚自襁褓與之親狎雖典兵常為重誨所制畏事之重誨死王淑妃與宣徽使孟漢瓊宣帝命范延光趙延壽為樞密使從榮皆輕侮之河陽節度使同平章事石敬瑭兼六軍諸衛副使其妻永寧公主與從榮異母素相憎疾從榮以從厚聲名出己右尤忌之從厚善以卑弱奉之故嫌隙不外見石敬瑭不欲與從榮共事常思外補以避之

范延光趙延壽亦慮及禍屢辭機要請與舊臣迭為之上不許會契丹欲入寇上命擇帥臣鎮河東延光延壽皆曰當今帥臣可往者獨石敬瑭康義誠耳敬瑭亦願行上即命除之既受詔不落六軍副使敬瑭復辭上乃以宣徽使朱弘昭知山南東道代義誠詣闕○十一月辛巳以三司使孟鵠為忠武節度使以忠武節度使馮贇充宣徽南院使判三司鵠本刀筆吏與范延光鄉里厚善數年間引擢至節度使上雖知其太速然不能違也○乙酉上以胡寇浸逼北邊命趣議河東帥石敬瑭欲之而范延光趙延壽欲用康義誠議久不決權樞密直學士李崧以為非石太尉不可延光曰僕亦累奏用之上欲留之宿衛耳會上遣中使趣之衆乃從崧議丁亥以石敬瑭為北京留守河東節度使兼大同振武彰國威塞等軍蕃漢馬步總管加兼侍中○己丑加樞密使趙延壽同平章事○吳以諸道都統徐知誥為大丞相太師加領得勝節度使知誥辭丞相太師○大同節度使張敬達聚兵要害契丹竟不敢南下而還敬達代州人也○蔚州刺史張彥超本沙陝人嘗為帝養子與石敬瑭有隙聞敬瑭為總管舉城附於契丹契丹以為大同節度使○石敬瑭至晉陽以部將劉知遠周瓌為度使兼侍衛親軍馬步都指揮使以朱弘昭為山南東道節度使○是歲漢主立其子耀樞為雍王龜圖為康王弘度為賓王弘熙為晉王弘昌為越王弘弼為齊王弘雅為韶王弘澤為鎮王弘操為萬王弘杲為循王弘暉為恩王弘邈為高王弘簡為同王弘建為益王弘濟為辨王弘道為貴王弘照為宜王弘政為通王弘益為定王未幾徙弘度為秦王

四年春正月戊子加秦王從榮守尚書令兼侍中庚寅以端明殿學士歸義劉昫為中書侍郎同平章事○閩人有言真封宅龍見者更命其宅曰龍躍宮遂詣寶皇宮受冊備儀衛入府即皇帝位國號大闢大赦改元龍啓更名璘追尊父祖立五廟以其僚屬李敏為左僕射

門下侍郎其子節度副使繼鵬為右僕射中書侍郎並同平章事以親吏吳易為樞密使唐冊禮使裴傑程侃適至海門閩主以傑為如京使侃固求北還不許閩主自以國小地僻常謹事四隣由是境內差安○二月戊申孟知祥墨制以趙季良等為五鎮節度使○涼州大將拓拔承謙及耆老上表請以權知留後孫超為節度使上問使者超為何人對曰張義潮在河西朝廷以天平軍二千五百人戍涼州自黃巢之亂涼州為党項所隔鄆人稍稍物故皆盡超及城中之人皆其子孫也○乙卯以馬希範為武安武平節度使兼中書令○戊午定難節度使李仁福卒庚申軍中立其子彝超為留後○癸亥以孟知祥為東西川節度使蜀王○先是河西諸鎮皆言李仁福潛通契丹朝廷恐其與契丹連兵併吞河右南侵關中會仁福卒三月癸未以其子彝超為彰武留後徙彰武節度使安從進為定難留後仍命靜塞節度使藥彥稠將兵五萬以宮苑使安重益為監軍送從進赴鎮從進索葛人也○乙酉始下制除趙季良等為五鎮節度使○丁亥赦諭夏銀綬宥將士吏民以夏州窮邊李彝超年少未能扞禦故徙之延安從命則有李從巖高允韜富貴之福違命則有王都李匡賓覆族之禍夏四月彝超上言為軍士百姓擁留未得赴鎮詔遣使趣之○言事者請為親王置師傅宰相畏秦王從榮不敢除人請令王自擇秦王府判官太子詹事王居敏薦兵部侍郎劉瓚於從榮從榮表請之癸丑以瓚為祕書監秦王傅前襄州支使山陽魚崇遠為記室瓚自以左遷泣訴不得免主府參佐皆新進少年輕脫諂諛瓚獨從容規諷從榮不悅瓚雖為傅從榮一槩以僚屬待之瓚有難色從榮覺之自是戒門者勿為通月聽一至府或竟日不召亦不得食○李彝超不奉詔遣其兄阿囉王守青嶺門集境內党項諸胡以自救藥彥稠等進屯蘆關彝超遣党項抄糧運及攻具官軍自蘆關退保金明○閩主璘立子繼鵬為福王充寶皇宮使○五月戊寅立皇子從珂為潞王從益為許王從子天平節度使從溫為兗

王護國節度使從璋爲洋王。成德節度使從敏爲涇王。○庚辰。閩地震。閩主璘避位修道。命福王繼鵬權總萬機。初。閩王審知性節儉。府舍皆庫陋。至是。大作宮殿。極土木之盛。○甲申。帝暴得風疾。庚寅。小愈。見羣臣於文明殿。○壬辰。夜。夏州城上舉火。比明。雜虜數千騎救之。安從進遣先鋒使宋溫擊走之。○吳宋齊丘勸徐知誥徙吳主都金陵。知誥乃營宮城於金陵。○帝旬日不見羣臣。都人懼。或潛竄山野。或寓止軍營。秋。七月。庚辰。帝力疾御廣壽殿。人情始安。○安從進攻夏州。城赫連勃勃所築。堅如鐵石。斷鑿不能入。又党項萬餘騎。徇四野。抄掠糧餉。官軍無所芻牧。山路險狹。關中民輸斗粟束藁。費錢數緡。民間困竭。不能供。李彝超兄弟登城謂從進曰。夏州貧瘠。非有珍寶蓄積。可以充朝廷貢賦也。但以祖父世守此土。不欲失之。叢爾孤城。勝之不武。何足煩國家勞費如此。幸爲表聞。若許其自新。或使之征伐。願爲衆先。上聞之。壬午。命從進引兵還。其後有知李仁福陰事者。云。仁福畏朝廷除移。揚言結契丹爲援。契丹實不與之通也。致朝廷誤興是役。無功而還。自是。夏州輕朝廷。每有叛臣。必陰與之連。以邀賂遺。上疾久未平。征夏州無功。軍士頗有流言。乙酉。賜在京諸軍優給有差。既賞賚無名。士卒由是益驕。○丁亥。賜錢元瓘爵吳王。元瓘於兄弟甚厚。其兄中吳建武節度使元瑋。自蘇州入見。元瓘以家人禮事之。奉觴爲壽曰。此兄之位也。而小子居之。兄之賜也。元瑋曰。先王擇賢而立之。君臣位定。元瑋知忠順而已。因相與對泣。○戊子。閩主璘復位。初。福建中軍使薛文傑。性巧佞。璘喜奢侈。文傑以聚斂求媚。璘以爲國計。使親任之。文傑陰求富民之罪。籍沒其財。被榜捶者。曾背分受。仍以銅斗火熨之。建州土豪吳光入朝。文傑利其財。求其罪。將治之。光怨怒。帥其衆且萬人。叛奔吳。○帝以工部尚書盧文紀。禮部郎中呂琦。爲蜀王冊禮使。并賜蜀王一品朝服。知祥自作九旒冕。九章衣。車服旌旗。皆擬王者。八月。乙巳朔。文紀等至成都。戊申。知祥服袞冕。備儀衛。詣驛降階。北面受冊。升玉輅。至

府門。乘步輦以歸。文紀簡求之孫也。○戊申。羣臣上尊號曰聖明神武廣道法天文德恭孝皇帝。大赦。在京及諸道將士。各等第優給。時一月之間。再行優給。由是。用度益窘。○太僕少卿何澤。見上寢疾。秦王從榮權勢方盛。冀已復進用。表請立從榮爲太子。上覽表泣下。私謂左右曰。羣臣請立太子。朕當歸老太原舊第耳。不得已。丙戌。詔宰相樞密使議之。丁卯。從榮見上。言曰。竊聞有姦人。請立臣爲太子。臣幼少。且願學治軍民。不願當此名。上曰。羣臣所欲也。從榮退。見范延光。趙延壽曰。執政欲以吾爲太子。是欲奪我兵柄。幽之東宮耳。延光等知上意。且懼從榮之言。即以白上。辛未。制以從榮爲天下兵馬大元帥。○九月。甲戌朔。吳主立德妃王氏爲皇后。○戊寅。加范延光趙延壽兼侍中。○癸未。中書奏。節度使見元帥儀。雖帶本章事。亦以軍禮廷參。從之。○帝欲加宣徽使判三司馮贊同平章事。贊父名章。執政誤引故事。庚寅。加贊同中書門下二品。充三司使。○秦王從榮。請嚴衛捧聖步騎兩指揮爲牙兵。每入朝。從數百騎。張弓挾矢。馳騁衢路。令文武試草檄。淮南書。陳己將廓清海內之意。從榮不快於執政。私謂所親曰。吾一旦南面。必族之。范延光趙延壽懼。屢求外補以避之。上以爲見己病而求去。甚怒曰。欲去自去。奚用表爲。齊國公主復爲延壽言於禁中。云。延壽實有疾。不堪機務。丙申。二人復言於上曰。臣等非敢憚勞。願與勳舊迭爲之。亦不敢俱去。願聽一人先出。若新人不稱職。復召臣。臣卽至矣。上乃許之。戊戌。以延壽爲宣武節度使。以山南東道節度使朱弘昭爲樞密使。同平章事。制下。弘昭復辭。上叱之曰。汝輩皆不欲在吾側。吾蓄養汝輩。何爲。弘昭乃不敢言。○吏部侍郎張文寶。泛海使杭州。船壞。水工以小舟濟之。風飄至天長。從者二百人。所存者五人。吳主厚禮之。資以從者儀服。錢幣數萬。仍爲之牒。錢氏使於境上迎候。文寶獨受飲食。餘皆辭之。曰。本朝與吳。久不通問。今旣非君臣。又非賓主。若受茲物。何辭以謝。吳主嘉之。竟達命於杭州而還。○庚子。以前義成節度使李贊華爲昭信節

度使留洛陽食其俸。○辛丑詔大元帥從榮位在宰相上。○吳徐知誥以國中水火屢爲災。曰。兵民困苦。吾安可獨樂。悉縱遣侍妓。取樂器焚之。○閩內樞密使薛文傑說閩主抑挫諸宗室。從子繼圖不勝忿。謀反。坐者千餘人。○冬十月乙卯。范延光馮贇奏西北諸胡賣馬者。往來如織。日用絹無慮五千匹。計耗國用什之七。請委緣邊鎮戍。擇諸胡所賣馬良者。給券具數以聞。從之。○戊午。以前武興節度使孫岳爲三司使。○范延光屢因孟漢瓊王淑妃以求出。庚申。以延光爲成德節度使。以馮贇爲樞密使。帝以親軍都指揮使河陽節度使同平章事康義誠爲朴忠。親任之時。要近之官。多求出。以避秦王之禍。義誠度不能自脫。乃令其子事秦王。務以恭順持兩端。冀得自全。○權知夏州事李彝超。上表謝罪。求昭雪。壬戌。以彝超爲定難軍節度使。○十一月甲戌。上餞范延光酒罷。上曰。卿今遠去。事宜盡言。對曰。朝廷大事。願陛下與內外輔臣參決。勿聽羣小之言。遂相泣而別。時孟漢瓊用事。附之者共爲朋黨。以蔽惑上聽。故延光言及之。○庚辰。改慎州懷化軍。置保順軍於洮州。領洮鄯等州。○戊子。帝疾復作。己丑。大漸。秦王從榮入問疾。帝俛首不能舉。王淑妃曰。從榮在此。帝不應。從榮出。聞宮中皆哭。從榮意帝已殂。明旦稱疾不入。是夕。帝實小愈。而從榮不知。從榮自知不爲時論所與。恐不得爲嗣。與其黨謀。欲以兵入侍。先制權臣。辛卯。從榮遣都押牙馬處鈞。謂朱弘昭馮贇曰。吾欲帥牙兵入宮中侍疾。且備非常。當止於何所。二人曰。王自擇之。既而私於處鈞曰。主上萬福。王宜竭心忠孝。不可妄信人浮言。從榮怒。復遣處鈞謂二人曰。公輩殊不愛家族邪。何敢拒我。二人患之。入告王淑妃。及宣徽使孟漢瓊。咸曰。茲事不得。康義誠不可濟。乃召義誠謀之。義誠竟無言。但曰。義誠將校耳。不敢預議。惟相公所使。弘昭疑義誠不欲衆中之夜。邀至私第。問之。其對如初。壬辰。從榮自河南府常服。將步騎千人。陳於天津橋。是日黎明。從榮遣馬處鈞至馮贇第。語之曰。吾今日決入。且居興聖宮。公輩各有宗

族。處事亦宜詳允。禍福在須臾耳。又遣處鈞詣康義誠。義誠曰。王來則奉迎。贊馳入右掖門。見弘昭。義誠漢瓊及三司使孫岳。方聚謀於中興殿門外。贊具道處鈞之言。因讓義誠曰。秦王言禍福在須臾。其事可知。公勿以兒在秦府。左右顧望。主上拔擢吾輩。自布衣至將相。苟使秦王兵得入此門。置主上何地。吾輩尚有遺種乎。義誠未及對。監門白。秦王已將兵至。端門外。漢瓊拂衣起曰。今日之事。危及君父。公猶顧望擇利邪。吾何愛餘生。當自帥兵拒之耳。即入殿門。弘昭贊隨之。義誠不得已。亦隨之入。漢瓊見帝曰。從榮反。兵已攻端門。須臾入宮。則大亂矣。宮中相顧號哭。帝曰。從榮何苦乃爾。問弘昭等。有諸。對曰。有之。適已令門者闔門矣。帝指天泣下。謂義誠曰。卿自處置。勿驚百姓。控鶴指揮使李重吉。從珂之子也。時侍側。帝曰。吾與爾父。冒矢石。定天下。數脫吾於厄。從榮輩得何力。今乃爲人所教。爲此悖逆。我固知此曹不足付大事。當呼爾父。授以兵柄耳。汝爲我部閉諸門。重吉即帥控鶴兵守宮門。孟漢瓊被甲乘馬。召馬軍都指揮使朱洪實。使將五百騎。討從榮。從榮方據胡床坐橋上。遣左右召康義誠。端門已閉。叩左掖門。從門隙中窺之。見朱洪實引騎兵北來。走白從榮。從榮大驚。命取鐵掩心。撥之。坐調弓矢。俄而騎兵大至。從榮走歸府。僚佐皆竄匿。牙兵掠嘉善坊。潰去。從榮與妃劉氏匿牀下。皇城使安從益就斬之。并殺其子。以其首獻。初孫岳頗得豫內廷密謀。馮朱患從榮狼狽。岳嘗爲之極言禍福之歸。康義誠恨之。至是乘亂密遣騎士射殺之。帝聞從榮死。悲駭。幾落御榻。絕而復蘇者再。由是疾復劇。從榮一子尙幼。養宮中。諸將請除之。帝泣曰。此何罪。不得已竟與之。癸巳。馮道帥羣臣入見。帝於雍和殿。帝雨泣嗚咽曰。吾家事至此。慙見卿等。宋王從厚爲天雄節度使。甲午。遣孟漢瓊徵從厚。且權知天雄軍府事。丙申。追廢從榮爲庶人。執政共議從榮官屬之罪。馮道曰。從榮所親者。高輦劉陟。王說而已。任贊到官纔半月。王居敏司徒詔。在病告已半年。豈豫其謀。居敏尤爲從榮所惡。昨舉兵向闕之

際與輦陟竝轡而行。指日景曰：來日及今，已誅王詹事矣。自非與之同謀者，豈得一切誅之乎？朱弘昭曰：使從榮得入光政門，贊等當如何任使，而吾輩猶有種乎？且首從差一等耳。今首已孥戮，而從皆不問，主上能不以吾輩為庇姦人乎？馮贇力爭之。始議流貶，時諮議高輦已伏誅。丁酉，元帥府判官兵部侍郎任贊、祕書監兼王傅劉瓚、友蘇瓚、記室魚崇遠、河南少尹劉陟、判官司徒詡、推官王說等八人，竝長流。河南巡官李潛、江文蔚等六人，勒歸田里。六軍判官太子詹事王居敏、推官郭駿、竝貶官。潛回之族曾孫也。詡，貝州人。文蔚，建安人也。文蔚奔吳，徐知誥厚禮之。初從榮失道，六軍判官司諫郎中趙遠諫曰：大王地居上嗣，當勤修令德，奈何所為如是？勿謂父子至親為可恃，獨不見恭世子戾太子乎？從榮怒，出為涇州判官。及從榮敗，遠以是知名。遠字上交，幽州人也。○戊戌，帝殂。帝性不猜忌，與物無競，登極之年，已踰六十。每夕於宮中焚香祝天曰：某胡人，因亂為衆所推，願天早生聖人，為生民主。在位，年穀屢豐，兵革罕用。校於五代，粗為小康。辛丑，宋王至洛陽。○閩主尊魯國太夫人黃氏為皇太后。閩主好鬼神，巫盛韜等皆有寵。薛文傑言於閩主曰：陛下左右多姦臣，非質諸鬼神不能知也。盛韜善視鬼，宜使察之。閩主從之。文傑惡樞密使吳勗，勗有疾，文傑省之曰：主上以公久疾，欲罷公近密，僕言公但小苦頭痛耳，將愈矣。主上或遣使來問，慎勿以它疾對也。勗許諾。明日，文傑使韜言於閩主曰：適見北廟崇順王，訊吳勗謀反，以銅釘釘其腦，金椎擊之。閩主以告文傑，文傑曰：未可信也。宜遣使問之。果以頭痛對，即收下獄。遣文傑及獄吏雜治之。勗自誣服，并其妻子誅之。由是國人益怒。吳光請兵於吳，吳信州刺史蔣延徽不俟朝命，引兵會光攻建州。閩主遣使求救於吳越。○十二月，癸卯朔，始發明宗喪。宋王即皇帝位。○秦王從榮既死，朱洪實妻入宮，司衣王氏語及秦王。王氏曰：秦王為人子，不在左右侍疾，致人歸禍，是其罪也。若云大逆，則厚誣矣。朱司徒最受王恩，當時不力為之辯，惜哉。洪實

聞之大懼，與康義誠以其語白閩帝。且言：王氏私於從榮，為之調宮中事。辛亥，賜王氏死。事連王淑妃。淑妃素厚於從榮，帝由是疑之。○丙辰，以天雄左都押牙宋令詢為磁州刺史。朱弘昭以誅秦王立帝為己功，欲專朝政，令詢侍帝左右最久，雅為帝所親信。弘昭不欲舊人在帝側，故出之。帝不悅，而無如之何。孟知祥聞明宗殂，謂僚佐曰：宋王幼弱，為政者皆胥吏小人，其亂可坐俟也。○辛未，帝始御中興殿。帝自終易月之制，即召學士讀真觀政要。太宗實錄有致治之志，然不知其要，寬柔少斷。李愚私謂同列曰：吾君延訪鮮及吾輩，位高責重，事亦堪憂。衆惕息不敢應。○順化節度使同平章事判明州錢元珣驕縱不法，每請事於王府，不獲，輒上書悖慢，嘗怒一吏置鐵牀炙之。臭滿城郭。吳王元瓘遣牙將仰仁詮詣明州召之。仁詮左右慮元珣難制，勸為之備。仁詮不從。常服徑造聽事。元珣見仁詮至，股慄，遂還錢塘。幽子別第。仁詮，湖州人也。○閩王改福州為長樂府，親從都指揮使王仁達，有擒王延稟之功。性慷慨，言事無所避。閩主惡之，嘗私謂左右曰：仁達智有餘，吾猶能御之。非少主臣也。至是，竟誣以叛，族誅之。○初，馬希聲、希範同日生。希聲母曰袁德妃，希範母曰陳氏。希範怨希聲先立不讓，及嗣位，不禮於袁德妃。希聲母弟希旺為親從都指揮使。希範多譴責之。袁德妃請納希旺官為道士，不許。解其軍職，使居竹屋草門，不得預。兄弟燕集，德妃卒。希旺憂憤而卒。

潞王上

清泰元年春正月，戊寅，閔帝大赦，改元應順。壬午，加河陽節度使兼侍衛都指揮使康義誠兼侍中，判六軍諸衛事。○朱弘昭、馮贇、忌侍衛馬軍都指揮使安彥威、侍衛步軍都指揮使忠正節度使張從賓、甲申，出彥威為護國節度使，以捧聖馬軍都指揮使朱洪實代之。出從

賓爲彰義節度使。以嚴衛步軍都指揮使皇甫遇代之。彥威、崱人。遇，真定人也。○戊子，樞密使同平章事朱弘昭同中書門下二品馮贛、河東節度使兼侍中石敬瑭、並兼中書令、贛，以超遷太過，堅辭不受。己丑，改兼侍中。○壬辰，以荆南節度使高從誨爲南平王。武安武平節度使馬希範爲楚王。○甲午，以鎮海鎮東節度使吳元瓘爲吳越王。○吳徐知誥別治私第於金陵。乙未，遷居私第。虛府舍以待吳主。○鳳翔節度使兼侍中潞王從珂與石敬瑭少從明帝征伐，有功名，得衆心。朱弘昭、馮贛位望素出二人下，遠甚。一旦執朝政，皆忌之。明宗有疾，潞王屢遣其夫人入省侍，及明宗殂，潞王辭疾不來，使臣至鳳翔者，或自言伺得潞王陰事。時潞王長子重吉爲控鶴都指揮使，朱馮不欲其典禁兵，己亥，出爲亳州團練使。潞王有女惠明，爲尼。在洛陽，亦召入禁中。潞王由是疑懼。○吳蔣延徽敗閩兵於浦城，遂圍建州。閩主璘遣上軍使張彥柔、驃騎大將軍王延宗將兵萬人救建州。延宗軍及中途，士卒不進。曰：「不得薛文傑，不能討賊。」延宗馳使以聞，國人震恐。太后及福王繼鵬泣謂璘曰：「文傑盜弄國權，枉害無辜，上下怨怒久矣。今吳兵深入，士卒不進，社稷一旦傾覆，留文傑何益？」文傑亦在側，互陳利害。璘曰：「吾無如卿何。」卿自爲謀。文傑出，繼鵬伺之於啓聖門外，以笏擊之，仆地。檻車送軍前，市人爭持瓦礫擊之。文傑善術數，自云：「過三日則無患。」部送者聞之，倍道兼行。二日而至，士卒見之，踊躍鬻食之。閩主亟遣赦之，不及。初，文傑以爲古制，檻車疎濶，更爲之。形如木質，攢以鐵釘，內向，動輒觸之。車成，文傑首自入焉，并誅盛韜。蔣延徽攻建州，垂克。徐知誥以延徽吳太祖之婿，與臨川王濛素善，恐其克建州，奉濛以圖與復，遣使召之。延徽亦聞閩兵及吳越兵將至，引兵歸。閩人追擊敗之，士卒死亡甚衆。歸罪於都虞候張重進，斬之。知誥貶延徽爲右威衛將軍，遣使求好于閩。○閏月，以左諫議大夫唐納、膳部郎中知制誥陳乂皆爲給事中，充樞密直學士。納以文學從帝，歷三鎮，在幕府，及即位，將佐之有才者，朱

馮皆斥逐之。納性迂疎，朱馮恐帝含怒，有時而發，乃引納於密近，以其黨陳乂監之。○丙午，尊皇后爲皇太后。○安遠節度使符彥超奴王希全，任賀兒，見朝廷多事，謀殺彥超。據安州，附於吳。夜叩門，稱有急遞，彥超出至聽事。二奴殺之，因以彥超之命召諸將，有不從己者，輒殺之。己酉旦，副使李端帥州兵討誅之，并其黨。○甲寅，以王淑妃爲太妃。○蜀將吏勸蜀王知祥稱帝，己巳，知祥卽皇帝位于成都。

資治通鑑卷第二百七十八

後唐紀 潞王上清泰元年

資治通鑑卷第二百七十九

後唐紀八

潞王下

清泰元年二月癸酉蜀主以武泰節度使趙季良為司空兼門下侍郎同平章事領節度使如故。○吳人多不欲遷都者都押牙周宗言於徐知誥曰主上西遷公復須東行不惟勞費甚大且違衆心丙子吳主遣宋齊丘如金陵諭知誥罷遷都先是知誥久有傳禪之志以吳主無失德恐衆心不悅欲待嗣君宋齊丘亦以為然一旦知誥臨鏡鑷白鬚歎曰國家安而吾老矣奈何周宗知其意請如江都徵以傳禪諷吳主且告齊丘齊丘以宗先己心疾之遣使馳詣金陵手書切諫以為天時人事未可知誥愕然後數日齊丘至請斬宗以謝吳主乃黜宗為池州副使久之節度副使李建勳行軍司馬徐玠等屢陳知誥功業宜早從民望召宗復為都押牙知誥由是疎齊丘○朱弘昭馮贇不欲石敬瑭久在太原且欲召孟漢瓊己卯徙成德節度使范延光為天雄節度使代漢瓊徙潞王從珂為河東節度使兼北都留守徙石敬瑭為成德節度使皆不降制書但各遣使臣持宣監送赴鎮○吳主詔徐知誥還府舍甲申金陵大火乙酉又火知誥疑有變勒兵自衛○潞王既與朝廷猜阻朝廷又命洋王從璋權知鳳翔從璋性蠱率樂禍前代安重誨鎮河中手殺之潞王聞其來尤惡之欲拒命則兵弱糧少不知所為謀於將佐皆曰主上富於春秋政事出於朱馮大王功名震主離鎮必無全理不可受也王問觀察判官滴河馬胤孫曰今道過京師當何向為便對曰君命召

不俟駕臨喪赴鎮又何疑焉諸人凶謀不可從也衆晒之王乃移檄鄰道言朱弘昭等乘先帝疾亟殺長立少專制朝權別疎骨肉動搖藩垣懼傾覆社稷今從珂將入朝以清君側之惡而力不能獨辦願乞靈鄰藩以濟之潞王以西都留守王思同當東出之道尤欲與之相結遣推官郝翽押牙朱廷父等相繼詣長安說以利害餌以美妓不從則令就圖之思同謂將吏曰吾受明宗大恩今與鳳翔同反借使事成而榮猶為一時之叛臣況事敗而辱流千古之醜跡乎遂執翽等以狀聞時潞王使者多為鄰道所執不則依阿操兩端惟隴州防禦使相里金傾心附之遣判官薛文遇往來計事金并州人也朝廷議討鳳翔康誠不欲出外恐失軍權請以王思同為統帥以羽林都指揮使侯益為行營馬步軍都虞候益知軍情將變辭不行執政怒之出為商州刺史辛卯以王思同為西面行營馬步軍都虞候前靜難節度使藥彥稠副之前絳州刺史萇從簡為馬步都虞候嚴衛步軍左廂指揮使尹暉羽林指揮使楊思權等皆為偏裨暉魏州人也○蜀主以中門使王處回為樞密使○丁酉加王思同同平章事知鳳翔行府以護國節度使安彥威為西面行營都監思同雖有忠義之志而御軍無法潞王老於行陳將士徼幸富貴者心皆向之詔遣殿直楚匡祚執亳州團練使李重吉幽於宋州洋王從璋行至關西聞鳳翔拒命而還○三月安彥威與山南西道張虔釗武定孫漢韶彰義張從賓靜難康福等五節度使奏合兵討鳳翔漢韶李存進之子也○乙卯諸道兵大集於鳳翔城下攻之克東西關城中死者甚衆丙辰復進攻城期於必取鳳翔城墜卑淺守備俱乏衆心危急潞王登城泣謂外軍曰吾未冠從先帝百戰出生死金創滿身以立今日之社稷汝曹從我目睹其事今朝廷信任讒臣猜忌骨肉我何罪而受誅乎因慟哭聞者哀之張虔釗性褊急主攻城西南以白刃驅士卒登城士卒怒大誦反攻之虔釗躍馬走免楊思權因大呼曰大相公吾主也遂帥諸軍解甲投兵請降於潞王自西

門入。以幅紙進。潞王曰。願王克京城。日以臣爲節度使。勿以爲防團。潞王卽書。思權可。邠寧節度使授之。王思同猶未之知。趣士卒登城。尹暉大呼曰。城西軍已入。城受賞矣。衆皆棄甲。投兵而降。其聲震地。日中。亂兵悉入。外軍亦潰。思同等六節度使皆遁去。潞王悉斂城中將吏士民之財。以犒軍。至於鼎釜。皆估直以給之。丁巳。王思同。藥彥稠等。走至長安。西京副留守劉遂雍。閉門不內。乃趣潼關。遂雍。郭之子也。潞王建大將旗鼓。整衆而東。以孔目官虞城。劉延朗爲腹心。潞王始憂王思同等。併力據長安。拒守。至岐山。聞劉遂雍不內。思同甚喜。遣使慰撫之。遂雍悉出府庫之財於外。軍士前至者。卽給賞令過。比潞王至。前軍賞遍。皆不入城。庚申。潞王至長安。遂雍迎謁。率民財以充賞。是日。西面步軍都監王景從等。自軍前奔還。中外大駭。帝不知所爲。謂康義誠等曰。先帝棄萬國。朕外守藩方。當是之時。爲嗣者。在諸公所取耳。朕實無心與人爭國。既承大業。年在幼沖。國事皆委諸公。朕於兄弟間。不至榛梗。諸公以社稷大計見告。朕何敢違。軍興之初。皆自夸大。以爲寇不足平。今事至於此。何方可以轉禍。朕欲自迎潞王。以大位讓之。若不免於罪。亦所甘心。朱弘昭。馮贇。大懼不敢對。義誠欲悉以宿衛兵迎降。爲己功。乃曰。西師驚潰。蓋主將失策耳。今侍衛諸軍尙多。臣請自往。扼其衝要。招集離散。以圖後効。幸陛下勿爲過憂。帝遣使召石敬瑭。欲令將兵拒之。義誠固請自行。帝乃召將士慰諭。空府庫以勞之。許以平鳳翔。入更賞二百緡。府庫不足。當以宮中服玩繼之。軍士益驕。無所畏忌。負賜物。揚言於路曰。至鳳翔。更請一分。遣楚匡祚。殺李重吉於宋州。匡祚榜極重吉。責其家財。又殺尼惠明。初。馬軍都指揮使朱洪實。爲秦王從榮所厚。及朱弘昭爲樞密使。洪實以宗兄事之。從榮勒兵天津橋。洪實首爲孟漢瓊擊。從榮。康義誠由是恨之。辛酉。帝親至左藏。給將士金帛。義誠。洪實。共論用兵利害。洪實欲以禁軍固守洛陽。曰。如此。彼亦未敢徑前。然後徐圖進取。可以萬全。義誠怒曰。洪實爲此言。欲反邪。洪實曰。公自

欲反。乃謂誰反。其聲漸厲。帝聞。召而訊之。二人訟於帝前。帝不能辨。其是非。遂斬洪實。軍士益憤怒。壬戌。潞王至昭應。聞前軍獲王思同。王曰。思同雖失計。然盡心所奉。亦可嘉也。癸亥。至靈口。前軍執思同。以至。王責讓之。對曰。思同起行間。先帝擢之位。至節將。常愧無功。以報大恩。非不知附大王。立得富貴。助朝廷。自取禍殃。但恐死之日。無面目見先帝於泉下耳。敗而釁鼓。固其所也。請早就死。王爲之改容曰。公且休矣。王欲宥之。而楊思權之徒。恥見其面。王之過長安。尹暉盡取思同家資。及妓妾。屢言於劉延朗曰。若留思同。慮失士心。屬王醉。不待報。擅殺思同。及其妻子。王醒。怒延朗。嗟惜者累日。○癸亥。制以康義誠爲鳳翔行營都招討使。以王思同副之。甲子。潞王至華州。獲藥彥稠。囚之。乙丑。至閿鄉。朝廷前後所發諸軍。遇西軍皆迎降。無一人戰者。丙寅。康義誠引侍衛兵發洛陽。詔以侍衛馬軍指揮使安從進。爲京城巡檢。從進已受潞王書。潛布腹心矣。是日。潞王至靈寶。護國節度使安彥威。匡國節度使安重霸。皆降。惟保義節度使康思立。謀固守陝城。以待康義誠。先是。捧聖五百騎戍陝西。爲潞王前鋒。至城下。呼城上人曰。禁軍十萬。已奉新帝。爾輩數人。奚爲徒累一城人。塗地耳。於是捧聖卒爭出迎。思立不能禁。不得已。亦出迎。丁卯。潞王至陝。僚佐說王曰。今大王將及京畿。傳聞乘輿已播遷。大王宜少留於此。先移書慰安京城士庶。王從之。移書諭洛陽文武士庶。惟朱弘昭。馮贇。兩族不赦外。自餘勿有憂疑。康義誠軍至新安。所部將士自相結。百什爲羣。棄甲兵。爭先詣陝降。纍纍不絕。義誠至乾壕。麾下纔數十人。遇潞王候騎十餘人。義誠解所佩刀劍。爲信。因候騎請降於潞王。戊辰。閔帝聞潞王至陝。義誠軍潰。憂駭不知所爲。急遣中使召朱弘昭。謀所向。弘昭曰。急召我。欲罪之也。赴井死。安從進聞弘昭死。殺馮贇於第。滅其族。傳弘昭贇首於潞王。帝欲奔魏州。召孟漢瓊。使詣魏州。爲先置。漢瓊不應。召單騎奔陝。初。帝在藩鎮。愛信牙將慕容遷。及卽位。以爲控鶴指揮使。帝將北度河。密與之謀。使帥部

兵守玄武門是夕帝以五十騎出玄武門謂遷曰朕且幸魏州徐圖興復汝帥有馬控鶴從我遷曰生死從大家乃陽爲團結帝既出即闔門不行己已馮道等入朝及端門聞朱馮死帝既北走道及劉昫欲歸李愚曰天子之出吾輩不預謀今太后在宮吾輩當至中書遣小黃門取太后進止然後歸第人臣之義也道曰主上失守社稷人臣惟君是奉無君而入宮城恐非所宜潞王已處處張榜不若歸俟教令乃歸至天宮寺安從進遣人語之曰潞王倍道而來且至矣相公宜帥百官至穀水奉迎乃止於寺中召百官中書舍人盧遵至馮道曰俟舍人久矣所急者勸進文書宜速具草導曰潞王入朝百官班迎可也設有廢立當俟太后教令豈可遽議勸進乎道曰事當務實導曰安有天子在外人臣遽以大位勸人者邪若潞王守節北面以大義見責將何辭以對公不如帥百官詣宮門進名問安取太后進止則去就善矣道未及對從進屢遣人趣之曰潞王至矣太后太妃已遣中使迎勞矣安得百官無班道等即紛然而去既而潞王未至三和息於上陽門外盧遵過於前道復召而語之導對如初李愚曰舍人之言是也吾輩之罪擢髮不足數康義誠至陝待罪潞王責之曰先帝晏駕立嗣在諸公今上亮陰政事出諸公何爲不能終始陷吾弟至此乎義誠大懼叩頭請死王素惡其爲人未欲遽誅且宥之馬步都虞候裴從簡左龍武統軍王景戡皆爲部下所執降於潞王東軍盡降潞王上牋於太后取進止遂自陝而東夏四月庚午朔未明閔帝至衛州東數里遇石敬瑭帝大喜問以社稷大計敬瑭曰聞康義誠西討何如陛下何爲至此帝曰義誠亦叛去矣敬瑭俛首長歎數四曰衛州刺史王弘贇宿將習事請與圖之乃往見弘贇問之弘贇曰前代天子播遷多矣然皆有將相侍衛府庫法物使羣下有所瞻仰今皆無之獨以五十騎自隨雖有忠義之心將若之何敬瑭還見帝於衛州驛以弘贇之言告弓箭庫使沙守榮奔洪進前責敬瑭曰公明宗愛婿富貴相與共之憂患亦宜相恤今天子播

越委計於公冀圖興復乃以此四者爲辭是直欲附賊賣天子耳守榮抽佩刀欲刺之敬瑭親將陳暉救之守榮與暉鬪死洪進亦自刎敬瑭牙內指揮使劉知遠引兵入盡殺帝左右及從騎獨置帝而去敬瑭遂趣洛陽是日太后令內諸司至乾壕迎潞王王亟遣還洛陽初潞王罷河中歸私第王淑妃數遣孟漢瓊存撫之漢瓊自謂於王有舊恩至澠池西見王大哭欲有所陳王曰諸事不言可知仍自預從臣之列王即命斬於路隅○山南西道節度使張虔釗之討鳳翔也留武定節度使孫漢韶守興元虔釗既敗奔歸興元與漢韶舉兩鎮之地降于蜀蜀主命奉鑾肅衛馬步都指揮使昭武節度使李肇將兵五千還利州右匡聖馬步都指揮使寧江節度使張業將兵一萬屯大漫天以迎之○壬申潞王至蔣橋百官班迎於路傳教以未拜梓宮未可相見馮道等皆上牋勸進王入謁太后太妃詣西宮伏梓宮慟哭自陳詣闕之由馮道帥百官班見拜王答拜道等復上牋勸進王立謂道曰予之此行事非獲已俟皇帝歸闕園寢禮終當還守藩服羣公遽言及此甚無謂也癸酉太后下令廢少帝爲鄂王以潞王知軍國事權以書詔印施行百官詣至德宮門待罪王命各復其位甲戌太后令潞王宜即皇帝位乙亥卽位於柩前帝之發鳳翔也許軍士以入洛人賞錢百緡既至問三司使王玘以府庫之實對有數百萬在既而閱實金帛不過三萬兩匹而賞軍之費計應用五十萬緡帝怒玘請率京城民財以足之數日僅得數萬緡帝謂執政曰軍不可不賞人不可不恤今將奈何執政請據屋爲率無問士庶自居及僦者預借五月僦直從之○王弘贇遷閔帝於州廡帝遣弘贇之子殿直嚮往酖之戊寅嚮至衛州謁見閔帝問來故不對弘贇數進酒閔帝知其有毒不飲嚮縊殺之閔帝性仁厚于兄弟敦睦雖遭秦王忌疾閔帝坦懷待之卒免於患及嗣位於潞王亦無嫌而朱弘昭孟漢瓊之徒橫生猜間閔帝不能違以致禍敗焉孔妃尙在宮中潞王使人謂之曰重吉何在遂殺妃并其四子閔帝之在衛

州也。惟磁州刺史宋令詢遣使問起居。聞其遇害。慟哭半日。自經死。○己卯。石敬瑭入朝。○庚辰。以劉昫判三司。○辛巳。蜀大赦。改元明德。○帝之起鳳翔也。召興州刺史劉遂清。遲疑不至。聞帝入洛。乃悉集三泉西縣金牛桑林戍兵。以歸。自散關以南城鎮。悉棄之。皆爲蜀人所有。癸未。入朝。帝欲治罪。以其能自歸。乃赦之。遂清。鄂之姪也。○甲申。蜀將張業將兵入興元洋州。○乙酉。改元大赦。○丁亥。以宣徽南院使郝瓊權判樞密院。前三司使王玫爲宣徽北院使。鳳翔節度判官韓昭胤爲左諫議大夫。充端明殿學士。○戊子。斬河陽節度使判六軍諸衛兼侍中康義誠。滅其族。○己丑。誅藥彥稠。庚寅。釋王景戡。襄從簡。○有司百方斂民財。僅得六萬。帝怒。下軍巡使獄。晝夜督責。囚繫滿獄。至自經赴井。而軍士遊市肆。皆有驕色。市人聚詬之曰。汝曹爲主力戰立功。良苦。反使我輩鞭笞。背出財爲賞。汝曹猶揚揚自得。獨不愧天地乎。是時。謁左藏舊物。及諸道貢獻。乃至太后太妃器服簪珥。皆出之。纔及二十萬緡。帝患之。李專美夜直。帝讓之曰。卿名有才。不能爲我謀此。留才安所施乎。專美謝曰。臣駑劣。陛下擢任過分。然軍賞不給。非臣之責也。竊思自長興之季。賞賚亟行。卒以是驕。繼以山陵及出師。帑藏遂涸。雖有無窮之財。終不能滿驕卒之心。故陛下拱手於危困之中。而得天下。夫國之存亡。不專繫於厚賞。亦在修法度。立紀綱。陛下苟不改覆車之轍。臣恐徒因百姓存亡未可知也。今財力盡於此矣。宜據所有均給之。何必踐初言乎。帝以爲然。壬辰。詔禁軍在鳳翔歸命者。自楊思權。尹暉等。各賜二馬。一駝。錢七十緡。下至軍人。錢二十緡。其在京者。各十緡。軍士無厭。猶怨望。爲謠言曰。除去菩薩。扶立生鐵。以閔帝仁弱。帝剛嚴。有悔心。故也。○丙申。葬聖德和武欽孝皇帝于徽陵。廟號明宗。帝衰經護從。至陵所宿焉。○五月。丙午。以韓昭胤爲樞密使。以莊宅使劉延朗爲樞密副使。權知樞密院。房嵩爲宣徽北院使。嵩。長安人也。○帝與石敬瑭皆以勇力善鬪。事明宗爲左右。然心競。素不相悅。帝即位。敬瑭不得

已入朝。山陵既畢。不敢言歸。時敬瑭久病羸瘠。太后及魏國公主屢爲之言。而鳳翔將佐多勸帝留之。惟韓昭胤。李專美。以爲趙延壽在汴。不宜猜忌。敬瑭帝亦見其骨立。不以爲虞。乃曰。石郎不惟密親。兼自少與吾同艱難。今我爲天子。非石郎尚誰託哉。乃復以爲河東節度使。○戊午。以隴州防禦使相里金爲保義節度使。○丁未。階州刺史趙澄降蜀。○戊申。以羽林軍使楊思權爲靜難節度使。○己酉。張虔釗。孫漢韶。舉族遷于成都。○庚戌。以司空兼門下侍郎同平章事馮道同平章事。充匡國節度使。○以天雄節度使兼侍中范延光爲樞密使。○帝之起鳳翔也。悉取天平節度使李從暉家財甲兵。以供軍。將行。鳳翔之民遮馬請復以從暉鎮鳳翔。帝許之。至是。徙從暉爲鳳翔節度使。○初。明宗爲北面招討使。平盧節度使房知溫爲副都部署。帝以別將事之。嘗被酒忿爭。拔刃相擬。及帝舉兵入洛。知溫密與行軍司馬李冲謀拒之。冲請先奉表。以觀形勢。還言洛中已安定。壬戌。入朝謝罪。帝優禮之。知溫貢獻甚厚。○吳鎮南節度使守中書令東海康王徐知詢卒。○蜀人取成州。○六月。甲戌。以皇子左衛上將軍重美爲成德節度使。同平章事。兼河南尹。判六軍諸衛事。○文州都指揮使成延龜。舉州附蜀。○吳徐知誥將受禪。忌昭武節度使兼中書令臨川王濛。遣人告濛藏匿亡命。擅造兵器。丙子。降封歷陽公。幽于和州。命控鶴軍使王宏將兵二百衛之。○劉昫與馮道昏姻。昫性苛察。李愚剛褊。道既出鎮。二人論議多不合。事有應改者。愚謂昫曰。此賢親家所爲。更之不亦便乎。昫恨之。由是動成忿爭。至相詬罵。各欲非時求見。事多凝滯。帝患之。欲更命相。問所親信。以朝臣聞望宜爲相者。皆以尙書左丞姚顛。太常卿盧文紀。祕書監崔居儉對。論其才行。互有優劣。帝不能決。乃寘其名於琉璃瓶。夜焚香祝天。且以筮挾之。首得文紀。次得顛。秋。七月。辛亥。以文紀爲中書侍郎。同平章事。居儉。薨之子也。○帝欲殺楚匡祚。韓昭胤曰。陛下爲天下父。天下之人皆陛下子。用法宜存至公。匡祚受詔。檢校重吉家財。不

得不爾。今族匡祚無益死者，恐不厭衆心。乙卯，長流匡祚於登州。○丁巳，立沛國夫人劉氏爲皇后。○回鶻入貢者，多爲河西雜虜所掠，詔將軍牛知柔帥禁兵衛送，與邠州兵共討之。○吳徐知誥召左僕射兼中書侍郎同平章事宋齊丘還金陵，以爲諸道都統判官，加司空。於事皆無所關預。齊丘屢請退居，知誥以兩國給之。○護國節度使洋王從璋歸德節度使涇王從敏皆罷鎮，居洛陽私第，帝待之甚薄。從敏在宋州，預殺重吉，帝尤惡之。嘗侍宴禁中，酒酣，顧二王曰：爾等皆何物，輒據雄藩？二王大懼，太后叱之曰：帝醉矣，爾曹速去。○蜀置永平軍于雅州，以孫漢韶爲節度使，復以張虔釗爲山南西道節度使，同平章事。虔釗固辭不行。○蜀主得風疾，踰年，至是增劇。甲子，立子東川節度使同平章事親衛馬步都指揮使仁贊爲太子，仍監國。召司空同平章事趙季良、武信節度使李仁罕、保寧節度使趙廷隱、樞密使王處回、捧聖控鶴都指揮使張公鐸、奉鑾肅衛指揮副使侯弘實受遺詔輔政。是夕，殂。祕不發喪。王處回夜啓義興門，告趙季良，處回泣不已。季良正色曰：今疆將握兵，專伺時變，宜速立嗣君，以絕覬覦。豈可但相泣邪？處回收淚謝之。季良教處回見李仁罕，審其詞旨，然後告之。處回至仁罕第，仁罕設備而出，遂不以實告。丙寅，宣遺制，命太子仁贊更名昶。丁卯，即皇帝位。○初，帝以王攻對左藏見財失寶，故以劉昉代判三司。昉命判官高延賞、鈞考窮覈，皆積年逋欠之數。姦吏利其徵責，旬取，故存之。昉具奏其狀，且請察其可徵者，急督之，必無可償者，悉蠲之。韓昭胤極言其便。八月，庚午，詔長興以前戶部及諸道逋租三百三十八萬，虛煩簿籍，咸蠲免勿徵。貧民大悅。而三司吏怨之。○辛未，以姚顛爲中書侍郎、同平章事。○右龍武統軍索自通，以河中之隙，心不自安。戊子，退朝過洛，自投于水而卒。帝聞之大驚，贈太尉。○丙申，以前安國節度使同平章事趙鳳爲太子太保。○九月，癸卯，詔鳳翔益兵，守東安鎮，以備蜀。○蜀衛聖諸軍都指揮使武信節度使李仁罕，自恃宿將有功，復受顧託，求

判六軍，令進奏吏宋從會，以意諭樞密院，又至學士院，偵草麻。蜀主不得已。甲寅，加仁罕兼中書令。判六軍事，以左匡聖都指揮使保寧節度使趙廷隱兼侍中，爲之副。○己未，雲州奏契丹入寇，北面招討使石敬瑭奏，自將兵屯百井，以備契丹。辛酉，敬瑭奏，振武節度使楊檀擊契丹于境上，却之。○蜀奉鑾肅衛都指揮使昭武節度使兼侍中李肇，聞蜀主即位，顧望不時入朝。至漢州，留與親戚燕飲，踰旬。冬，十月，庚午，始至成都，稱足疾，扶杖入朝，見蜀主不拜。○戊寅，左僕射門下侍郎同平章事李愚罷守本官，吏部尚書兼門下侍郎同平章事判三司劉昉罷爲右僕射。三司吏聞昉罷相，皆相賀，無一人從歸第者。○蜀捧聖控鶴都指揮使張公鐸與醫官使韓繼勳、豐德庫使韓保貞、茶酒庫使安思謙等皆事蜀主於藩邸，素怨李仁罕，共譖之。云：仁罕有異志。蜀主令繼勳等與趙季良、趙廷隱謀，因仁罕入朝，命武士執而殺之。癸未，下詔暴其罪，并其子繼宏及宋從會等數人皆伏誅。是日，李肇釋杖而拜。○蜀源州都押牙文景琛據城叛，果州刺史李延厚討平之。○蜀主左右以李肇倨慢請誅之。戊子，以肇爲太子少傅，致仕。徙邛州。○吳主加徐知誥大丞相，尙父，嗣齊王。九錫辭不受。○雄武節度使張延朗將兵圍文州，階州刺史郭知瓊拔尖石塞，蜀李延厚將果州兵屯興州，遣先登指揮使范延暉將兵救文州。延朗解圍而歸，興州刺史馮暉自乾渠引戍兵歸鳳翔。○十一月，徐知誥召其子牙內馬步都指揮使海州團練使景遷爲左右軍都軍使，左僕射統判中外諸軍事，以次子牙內馬步都指揮使海州團練使景遷爲左右軍都軍使，左僕射參政事，留江都輔政。○十二月，己巳，以易州刺史安叔千爲振武節度使，齊州防禦使尹暉爲彰國節度使，叔千，沙陀人也。○壬申，石敬瑭奏，契丹引去，罷兵歸。○乙亥，徵雄武節度使張延朗爲中書侍郎，同平章事。判三司。○辛巳，漢皇后馬氏殂。○甲申，蜀葬文武聖德英烈明孝皇帝于和陵，廟號高祖。○乙酉，葬鄂王于徽陵城南，封纜數尺，觀者悲之。○是歲，秋冬

早民多流亡。同華蒲絳尤甚。○漢主命判六軍秦王弘度募宿衛兵千人。皆市井無賴子弟。弘度昵之。同平章事楊洞潛諫曰。秦王國之冢嫡。宜親端士。使之治軍。已過矣。況昵羣小乎。漢主曰。小兒教以戎事。過煩公憂。終不戒弘度。洞潛出。見衛士掠商人金帛。商人不敢訴。歎曰。政亂如此。安用宰相。因謝病歸第。久之不召。遂卒。

二年春正月丙申朔。閩大赦。改元永和。○二月丙寅朔。蜀大赦。○甲戌。以樞密使天雄節度使兼侍中范延光為宣武節度使。兼中書令。○丁丑。夏州節度使李彝超上言。疾病。以兄行軍司馬彝殷權知軍州事。彝超尋卒。○戊寅。蜀主尊母李氏為皇太后。太后。太原人。本莊宗後宮也。以賜蜀高祖。○己丑。追尊帝母魯國夫人魏氏曰宣憲皇太后。○閩主立淑妃陳氏為皇后。初。閩主兩娶劉氏。皆士族。美而無寵。陳后本閩太祖侍婢金鳳也。陋而淫。閩主嬖之。以其族人守恩。匡勝為殿使。○三月辛丑。以前宣武節度使兼侍中趙延壽為忠武節度使。兼樞密使。○以李彝殷為定難節度使。○己酉。贈吳越王元瓘母陳氏為晉國太夫人。元瓘性孝。尊禮母黨。厚加賜與。而未嘗遷官。授以重任。○壬戌。以彰聖都指揮使安審琦領順化節度使。審琦。金全之子也。○太常丞史在德。性狂狷。上書歷詆內外文武之士。請徧加考試。黜陟能否。執政及朝士大怒。盧文紀及補闕劉濤。楊昭儉等。皆請加罪。帝謂學士馬胤孫曰。朕新臨天下。宜開言路。若朝士以言獲罪。誰敢言者。卿為朕作詔書。宣朕意。乃下詔。略曰。昔魏徵請賞皇甫德參。今濤等請黜史在德。事同言異。何其遠哉。在德情在傾輸。安可責也。昭儉。嗣復之曾孫也。○吳加徐景遷。同平章事。知左右軍事。徐知詰令尚書郎陳覺輔之。謂覺曰。吾少時與宋子嵩論議。好相詰難。或吾捨子嵩還家。或子嵩拂衣而起。子嵩携衣筒。望秦淮門欲去者數矣。吾常戒門者止之。吾今老矣。猶未徧達時事。況景遷年少當國。故屈吾子以誨之耳。○夏四月庚午。蜀以御史中丞龍門毋昭裔為中書侍郎。同平章事。○癸未。加樞

密使刑部尚書韓昭胤中書侍郎。同平章事。辛卯。以宣徽南院使劉延皓為刑部尚書。充樞密使。延皓。皇后之弟也。癸巳。以左領軍衛大將軍劉延朗為本衛上將軍。充宣徽北院使。兼樞密副使。○五月丙申。契丹寇新州。及振武。○庚戌。賜振武節度使楊檀名光遠。○六月。吳德勝節度使兼中書令柴再用卒。先是。史官王振嘗詢其戰功。再用曰。鷹犬微効。皆社稷之靈。再用何功之有。竟不報。○契丹寇應州。○河東節度使北面總管石敬瑭。既還鎮。陰為自全之計。帝好咨訪外事。常命端明殿學士李專美。翰林學士李崧。知制誥呂琦。薛文遇。翰林天文趙延乂等。更直於中興殿。與語或至夜分。時敬瑭二子為內使。曹太后則晉國長公主之母也。敬瑭賂太后左右。令伺帝之密謀。事無巨細皆知之。敬瑭多於賓客前。自稱羸瘠。不堪為帥。冀朝廷不之忌。時契丹屢寇北邊。禁軍多在幽并。敬瑭與趙德鈞。求益兵運糧。朝夕相繼。甲申。詔借河東人有蓄積者。菽粟。乙酉。詔鎮州。輸絹五萬匹於總管府。糴軍糧。率鎮冀人車千五百乘。運糧於代州。又詔魏博市糴。時水旱民飢。敬瑭遣使督趣。嚴急。山東之民流散。亂始兆矣。敬瑭將大軍屯忻州。朝廷遣使賜軍士夏衣。傳詔撫諭。軍士呼萬歲者數四。敬瑭懼。幕僚河內段希堯。請誅其唱首者。敬瑭命都押衙劉知遠。斬挾馬都將李暉等三十人。以徇。希堯。懷州人也。帝聞之。益疑敬瑭。○壬辰。詔竊盜不計贓多少。并縱火強盜。竝行極法。○閩福王繼鵬。私於宮人李春燕。繼鵬請之於陳后。后白閩主而賜之。○秋七月。以樞密使劉延皓為天雄節度使。○乙巳。以武寧節度使張敬達為北面行營副總管。將兵屯代州。以分石敬瑭之權。○帝深以時事為憂。嘗從容讓盧文紀等。以無所規贊。丁巳。文紀等上言。臣等每五日起居。與兩班旅見。暫獲對揚。侍衛滿前。雖有愚慮。不敢敷陳。竊見前朝。自上元以來。置延英殿。或宰相欲有奏論。天子欲有咨度。旁無侍衛。故人得盡言。望復此故事。惟聽機要之臣侍側。詔以舊制。五日起居。百僚俱退。宰相獨升。若常事。自可敷奏。或事應嚴密。

不以其日。或異日聽于閣門。奏勝子當盡屏侍臣。於便殿相待。何必襲延英之名也。○吳潤州團練使徐知諤。狎昵小人。游燕廢務。作列肆于牙城西。躬自貿易。徐知諤聞之。怒。召知諤左右詰責。知諤懼。或謂知諤曰。忠武王最愛知諤。而以後事傳于公。往年知諤聞之。怒。召知諤。今未息。借使知諤治有能名。訓兵養民。於公何利。知諤感悟。待之加厚。○九月。丙申。吳大赦。改元天祚。○己酉。以宣徽南院使房勗為刑部尚書。充樞密使。宣徽北院使劉延朗為南院使。仍兼樞密副使。於是延朗及樞密直學士薛文遇等。居中用事。勗與趙壽。雖為使長。其聽用之言。什不三四。勗隨教可否。不為事先。每幽并遣使入奏。樞密諸人環坐議之。勗多俛首而寐。比覺。引頸振衣。則使者去矣。啓奏除授。一歸延朗。諸方鎮刺史。自外入者。必先賂延朗。後議貢獻。賂厚者先得內地。賂薄者晚得邊陲。由是諸將帥皆怨憤。帝不能察。○蜀金州防禦使全師郁。寇金州。拔水寨。城中兵纔千人。都監陳知隱託它事。將兵三百沿流遁去。防禦使馬全節。罄私財以給軍。出奇死戰。蜀兵乃退。戊寅。詔斬知隱。○初。閩主有幸臣曰歸守明。出入臥內。閩主晚年得風疾。陳后與守明及百工院使李可殷私通。國人皆惡之。莫敢言。可殷嘗詣皇城使李傲於閩主。后族陳匡勝無禮於福王繼鵬。傲及繼鵬皆恨之。閩主疾甚。繼鵬有喜色。傲以閩主為必不起。冬十月己卯。使壯士數人持白梃擊李可殷殺之。中外震驚。庚辰。閩主疾少間。陳后訴之。閩主力疾視朝。詰可殷死狀。傲懼而出。俄頃引部兵鼓譟入宮。閩主聞變。匿於九龍帳下。亂兵刺之而出。閩主宛轉未絕。宮人不忍其苦。為絕之。傲與繼鵬殺陳后。陳守恩。陳匡勝。歸守明。及繼鵬弟繼韜。繼韜素與繼鵬相惡。故也。辛巳。繼鵬稱皇太后令監國。是日。即皇帝位。更名昶。諡其父曰齊肅明孝皇帝。廟號惠宗。既而自稱權知福建節度事。遣使奉表于唐。大放境內。立李春燕為賢妃。初。閩惠宗娶漢主女清遠公主。使宦者閩清林延遇。置邸於番禺。專掌國信。漢主賜以大第。粟賜甚厚。數問以閩事。延遇不對。退

謂人曰。去閩語。去越語。越人宮禁。可如是乎。漢主聞而賢之。以為內常侍。使鈎校諸司事。延遇聞惠宗遇弒。求歸。不許。素服向其國。三日哭。○荆南節度使高從誨。性明達。親禮賢士。委任梁震。以兄事之。震常謂從誨為郎君。楚王希範好奢靡。游談者共誇其盛。從誨謂僚佐曰。如馬王。可謂大丈夫矣。孫光憲對曰。天子諸侯。禮有等差。彼乳臭子。驕侈僭怙。取快一時。不為遠慮。危亡無日。又足慕乎。從誨久而悟曰。公言是也。它日謂梁震曰。吾自念平生奉養。固已過矣。乃捐去玩好。以經史自娛。省刑薄賦。境內以安。梁震曰。先王待我。如布衣交。以嗣王屬我。今嗣王能自立。不墜其業。吾老矣。不復事人矣。遂固請退居。從誨不能留。乃為之築室于土洲。震披鶴氅。自稱荆臺隱士。每詣府。跨黃牛至聽事。從誨時過其家。四時賜與甚厚。自是悉以政事屬孫光憲。

臣光曰。孫光憲。見微而能諫。高從誨。聞善而能徙。梁震。成功而能退。自古有國家者。能如是。夫何亡國敗家喪身之有。

吳加中書令徐知誥。尚父太師。大丞相。大元帥。進封齊王。備殊禮。以昇潤宣池。欽常江饒信海十州為齊國。知誥辭尚父丞相殊禮不受。○閩皇城使判六軍諸衛李傲。專制朝政。陰養死士。閩主昶與拱宸指揮使林延皓等圖之。延皓等詐親附傲。傲待之不疑。十一月壬子。傲入朝。延皓等伏衛士數百於殿。執斬之。梟首朝門。傲部兵千餘。持白梃。攻應天門。不克。焚啓聖門。奪傲首。奔吳越。詔暴傲弒君及殺繼韜等罪。告諭中外。以建王繼嚴權判六軍諸衛。以六軍判官永泰葉翹為內宣徽使。參政事。翹博學質直。閩惠宗擢為福王友。昶以師傅禮待之。多所裨益。宮中謂之國翁。昶既嗣位。驕縱。不與翹議國事。一旦昶方視事。翹衣道士服。過庭中趨出。昶召還拜之曰。軍國事殷。久不接對。孤之過也。翹頓首曰。老臣輔導無狀。致陛下即位以來。無一善可稱。願乞骸骨。昶曰。先帝以孤屬公。政令不善。公當極言。奈何棄孤去。

厚賜金帛。慰諭令復位。昶元妃梁國夫人李氏。同平章事敏之女。昶嬖李春蕪。待夫人甚薄。翹諫曰。夫人先帝之甥。聘之以禮。奈何以新愛而棄之。昶不悅。由是疎之。未幾。復上書言事。昶批其紙尾曰。一葉隨風落。御溝遂放歸。永泰以壽終。○帝嘉馬全節之功。召詣闕。劉延朗求賂。全節無以與之。延朗欲除全節。絳州刺史羣議沸騰。帝聞之。乙卯。以全節為橫海留後。○十二月壬申。以中書侍郎同平章事充樞密使韓昭胤。同平章事充護國節度使。○乙酉。以前匡國節度使同平章事馮道為司空。時久無正拜三公者。朝議疑其職事。盧文紀欲令掌祭祀。掃除道聞之曰。司空掃除職也。吾何憚焉。既而文紀自知不可。乃止。○閩主賜洞真先生陳守元號天師。信重之。乃至更易將相。刑罰選舉。皆與之議。守元受賂請託。言無不從。其門如市。

資治通鑑卷第二百七十九

資治通鑑卷第二百八十

後晉紀一

高祖聖文章武明德孝皇帝上之上

天福元年春正月。吳徐知誥始建大元帥府。以幕職分判吏戶禮兵刑工部及鹽鐵。○丁未。唐主立子重美為雍王。○癸丑。唐主以千春節置酒。晉國長公主上壽畢。辭歸晉陽。帝醉曰。何不且留。遽歸。欲與石郎反邪。石敬瑭聞之益懼。○三月丙午。以翰林學士禮部侍郎馬胤孫為中書侍郎。同平章事。胤孫性謹儒。中書事多凝滯。又罕接賓客。時人目為三不開。謂口印門也。○石敬瑭盡收其貨之在洛陽及諸道者。歸晉陽。託言以助軍費。人皆知其有異志。唐主夜與近臣從容語曰。石郎於朕至親。無可疑者。但流言不釋。萬一失歡。何以解之。皆不對。端明殿學士給事中李崧退謂同僚呂琦曰。吾輩受恩深厚。豈得自同衆人。一概觀望邪。計將安出。琦曰。河東若有異謀。必結契丹為援。契丹母以贊華在中國。屢求和親。但求剽刺等未獲。故和未成耳。今誠歸剽刺等。與之和。歲以禮幣約直十餘萬緡。遺之。彼必驩然承命。如此。則河東雖欲陸梁。無能為矣。崧曰。此吾志也。然錢穀皆出三司。宜更與張相謀之。遂告張延朗。延朗曰。如學士計。不惟可以制河東。亦省邊費之什九。計無便於此者。若主上聽從。但責辦於老夫。請於庫財之外。拮拾以供之。它夕。二人密言於帝。帝大喜。稱其忠。二人私草遺契丹書。以俟命。久之。帝以其謀告樞密直學士薛文遇。文遇對曰。以天子之尊。屈身奉夷狄。不亦辱乎。又虜若循故事。求尚公主。何以拒之。因誦戎昱昭君詩曰。安危託婦人。帝意遂

變一日急召崧琦至後樓盛怒責之曰卿輩皆知古今欲佐人主致太平今乃為謀如是朕一女尚乳臭卿欲棄之沙漠邪且欲以養士之財輸之虜庭其意安在二人懼汗流浹背曰臣等志在竭愚以報國非為虜計也願陛下察之拜謝無數帝詬責不已呂琦氣竭拜少止帝曰呂琦強項肯視朕為人主邪琦曰臣等為謀不臧願陛下治其罪多拜何為帝怒稍解止其拜各賜卮酒罷之自是羣臣不敢復言和親之策丁巳以琦為御史中丞蓋疎之也○吳徐知誥以其子副都統景通為太尉副元帥都統判官宋齊丘行軍司馬徐玠為元帥府左右司馬○閩主昶改元通文立賢妃李氏為皇后尊皇太后曰太皇太后○靜江節度使同平章事馬希杲有善政監軍裴仁煦譖之於楚王希範言其收衆心希範疑之夏四月漢將孫德威侵蒙桂二州希範命其弟武安節度副使希廣權知軍府事自將步騎五千如桂州希杲懼其母華夫人逆希範於全義嶺謝曰希杲為治無狀致寇戎入境煩殿下親涉險阻皆妾之罪也願削封邑灑掃掖庭以贖希杲罪希範曰吾久不見希杲聞其治行尤異故來省之無它也漢兵自蒙州引去徙希杲知朗州○高從誨遣使奉牋於徐知誥勸即帝位○初石敬瑭欲嘗唐主之意累表自陳羸疾乞解兵柄移它鎮帝與執政議從其請移鎮鄆州房嵩李崧呂琦等皆力諫以為不可帝猶豫久之五月庚寅夜李崧請急在外薛文遇獨直帝與之議河東事文遇曰諺有之當道築室三年不成茲事斷自聖志羣臣各為身謀安肯盡言以臣觀之河東移亦反不移亦反在且暮耳不若先事圖之先是術者言國家今年應得賢佐出奇謀定天下帝意文遇當之聞其言大喜曰卿言殊豁吾意成敗吾決行之即為除目付學士院使草制辛卯以敬瑭為天平節度使以馬軍都指揮使河陽節度使宋審虔為河東節度使制出兩班開呼敬瑭名相顧失色甲午以建雄節度使張敬達為西北蕃漢馬步都部署趣敬瑭之鄆州敬瑭疑懼謀於將佐曰吾之再來河東也主上面許終身不

代除今忽有是命得非如今年千春節與公主所言乎我不與亂朝廷發之安能束手死於道路乎今且發表稱疾以觀其意若其寬我我當事之若加兵於我我則改圖耳幕僚段希堯極言拒之敬瑭以其朴直不責也節度判官華陰趙瑩勸敬瑭赴鄆州觀察判官平遙薛融曰融書生不習軍旅都押牙劉知遠曰明公久將兵得士卒心今據形勝之地士馬精彊若稱兵傳檄帝業可成奈何以一紙制書自投虎口乎掌書記洛陽桑維翰曰主上初即位明公入朝主上豈不知蛟龍不可縱之深淵邪然卒以河東復授公此乃天意假公以利器明宗遺愛在人主上以庶孽代之羣情不附公明宗之愛婿今主上以反逆見待此非首謝可免但力為自全之計契丹素與明宗約為兄弟今部落近在雲應公誠能推心屈節事之萬一有急朝呼夕至何患無成敬瑭意遂決先是朝廷疑敬瑭以羽林將軍寶鼎楊彥詢為北京副留守敬瑭將舉事亦以情告之彥詢曰不知河東兵糧幾何能敵朝廷乎左右請殺彥詢敬瑭曰惟副使一人我自保之汝輩勿言也戊戌昭義節度使皇甫立奏敬瑭反敬瑭表帝養子不應承祀請傳位許王帝手裂其表抵地以詔答之曰卿於鄂王固非疎遠衛州之事天下皆知許王之言何人肯信壬寅制削奪敬瑭官爵乙巳以張敬達兼太原四面排陳使河陽節度使張彥琦為馬步軍都指揮使以安國節度使安審琦為馬軍都指揮使以保義節度使相里金為步軍都指揮使以右監門上將軍武廷翰為壕寨使丙午以張敬達為太原四面兵馬都部署以義武節度使楊光遠為副部署丁未又以張敬達知太原行府事以前彰武節度使高行周為太原四面招撫排陳等使光遠既行定州軍亂牙將千乘方太討平之張敬達將兵三萬營于晉安鄉戊申敬達奏西北先鋒馬軍都指揮使安審信叛奔晉陽審信金全之弟子也敬瑭與之有舊先是雄義都指揮使馬邑安元信將所部六百餘人戍代州代州刺史張朗善遇之元信密說朗曰吾觀石令公長者舉事必成公何不潛

遣人通意。可以自全。朗不從。由是互相猜忌。元信謀殺朗。不克。帥其衆奔審信。審信遂帥麾下數百騎。與元信掠百井。奔晉陽。敬瑭謂元信曰。汝見何利害。捨彊而歸弱。對曰。元信非知星識氣。顧以人事決之耳。夫帝王所以御天下。莫重於信。今主上失大信於令公。親而貴者。且不自保。況疎賤乎。其亡可翹足而待。何彊之有。敬瑭悅。委以軍事。振武西北巡檢使安重榮。戍代北。帥步騎五百。奔晉陽。重榮朔州人也。以宋審虔爲寧國節度使。充侍衛馬軍都指揮使。○天雄節度使劉延皓。恃后族之勢。驕縱。奪人財產。減將士給賜。宴飲無度。捧聖都虞候張令昭。因衆心怨怒。謀以魏博應河東。癸丑。未明。帥衆攻牙城。克之。延皓脫身走。亂兵大掠。令昭奏。延皓失於撫御。以致軍亂。臣以撫安士卒。權領軍府。乞賜旌節。延皓至洛陽。唐主怒。命遠貶。皇后爲之請。六月。庚申。止削延皓官爵。歸私第。○辛酉。吳太保同平章事徐景遷。以疾罷。以其弟景遂代爲門下侍郎。參政事。○癸亥。唐主以張令昭爲右千牛衛將軍。權知天雄軍府事。令昭以調發未集。且受新命。尋有詔。徙齊州防禦使。令昭託以士卒所留。實俟河東之成敗。唐主遣使諭之。令昭殺使者。甲戌。以宣武節度使兼中書令范延光爲天雄四面行營招討使。知魏博行府事。以張敬達充太原四面招討使。以楊光遠爲副使。丙子。以西京留守李周爲天雄軍四面行營副招討使。○石敬瑭之子右衛上將軍重殷。皇城副使重裔。聞敬瑭舉兵。匿於民間。井中弟沂州都指揮使敬德。殺其妻女而逃。尋捕得。死獄中。從弟彰聖都指揮使敬威自殺。秋。七月。戊子。獲重殷。重裔。誅之。并族所匿之家。○庚寅。楚王希範。自桂州北還。○雲州步軍指揮使桑遷奏。應州節度使尹暉。逐雲州節度使沙彥珣。收其兵。應河東。丁酉。彥珣表遷謀叛。應河東。引兵圍子城。彥珣犯圍走。出西山。據雷公口。明日。收兵入城。擊亂兵。遷敗走。軍城復安。是日。尹暉執遷。送洛陽斬之。○丁未。范延光拔魏州。斬張令昭。詔悉誅其黨。七指揮。○張敬達發懷州彰聖軍。戍虎北口。其指揮使張萬迪。將五百騎。奔

河東。丙辰。詔盡誅其家。○石敬瑭遣間使求救於契丹。令桑維翰草表。稱臣於契丹主。且請以父禮事之。約事捷之日。割盧龍一道。及鴈門關以北諸州與之。劉知遠諫曰。稱臣可矣。以父事之太過。厚以金帛賂之。自足致其兵。不必許以土地。恐異日大爲中國之患。悔之無及。敬瑭不從。表至契丹。契丹主大喜。白其母曰。兒比夢石郎遣使來。今果然。此天意也。乃爲復書許。俟仲秋。傾國赴援。○八月。己未。以范延光爲天雄節度使。李周爲宣武節度使。同平章事。○癸亥。應州言契丹三千騎攻城。○張敬達築長圍。以攻晉陽。石敬瑭以劉知遠爲馬步都指揮使。安重榮。張萬迪降兵。皆隸焉。知遠用法無私。撫之如一。由是人無貳心。敬瑭親乘城。坐臥矢石下。知遠曰。觀敬達輩。高壘深塹。欲爲持久之計。無它奇策。不足慮也。願明公四出間使。經略外事。守城至易。知遠獨能辦之。敬瑭執知遠手。撫其背而賞之。○戊寅。以成德節度使董溫琪爲東北面副招討使。以佐盧龍節度使趙德鈞。○唐主使端明殿學士呂琦。至河東行營。犒軍。楊光遠謂琦曰。願附奏陛下。幸寬宵旰。賊若無援。旦夕當平。若引契丹。當縱之令入。可一戰破也。帝甚悅。帝聞契丹許石敬瑭以仲秋赴援。屢督張敬達。急攻晉陽。不能下。每有營構。多值風雨。長圍復爲水潦所壞。竟不能合。晉陽城中日窘。糧儲浸乏。○九月。契丹主將五萬騎。號三十萬。自揚武谷而南。旌旗不絕五十餘里。代州刺史張朗。忻州刺史丁審琦。嬰城自守。虜騎過城下。亦不誘脅。審琦。洛州人也。辛丑。契丹主至晉陽。陳於汾北之虎北口。先遣人謂敬瑭曰。吾欲今日即破賊。可乎。敬瑭遣人馳告曰。南軍甚厚。不可輕請。俟明日議戰。未晚也。使者未至。契丹已與唐騎將高行周。符彥卿合戰。敬瑭乃遣劉知遠出兵助之。張敬達。楊光遠。安審琦。以步兵。陳於城西北山下。契丹遣輕騎三千。不被甲。直犯其陳。唐兵見其羸。爭逐之。至汾曲。契丹涉水而去。唐兵循岍而進。契丹伏兵自東北起。衝唐兵。斷而爲二。步兵在北者。多爲契丹所殺。騎兵在南者。引歸晉安寨。契丹縱兵乘之。唐兵大敗。步

兵死者近萬人。騎兵獨全。敬達等收餘衆保晉安。契丹亦引兵歸虎北口。敬瑭得唐降兵千餘人。劉知遠勸敬瑭盡殺之。是夕。敬瑭出北門見契丹主。契丹主執敬瑭手。恨相見之晚。敬瑭問曰。皇帝遠來。士馬疲倦。遽與唐戰而大勝。何也。契丹主曰。始吾自北來。謂唐必斷雁門諸路。伏兵險要。則吾不可得進矣。使人偵視。皆無之。吾是以長驅深入。知大事必濟也。兵既相接。我氣方銳。彼氣方沮。若不乘此急擊之。曠日持久。則勝負未可知矣。此吾所以亟戰而勝。不可以勞逸常理論也。敬瑭甚歎伏。壬寅。敬瑭引兵會契丹。圍晉安寨。置營於晉安之南。長百餘里。厚五十里。多設鈴索吠犬。人跬步不能過。敬達等士卒猶五萬人。馬萬匹。四顧無所之。甲辰。敬達遣使告敗於唐。自是。聲問不復通。唐主大懼。遣彰聖都指揮使符彥饒將洛陽步騎兵屯河陽。詔天雄節度使兼中書令范延光將魏州兵二萬。由青山趣榆次。盧龍節度使東北面招討使兼中書令北平王趙德鈞將幽州兵。出契丹軍後。耀州防禦使潘環。紜合西路戍兵。由晉絳兩乳嶺出慈隰。共救晉安寨。契丹主移帳於柳林。遊騎過石會關。不見唐兵。了未。唐主下詔親征。雍王重美曰。陛下目疾未平。未可遠涉風沙。臣雖童稚。願代陛下北行。帝意本不欲行。聞之頗悅。張延朗。劉延皓。及宣徽南院使劉延朗。皆勸帝行。帝不得已。戊申。發洛陽。謂盧文紀曰。朕雅聞卿有相業。故排衆議。首用卿。今禍難如此。卿嘉謀皆安在。乎。文紀但拜謝。不能對。己酉。遣劉延朗監侍衛步軍都指揮使符彥饒軍。赴潞州。為大軍後援。諸軍自鳳翔推戴以來。驕悍不為用。彥饒恐其為亂。不敢束之以法。帝至河陽。心憚北行。召宰相樞密使議。進取方略。盧文紀希帝旨言。國家根本。太半在河南。胡兵倏來忽往。不能久留。晉安大寨甚固。況已發三道兵救之。河陽天下津要。車駕宜留此鎮。撫南北。且遣近臣往督戰。苟不能解圍。進亦未晚。張延朗欲因事令趙延壽得解樞務。因曰。文紀言是也。帝訪於餘人。無敢異言者。澤州刺史劉遂凝。鄂之子也。潛自通於石敬瑭。表稱。車駕不可踰太行。

帝議。近臣可使北行者。張延朗與翰林學士須昌和凝等。皆曰。趙延壽父德鈞。以盧龍兵來赴難。宜遣延壽會之。庚戌。遣樞密使忠武節度使隨駕諸軍都部署兼侍中趙延壽將兵二萬。如潞州。辛亥。帝如懷州。以右神武統軍康思立為北行營馬軍都指揮使。帥扈從騎兵赴團柏谷。思立。晉陽胡人也。帝以晉安為憂。問策於羣臣。吏部侍郎永清龍敏請立李贊華為契丹主。令天雄盧龍二鎮分兵送之。自幽州趣西樓。朝廷露檄言之。契丹主必有內顧之憂。然後選募軍中精銳以擊之。此亦解圍之一策也。帝深以為然。而執政恐其無成。議竟不決。帝憂沮形於神色。但日夕酣飲悲歌。羣臣或勸其北行。則曰。卿勿言。石郎使我心膽墮地。○冬十月壬戌。詔大括天下將吏及民間馬。又發民為兵。每七戶出一人。自備鎧仗。謂之義軍。期以十一月俱集。命陳州刺史郎萬金。教以戰陳。用張延朗之謀也。凡得馬二千餘匹。征夫五千人。實無益於用。而民間大擾。○初。趙德鈞陰蓄異志。欲因亂取中原。自請救晉安寨。唐主命自飛狐。踵契丹後。鈔其部落。德鈞請將銀鞍契丹直三千騎。由土門路西入。帝許之。趙州刺史北面行營都指揮使劉在明。先將兵戍易州。德鈞過易州。命在明以其衆自隨。在明。幽州人也。德鈞至鎮州。以董溫琪領招討副使。邀與偕行。又表稱。兵少。須合澤潞兵。乃自吳兒谷趣潞州。癸酉。至亂柳。時范延光受詔將部兵二萬屯遼州。德鈞又請與魏博軍合。延光知德鈞合諸軍志趣難測。表稱。魏博兵已入賊境。無容南行數百里。與德鈞合。乃止。○漢主以宗正卿兼工部侍郎劉濬為中書侍郎。同平章事。濬。崇望之子也。○十一月。以趙德鈞為諸道行營都統。依前東北面行營招討使。以趙延壽為河東道南面行營招討使。以翰林學士張礪為判官。庚寅。以范延光為河東道東南面行營招討使。以宣武節度使同平章事李周副之。辛卯。以劉延朗為河東道南面行營招討副使。趙延壽遇趙德鈞於西湯。悉以兵屬德鈞。唐主遣呂琦賜德鈞敕告。且犒軍。德鈞志在併范延光軍。逗留不進。詔書屢趣。

之德鈞乃引兵北屯團柏谷口。○癸巳。吳主詔齊王知誥置百官。以金陵府爲西都。○前坊州刺史劉景巖。延州人也。多財而喜俠。交結豪傑。家有丁夫兵仗。人服其彊。執傾州縣。彰武節度使楊漢章。無政。失夷夏心。會括馬及義軍。漢章帥步騎數千人。將赴軍期。閱之于野。景巖潛使人撓之。曰。契丹彊盛。汝曹有去無歸。衆懼。殺漢章。奉景巖爲留後。唐主不獲已。丁酉。以景巖爲彰武留後。○契丹主謂石敬瑭曰。吾三千里赴難。必有成功。觀汝器貌識量。真中原之主也。吾欲立汝爲天子。敬瑭辭讓者數四。將吏復勸進。乃許之。契丹主作冊書。命敬瑭爲大晉皇帝。自解衣冠授之。築壇於柳林。是日。卽皇帝位。割幽薊瀛莫涿檀順新媯儒武雲應寰朔蔚十六州。以與契丹。仍許歲輸帛三十萬匹。已亥。制。改長興七年爲天福元年。大赦。敕命法制。皆遵明宗之舊。以節度判官趙瑩爲翰林學士承旨。戶部侍郎。知河東軍府事。掌書記桑維翰爲翰林學士禮部侍郎。樞密使事。觀察判官薛融爲侍御史。知雜事。節度推官白水竇貞固爲翰林學士。軍城都巡檢使劉知遠爲侍衛馬軍都指揮使。客將景延廣爲步軍都指揮使。延廣。陝州人也。立晉國長公主爲皇后。契丹主雖軍柳林。其輜重老弱。皆在虎北口。每日輒輒結束。以備倉猝遁逃。而趙德鈞欲倚契丹取中國。至團柏。踰月。按兵不戰。去晉安纔百里。聲問不能相通。德鈞累表爲延壽求成德節度使。曰。臣今遠征。幽州孤孤。欲使延壽在鎮州。左右便於應接。唐主曰。延壽方擊賊。何暇往鎮州。俟賊平。當如所請。德鈞求之不已。唐主怒曰。趙氏父子。堅欲得鎮州。何意也。苟能却胡寇。雖欲代吾位。吾亦甘心。若玩寇邀君。但恐犬兔俱斃耳。德鈞聞之。不悅。閏月。趙延壽獻契丹主所賜詔。及甲馬弓劍。詐云。德鈞遣使致書於契丹主。爲唐結好。說令引兵歸國。其實。別爲密書。厚以金帛。賂契丹主云。若立己爲帝。請卽以見兵。南平洛陽。與契丹爲兄弟之國。仍許石氏常鎮河東。契丹主自以深入敵境。晉安未下。德鈞兵尙彊。范延光在其東。又恐山北諸州。邀其歸路。欲許德鈞之

請。帝聞之大懼。亟使桑維翰見契丹主。說之曰。大國舉義兵。以救孤危。一戰而唐兵瓦解。退守一柵。食盡力窮。趙北平父子。不忠不信。畏大國之彊。且素著異志。按兵觀變。非以死狗國之人。何足可畏。而信其誕妄之辭。貪豪末之利。棄垂成之功乎。且使晉得天下。將竭中國之財。以奉大國。豈此小利之比乎。契丹主曰。爾見捕鼠者乎。不備之。猶或齧傷其手。況大敵乎。對曰。今大國已扼其喉。安能齧人乎。契丹主曰。吾非有渝前約也。但兵家權謀。不得不爾。對曰。皇帝以信義救人之急。四海之人。俱屬耳目。奈何二三其命。使大義不終。臣竊爲皇帝不取也。跪於帳前。自旦至暮。涕泣爭之。契丹主乃從之。指帳前石。謂德鈞使者曰。我已許石郎。此石爛。可改矣。○龍敏謂前鄭州防禦使李懿曰。君國之近親。今社稷之危。翹足可待。君獨無憂乎。懿爲言。趙德鈞必能破敵之狀。敏曰。我燕人也。知德鈞之爲人。怯而無謀。但於守城差長耳。況今內蓄姦謀。豈可恃乎。僕有狂策。但恐朝廷不肯爲耳。今從駕兵尙萬餘人。馬近五千匹。若選精騎一千。使僕與郎萬金將之。自介休山路。夜冒虜騎。入晉安寨。但使其半得入。則事濟矣。張敬達等陷於重圍。不知朝廷聲問。若知大軍近在團柏。雖有鐵障。可衝陷。況虜騎乎。懿以白唐主。唐主曰。龍敏之志極壯。用之晚矣。○丹州義軍作亂。逐刺史康承詢。承詢奔鄜州。○晉安寨被圍數月。高行周符彥卿。數引騎兵出戰。衆寡不敵。皆無功。芻糧俱竭。削梯淘糞。以飼馬。馬相啗。尾鬣皆禿。死則將士分食之。援兵竟不至。張敬達性剛。時謂之張生鐵。楊光遠。安審琦。勸敬達降於契丹。敬達曰。吾受明宗及今上厚恩。爲元帥而敗軍。其罪已大。況降敵乎。今援兵且暮至。且當俟之。必若力盡執窮。則諸軍斬我首。攜之出降。自求多福。未爲晚也。光遠目審琦。欲殺敬達。審琦未忍。高行周知光遠欲圖敬達。常引壯騎。尾而衛之。敬達不知其故。謂人曰。行周每踵余後。何意也。行周乃不敢隨之。諸將每旦集於招討使營。甲子。高行周符彥卿未至。光遠乘其無備。斬敬達首。帥諸將上表。降於契丹。契丹主素聞

諸將名皆慰勞。賜以裘帽。因戲之曰：汝輩亦大惡漢。不用鹽酪。啗戰馬萬匹。光遠等大慙。契丹主嘉張敬達之忠。命收葬而祭之。謂其下及晉諸將曰：汝曹爲人臣。當效敬達也。時晉安寨馬猶近五千。鎧仗五萬。契丹悉取以歸其國。悉以唐之將卒授帝。語之曰：勉事而主。馬軍都指揮使康思立憤惋而死。帝以晉安已降。遣使諭諸州。代州刺史張朗斬其使。呂琦奉唐主詔。勞北軍。至忻州。遇晉使。亦斬之。謂刺史丁審琦曰：虜過城下而不顧。其心可見。還日必無全理。不若早帥兵民。自五臺奔鎮州。將行。審琦悔之。閉牙城。不從。州兵欲攻之。琦曰：家國如此。何爲復相屠滅。乃帥州兵趣鎮州。審琦遂降契丹。○契丹主謂帝曰：桑維翰盡忠於汝。宜以爲相。丙寅。以趙瑩爲門下侍郎。桑維翰爲中書侍郎。竝同平章事。維翰仍權知樞密使事。以楊光遠爲侍衛馬步軍都指揮使。以劉知遠爲保義節度使。侍衛馬步軍都虞候。○帝與契丹主將引兵而南。欲留一子守河東。咨於契丹主。契丹主令帝盡出諸子。自擇之。帝兄子重貴。父敬儒。早卒。帝養以爲子。貌類帝。而短小。契丹主指之曰：此大目者可也。乃以重貴爲北京留守。太原尹。河東節度使。契丹以其將高謨翰爲前鋒。與降卒皆進。丁卯。至團柏。與唐兵戰。趙德鈞趙延壽先遁。符彥饒張彥琦劉延朗劉在明繼之。士卒大潰。相騰踐死者萬計。己巳。延朗在明至懷州。唐主始知帝卽位。楊光遠降。衆議以天雄軍府尙完。契丹必憚山東。未敢南下。車駕宜幸魏州。唐主以李崧素與范延光善。召崧謀之。薛文遇不知而繼至。唐主怒變色。崧躡文遇足。文遇乃去。唐主曰：我見此物。肉顫。適幾欲抽佩刀刺之。崧曰：文遇小人。淺謀誤國。刺之益醜。崧因勸唐主南還。唐主從之。洛陽聞北軍敗。衆心大震。居人四出。逃竄山谷。門者請禁之。河南尹雍王重美曰：國家多難。未能爲百姓主。又禁其求生。徒增惡名耳。不若聽其自便。事寧自還。乃出令。任從所適。衆心差安。壬申。唐主還至河陽。命諸將分守南北城。張延朗請幸滑州。庶與魏博聲勢相接。唐主不能決。趙德鈞趙延壽南奔滑州。唐敗。

兵稍稍從之。其將時養帥盧龍輕騎。東還漁陽。帝先遣昭義節度使高行周還具食。至城下。見德鈞父子在城上。行周曰：僕與大王鄉曲。敢不忠告。城中無斗粟可守。不若速迎車駕。甲戌。帝與契丹主至滑州。德鈞父子迎謁於高河。契丹主慰諭之。父子拜帝於馬首。進曰：別後安否。帝不顧。亦不與之言。契丹主問德鈞曰：汝在幽州。所置銀鞍契丹直何在。德鈞指示之。契丹主命盡殺之於西郊。凡三千人。遂瑣德鈞延壽。送歸其國。德鈞見述律太后。悉以所贖寶貨并籍其田宅獻之。太后問曰：汝近者何爲往太原。德鈞曰：奉唐主之命。太后指天曰：汝從吾兒。求爲天子。何妄語邪。又自指其心曰：此不可欺也。又曰：吾兒將行。吾戒之云：趙大王若引兵北向渝關。亟須引歸。太原不可救也。汝欲爲天子。何不先擊退吾兒。徐圖亦未晚。汝爲人臣。既負其主。不能擊敵。又欲乘亂邀利。所爲如此。何面目復求生乎。德鈞俛首不能對。又問器玩在此。田宅何在。德鈞曰：在幽州。太后曰：幽州今屬誰。曰：屬太后。太后曰：然則又何獻焉。德鈞益慙。自是鬱鬱不多食。踰年而卒。張彧與延壽俱入契丹。契丹主復以爲翰林學士。帝將發。上黨契丹主舉酒屬帝曰：余遠來狗義。今大事已成。我若南向。河南之人。必大驚駭。汝宜自引漢兵南下。人必不甚懼。我令太相溫將五千騎。衛送汝至河梁。欲與之渡。河者多少隨意。余且留此。俟汝音聞。有急則下山救汝。若洛陽既定。吾卽北返矣。與帝執手相泣。久之不能別。解白貂裘以衣帝。贈良馬二十四匹。戰馬千二百匹。曰：世世子孫勿相忘。又曰：劉知遠趙瑩桑維翰。皆創業功臣。無大故勿棄也。初張敬達既出師。唐主遣左金吾大將軍歷山高漢筠守晉州。敬達死。建雄節度副使田承肇帥衆攻漢筠於府署。漢筠開門。延承肇入。從容謂曰：僕與公俱受朝寄。何相迫如此。承肇曰：欲奉公爲節度使。漢筠曰：僕老矣。義不爲亂首。死生惟公所處。承肇目左右欲殺之。軍士投刃於地曰：高金吾。累朝宿德。奈何害之。承肇乃謝曰：與公戲耳。聽漢筠歸洛陽。帝遇諸塗。曰：朕憂卿爲亂兵所傷。今見卿甚喜。○符彥

饒張彥琪至河陽密言於唐主曰今胡兵大下河水復淺人心已離此不可守丁丑唐主命河陽節度使裴從簡與趙州刺史劉在明守河陽南城遂斷浮梁歸洛陽遣宦者秦繼旻皇城使李彥紳殺昭信節度使李贇華於其第○己卯帝至河陽裴從簡迎降舟楫已具彰聖軍執劉在明以降帝釋之使復其所○唐主命馬軍都指揮使宋審虔步軍都指揮使符彥饒河陽節度使張彥琪宣徽南院使劉延朗將千餘騎至白馬阪行戰地有五十餘騎奔于北軍諸將謂審虔曰何地不可戰誰敢立於此乃還庚辰唐主又與四將議復向河陽而將校皆已飛狀迎帝帝慮唐主西奔遣契丹千騎扼澠池辛巳唐主與曹太后劉皇后雍王重美及宋審虔等攜傳國寶登玄武樓自焚皇后積薪欲燒宮室重美諫曰新天子至必不露居它日重勞民力死而遺怨將安用之乃止王淑妃謂太后曰事急矣宜且避匿以俟姑夫太后曰吾子孫婦女一朝至此何忍獨生妹自勉之淑妃乃與許王從益匿於毬場獲免是日晚帝入洛陽止于舊第唐兵皆解甲待罪帝慰而釋之帝命劉知遠部署京城知遠分漢軍使還營館契丹於天宮寺城中肅然無敢犯令士民避亂竄匿者數日皆還復業初帝在河東為唐朝所忌中書侍郎同平章事判三司張延朗不欲河東多蓄積凡財賦應留使之外盡收取之帝以是恨之壬午百官入見獨收延朗付御史臺餘皆謝恩甲申車駕入宮大赦應中外官吏一切不問惟賊臣張延朗劉延皓劉延珣姦邪貪狠罪難容貸中書侍郎同平章事馬胤孫樞密使房嵩宣徽使李專美河中節度使韓昭胤等雖居重位不務詭隨竝釋罪除名中外臣僚先歸順者委中書門下別加任使劉延皓匿於龍門數日自經死劉延朗將奔南山捕得殺之斬張延朗既而選三司使難其人帝甚悔之○閩人聞唐主之亡歎曰潞王之罪天下未之聞也將如吾君何○十二月乙酉朔帝如河陽餞太相溫及契丹兵歸國○追廢唐主為庶人○丁亥以馮道兼門下侍郎同平章事○曹州刺史鄭阮貪暴指

揮使石重立因亂殺之族其家○辛卯以唐中書侍郎姚顛為刑部尚書○初朔方節度使張希崇為政有威信民夷愛之與屯田以省漕運在鎮五年求內徙唐潞王以為靜難節度使帝與契丹脩好恐其復取靈武癸巳復以希崇為朔方節度使○初成德節度使董溫琪貪暴積貨巨萬以牙內都虞候平山祕瓊為腹心溫琪與趙德鈞俱沒於契丹瓊盡殺溫琪家人瘞於一坎而取其貨自稱留後表稱軍亂○同州小校門鐸殺節度使楊漢賓焚掠州城○詔贈李贇華燕王遣使送其喪歸國○張朗將其眾入朝○庚子以唐中書侍郎盧文紀為吏部尚書以皇城使晉陽周瓊為大將軍充三司使瓊辭曰臣自知才不稱職寧以避事見棄猶勝冒寵獲辜帝許之○帝聞平盧節度使房知溫卒遣天平節度使王建立將兵巡撫青州○改興唐府曰廣晉府○安遠節度使盧文進聞帝為契丹所立自以本契丹叛將辛丑棄鎮奔吳所過鎮戍召其主將告之故皆拜辭而退○徐知誥以鎮南節度使太尉兼中書令李德誠德勝節度使兼中書令周本位望隆重欲使之帥眾推戴本曰我受先王大恩自徐溫父子用事恨不能救楊氏之危又使我為此可乎其子弘祚強之不得已與德誠帥諸將詣江都表吳主陳知誥功德請行冊命又詣金陵勸進宋齊丘謂德誠之子建勳曰尊公太祖元勳今日掃地矣於是吳宮多妖吳主曰吳祚其終乎左右曰此乃天意非人事也○高麗王建用兵擊破新羅百濟於是東夷諸國皆附之有二京六府九節度百二十郡

資治通鑑卷第一百八十

後晉紀 高祖聖文章武明德孝皇帝上之上天福元年

資治通鑑卷第二百八十一

後晉紀二

高祖聖文章武明德孝皇帝上之下

天福二年春正月乙卯日有食之。詔以前北面招收指揮使安重榮為成德節度使以祕瓊為齊州防禦使遣引進使王景崇諭瓊以利害重榮與契丹將趙思溫偕如鎮州瓊不敢拒命丙辰重榮奏已視事景崇邢州人也。契丹以幽州為南京。○李崧呂琦逃匿於伊闕民間帝以始鎮河東崧有力焉德之亦不責琦乙丑以琦為祕書監丙寅以崧為兵部侍郎判戶部。○初天雄節度使兼中書令范延光微時有術士張生語之云必為將相延光既貴信重之延光嘗夢蛇自臍入腹以問張生張生曰蛇者龍也帝王之兆延光由是有非望之志唐潞王素與延光善及趙德鈞敗延光自遼州引兵還魏州雖奉表請降內不自安以書潛結祕瓊欲與之為亂瓊受其書不報延光恨之瓊將之齊過魏境延光欲滅口且利其貨遣兵邀之于夏津殺之丁卯延光奏稱夏津捕盜兵誤殺瓊帝不問。○戊寅以李崧為中書侍郎同平章事充樞密使桑維翰兼樞密使時晉新得天下藩鎮多未服從或雖服從反仄不安兵火之餘府庫殫竭民間困窮而契丹徵求無厭維翰勸帝推誠棄怨以撫藩鎮卑辭厚禮以奉契丹訓卒繕兵以修武備務農桑以實倉廩通商賈以豐貨財數年之間中國稍安。○吳太子璉納齊王知誥女為妃知誥始建太廟社稷改金陵為江寧府牙城曰宮城廳堂曰殿以左右司馬宋齊丘徐玠為左右丞相馬步判官周宗內樞判官彭人周廷玉為內

樞使自餘百官皆如吳朝之制置騎兵八軍步兵九軍。○二月吳主以盧文進為宣武節度使兼侍中。○戊子吳主使宜陽王瑒如西都冊命齊王王受冊赦境內冊王妃曰王后。○吳越王元瓘之弟順化節度使同平章事元珣獲罪於元瓘廢為庶人。○契丹主自上黨過雲州大同節度使沙彥珣出迎契丹主留之不使還鎮節度判官吳繼在城中謂其眾曰吾屬禮義之俗安可臣於夷狄乎眾推繼領州事閉城不受契丹之命契丹攻之不克應州馬軍都指揮使金城郭崇威亦恥臣契丹挺身歸南契丹主過新州命威塞節度使翟璋斂犒軍錢十萬緡初契丹主阿保機彊盛室韋奚霫皆役屬焉奚王去諸苦契丹貪虐帥其眾西徙媯州依劉仁恭父子號西奚去諸卒子掃刺立唐莊宗滅劉守光賜掃刺姓李名紹威紹威娶契丹逐不魯之姊逐不魯獲罪于契丹奔紹威紹威納之契丹怒攻之不克紹威卒子拽刺立及契丹主德光自上黨北還拽刺迎降時逐不魯亦卒契丹主曰汝誠無罪掃刺逐不魯負我皆命發其骨磔而麗之諸奚畏契丹之虐多逃叛契丹主勞翟璋曰當為汝除代令汝南歸己亥璋表乞徵詣闕既而契丹遣璋將兵討叛奚攻雲州有功留不遣璋璋鬱鬱而卒張礪自契丹逃歸為追騎所獲契丹主責之曰何故捨我去對曰臣華人飲食衣服皆不與此同生不如死願早就戮契丹主顧通事高彥英曰吾常戒汝善遇此人何故使之失所而亡去若失之安可復得邪答彥英而謝礪礪事契丹主甚忠直遇事輒言無所隱避契丹主甚重之。○初吳越王鏐少子元珣數有軍功鏐賜之兵仗及吳越王元瓘立元珣為土客馬步軍都指揮使兼中書令恃恩驕橫增置兵仗至數千國人多附之元瓘忌之使人諷元珣請輸兵仗出判溫州元珣不從銅官廟吏告元珣遣親信禱神求主吳越江山又為蠟丸從水竇出入與兄元珣謀議三月戊午元瓘遣使者召元珣宴宮中既至左右稱元珣有刃墜于懷袖即格殺之并殺元珣元瓘欲按諸將吏與元珣元珣交通者其子仁俊諫曰昔光

武克王郎曹公破袁紹皆焚其書疏以安反側今宜劾之元瓘從之○或得唐潞王脊及髀骨獻之庚申詔以王禮葬于徽陵南○帝遣使詣蜀告即位且敍姻好蜀主復書用敵國禮○范延光聚卒繕兵悉召巡內刺史集魏州將作亂會帝謀徙都大梁桑維翰曰大梁北控燕趙南通江淮水陸都會資用富饒今延光反形已露大梁距魏不過十驛彼若有變大軍尋至所謂疾雷不及掩耳也丙寅下詔託以洛陽漕運有闕東巡汴州○吳徐知誥立子景通為王太子固辭不受追尊考忠武王溫曰太祖武王妣明德太妃李氏曰王太后壬申更名誥○庚辰帝發洛陽留前朔方節度使張從賓為東都巡檢使○漢主以疾愈大赦○交州將皎公羨殺安南節度使楊廷藝而代之○夏四月丙戌帝至汴州丁亥大赦○吳越王元瓘復建國如同光故事丙申赦境內立其子弘傳為世子以曹仲達沈崧皮光業為丞相鎮海節度判官林鼎掌教令○丁酉加宣武節度使楊光遠兼侍中○閩主作紫微宮飾以水晶土木之盛倍于寶皇宮又遣使散詣諸州伺人隱慝○五月吳徐誥用宋齊丘策欲結契丹以取中國遣使以美女珍玩泛海修好契丹主亦遣使報之○丙辰敕權署汴州牙城曰太寧宮○壬申進范延光爵臨清郡王以安其意○追尊四代考妣為帝后己卯詔太社所藏唐室罪人首聽親舊收葬初武衛上將軍婁繼英嘗事梁均王為內諸司使至是請其首而葬之○六月吳諸道副都統徐景遷卒○范延光素以軍府之政委元隨左都押牙孫銳銳恃恩專橫符奏有不如意者對延光手裂之會延光病經旬銳密召澶州刺史馮暉與之合謀逼延光反延光亦思張生之言遂從之甲午六宅使張言奉使魏州還言延光反狀義成節度使符彥饒奏延光遣兵度河焚草市詔侍衛馬軍都指揮使昭信節度使白奉進將千五百騎屯白馬津以備之奉進雲州人也丁酉以東都巡檢使張從賓為魏府西南面都部署戊戌遣侍衛都軍使楊光遠將步騎一萬屯滑州己亥遣護聖都指揮使杜重威將

兵屯衛州重威朔州人也尙帝妹樂平長公主范延光以馮暉為都部署孫銳為兵馬都監將步騎二萬循河西抵黎陽口辛丑楊光遠奏引兵踰胡梁渡○以翰林學士禮部侍郎和凝為端明殿學士凝署其門不通賓客前耀州團練推官襄邑張誼致書于凝以為切近之職為天子耳目宜知四方利病奈何拒絕賓客雖安身為便如負國何凝奇之薦于桑維翰未幾除左拾遺誼上言北狄有援立之功宜外敦信好內謹邊備不可自逸以啓戎心帝深然之○契丹攻雲州半歲不能下吳繼遣使問道奉表求救帝為之致書契丹主請之契丹主乃命翟璋解圍去帝召繼歸以為武寧節度副使○丁未以待衛使楊光遠為魏府四面都部署張從賓為副部署兼諸軍都虞候昭義節度使高行周將本軍屯相州為魏府西面之才無英雄之氣得我何用能用我者其劉公乎○詔張從賓發河南兵數千人擊范延光延光使人誘從賓從賓遂與之同反殺皇子河陽節度使重信使上將軍張繼祚知河陽留後繼祚全義之子也從賓又引兵入洛陽殺皇子權東都留守重父以東都副留守都巡檢使張延播知河南府事從軍取內庫錢帛以賞部兵留守判官李遐不與兵衆殺之從賓引兵扼汜水關將逼汴州詔奉國都指揮使侯益帥禁兵五千會杜重威討張從賓又詔宣徽使劉處讓自黎陽分兵討之時羽檄縱橫從官在大梁者無不恟懼獨桑維翰從容指畫軍事神色自若接對賓客不改常度衆心差安○方士言於閩主云有白龍夜見螺峰閩主作白龍寺時百役繁興用度不足閩主謂吏部侍郎判三司候官蔡守蒙曰聞有司除官皆受賂有諸對曰浮議無足信也閩主曰朕知之久矣今以委卿擇賢而授不肖及罔冒者勿拒第令納賂籍而獻之守蒙素廉以為不可閩主怒守蒙懼而從之自是除官但以貨多少為差閩主又以空名堂牒使醫工陳究賣官於外專務聚斂無有盈厭又詔民有隱年者杖背

隱口者死。逃亡者族。果菜雞豚皆重征之。○秋七月，張從賓攻汜水，殺巡檢使宋廷浩。帝戎服嚴輕騎，將奔晉陽以避之。桑維翰叩頭苦諫曰：「賊鋒雖盛，勢不能久。請少待之，不可輕動。」帝乃止。○范延光遣使以蠟丸招誘失職者。右武衛上將軍婁繼英、右衛大將軍尹暉在大梁。溫韜之子延濬、延沼、延衰居許州，皆應之。延光令延濬兄弟取許州，聚徒已及千人。繼英暉事泄皆出走。壬子，敕以延光姦謀誣汙忠良，自今獲延光謀人賞獲者殺諜人禁蠟書，勿以聞。暉將奔吳，爲人所殺。繼英奔許州，依溫氏。忠武節度使裴從簡盛爲之備。延濬等不得發，欲殺繼英以自明。延沼止之，遂同奔張從賓。繼英知其謀，勸從賓執三溫皆斬之。○白奉進在滑州，軍士有夜掠者，捕之獲五人，其三隸奉進，其二隸符彥饒。奉進皆斬之。彥饒以其不先白己，甚怒。明日，奉進從數騎詣彥饒謝。彥饒曰：「軍中各有部分，奈何取滑州軍士并斬之，殊無客主之義乎？」奉進曰：「軍士犯法，何有彼我？僕已引咎謝公，而公怒不解，豈非欲與延光同反邪？」拂衣而起。彥饒不留帳下，甲士大譟，擒奉進殺之。從騎走出大呼於外，諸軍爭擐甲操兵，誼諫不可禁止。奉國左廂都指揮使馬萬惶惑不知所爲，帥步兵欲從亂。遇右廂都指揮使盧順密帥部兵出營，厲聲謂萬曰：「符公擅殺白公，必與魏城通謀。此去行宮纔二百里，吾輩及軍士家屬皆在大梁，奈何不思報國，乃欲助亂？自求族滅乎？今日當共擒符公，送天子立大功，軍士從命者賞，違命者誅，勿復疑也。」萬所部兵尚有呼躍者，順密殺數人，衆莫敢動。萬不得已從之，與奉國都虞候方太等共攻牙城，執彥饒，令太部送大梁。甲寅，敕斬彥饒於班荆館，其兄弟皆不問。楊光遠自白臯引兵趣滑州，士卒聞滑州亂，欲推光遠爲主。光遠曰：「天子豈汝輩販弄之物，晉陽之降出于窮迫，今若改圖，真反賊也。其下乃不敢言，時魏孟滑三鎮繼叛，人情大震，帝問計於劉知遠，對曰：『帝者之興，自有天命，陛下昔在晉陽糧不支五日，俄成大業，今天下已定，內有勁兵，北結疆虜，鼠輩何能爲乎？願陛下撫將相以恩，臣請戰士卒以威，恩威兼著，京邑自安。本根深固，則枝葉不傷矣。知遠乃嚴設科禁，宿衛諸軍無敢犯者，有軍士盜紙錢一幘，主者擒之，左右請釋之，知遠曰：『吾誅其情，不計其直，竟殺之。』由是衆皆畏服。」乙卯，以楊光遠爲魏府行營都招討使，兼知行府事，以昭義節度使高行周爲河南尹，東京留守以杜重威爲昭義節度使，充侍衛馬軍都指揮使，以侯益爲河陽節度使。帝以滑州奏事皆馬萬爲首，擢萬爲義成節度使。丙辰，以盧順密爲果州團練使，方太爲趙州刺史。旣而知皆順密之功也，更以順密爲昭義留後。馮暉引兵至六明鎮，光遠引之度河，半度而擊之，暉銳衆大敗，多溺死，斬首三千級。暉走還魏，杜重威侯益引兵至汜水，遇張從賓衆萬餘人，與戰，俘斬殆盡。遂克汜水，從賓走，乘馬渡河溺死，獲其黨張延播、繼祚、婁繼英，送大梁斬之，滅其族。史館修撰李濤上言：「張全義有再造洛邑之功，乞免其族，乃止。誅繼祚妻子，濤回之，族曾孫也。」○詔東都留守司百官悉赴行在。○楊光遠奏：「知博州張暉舉城降。」○安州威和指揮使王暉聞范延光作亂，殺安遠節度使周瓌，自領軍府欲俟延光勝則附之。敗則度江奔吳。帝遣右領軍上將軍李金全將千騎如安州，巡檢許赦、王暉爲唐州刺史。○范延光知事不濟，歸罪于孫銳而族之。遣使奉表待罪。戊寅，楊光遠以聞。帝不許。○吳同平章事王令謀如金陵，勸徐誥受禪，誥讓不受。○山南東道節度使安從進恐王暉奔吳，遣行軍司馬張肅將兵會復州兵於要路邀之。暉大掠安州，將奔吳，部將胡進殺之。八月癸巳，以狀聞。李金全至安州，將士之預于亂者數百人，金全說諭悉遣詣闕。旣而聞指揮使武彥和等數十人挾賄甚多，伏兵于野，執而斬之。彥和且死呼曰：「王暉首惡，天子猶赦之，我輩脅從，何罪乎？」帝雖知金全之情掩而不問。○吳歷陽公濛知吳將亡，甲子，殺守衛軍使王宏，宏子勒兵攻濛，濛射殺之。以德勝節度使周本、吳之勳舊引二騎詣廬州，欲依之。本聞濛至，將見之。其子弘祚固諫，本怒曰：「我家郎君來，何爲不使我見？」弘祚合扉不聽。本出使

請戰士卒以威，恩威兼著，京邑自安。本根深固，則枝葉不傷矣。知遠乃嚴設科禁，宿衛諸軍無敢犯者，有軍士盜紙錢一幘，主者擒之，左右請釋之，知遠曰：『吾誅其情，不計其直，竟殺之。』由是衆皆畏服。」乙卯，以楊光遠爲魏府行營都招討使，兼知行府事，以昭義節度使高行周爲河南尹，東京留守以杜重威爲昭義節度使，充侍衛馬軍都指揮使，以侯益爲河陽節度使。帝以滑州奏事皆馬萬爲首，擢萬爲義成節度使。丙辰，以盧順密爲果州團練使，方太爲趙州刺史。旣而知皆順密之功也，更以順密爲昭義留後。馮暉引兵至六明鎮，光遠引之度河，半度而擊之，暉銳衆大敗，多溺死，斬首三千級。暉走還魏，杜重威侯益引兵至汜水，遇張從賓衆萬餘人，與戰，俘斬殆盡。遂克汜水，從賓走，乘馬渡河溺死，獲其黨張延播、繼祚、婁繼英，送大梁斬之，滅其族。史館修撰李濤上言：「張全義有再造洛邑之功，乞免其族，乃止。誅繼祚妻子，濤回之，族曾孫也。」○詔東都留守司百官悉赴行在。○楊光遠奏：「知博州張暉舉城降。」○安州威和指揮使王暉聞范延光作亂，殺安遠節度使周瓌，自領軍府欲俟延光勝則附之。敗則度江奔吳。帝遣右領軍上將軍李金全將千騎如安州，巡檢許赦、王暉爲唐州刺史。○范延光知事不濟，歸罪于孫銳而族之。遣使奉表待罪。戊寅，楊光遠以聞。帝不許。○吳同平章事王令謀如金陵，勸徐誥受禪，誥讓不受。○山南東道節度使安從進恐王暉奔吳，遣行軍司馬張肅將兵會復州兵於要路邀之。暉大掠安州，將奔吳，部將胡進殺之。八月癸巳，以狀聞。李金全至安州，將士之預于亂者數百人，金全說諭悉遣詣闕。旣而聞指揮使武彥和等數十人挾賄甚多，伏兵于野，執而斬之。彥和且死呼曰：「王暉首惡，天子猶赦之，我輩脅從，何罪乎？」帝雖知金全之情掩而不問。○吳歷陽公濛知吳將亡，甲子，殺守衛軍使王宏，宏子勒兵攻濛，濛射殺之。以德勝節度使周本、吳之勳舊引二騎詣廬州，欲依之。本聞濛至，將見之。其子弘祚固諫，本怒曰：「我家郎君來，何爲不使我見？」弘祚合扉不聽。本出使

人執濛于外。送江都。徐誥遣使稱詔。殺濛于采石。追廢爲悖逆庶人。絕屬籍。侍衛軍使郭崇。殺濛妻子於和州。誥歸罪于崇。貶池州。○乙巳。赦張從賓符彥饒王暉之黨。未伏誅者。皆不問。梁唐以來士民。奉使及俘掠在契丹者。悉遣使贖還其家。○吳司徒門下侍郎同平章事。內樞使忠武節度使王令諫。老病無齒。或勸之致仕。令諫曰。齊王大事未畢。吾何敢自安。疾亟。力勸徐誥受禪。是月。吳主下詔。禪位于齊。李德誠復詣金陵。帥百官勸進。宋齊丘不署表。九月。癸丑。令誥卒。○甲寅。以李金全爲安遠節度使。○婁繼英未及葬。梁均王而誅死。詔梁故臣右衛上將軍安崇阮與王故妃郭氏葬之。○丙寅。吳主命江夏王璘奉璽綬于齊。冬。十月。甲申。齊王誥卽皇帝位于金陵。大赦。改元昇元。國號唐。追尊太祖武王曰武皇帝。乙酉。遣右丞相玠奉冊詣吳主。稱受禪老臣誥。謹拜稽首。上皇帝尊號曰高尙思玄弘古讓皇。宮室乘輿服御。皆如故。宗廟。正朔。徽章。服色。悉從吳制。丁亥。立徐知證爲江王。徐知諤爲饒王。以吳太子璉領平盧節度使。兼中書令。封弘農公。唐主宴羣臣于天泉閣。李德誠曰。陛下應天順人。惟宋齊丘不樂。因出齊丘止德誠勸進書。唐主執書不視曰。子嵩三十年舊交。必不相負。齊丘頓首謝。己丑。唐主表讓皇。改東都宮殿名。皆取于仙經。讓皇常服羽衣。習辟穀術。辛卯。吳宗室建安王瑛等十二人。皆降爵爲公。而加官增邑。丙申。以吳同平章事張延翰。及門下侍郎張居詠。中書侍郎李建勳。竝同平章事。讓皇以唐主上表。致書辭之。唐主謝表而不改。丁酉。加宋齊丘大司徒。齊丘雖爲左丞相。不預政事。心愠。聞制詞云。布衣之交。抗聲曰。臣爲布衣時。陛下爲刺史。今日爲天子。可以不用老臣矣。還家請罪。唐主手詔謝之。亦不改命。久之。齊丘不知所出。乃更上書。請遷讓皇于他州。及斥遠吳太子璉。絕其昏。唐主不從。乙巳。立王后宋氏爲皇后。戊申。以諸道都統判元帥府事景通爲諸道副元帥。判六軍諸衛事。太尉尙書令吳王。○閩主命其弟威武節度使繼恭。上表。告嗣位于晉。且請置邸于都下。○

十一月。乙卯。唐吳王景通更名璟。唐主賜楊璉妃號永興公主。妃聞人呼公主。則流涕而辭。戊午。唐主立其子景遂爲吉王。景達爲壽陽公。以景遂爲侍中。東都留守江都尹。帥留司百官。赴東都。○戊辰。詔加吳越王元瓘天下兵馬副元帥。進封吳越國王。○安遠節度使李金全。以親吏胡漢筠爲中門使。軍府事一以委之。漢筠貪猾殘忍。聚斂無厭。帝聞之。以廉吏賈仁沼代之。且召漢筠。欲授以他職。庶保全功臣。漢筠大懼。始勸金全以異謀。乙亥。金全表漢筠病未任行。金全故人龐令圖。屢諫曰。仁沼忠義之士。以代漢筠。所益多矣。漢筠夜遣壯士踰垣。滅令圖之族。又毒仁沼。舌爛而卒。漢筠與推官張緯相結。以諸惑金全。金全愛之。彌篤。○十二月。戊申。蜀大赦。改明年元曰明德。○詔加馬希範江南諸道都統。制置武平靜江等軍事。○是歲。契丹改元會同。國號大遼。公卿庶官。皆倣中國。參用中國人。以趙延壽爲樞密使。尋兼政事令。三年。春。正月。己酉。日有食之。○唐德勝節度使兼中書令西平恭烈王周本。以不能存吳。愧恨而卒。○丙寅。唐以侍中吉王景遂。參判尙書都省。○蜀主以武信節度使同平章事張業爲左僕射。兼中書侍郎。同平章事。樞密使武泰節度使王處回。兼武信節度使。同平章事。○二月。庚辰。左散騎常侍張允。上駁赦論。以爲帝王遇天災。多肆赦。謂之修德。借有二人坐獄。遇赦。則曲者幸免。直者銜冤。冤氣升聞。乃所以致災。非所以弭災也。詔褒之。帝樂聞讜言。詔百官各上封事。命吏部尙書梁文矩等十人。置詳定院。以考之。無取者留中。可者行之。數月。應詔者無十人。乙未。復降御札趣之。○三月。丁丑。敕禁民作銅器。初唐世天下鑄錢。有三十。六冶。喪亂以來。皆廢絕。錢日益耗。民多銷錢爲銅器。故禁之。○中書舍人李詳。上疏以爲十年以來。赦令屢降。諸道職掌。皆許推恩。而藩方薦論。動踰數百。乃至藏典書吏。優伶奴僕。初命則至銀青階。被服皆紫袍象笏。名器僭濫。貴賤不分。請自今諸道主兵將校之外。節度州

聽奏朱記大將以上十人他州止聽奏都押牙都虞候孔目官自餘但委本道量遷職名而已從之○夏四月甲申唐宋齊丘自陳丞相不應不豫政事唐主答以省署未備○吳讓皇固辭舊宮屢請徙居李德誠等亦亟以爲言五月戊午唐主改潤州牙城爲丹楊宮以李建勳爲迎奉讓皇使○楊光遠自恃擁重兵頗干預朝政屢有抗奏帝常屈意從之庚申以其子承祚爲左威衛將軍尙帝女長安公主次子承信亦拜美官寵冠當時○壬戌唐主以左宣威副統軍王興爲鎮海留後客省使公孫圭爲監軍使親吏馬思讓爲丹楊宮使徙讓皇居丹楊宮宋齊丘復自陳爲左右所間唐主大怒齊丘歸第白衣待罪或曰齊丘舊臣不宜以小過棄之唐主曰齊丘有才不識大體乃命吳王璟持手詔召之六月壬午或獻毒酒方于唐主唐主曰犯吾法者自有常刑安用此爲羣臣爭請改府寺州縣名有吳及陽者留守判官楊嗣請更姓羊徐玠曰陛下自應天順人事非逆取而諂邪之人專事改更咸非急務不可從也唐主然之○河南留守高行周奏修洛陽宮丙戌左諫議大夫薛融諫曰今宮室雖經焚毀猶侈于帝堯之茅茨所費雖寡猶多於漢文之露臺况魏城未下公私困窘誠非陛下修宮館之日俟海內平寧營之未晚上納其言仍賜詔褒之○己丑金部郎中張鑄奏竊見鄉村浮戶非不勤稼穡非不樂安居但以種木未盈十年墾田未及三頃似成生業已爲縣司收供徭役責之重賦威以嚴刑故不免捐功捨業更思他適乞自今民墾田及五頃以上三年外乃聽縣司徭役從之○秋七月申書奏朝代雖殊條制無異請委官取明宗及清泰時敕詳定可久行者編次之己酉詔左諫議大夫薛融等詳定○辛酉敕作受命寶以受天明命惟德允昌爲文○帝上尊號於契丹主及太后戊寅以馮道爲太后冊禮使左僕射劉煦爲契丹主冊禮使備函簿儀仗車輅詣契丹行禮契丹主大悅帝事契丹甚謹奉表稱臣謂契丹主爲父皇帝每契丹使至帝于別殿拜受詔敕歲輸金帛三十萬之外吉凶慶

弔歲時贈遺玩好珍異相繼于道乃至應天太后元帥太子偉王南北二王韓延徽趙延壽等諸大臣皆有賂小不如意輒來責讓帝常卑辭謝之晉使者至契丹契丹驕倨多不遜語使者還以聞朝野咸以爲恥而帝事之曾無倦意以是終帝之世與契丹無隙然所輸金帛不過數縣租賦往往託以民困不能滿數其後契丹主屢止帝上表稱臣但令爲書稱兒皇帝如家人禮初契丹既得幽州命曰南京以唐降將趙思溫爲留守思溫子延照在晉帝以爲祁州刺史思溫密令延照言虜情終變請以幽州內附帝不許○契丹遣使詣唐宋齊丘勸唐主厚賂之俟至淮北潛遣人殺之欲以間晉○壬午楊光遠奏前澶州刺史馮暉自廣晉城中出戰因來降言范延光食盡窮困己丑以暉爲義成節度使楊光遠攻廣晉歲餘不下帝以師老民疲遣內職朱憲入城諭范延光許移大藩曰若降而殺汝白日上吾無以享國延光謂節度副使李式曰主上重信云不死則不死矣乃撤守備然猶遷延未決宣徽南院使劉處讓復入諭之延光意乃決九月乙巳朔楊光遠送延光二子守圖守英詣大梁己酉延光遣牙將奉表待罪壬子詔書至廣晉延光帥其衆素服于牙門使者宣詔釋之朱憲汴州人也○契丹遣使如洛陽取趙延壽妻唐燕國長公主以歸○壬戌唐太府卿趙可封請唐主復姓李立唐宗廟○庚午楊光遠表乞入朝命劉處讓權知天雄軍府事己巳制以范延光爲天平節度使仍賜鐵券應廣晉城中將吏軍民今日以前罪皆釋不問其張從賓符彥饒餘黨及自官軍逃叛入城者亦釋之延光腹心將佐李式孫漢威薛霸皆除防禦團練使刺史牙兵皆升爲侍衛親軍初河陽行軍司馬李彥珣邢州人也父母在鄉里未嘗供饋後與張從賓同反從賓敗奔廣晉范延光以爲步軍都監使登城拒守楊光遠訪獲其母置城下以招之彥珣引弓射殺其母延光既降帝以彥珣爲坊州刺史近臣言彥珣殺母殺母惡逆不可赦帝曰赦令已行不可改也乃遣之官

臣光曰。治國家者。固不可無信。然彥珣之惡。三靈所不容。晉高祖赦其叛君之愆。治其殺母之罪。何損於信哉。

辛未。以楊光遠為天雄節度使。○冬十月。戊寅。契丹遣使奉寶冊。加帝尊號。曰英武明義皇帝。○帝以大梁舟車所會。便于漕運。庚辰。建東京于汴州。復以汴州為開封府。以東都為西京。以西都為晉昌軍節度。○帝遣兵部尚書王權。使契丹。謝尊號。權自以累世將相。恥之。謂人曰。吾老矣。安能向穹廬屈膝。乃辭以老疾。帝怒。戊子。權坐停官。○初。郭崇韜既死。宰相罕有兼樞密使者。帝即位。桑維翰。李崧兼之。宣徽使劉處讓。及宦官。皆不悅。楊光遠。圍廣晉。處讓數以軍事。銜命往來。光遠奏請多踰分。帝常依違。維翰獨以法裁折之。光遠對處讓。有不平語。處讓曰。是皆執政之意。光遠由是怨執政。范延光降。光遠密表論執政過失。帝知其故。而不得已。加維翰兵部尚書。崧工部尚書。皆罷其樞密使。以處讓為樞密使。○太常奏。今建東京。而宗廟社稷。皆在西京。請遷置大梁。敕旨且仍舊。○戊戌。大赦。○楊延藝故將吳權。自愛州舉兵。攻皎公羨于交州。羨遣使以賂求救于漢。漢主欲乘其亂而取之。以其子萬王弘操為靜海節度使。徙封交王。將兵救公羨。漢主自將屯于海門。為之聲援。漢主問策於崇文。使蕭益。益曰。今霖雨積旬。海道險遠。吳權桀黠。未可輕也。大軍當持重。多用鄉導。然後可進。不聽。命弘操帥戰艦。自白藤江趣交州。權已殺公羨。據交州。引兵逆戰。先于海口多植大杙。銳其首。冒之以鐵。遣輕舟乘潮。挑戰而偽遁。須臾潮落。漢艦皆礙鐵杙。不得返。漢兵大敗。士卒覆溺者太半。弘操死。漢主慟哭。收餘衆而還。先是。著作佐郎侯融。勸漢主弭兵息民。至是以兵不振。追咎融。剖棺暴其屍。益傲之孫也。○楚順賢夫人彭氏卒。彭夫人貌陋。而治家有法。楚王希範憚之。既卒。希範始縱聲色。為長夜之飲。內外無別。有商人妻美。希範殺其夫而奪之。妻誓不辱。自經死。○河決鄆州。○十一月。范延光自鄆州入朝。○丙午。以閩主昶為閩

國王。以左散騎常侍盧損為冊禮使。賜昶赭袍。戊申。以威武節度使王繼恭為臨海郡王。閩主聞之。遣進奏官林恩。白執政。以既襲帝號。辭冊命及使者。閩諫議大夫黃諷。以閩主淫暴。與妻子辭訣入諫。閩主欲杖之。諷曰。臣若迷國不忠。死亦無怨。直諫被杖。臣不受也。閩主怒。黜為民。○帝患天雄節度使楊光遠跋扈難制。桑維翰請分天雄之衆。加光遠太尉。西京留守。兼河陽節度使。光遠由是怨望。密以賂自訴于契丹。養部曲千餘人。常蓄異志。辛亥。建鄴都于廣晉府。置彰德軍於相州。以澶衛隸之。置永清軍于貝州。以博冀隸之。澶州舊治頓丘。帝慮契丹為後世之患。遣前淄州刺史汲人劉繼勳。徙澶州。跨德勝津。并頓丘。徙焉。以河南尹高行周為廣晉尹。鄴都留守貝州防禦使王廷胤。為彰德節度使。右神武統軍王周為永清節度使。廷胤處存之孫。周鄴都人也。○范延光屢請致仕。甲寅。詔以太子太師致仕。居于大梁。每預宴會。與羣臣無異。延光之反也。相州刺史掖人王景。拒境不從。戊午。以景為耀州團練使。○癸亥。敕聽公私鑄銅錢。無得雜以鉛鐵。每十錢重一兩。以天福元寶為文。仍令鹽鐵。頒下模範。惟禁私作銅器。○立左金吾衛上將軍重貴為鄆王。充開封尹。○癸亥。敕先許公私鑄錢。虛銅難得。聽輕重從便。但勿令缺漏。○辛丑。吳讓皇卒。唐主廢朝二十七日。追諡曰睿皇帝。是歲。唐主徙吳王璟為齊王。○鳳翔節度使李從曠。厚文士而薄武人。愛農民而嚴士卒。由是將士怨之。會發兵戍西邊。既出郊。作亂。突門入城。剽掠于市。從曠發帳下兵擊之。亂兵敗東走。欲自訴于朝廷。至華州。鎮國節度使張彥澤。邀擊盡誅之。

資治通鑑卷第二百八十一

後晉紀 高祖聖文章武明德孝皇帝上之下天福三年

資治通鑑卷第二百八十二

後晉紀三

高祖聖文章武明德孝皇帝中

天福四年春正月辛亥以澶州防禦使太原張從恩為樞密副使。朔方節度使張希崇卒。羌胡寇鈔無復畏憚。甲寅以義成節度使馮暉為朔方節度使。党項會長拓跋彥超最為疆大。暉至彥超入賀。暉厚遇之。因為于城中治第。豐其服玩。留之不遣。封內遂安。唐羣臣江王知證等累表請唐主復姓李。立唐宗廟。乙丑唐主許之。羣臣又請上尊號。唐主曰。尊號虛美。且非古。遂不受。其後子孫皆踵其法。不受尊號。又不以外戚輔政。宦者不得預事。皆他國所不及也。二月乙亥改太祖廟號曰義祖。己卯唐主為李氏考妣發哀。與皇后斬衰居廬。如初喪禮。朝夕臨。凡五十四日。江王知證饒王知諤請亦服斬衰。不許。李建勳之妻廣德長公主假衰經。入哭盡禮。如父母之喪。辛巳詔國事委齊王璟詳決。惟軍旅以聞。庚寅唐主更名昇。詔百官議二祚合享禮。辛卯宋齊丘等議以義祖居七室之東。唐主命居高祖於西室。太宗次之。義祖又次之。皆為不祧之主。羣臣言義祖諸侯不宜與高祖太宗同享。請於太廟正殿後別建廟祀之。帝曰。吾自幼託身義祖。非義祖有功於吳。朕安能啓此中興之業。羣臣乃不敢言。唐主欲祖吳王恪。或曰。恪誅死。不若祖鄭王元懿。唐主命有司考二王苗裔。以吳王孫禕有功。禕子峴為宰相。遂祖吳王云。自峴五世至父榮。其名率皆有司所撰。唐主又以歷十九帝三百年。疑十世太少。有司曰。三十年為一世。陛下生於文德。已五十年矣。遂從之。

盧損至福州。閩主稱疾不見。命弟繼恭主之。遣其禮部員外郎鄭元弼奉繼恭表。隨損入貢。閩主不禮于損。有士人林省鄒私謂損曰。吾主不事其君。不愛其親。不恤其民。不敬其神。不睦其鄰。不禮其賓。其能久乎。余將僧服而北逃。會相見於上國耳。○三月庚戌唐主追尊吳王恪為定宗。孝靜皇帝。自曾祖以下皆追尊廟號及諡。○己未詔歸德節度使劉知遠。忠武節度使杜重威。竝加同平章事。知遠自以有佐命功。重威起于外戚。無大功。恥與之同制。制下數日。杜門。四表辭不受。帝怒。謂趙瑩曰。重威朕之妹夫。知遠雖有功。何得堅拒制命。可落軍權。令歸私第。瑩拜請曰。陛下昔在晉陽。兵不過五千。為唐兵十餘萬所攻。危于朝露。非知遠心。如鐵石。豈能成大業。奈何。以小過棄之。竊恐此語外聞。非所以彰人君之大度也。帝意乃解。命端明殿學士和凝。詣知遠第諭旨。知遠惶恐。起受命。○靈州戍將王彥忠。據懷遠城。叛。上遣供奉官齊延祚往詔諭之。彥忠降。延祚殺之。上怒曰。朕踐祚以來。未嘗失信于人。彥忠已輸伏出迎。延祚何得擅殺之。除延祚名。重杖配流。議者猶以為延祚不應免死。○辛酉冊回鶻可汗仁美為奉化可汗。○夏四月。唐江王徐知證等請亦姓李。不許。○辛巳唐主祀南郊。癸未大赦。○梁太祖以來。軍國大政。天子多與崇政樞密使議。宰相受成命。行制敕。講典故。治文事而已。帝懲唐明宗之世。安重誨專橫。故即位之初。但命桑維翰兼樞密使。及劉處讓為樞密使。奏對多不稱旨。會處讓遭母喪。甲申廢樞密院。以印付中書院。事皆委宰相。分判。以副使張從恩為宣徽使。直學士倉部郎中司徒詡。工部郎中顏衍。竝罷守本官。然勳臣近習。不知大體。習于故事。每欲復之。○帝以唐之大臣除名在兩京者皆貧悴。復以李專美為贊善大夫。丙戌以韓昭胤為兵部尚書。馬胤孫為太子賓客。房嵩為右驍衛大將軍。竝致仕。○閩主忌其叔父前建州刺史延武。戶部尚書延望才名。巫者林興與延武有怨。託鬼神語云。延武延望將為變。閩主不復詰。使興帥壯士就第殺之。并其五子。閩主用陳守元言。

後晉紀 高祖聖文章武明德孝皇帝中天福四年

作三清殿於禁中。以黃金數千斤鑄寶皇大帝天尊老君像。晝夜作樂。焚香禱祀。求神丹。政無大小。皆林興傳寶皇命決之。○戊申。加楚王希範天策上將軍。賜印綬。開府置官屬。○辛亥。唐徙吉王景遂為壽王。立壽陽公景達為宣城王。○乙卯。唐鎮海節度使兼中書令梁懷王徐知諤卒。○唐人遷讓皇之族於泰州。號永寧宮。防衛甚嚴。康化節度使兼中書令楊瑛稱疾。罷歸永寧宮。乙丑。以平盧節度使兼中書令楊璉為康化節度使。璉固辭。請終喪。從之。○唐主將立齊王璟為太子。固辭。乃以為諸道兵馬大元帥。判六軍諸衛。守太尉。錄尚書事。昇揚二州牧。○閩判六軍諸衛建王繼嚴得士心。閩主忌之。六月。罷其兵柄。更名繼裕。以弟繼鎔判六軍。去諸衛字。林興詐覺。流泉州。望氣者言宮中有災。乙未。閩主徙居長春宮。○秋。七月。庚子朔。日有食之。○成德節度使安重榮出於行伍。性粗率。恃勇驕暴。每謂人曰。今世天子。兵彊馬壯。則為之耳。府廡有幡竿。高數十尺。嘗挾弓矢。謂左右曰。我能中竿上龍者。必有天命。一發中之。以是益自負。帝之遣重榮代祕瓊也。戒之曰。瓊不受代。當別除汝一鎮。勿以力取。恐為患滋深。重榮由是以帝為怯。謂人曰。祕瓊匹夫耳。天子尚畏之。況我以將相之重。士馬之衆乎。每所奏請。多踰分。為執政所可否。意憤憤不快。乃聚亡命。市戰馬。有飛揚之志。帝知之。義武節度使皇甫遇與重榮姻家。甲辰。徙遇為昭義節度使。○乙巳。閩北宮火。焚宮殿殆盡。○戊申。薛融等上所定編敕。行之。○丙辰。敕先令天下公私鑄錢。今私錢多用鉛錫。小弱缺薄。宜皆禁之。專令官司自鑄。○西京留守楊光遠疏。中書侍郎同平章事桑維翰遷除不公。及營邸肆于兩都。與民爭利。帝不得已。閏月。壬申。出維翰為彰德節度使。兼侍中。○初。義武節度使王處直子威避王都之難。亡在契丹。至是。義武缺帥。帥契丹主遣使來言。請使威襲父土地。如我朝之法。帝辭以中國之法。必自刺史團練防禦序遷。乃至節度使。請遣威至此。漸加進用。契丹主怒。復遣使來言曰。爾自節度使為天子。亦有階級。邪。帝恐其滋蔓。

不已。厚賂契丹。且請以處直兄孫彰德節度使廷胤為義武節度使。以厭其意。契丹怒稍解。○初。閩惠宗以太祖元從為拱宸控鶴都。及康宗立。更募壯士二千為腹心。號宸衛都。祿賜皆厚。于二都。或言二都怨望。將作亂。閩主欲分隸漳泉二州。二都益怒。閩主好為長夜之飲。強羣臣酒。醉則令左右伺其過失。從弟繼隆醉失禮。斬之。屢以猜怒誅宗室。叔父左僕射同平章事延義。陽為狂愚。以避禍。閩主賜以道士服。置武夷山中。尋復召還。幽于私第。閩主數侮拱宸。控鶴軍使永泰朱文進。光山連重遇。二人怨之。會北宮火。求賊不獲。閩主命重遇將內外營兵。掃除餘燼。日役萬人。士卒甚苦之。又疑重遇知縱火之謀。欲誅之。內學士陳郟。復告重遇。辛巳夜。重遇入直。帥二都兵。焚長春宮。以攻閩主。使人迎延義于瓦礫中。呼萬歲。復召外營兵。共攻閩主。獨宸衛都拒戰。閩主乃與李后。如宸衛都。比明。亂兵焚宸衛都。宸衛都戰敗。餘衆千餘人。奉閩主及李后。出北關。至梧桐嶺。衆稍逃散。延義使兄子前汀州刺史繼業將兵追之。及于村舍。閩主素善射。引弓殺數人。俄而追兵雲集。閩主知不免。投弓謂繼業曰。卿臣節安在。繼業曰。君無君德。臣安有臣節。新君叔父也。舊君昆弟也。孰親孰疎。閩主不復言。繼業與之俱還。至陞莊。飲以酒。醉而縊之。并李后及諸子。王繼恭皆死。宸衛餘衆奔吳越。延義自稱威武節度使。閩國王更名曦。改元永隆。赦繫囚。頒賚中外。以宸衛弑閩主。赴于鄰國。諡閩主曰聖神英睿文明廣武應道大弘孝皇帝。廟號康宗。遣商人問道奉表。稱藩于晉。然其在國。置百官。皆如天子之制。以太子太傅致仕李真為司空。兼中書侍郎。同平章事。連重遇之攻康宗也。陳守元在宮中。易服將逃。兵人殺之。重遇執蔡守蒙。數以賣官之罪而斬之。閩王曦既立。遣使誅林興于泉州。○河決薄州。○八月。辛丑。以馮道守司徒。兼侍中。壬寅。詔中書知印。止委上相。由是事無巨細。悉委于道。帝嘗訪以軍謀。對曰。征伐大事。在聖心獨斷。臣書生。惟知謹守。歷代成規而已。帝以為然。道嘗稱疾求退。帝使鄭王重貴詣第。省之。

曰。來日不出。朕當親往。道乃出視事。當時寵遇。羣臣無與爲比。○己酉。以吳越王元瓘爲天下兵馬元帥。○黔南巡內溪州刺史彭士愁。引蔣錦州蠻萬餘人。寇辰澧州。焚掠鎮戍。遣使乞師于蜀。蜀主以道遠不許。九月辛未。楚王希範命左靜江指揮使劉勅。決勝指揮使廖匡齊。帥衡山兵五千討之。○癸未。以唐許王從益爲郇國公。奉唐祀。從益尙幼。李后養從益于宮中。奉王淑妃如事母。○冬十月庚戌。閩康宗所遣使者鄭元弼至大梁。康宗遣執政書曰。閩國一從興運。久歷年華。見北辰之帝座。頻移致東海之風帆。多阻。又求用敵國禮。致書往來。帝怒其不遜。壬子。詔却其貢物。及福建諸州綱運。竝令元弼及進奏官林恩。部送速歸。兵部員外郎李知損上言。王昶僭慢。宜執留使者。籍沒其貨。乃下元弼恩獄。○吳越恭穆夫人馬氏卒。夫人。雄武節度使綽之女也。初武肅王鏐。禁中外畜聲伎。文穆王元瓘。年三十餘。無子。夫人爲之請于鏐。鏐喜曰。吾家祭祀。汝實主之。乃聽元瓘納妾。鹿氏生弘儻。弘儻許氏生弘佐。吳氏生弘俶。衆妾生弘儀。弘儀。弘仰。弘信。夫人撫視慈愛如一。常置銀鹿于帳前。坐諸兒于上而弄之。○十一月戊子。契丹遣其臣遙折來使。遂如吳越。○楚王希範始開天策府。置護軍中尉。領軍司馬等官。以諸弟及將校爲之。又以幕僚拓跋恆。李弘阜。廖匡圖。徐仲雅等十八人爲學士。劉勅等進攻溪州。彭士愁兵敗。棄州走保山寨。石崖四絕。勅爲梯棧。上圍之。廖匡戰死。楚王希範遣弔其母。其母不哭。謂使者曰。廖氏三百口。受王溫飽之賜。舉族効死。未足以報。況一子乎。願王無以爲念。王以其母爲賢。厚恤其家。○十二月丙辰。禁勅造佛寺。○閩王作新宮。徙居之。○是歲。漢門下侍郎同平章事趙光裔。言于漢主曰。自馬后崩。未嘗通使于楚。親鄰舊好。不可忘也。因薦諫議大夫李紓。可以將命。漢主從之。楚亦遣使報聘。光裔相漢二十餘年。府庫充實。邊境無虞。及卒。漢主復以其子翰林學士承旨尙書左丞損爲門下侍郎。同平章事。

五年春正月。帝引見閩使鄭元弼等。元弼曰。王昶蠻夷之君。不知禮義。陛下得其善言。不足喜。惡言不足怒。臣將命無狀。願伏鈇鑕。以贖昶罪。帝憐之。辛未。詔釋元弼等。○楚劉勅等因大風。以火箭焚彭士愁寨。而攻之。士愁帥麾下逃入獎錦深山。乙未。遣其子師曷帥諸酋長。納溪錦獎三州印。請降于楚。○二月庚戌。北都留守同平章事安彥威入朝。上曰。吾所重者。信與義。昔契丹以義救我。我今以信報之。聞其徵求不已。公能屈節奉之。深稱朕意。對曰。陛下以蒼生之故。猶卑辭厚幣以事之。臣何屈節之有。上悅。○劉勅引兵還長沙。楚王希範。徙溪州于便地。表彭士愁爲溪州刺史。以劉勅爲錦州刺史。自是羣蠻服於楚。希範自謂伏波之後。以銅五千斤鑄柱。高丈二尺。入地六尺。銘誓狀于上。立之溪州。○唐康化節度使兼中書令楊璉。謁平陵還。一夕大醉。卒於舟中。追封諡曰弘農靖王。○閩王曦既立。驕淫苛虐。猜忌宗族。多尋舊怨。其弟建州刺史延政。數以書諫之。曦怒。復書罵之。遣親吏業翹。監建州軍。教練使杜漢崇。監南鎮軍。二人爭摺。延政陰事告于曦。由是兄弟積相猜恨。一日。翹與延政議事。不叶。翹訶之曰。公反邪。延政怒。欲斬翹。翹奔南鎮。延政發兵就攻之。敗其戍兵。翹漢崇奔福州。西鄙戍兵皆潰。二月。曦遣統軍使潘師達。吳行真。將兵四萬擊延政。師達軍於建州城西。行真軍于城南。皆阻水置營。焚城外廬舍。延政求救于吳越。壬戌。吳越王元瓘遣寧國節度使同平章事仰仁詮。內都監使薛萬忠。將兵四萬救之。丞相林鼎諫不聽。三月戊辰。師達分兵三千。遣都軍使蔡弘裔。將之出戰。延政遣其將林漢徹等。敗之于茶山。斬首千餘級。○安彥威。王建立。皆請致仕。不許。辛未。以歸德節度使侍衛馬步都指揮使同平章事劉知遠爲鄴都留守。徙彥威爲歸德節度使。加兼侍中。癸酉。徙建立爲昭義節度使。進爵韓王。以建立遼州人。割遼沁二州隸昭義。徙建雄節度使李德瑋爲北都留守。○山南東道節度使同平章事安從進。恃其險固。陰蓄異謀。擅邀取湖南貢物。招納亡命。增廣甲卒。元隨都押牙

王令謙押牙潘知麟諫。皆殺之。及王建立徙潞州。帝使問之曰。朕虛青州以待卿。卿有意則降制。從進對曰。若移青州置漢南。臣即赴鎮。帝不之責。○丁丑。王延政募敢死士千餘人。夜涉水。潛入潘師達壘。因風縱火。城上鼓譟以應之。戰棹都頭建安陳晦。殺師達。其衆皆潰。戊寅。引兵欲攻吳行真寨。建人未涉水。行真及將士棄營走。死者萬人。延政乘勝取永平順昌二城。自是建州之兵始盛。○夏。四月。蜀太保兼門下侍郎同平章事趙季良。請與門下侍郎同平章事毋昭裔。中書侍郎同平章事張業。分判三司。癸卯。蜀主命季良判戶部。昭裔判鹽鐵。業判度支。○庚戌。以前橫海節度使馬全節為安遠節度使。○甲子。吳越孝獻世子弘傳卒。○吳越仰仁詮等兵至建州。王延政以福州兵已敗去。奉牛酒犒之。請班師。仁詮等不從。營于城之西北。延政懼。復遣使乞師于閩王。閩王以泉州刺史王繼業為行營都統。將兵二萬救之。且移書責吳越。遣輕兵絕吳越糧道。會久雨。吳越食盡。五月。延政遣兵出擊。大破之。俘斬以萬計。癸未。仁詮等夜遁。○胡漢筠既違詔命。不詣闕。又聞賈仁沼二子欲訴諸朝。及除馬全節鎮安州。代李金全。漢筠給金全曰。進奏吏遣人倍道來言。朝廷俟公受代。即按賈仁沼死狀。以為必有異圖。金全大懼。漢筠因說金全拒命。自歸于唐。金全從之。丙戌。帝聞金全叛。命馬全節以汴洛汝鄭單宋陳蔡曹濮申唐之兵討之。以保大節度使安審暉為之副。審暉審琦之兄也。李金全遣推官張緯奉表請降於唐。唐主遣鄂州屯營使李承裕。段處恭。將兵三千逆之。○唐主遣客省使尙全恭。如閩。和閩王曦。及王延政。六月。延政遣牙將及女奴持誓書及香爐。至福州。與曦盟于宣陵。然兄弟相猜。猶如故。○癸卯。唐李承裕等至安州。是夕。李金全將麾下數百人詣唐軍。妓妾資財皆為承裕所奪。承裕入據安州。甲辰。馬全節自應山進軍。大化鎮與承裕戰于城南。大破之。承裕掠安州南走。全節入安州。丙午。安審暉追敗唐兵於黃花谷。段處恭戰死。丁未。審暉又敗唐兵于雲夢澤中。虜承裕及其衆。唐將

張建崇據雲夢橋拒戰。審暉乃還。馬全節斬承裕。及其衆千五百人于城下。送監軍杜光業等五百七人于大梁。上曰。此曹何罪。皆賜馬及器服而歸之。初。盧文進之奔吳也。唐主命祖全恩將兵逆之。戒無入安州城。陳于城外。俟文進出。殿之以歸。無得剽掠。及李承裕逆。李金全戒之如全恩。承裕貪剽掠。與晉兵戰而敗。死亡四千人。唐主惋恨累日。自以戒敕之不熟也。杜光業等至唐。唐主以其違命而敗。不受。復送于淮北。遣帝書曰。邊校貪功。乘便據壘。又曰。軍法朝章。彼此不可。帝復遣之歸。使者將自桐墟濟淮。唐主遣戰艦拒之。乃還。帝悉授唐諸將官。以其士卒為顯義都。命舊將劉康領之。臣光曰。違命者將也。士卒從將之令者也。又何罪乎。受而戮其將。以謝敵。弔士卒而撫之。斯可矣。何必棄民以資敵國乎。唐主使宦者祭廬山。還勞之曰。卿此行甚精潔。宦者曰。臣自奉詔。蔬食至今。唐主曰。卿某處市魚為羹。某日市肉為葷。何為蔬食。宦者慙服。倉吏歲終獻羨餘萬餘石。唐主曰。出納有數。苟非培民刻軍。安得羨餘邪。○秋。七月。閩王曦城福州西郭。以備建人。又度民為僧。民避重賦。多為僧。凡度萬一千人。○乙丑。帝賜鄭元弼等帛。遣歸。○李金全之叛也。安州馬步副都指揮使桑千威和指揮使王萬金。成彥溫。不從而死。馬步都指揮使龐守榮。誚其愚。以狗金全之意。己巳。詔贈賈仁沼及桑千等官。遣使誅守榮于安州。李金全至金陵。唐主待之甚薄。○丁巳。唐主立齊王璟為太子。兼大元帥。錄尙書事。○太子太師致仕范延光。請歸河陽私第。帝許之。延光重載而行。西京留守楊光遠兼領河陽。利其貨。且慮為子孫之患。奏延光叛。臣不家汴洛。而就外藩。恐其逃逸入敵國。宜早除之。帝不許。光遠請救延光。居西京。從之。光遠使其子承貴。以甲士圍其第。逼令自殺。延光曰。天子在上。賜我鐵券。許以不死。爾父子何得如此。己未。承貴以白刃驅延光上馬。至浮梁。擠于河。光遠奏云。自赴水死。帝知其故。憚光

遠之疆不敢詰。為延光輟朝。贈太師。○唐齊王璟固辭太子。九月乙丑。唐主許之。詔中外致
賤如太子禮。○丁卯。以翰林學士承旨戶部侍郎和凝為中書侍郎。同平章事。○己巳。鄴都
留守劉知遠入朝。○辛未。李崧奏諸州倉糧于計帳之外。所餘頗多。上曰。法外稅民。罪同枉
法。倉吏特貸其死。各痛懲之。○翰林學士李潛輕薄多酒失。上惡之。丙子。罷翰林學士。併其
職于中書舍人。潛濤之弟也。○楊光遠入朝。帝欲徙之他鎮。謂光遠曰。圍魏之役。卿左右皆
有功。尚未之賞。今當各除一州。以榮之。因其將校數人為刺史。甲申。徙光遠為平盧節度
使。進爵東平王。○冬十月丁酉。加吳越王元瓘天下兵馬都元帥。尚書令。○壬寅。唐大赦。詔
中外奏章無得言容聖。犯者以不敬論。術士孫智永以四星聚斗。分野有災。勸唐主巡東都。
乙巳。唐主命齊王璟監國。光政副使太僕少卿陳覺以私憾奏泰州刺史褚仁規貪殘。丙午。
罷仁規為扈駕都部署。覺始用事。庚戌。唐主發金陵。甲寅。至江都。○閩王曦因商人奉表自
理。十一月甲申。以曦為威武節度使。兼中書令。封閩國王。○唐主欲遂居江都。以水凍漕運
不給。乃還。十二月丙申。至金陵。○唐右僕射兼門下侍郎同平章事張延翰卒。○是歲。漢門
下侍郎同平章事趙損卒。以寧遠節度使南昌王定保為中書侍郎。同平章事。不踰年。亦卒。
○初。帝割鴈門之北。以賂契丹。由是吐谷渾皆屬契丹。苦其貪虐。思歸中國。成德節度使安
重榮復誘之。於是吐谷渾帥部落千餘帳。自五臺來奔。契丹大怒。遣使讓帝。以招納叛人。
六年春正月丙寅。帝遣供奉官張澄將兵二千索吐谷渾。在并鎮忻代四州山谷者逐之。使
還故土。○王延政城建州。周二十里。請于閩王曦。欲以建州為威武軍。自為節度使。曦以威
武軍福州也。乃以建州為鎮安軍。以延政為節度使。封富沙王。延政改鎮安曰鎮武。而稱之。
○二月壬辰。作浮梁于德勝口。○彰義節度使張彥澤欲殺其子。掌書記張式素為彥澤所
厚。諫止之。彥澤怒射之。左右素惡式。從而讒之。式懼。謝病去。彥澤遣兵追之。式至邠州。靜難

節度使李周以聞。帝以彥澤故流式商州。彥澤遣行軍司馬鄭元昭詣闕求之。且曰。彥澤不
得張式。恐致不測。帝不得已與之。癸未。式至涇州。彥澤命決口剖心。斷其四支。○涼州軍亂。
留後李文謙閉門自焚死。○蜀自建國以來。節度使多領禁兵。或以他職留成都。委僚佐知
留務。專事聚斂。政事不治。民無所訴。蜀主知其弊。丙辰。加衛聖馬步都指揮使武德節度使
兼中書令趙廷隱樞密使。武信節度使同平章事王處回。捧聖控鶴都指揮使保寧節度使
同平章事張公鐸。檢校官。並罷其節度使。三月甲戌。以翰林學士承旨李昊知武寧軍。散騎
常侍劉英圖知保寧軍。諫議大夫崔鑾知武信軍。給事中謝從志知武泰軍。將作監張讚知
寧江軍。○夏四月。閩王曦以其子亞澄同平章事。判六軍諸衛。曦疑其弟汀州刺史延喜與
延政通謀。遣將軍許仁欽以兵三千如汀州。執延喜以歸。○唐主以陳覺及萬年常夢錫為
宣徽副使。○辛巳。北京留守李德瓌遣牙校以吐谷渾酋長白承福入朝。○唐主遣通事舍
人歐陽遇求假道以通契丹。帝不許。○自黃巢犯長安以來。天下血戰數十年。然後諸國各
有分土。兵革稍息。及唐主即位。江淮比年豐稔。兵食有餘。羣臣爭言。陛下中興。今北方多難。
宜出兵恢復舊疆。唐主曰。吾少長軍旅。見兵之為民害深矣。不忍復言。使彼民安。則吾民亦
安矣。又何求焉。漢主遣使如唐。謀共取楚。分其地。唐主不許。○山南東道節度使安從進謀
反。遣使奉表詣蜀。請出師金商。以為聲援。丁亥。使者至成都。蜀主與羣臣謀之。皆曰。金商險
遠。少出師。則不足制敵。多則漕輓不繼。蜀主乃辭之。又求援于荆南。高從誨遣從進書。諭以
禍福。從進怒。反誣奏從誨荆南行軍司馬王保義勸從誨具奏其狀。且請發兵助朝廷討之。
從誨從之。○成德節度使安重榮恥臣契丹。見契丹使者。必箕踞慢罵。使過其境。或潛遣人
殺之。契丹以讓帝。帝為之遜謝。六月戊午。重榮執契丹使。拽刺。遣騎掠幽州南境。軍于博野。
上表稱吐谷渾兩突厥渾契苾沙陁各帥部眾歸附。党項等亦遣使納契丹告身職牒言。為

虜所陵暴。又言自二月以來。令各具精甲壯馬。將以上秋南寇。恐天命不佑。與之俱滅。願自備十萬衆。與晉共擊契丹。又朔州節度使趙崇。已逐契丹節度使劉山。求歸命朝廷。臣相繼以聞。陛下屢敕臣。承奉契丹。勿自起釁端。其如天道人心。難以違拒。機不可失。時不再來。諸節度使沒于虜庭者。皆延頸企踵。以待王師。良可哀閔。願早決計。表數千言。大抵斥帝父事契丹。竭中國。以媚無厭之虜。又以此意爲書。遣朝貴。及移藩鎮云。已勒兵。必與契丹決戰。帝以重榮方握彊兵。不能制。甚患之。時鄴都留守侍衛馬步都指揮使劉知遠。在大梁。秦寧節度使桑維翰。知重榮已蓄姦謀。又慮朝廷重違其意。密上疏曰。陛下免于晉陽之難。而有天下。皆契丹之功也。不可負之。今重榮恃勇輕敵。吐渾假手報仇。皆非國家之利。不可聽也。臣竊觀契丹數年以來。士馬精彊。吞噬四隣。戰必勝。攻必取。割中國之土地。收中國之器械。其君智勇過人。其臣上下輯睦。牛羊蕃息。國無天災。此未可與爲敵也。且中國新敗。士氣彫沮。以當契丹乘勝之威。其勢相去甚遠。又和親既絕。則當發兵守塞。兵少則不足以待寇。兵多則饋運無以繼之。我出則彼歸。我歸則彼至。臣恐禁衛之士。疲于奔命。鎮定之地。無復遺民。今天下粗安。瘡痍未復。府庫虛竭。蒸民困弊。靜而守之。猶懼不濟。其可妄動乎。契丹與國家恩義非輕。信誓甚著。彼無間隙。而自啓釁端。就使克之。後患愈重。萬一不克。大事去矣。議者以歲輸繒帛。謂之耗蠹。有所卑遜。謂之屈辱。殊不知兵連而不休。禍結而不解。財力將匱。耗蠹孰甚焉。用兵則武吏功臣。過求姑息。邊藩遠郡。得以驕矜。下陵上替。屈辱孰大焉。臣願陛下訓農習戰。養兵息民。俟國無內憂。民有餘力。然後觀釁而動。則動必有成矣。又鄴都富盛。國家藩屏。今主帥赴闕。軍府無人。臣竊思慢藏誨盜之言。勇夫重閉之義。乞陛下略加巡幸。以杜姦謀。帝謂使者曰。朕比日以來。煩懣不決。今見卿奏。如醉醒矣。卿勿以爲憂。閩王曦。聞王延政以書招泉州刺史王繼業。召繼業。還賜死于郊外。殺其子于泉州。初繼業爲汀

州刺史。司徒兼門下侍郎。同平章事。楊沂豐爲士曹參軍。與之親善。或告沂豐與繼業同謀。沂豐方侍宴。即收下獄。明日斬之。夷其族。沂豐涉之從弟也。時年八十餘。國人哀之。自是宗族勳舊。相繼被誅。人不自保。諫議大夫黃峻。昇。楓詣朝堂極諫。曦曰。老物狂發矣。貶章州司戶。曦淫侈無度。費用不給。謀于國。計使南安陳匡範。匡範請日進萬金。曦悅。加匡範禮部侍郎。匡範增筭商賈數倍。曦宴羣臣。舉酒屬匡範曰。明珠美玉。求之可得。如匡範入中之寶。不可得也。未幾。商賈之筭不能足。日進貨諸省務錢。以足之。恐事覺。憂悸而卒。曦祭贈甚厚。諸省務。以匡範貸帖聞。曦大怒。斲棺斷其屍。棄水中。以連江人黃紹。頗代爲國計。使紹頗請。令欲仕者。自非蔭補。皆聽輸錢。即授之。以資望高下。及州縣戶口多寡。定其直。自百緡至千緡。從之。○唐主自以專權。取吳尤忌。宰相權重。以右僕射兼中書侍郎。同平章事。李建勳執政。歲久。欲罷之。會建勳上疏言事。意其留中。既而唐主下有司施行。建勳自知事挾愛憎。密取所奏改之。秋七月。戊辰。罷建勳歸私第。○帝憂安重榮跋扈。己巳。以劉知遠爲北京留守。河東節度使。復以遼沁隸河東。以北京留守李德珣爲鄴都留守。知遠徵時。爲晉陽李氏贅婿。嘗牧馬犯僧田。僧執而笞之。知遠至晉陽。首召其僧。命之坐。慰諭贈遺。衆心大悅。○吳越府署火。宮室府庫幾盡。吳越王元瓘驚懼。發狂疾。唐人爭勸唐主乘弊取之。唐主曰。奈何。利人之災。遣使唁之。且賙其乏。○閩王曦自稱大閩皇。領威武節度使。與王延政治兵相攻。互有勝負。福建之間。暴骨如莽。鎮武節度判官晉江潘承祐。屢請息兵。脩好。延政不從。閩主使者至。延政大陳甲卒。以示之。對使者語甚悖慢。承祐長跪切諫。延政怒。顧左右曰。判官之肉可食乎。承祐不顧。聲色愈厲。閩主曦惡泉州刺史王繼嚴。得衆心。罷歸。就殺之。○八月。戊子朔。以開封尹鄭王重貴爲東京留守。○馮道。李崧。屢薦天平節度使兼侍衛親軍馬步副都指揮使同平章事杜重威之能。以爲都指揮使。充隨駕御營使。代劉知遠。知遠由是恨二相。重

威所至。贖貨民多逃亡。嘗出過市。謂左右曰。人言我驅盡百姓。何市人之多也。○壬辰。帝發大梁。己亥。至鄴都。壬寅。大赦。帝以詔諭安重榮曰。爾身爲大臣。家有老母。忿不思難。棄君與親。吾因契丹得天下。爾因吾致富貴。吾不敢忘德。爾乃忘之何邪。今吾以天下臣之。爾欲以一鎮抗之。不亦難乎。宜審思之。無取後悔。重榮得詔。愈驕。聞山南東道節度使安從進有異志。陰遣使與之通謀。○吳越文穆王元瓘寢疾。察內都監章德安忠厚。能斷大事。欲屬以後事。語之曰。弘佐尙少。當擇宗人長者立之。德安曰。弘佐雖少。羣下伏其英敏。願王勿以爲念。王曰。汝善輔之。吾無憂矣。德安。處州人也。辛亥。元瓘卒。初。內牙指揮使戴暉爲元瓘所親任。悉以軍事委之。元瓘養子弘侑乳母暉妻之親也。或告暉謀立弘侑。德安祕不發。喪與諸將謀。伏甲士于幕下。壬子。暉入府。執而殺之。廢弘侑爲庶人。復姓孫。幽之明州。是日。將吏以元瓘遺命。承制。以鎮海鎮東副大使弘佐爲節度使。時年十四。九月。庚申。弘佐卽王位。命丞相曹仲達攝政。軍中言。賜與不均。舉仗不受。諸將不能制。仲達親諭之。皆釋仗而拜。弘佐溫恭好書禮士。躬勤政務。發摘姦伏。人不能欺。民有獻嘉禾者。弘佐問倉吏。今蓄積幾何。對曰。十年。王曰。然則軍食足矣。可以寬吾民。乃命復其境內稅三年。○辛酉。滑州言。河決。○帝以安重榮殺契丹使者。恐其犯塞。乙亥。遣安國節度使楊彥詢使于契丹。彥詢至其帳。契丹責以使者死狀。彥詢曰。譬如人家有惡子。父母所不能制。將如之何。契丹主怒乃解。○閩主曦以其子瑯邪王亞澄爲威武節度使。兼中書令。改號長樂王。○劉知遠遣親將郭威。以詔指說吐谷渾酋長白承福。令去安重榮。歸朝廷。許以節鉞。威還。謂知遠曰。虜惟利是嗜。安鐵胡。止以袍袴賂之。今欲其來。莫若重賂。乃可致耳。知遠從之。且使謂承福曰。朝廷已割爾曹隸契丹。爾曹當自安部落。今乃南來。助安重榮爲逆。重榮已爲天下所棄。朝夕敗亡。爾曹宜早從化。勿俟臨之以兵。南北無歸。悔無及矣。承福懼。冬十月。帥其衆歸于知遠。知遠處之太原東

山。及嵐石之間。表承福領大同節度使。收其精騎。以隸麾下。始安重榮移檄諸道云。與吐谷渾。達。契。苻。同起兵。既而承福降。知遠。達。契。苻。亦莫之赴。重榮勢大沮。○閩主曦卽皇帝位。王延政自稱兵馬元帥。閩同平章事李敏卒。○帝之發大梁也。和凝請曰。車駕已行。安從進若反。何以備之。帝曰。卿意如何。凝請密留空名宣敕十數通。付留守鄭王。聞變。則書諸將名。遣擊之。帝從之。十一月。從進舉兵攻鄧州。唐州刺史武延翰以聞。鄭王遣宣徽南院使張從恩。武德使焦繼勳。護聖都指揮使郭金海。作坊使陳思讓。將大梁兵。就中州刺史李建崇。兵于葉縣。以討之。金海。本突厥。思讓。幽州人也。丁丑。以西京留守高行周爲南面軍前都部署。前同州節度使宋彥筠副之。張從恩監焉。又以郭金海爲先鋒使。陳思讓監焉。彥筠。滑州人也。庚辰。以鄴都留守李德瑋。權東京留守。召鄭王重貴如鄴都。安從進攻鄧州。威勝節度使安審暉。據牙城拒之。從進不能克。而退。癸未。從進至花山。遇張從恩兵。不意其至之速。合戰大敗。從恩獲其子牙內都指揮使弘義。從進以數十騎奔還襄州。嬰城自守。○唐主性節儉。常躡蒲屨。鹽。頰。用鐵。益。暑。則寢于青葛帷。左右使令。惟老醜宮人。服飾粗略。死國事者。皆給祿三年。分遣使者。按行民田。以肥瘠定其稅。民間稱其平允。自是。江淮調兵興役。及他賦斂。皆以稅錢爲率。至今用之。唐主勤于聽政。以夜繼晝。還自江都。不復宴樂。頗傷躁急。內侍王紹顏。上書以爲。今春以來。羣臣獲罪者衆。中外疑懼。唐主手詔釋其所以然。令紹顏告諭中外。○十二月。丙戌朔。徙鄭王重貴爲齊王。充鄴都留守。以李德瑋爲東都留守。○丁亥。以高行周知襄州行府事。詔荆南。湖南。共討襄州。高從誨遣都指揮使李端。將水軍數千。至南津。楚王希範遣天策都軍使張少敵。將戰艦百五十艘。入漢江。助行周。仍各運糧以饋之。少敵。信之子也。○安重榮聞安從進舉兵。反謀遂決。大集境內飢民。衆至數萬。南向鄴都。聲言入朝。初。重榮與深州人趙彥之。俱爲散指揮使。相得歡甚。重榮鎮成德。彥之自關西歸之。重

榮待遇甚厚。使彥之招募黨衆。然心實忌之。及舉兵。止用爲排陳使。彥之恨之。帝聞重榮反。壬辰遣護聖等馬步三十九指揮擊之。以天平節度使杜重威爲招討使。安國節度使馬全節副之。前永清節度使王周爲馬步都虞候。○安從進遣其弟從貴將兵逆均州刺史蔡行遇。焦繼勳邀擊敗之。獲從貴。斷其足而歸之。○戊戌杜重威與安重榮遇于宗城西南。重榮爲偃月陳。官軍再擊之。不動。重威懼。欲退。指揮使宛丘王重胤曰。兵家忌退。鎮之精兵盡在中軍。請公分銳士擊其左右翼。重胤爲公。以契丹直衝其中軍。彼必狼狽。重威從之。鎮人陳稍却。趙彥之卷旗策馬來降。彥之以銀飾鎧胄及鞍勒。官軍殺而分之。重榮聞彥之叛。大懼。退匿于輜重中。官軍從而乘之。鎮人大潰。斬首萬五千級。重榮收餘衆。走保宗城。官軍進攻。夜分拔之。重榮以十餘騎走還鎮州。嬰城自守。會天寒。鎮人戰及凍死者二萬餘人。契丹聞重榮反。乃聽楊彥詢還。庚子。冀州刺史張建武等取趙州。○漢主寢疾。有胡僧謂漢主名龔不利。漢主自造龔字名之。義取飛龍在天。讀若儼。○庚戌。制以錢弘佐爲鎮海鎮東軍節度使。兼中書令。吳越國王。

資治通鑑卷第二百八十二

資治通鑑卷第二百八十三

後晉紀四

高祖聖文章武明德孝皇帝下

天福七年春正月丁巳。鎮州牙將自西郭水碾門導官軍入城。殺守陴民二萬人。執安重榮。斬之。杜重威殺導者。自以爲功。庚申。重榮首至鄴都。帝命漆之。函送契丹。○癸亥。改鎮州爲恆州。成德軍爲順國軍。○丙寅。以門下侍郎同平章事趙瑩爲侍中。以杜重威爲順國節度使。兼侍中。安重榮私財及恆州府庫。重威盡有之。帝知而不問。又表衛尉少卿范陽王瑜爲副使。瑜爲之重斂於民。恆人不勝其苦。○張式父鐸詣闕訟冤。壬午。以河陽節度使王周爲彰義節度使。代張彥澤。○閩主曦立皇后李氏。同平章事眞之女也。嗜酒剛愎。曦寵而憚之。○彰武節度使丁審琪。養部曲千人。縱之爲暴於境內。軍校賀行政與諸胡相結爲亂。攻延州。帝遣曹州防禦使何重建將兵救之。同鄜援兵繼至。乃得免。二月癸巳。以重建爲彰武留後。召審琪歸朝。重建雲朔間胡人也。○唐左丞相齊丘固求豫政事。唐主聽入中書。又求領尚書省。乃罷侍中壽王景遂。判尚書省。更領中書門下省。以齊丘知尚書省事。其三省事。竝取齊王璟參決。齊丘視事數月。親吏夏昌圖盜官錢三千緡。齊丘判貸其死。唐主大怒。斬昌圖。齊丘稱疾。請罷省事。從之。○涇州奏遣押牙陳延暉持敕書詣涼州。州中將吏請延暉爲節度使。○三月閩主曦立長樂王亞澄爲閩王。○張彥澤在涇州。擅發兵擊諸胡。兵皆敗沒。調民馬千餘匹以補之。還至陝。獲亡將楊洪。乘醉斷其手足而斬之。王周奏彥澤在鎮。貪

殘不法二十六條。民散亡者五千餘戶。彥澤既至。帝以其有軍功。又與楊光遠連姻。釋不問。夏四月己未。右諫議大夫鄭受益上言。楊洪所以被辱。由陛下去歲送張式與彥澤。使之逞志。致彥澤敢肆凶殘。無所忌憚。見聞之人。無不切齒。而陛下曾不動心。一無詰讓。淑慝莫辨。賞罰無章。中外皆言陛下受彥澤所獻馬百匹。聽其如是。臣竊為陛下惜此惡名。乞正彥澤罪法。以湔洗聖德。疏奏。留中。受益從讜之。兄子也。庚申。刑部郎中李濤等伏閣。極論彥澤之罪。語甚切至。辛酉。敕張彥澤削一階。降爵一級。張式父及子弟。皆拜官。涇州民復業者。減其徭賦。癸亥。李濤復與兩省及御史臺官伏閣奏。彥澤罰太輕。請論如法。帝召濤面諭之。濤端笏前。迫殿陛。聲色俱厲。帝怒。連叱之。濤不退。帝曰。朕已許彥澤不死。濤曰。陛下許彥澤不死。不可負。不知范延光鐵券安在。帝拂衣起。入禁中。丙寅。以彥澤為左龍武大將軍。○漢高祖寢疾。以其子秦王弘度。晉王弘熙。皆驕恣。少子越王弘昌。孝謹有智識。與右僕射兼西御院使王勣。謀出弘度鎮邕州。弘熙鎮容州。而立弘昌制命將行。會崇文使蕭益入問疾。以其事訪之。益曰。立嫡以長。違之必亂。乃止。丁丑。高祖殂。高祖為人辯察多權數。好自矜大。常謂中國天子為洛州刺史。嶺南珍異所聚。每窮奢極麗。宮殿悉以金玉珠翠為飾。用刑慘酷。有灌鼻割舌。支解刳剔。炮炙烹蒸之法。或聚毒蛇水中。以罪人投之。謂之水獄。同平章事楊洞潛諫不聽。末年尤猜忌。以士人多為子孫計。故專任宦者。由是其國中宦者大盛。秦王弘度即皇帝位。更名玢。以弘熙輔政。改元光天。尊母趙昭儀曰皇太妃。○契丹以晉招納吐谷渾。遣使來讓。帝憂悒不知為計。五月己亥。始有疾。○乙巳。尊太妃劉氏為皇太后。太后帝之庶母也。○唐丞相太保宋齊丘。既罷尚書省。不復朝謁。唐主遣壽王景遂勞問。許鎮洪州。始入朝。唐主與之宴。酒酣。齊丘曰。陛下中興。臣之力也。奈何忘之。唐主怒曰。公以遊客于朕。今為三公。亦足矣。乃與人言。朕烏喙如句踐。難與共安樂。有之乎。齊丘曰。臣實有此言。臣為遊客時。

陛下乃偏裨耳。今日殺臣可矣。明日唐主手詔謝之曰。朕之褊性。子嵩平昔所知。少相親。老相怨。可乎。丙午。以齊丘為鎮南節度使。○帝寢疾。一旦馮道獨對。帝命幼子重睿出拜之。又令宦者抱重睿置道懷中。其意蓋欲道輔立之。六月乙丑。帝殂。道與天平節度使侍衛馬步都虞候景延廣。議以國家多難。宜立長君。乃奉廣晉尹齊王重貴為嗣。是日齊王即皇帝位。延廣以為己功。始用事。禁都下人無得偶語。初高祖疾亟。有旨召河東節度使劉知遠入輔政。齊王寢之。知遠由是怨齊王。○丁卯。尊皇太后曰太皇太后。皇后曰皇太后。○閩富沙王延政。圍汀州。閩主曦發漳泉兵五千救之。又遣其將林守亮入尤溪。大明宮使黃敬忠屯尤口。欲乘虛襲建州。國計使黃紹頗將步卒八千為二軍聲援。○秋七月壬辰。太皇太后劉氏殂。○閩富沙王延政攻汀州。四十二戰不克而歸。其將包洪實陳望。將水軍以禦福州之師。丁酉。遇於尤口。黃敬忠將戰。占者言時刻未利。按兵不動。洪實等引兵登岸。水陸夾攻之。殺敬忠。俘斬二千級。林守亮黃紹頗皆遁歸。○庚子。大赦。○癸卯。加景延廣同平章事。兼侍衛馬步都指揮使。○勳舊皆欲復置樞密使。馮道等三表請以樞密舊職讓之。帝不許。○有神降於博羅縣民家。與人言。而不見其形。閩人往占吉凶。多驗。縣吏張遇賢事之甚謹。時循州盜賊羣起。莫相統一。賊帥共禱于神。神大言曰。張遇賢當為汝主。於是共奉遇賢。稱中天八國王。改元永樂。置百官。攻掠海隅。遇賢年少。無它方略。諸將但告進退而已。漢主以越王弘昌為都統。循王弘杲為副。以討之。戰于錢帛館。漢兵不利。二王皆為賊所圍。指揮使陳道庠等力戰救之。得免。東方州縣多為遇賢所陷。道庠。端州人也。○高行周圍襄州。踰年不下。城中食盡。奉國軍都虞候曲周王清言於行周曰。賊城已危。我師已老。民力已困。不早迫之。尚何俟乎。與奉國都指揮使元城劉詞帥眾先登。八月拔之。安從進舉族自焚。○甲子。以趙瑩為中書令。○閩主曦遣使以手詔及金器九百錢萬緡。將吏敕告六百四十通。求和於富

沙王延政。延政不受。丙寅。閩主曦宴羣臣於九龍殿。從子繼柔不能飲。強之。繼柔私減其酒。曦怒。并客將斬之。○閩人鑄永隆通寶大鐵錢。一當鉛錢百。○漢葬天皇大帝于康陵。廟號高祖。○唐主自為吳相。興利除害。變更舊法甚多。及即位。命法官及尚書。刪定為昇元條三十卷。庚寅。行之。○閩主曦。以同平章事。候官余廷英。為泉州刺史。廷英貪穢。掠人女子。詐稱受詔。采擇。以備後宮。事覺。曦遣御史按之。廷英懼。詣福州自歸。曦詰責。將以屬吏。廷英退。獻買宴錢萬緡。曦悅。明日。召見。謂曰。宴已買矣。皇后貢物安在。廷英復獻錢於李后。乃遣歸。泉州。自是。諸州皆別貢皇后物。未幾。復召廷英為相。○冬。十月。丙子。張遇賢陷循州。殺漢刺史劉傳。○楚王希範。作天策府。極棟宇之盛。戶牖欄檻。皆飾以金玉。塗壁用丹砂。數十萬斤。地衣。春夏用角簟。秋冬用木綿。與子弟僚屬。遊宴其間。○十一月。庚寅。葬聖文章武明德孝皇帝于顯陵。廟號高祖。○先是。河南北諸州官。自賣海鹽。歲收緡錢十七萬。又散蠶鹽。斂民錢。高祖從之。俄而鹽價頓賤。每斤至十錢。至是。三司使董遇。欲增求羨利。而難于驟變前法。乃重征鹽商。過者七錢。留賣者十錢。由是鹽商殆絕。而官復自賣。其食鹽錢。至今斂之如故。○閩鹽鐵使右僕射李仁遇。敏之子。閩主曦之甥也。年少美姿容。得幸於曦。十二月。以仁遇為左僕射。兼中書侍郎。翰林學士。吏部侍郎。李光準為中書侍郎。兼戶部尚書。竝同平章事。曦荒淫無度。嘗夜宴。光準醉。忤旨。命執送都市斬之。吏不敢殺。繫獄中。明日。視朝。召復其位。是夕。又宴。收翰林學士周維岳下獄。吏拂榻待之曰。相公昨夜宿此。尚書勿憂。醒而釋之。他日。又宴。侍臣皆以醉去。獨維岳在。曦曰。維岳身甚小。何飲酒之多。左右或曰。酒有別腸。不必長大。曦欣然。命梓維岳下殿。欲剖視其酒腸。或曰。殺維岳。無人侍陛下劇飲者。乃捨之。○帝之初即位也。大臣議。奉表稱臣。告哀於契丹。景延廣請致書稱孫。而不稱臣。李崧曰。屈身以為社稷。何恥之有。陛下如此。他日。必躬擐甲胄。與契丹戰。於時。悔無益矣。延廣固爭。馮道依違其間。帝卒從延廣議。契丹大怒。遣使來責讓。且言。何得不先承稟。遽即帝位。延廣復以不遜語答之。契丹盧龍節度使趙延壽。欲代晉帝中國。屢說契丹擊晉。契丹主頗然之。

齊王上

天福八年春正月癸卯。蜀主以宣徽使兼宮苑使田敬全領永平節度使。敬全。宦者也。引前蜀王承休為比。而命之。國人非之。○帝聞契丹將入寇。二月己未。發鄴都。乙丑。至東京。然猶與契丹間遣。相往來。無虛月。○唐宣城王景達。剛毅開爽。烈祖愛之。屢欲以為嗣。宋齊丘亟稱其才。唐主以齊王璟年長而止。璟以是怨齊丘。唐主幼。子景暹。母种氏有寵。齊王璟母宋皇后。稀得進見。唐主如璟宮。遇璟親調樂器。大怒。謂讓者數日。种氏乘間言。景暹雖幼而慧。可以為嗣。唐主怒曰。子有過。父訓之。常事也。國家大計。女子何得預知。即命嫁之。唐主嘗夢吞靈丹。且而方士史守冲獻丹方。以為神而餌之。浸成躁急。左右諫不聽。嘗以藥賜李建勳。建勳曰。臣餌之數日。已覺躁熱。況多餌乎。唐主曰。朕服之久矣。羣臣奏事。往往暴怒。然或有正色論辯中理者。亦斂容慰謝而從之。唐主問道士王栖霞。何道可致太平。對曰。王者治心治身。乃治家國。今陛下尚未能去飢嗔。飽喜。何論太平。宋后自簾中稱歎。以為至言。凡唐主所賜予。栖霞皆不受。栖霞常為人奏章。唐主欲為之築壇。辭曰。國用方乏。何暇及此。俟焚章不化。乃當奏請耳。駕部郎中馮延巳。為齊王元帥。府掌書記。性傾巧。與宋齊丘及宣徽副使陳覺相結。同府在己上者。延巳稍以計逐之。延巳嘗戲謂中書侍郎孫晟曰。公有何能。為中書郎。晟曰。晟山東鄙儒。文章不如公。談諧不如公。諂詐不如公。然主上使公與齊王遊處。蓋欲以仁義輔導之也。豈但為聲色狗馬之友邪。晟誠無能。公之能。適足為國家之禍耳。延巳。

歙州人也。又有魏岑者，亦在齊王府。給事中常夢錫屢言，陳覺馮延巳、魏岑皆佞邪小人，不宜侍東宮。司門郎中判大理寺蕭儼表稱，陳覺姦回亂政，唐主頗感悟，未及去，會疽發背，祕不令人知。密令醫治之，聽政如故。庚午，疾亟，太醫吳廷裕遣親信召齊王璟，入侍疾。唐主謂璟曰：「吾餌金石，始欲益壽，乃更傷生，汝宜戒之。」是夕殂，祕不發喪。下制以齊王監國。大赦，孫晟恐馮延巳等用事，欲稱遺詔，令太后臨朝稱制。翰林學士李貽業曰：「先帝嘗云：婦人預政，亂之本也。安肯自爲厲階，此必近習姦人之詐也。且嗣君春秋已長，明德著聞，公何得遽爲亡國之言？」若果宣行，吾必對百官毀之。晟懼而止。貽業，蔚之從曾孫也。丙子，始宣遺制。烈祖末年，卜急，近臣多羅譴罰。陳覺稱疾，累月不入。及宣遺詔，乃出。蕭儼劾奏，覺端居私室，以俟升遐，請按其罪。齊王不許。自烈祖相吳，禁壓良爲賤，令買奴婢者，通官作券。馮延巳及弟禮部員外郎延魯，俱在元帥府。草遺詔，聽民賣男女，意欲自買姬妾。蕭儼駁曰：「此必延巳等所爲，非大行之命也。」昔延魯爲東都判官，已有此請。先帝訪臣，臣對曰：「陛下昔爲吳相，民有鬻男女者，爲出府金贖而歸之，故遠近歸心。今即位而反之，使貧人之子爲富人厮役，可乎？」先帝以爲然。將治延魯罪，臣以爲延魯愚無足責，先帝斜封延魯章，抹三筆，持入宮，請求諸宮中，必尙在。齊王命取先帝時留中章奏千餘道，皆斜封一抹，果得延魯疏。然以遺詔已行，竟不之改。○閩富沙王延政稱帝於建州，國號大殷。大赦，改元天德。以將樂縣爲鏞州，延平鎮爲鏗州，立皇后張氏。以節度判官潘承祐爲吏部尙書，節度巡官建陽楊思恭爲兵部尙書。未幾，以承祐同平章事，思恭遷僕射。錄軍國事，延政服赭袍視事。然牙參及接鄰國使者，猶如藩鎮禮。殷國小民貧，軍旅不息。楊思恭以善聚斂得幸，增田畝山澤之稅。至於魚鹽蔬果，無不倍征。國人謂之楊剝皮。○三月己卯朔，以中書令趙瑩爲晉昌節度使兼中書令。以晉昌節度使兼侍中桑維翰爲侍中。○唐元宗即位，大赦，改元保大。祕書郎韓熙載請俟隄年。

改元不從。尊皇后曰皇太后，立妃鍾氏爲皇后。唐主未聽政，馮延巳屢入白事。一日至數四，唐主曰：「書記有常職，何爲如是其煩也？」唐主爲人謙謹，初即位，不名大臣，數延公卿論政體。李建勳謂人曰：「主上寬仁大度，優于先帝，但性習未定，苟旁無正人，但恐不能守先帝之業耳。」唐主以鎮南節度使宋齊丘爲太保兼中書令，奉化節度使周宗爲侍中，唐主以齊丘宗先朝勳舊，故順人望，召爲相。政事皆自決之。徙壽王景遂爲燕王，宣城王景達爲鄂王。初唐主爲齊王，知政事，每有過失，常夢錫常直言規正。始雖忿對，終以諒直多之。及即位，許以爲翰林學士。齊丘之黨疾之，坐封駁制書，貶池州判官。池州多遷客，節度使上蔡王彥儔防制過甚，幾不聊生。惟事夢錫，如在朝廷。宋齊丘待陳覺素厚，唐主亦以覺爲有才，遂委任之。馮延巳、延魯、魏岑雖齊邸舊僚，皆依附覺，與休寧查文徽更相汲引。侵蠹政事，唐人謂覺等爲五鬼。延魯自禮部員外郎遷中書舍人，勤政殿學士，江州觀察使杜昌業聞之，歎曰：「國家所以驅駕羣臣，在官爵而已。若一言稱旨，遽躋通顯，後有立功者，何以賞之？」未幾，唐主以岑及文徽皆爲樞密副使，岑既得志，會覺遭母喪，岑即暴揚覺過惡，擯斥之。○唐置定遠軍於濠州。○漢殤帝驕奢，不親政事。高祖在殯，作樂酣飲，夜與倡婦微行，僕男女而觀之。左右忤意輒死，無敢諫者。惟越王弘昌及內常侍番禹吳懷恩屢諫，不聽。常猜忌諸弟，每宴集，令宦者守門，羣臣宗室皆露索然後入。晉王弘熙欲圖之，乃盛飾聲伎，娛悅其意，以成其惡。漢主好手搏，弘熙令指揮使陳道庠引力士劉思潮譚令禪、林少強、林少良、何昌廷等五人習手搏於晉府。漢主聞而悅之，丙戌與諸王宴於長春宮，觀手搏，至夕罷宴。漢主大醉，弘熙使道庠思潮等掖漢主，因拉殺之，盡殺其左右。明日，百官諸王莫敢入宮。越王弘昌帥諸弟臨於寢殿，迎弘熙卽皇帝位，更名晟，改元應乾。以弘昌爲太尉兼中書令，諸道兵馬都元帥。知政事，循王弘杲爲副元帥，參預政事。陳道庠及劉思潮等皆受賞賜甚厚。○閩主曦納金吾使尙

保殷之女立爲賢妃。妃有殊色，曦嬖之。醉中妃所欲殺則殺之，所欲宥則宥之。○夏四月，戊申朔，日有食之。○唐以中書侍郎同平章事李建勳爲昭武節度使，鎮撫州。○殷將陳望等攻閩福州，入其西郭，旣而敗歸。○五月，殷吏部尚書同平章事潘承祐上書陳十事，大指言兄弟相攻，逆傷天理一也；賦斂煩重，力役無節二也；發民爲兵，騷旅愁怨三也；楊思恭奪民衣食，使歸怨於上，羣臣莫敢言四也；疆土狹隘，多置州縣，增吏困民五也；除道裹糧，將攻臨汀，曾不憂金陵錢塘，乘虛相襲六也；括高贖戶，財多者補官，逋負者被刑七也；延平諸津，征果菜魚米，獲利至微，斂怨甚大八也；與唐吳越爲鄰，卽位以來，未嘗通使九也；宮室臺榭，崇飾無度十也。殷王延政大怒，削承祐官爵，勒歸私第。○漢中宗旣立，國中議論詢循王弘杲，請斬劉思潮等，以謝中外。漢主不從。思潮等聞之，潛弘杲謀反。漢主令思潮等伺之。弘杲方宴客，思潮與譚令禪帥衛兵突入，斬弘杲。於是漢主謀盡誅諸弟，以越王弘昌賢而得衆，尤忌之。雄武節度使齊王弘弼，自居大鎮，懼禍，求入朝許之。○初，閩主曦侍康宗宴，會新羅獻寶劍，康宗舉以示同平章事王倓曰：「此何所施？」倓對曰：「斬爲臣不忠者。」時曦已蓄異志，凜然變色。至是宴羣臣，復有獻劍者，曦命發倓冢，斬其尸，校書郎陳光逸謂其友曰：「主上失德，亡無日矣。吾欲死諫，其友止之，不從。上書諫曦大惡五十事，曦怒，命衛士鞭之數百，不死。以繩繫其頸，懸諸庭樹，久之乃絕。」○秋七月己丑，詔以年饑，國用不足，分遣使者六十餘人於諸道括民穀。○吳越王弘佐初立，上統軍使闕璠彊戾，排斥異己，弘佐不能制。內牙上都監使章德安數與之爭。右都監使李文慶不附於璠，乙巳，貶德安于處州。文慶于陸州璠與右統軍使胡進思益專橫，璠明州人。文慶陸州人。進思湖州人也。○唐主緣烈祖意，以天雄節度使兼中書令金陵尹燕王景遂爲諸道兵馬元帥，徙封齊王，居東宮。天平節度使守侍中東都留守鄂王景達爲副元帥，徙封燕王，宣告中外，約以傳位。立長子弘冀爲南昌王。景

遂景達固辭不許。景遂自誓，必不敢爲嗣。更其字曰退身。○漢指揮使萬景忻敗張遇賢於循州，遇賢告于神，神曰：「取虔州，則大事可成。」遇賢帥衆踰嶺趨虔州。唐百勝節度使賈匡浩不爲備，遇賢衆十餘萬攻陷諸縣，再敗州兵。城門晝閉，遇賢作宮室營署于白雲洞，遣將四出剽掠。匡浩公鐸之子也。○八月乙卯，唐主立弟景邁爲保寧王。宋太后怨种夫人屢欲害景邁，唐主力保全之。○夏州牙內指揮使拓跋崇斌謀作亂，綏州刺史李彝敏將助之。事覺，辛未，彝敏棄州，與其弟彝俊等五人奔延州。○九月，尊帝母秦國夫人安氏爲皇太妃。妃代北人也。帝事太后太妃甚謹，待諸弟亦友愛。○初，河陽牙將喬榮從趙延壽入契丹，契丹以爲回圖使，往來販易於晉，置邸大梁，及契丹與晉有隙，景延廣說帝囚榮於獄，悉取邸中之貨，凡契丹之人販易在晉境者，皆殺之，奪其貨。大臣皆言契丹有大功，不可負。戊子，釋榮，慰賜而歸之。榮辭延廣，延廣大言曰：「歸語而主，先帝爲北朝所立，故稱臣奉表，今上乃中國所立，所以降志於北朝者，正以不敢忘先帝盟約故耳。爲鄰稱孫足矣，無稱臣之理。北朝皇帝勿信趙延壽誑誘，輕侮中國，中國士馬爾所目睹，翁怒則來戰，孫有十萬橫磨劍，足以相待。他日爲孫所敗，取笑天下，毋悔也。」榮自以亡失貨財，恐歸獲罪，且欲爲異時據驗，乃曰：「公所言頗多，懼有遺忘，願記之。」紙墨延廣命吏書其語以授之。榮具以白契丹主，契丹主大怒，入寇之志始決。晉使如契丹，皆繫之幽州，不得見。桑維翰屢請遜辭以謝契丹，每爲延廣所沮。帝以延廣有定策功，故寵冠羣臣，又總宿衛兵，故大臣莫能與之爭。河東節度使劉知遠知延廣必致寇，而畏其方用事，不敢言。但益募兵，奏置興捷武節等十餘軍，以備契丹。○甲午，定難節度使李彝殷奏李彝敏作亂之狀，詔執彝敏，送夏州斬之。○冬十月戊申，立吳國夫人馮氏爲皇后。初，高祖愛少弟重胤，養以爲子，及留守鄴都，娶副留守安喜馮濛女爲其婦。重胤早卒，馮夫人寡居，有美色，帝見而悅之。高祖崩，梓宮在殯，帝遂納之。羣臣皆賀，帝謂馮

道等曰。皇太后之命。與卿等不任大慶。羣臣出。帝與夫人酣飲。過梓宮前。酸而告曰。皇太后之命。與先帝不任大慶。左右失笑。帝亦自笑。顧謂左右曰。我今日作新婿。何如。夫人與左右皆大笑。太后雖悲。而無如之何。既正位中宮。頗預政事。后兄玉。時爲禮部郎中。鹽鐵判官。帝驟擢用。至端明殿學士。戶部侍郎。與議政事。○漢主命韶王弘雅致仕。○唐主遣洪州營屯都虞候嚴恩。將兵討張遇賢。以通事舍人金陵邊鎬爲監軍。鎬用虔州人白昌裕爲謀主。擊張遇賢。屢破之。遇賢禱於神。神不復言。其徒大懼。昌裕勸鎬伐木開道。出其營後襲之。遇賢棄衆奔別將李台。台知神無驗。執遇賢以降。斬於金陵市。○十一月。丁亥。漢主祀南郊。大赦。改元乾和。○戊子。吳越王弘佐納妃仰氏。仁詮之女也。○初。高祖以馬三百借平盧節度使楊光遠。景延廣以詔命取之。光遠怒曰。是疑我也。密召其子單州刺史承祚。戊戌。承祚稱母病。夜開門奔青州。庚子。以左飛龍使金城何超權知單州。遣內班賜光遠玉帶御馬。以安其意。壬寅。遣侍衛步軍都指揮使郭謹。將兵戍鄆州。○唐葬光文肅武孝高皇帝于永陵。廟號烈祖。○十二月。乙巳朔。遣左領軍衛將軍蔡行遇。將兵戍鄆州。楊光遠遣騎兵入淄州。劫刺史翟進宗。歸于青州。甲寅。徙楊承祚爲登州刺史。以從其便。光遠益驕。密告契丹。以晉主負德。違盟。境內大饑。公私困竭。乘此際攻之。一舉可取。趙延壽亦勸之。契丹主乃集山後及盧龍兵。合五萬人。使延壽將之。委延壽經略中國。曰。若得之。當立汝爲帝。又常指延壽謂晉人曰。此汝主也。延壽信之。由是爲契丹盡力。盡取中國之策。朝廷頗聞其謀。丙辰。遣使城南樂及德清軍。徵近道兵以備之。○唐侍中周宗年老。恭謹自守。中書令宋齊丘廣樹朋黨。百計傾之。宗泣訴於唐主。唐主由是薄齊丘。既而陳覺被疎。乃出齊丘爲鎮海節度使。齊丘忿。表乞歸九華舊隱。唐主知其詐。一表即從之。賜書曰。明日之行。昔時相許。朕實知公。故不奪公志。仍賜號九華先生。封青陽公。食一縣租稅。齊丘乃治大第於青陽。服御將吏皆如王公。

而憤邑尤甚。○寧州會長莫彥殊。以所部溫那等十八州。附于楚。其州無官府。惟立牌於岡阜。略以恩威羈縻而已。○是歲。春夏旱。秋冬水蝗大起。東自海墻。西距隴坻。南踰江淮。北抵幽薊。原野山谷。城郭廬舍。皆滿。竹木葉俱盡。重以官括民穀。使者督責嚴急。至封碓磳。不留其食。有坐匿穀抵死者。縣令往往以督趣不辦。納印自劾去。民餒死者數十萬口。流亡不可勝數。於是留守節度使。下至將軍。各獻馬金帛芻粟。以助國。朝廷以恆定饑甚。獨不括民穀。順國節度使杜威。奏稱軍食不足。請如諸州例。許之。威用判官王緒謀。檢索殆盡。得百萬斛。威止奏三十萬斛。餘皆入其家。令判官李沼稱貸於民。復滿百萬斛。來春糶之。得緡錢二百萬。闔境苦之。定州吏欲援例爲奏。義武節度使馬全節不許曰。吾爲觀察使。職在養民。豈忍效彼所爲乎。○楚地多產金銀。茶利尤厚。由是財貨豐殖。而楚王希範。奢欲無厭。喜自誇大。爲長槍大槩。飾之以金。可執而不可用。募富民年少肥澤者八千人。爲銀槍都。宮室園囿。服用之物。務窮侈靡。作九龍殿。刻沉香爲八龍。飾以金寶。長十餘丈。抱柱相向。希範居其中。自爲一龍。其僕頭。脚長丈餘。以象龍角。用度不足。重爲賦斂。每遣使者行田。專以增頃畝爲功。民不勝租賦而逃。王曰。但令田在。何憂無穀。命營田使鄧懿文。籍逃田。募民耕藝。出租。民捨故從新。僅能自存。自西徂東。各失其業。又聽人入財拜官。以財多少爲官高卑之差。富商大賈。布在列位。外官還者。必責貢獻。民有罪。則富者輸財。強者爲兵。惟貧弱受刑。又置函使人。投匿名書。相告訐。至有滅族者。是歲。用孔目官周陟議。令常稅之外。大縣貢米二千斛。中千斛。小七百斛。無米者輸布帛。天策學士拓跋恆上書曰。殿下長深宮之中。藉已成之業。身不知稼穡之勞。耳不聞鼓鼙之音。馳騁遨遊。雕牆玉食。府庫盡矣。而浮費益甚。百姓困矣。而厚斂不息。今淮南爲仇讎之國。番禺懷吞噬之志。荆渚日圖窺伺。溪洞待我姑息。諺曰。足寒傷心。民怨傷國。願罷輸米之令。誅周陟。以謝郡縣。去不急之務。減興作之役。無令一旦禍敗。爲

四方所笑。王大怒。他日。恆請見。辭以晝寢。恆謂客將區弘練曰。王逞欲而懷諫。吾見其千口飄零。無日矣。王益怒。遂終身不復見之。○閩主曦嫁其女。取班簿閱視之。朝士有不賀者。十人。皆杖之於朝堂。以御史中丞劉贊不舉劾。亦將杖之。贊義不受辱。欲自殺。諫議大夫鄭元弼諫曰。古者刑不上大夫。中丞儀刑百僚。豈宜加之箠楚。曦正色曰。卿欲劾魏徵邪。元弼曰。臣以陛下為唐太宗。故敢劾魏徵。曦怒稍解。乃釋贊。贊竟以憂卒。

開運元年春正月乙亥。邊藩馳告契丹前鋒將趙延壽。趙延昭將兵五萬入寇逼貝州。延昭思溫之子也。先是朝廷以貝州水陸要衝。多聚芻粟。為大軍數年之儲。以備契丹軍校邵珂。性凶悖。永清節度使王令溫黜之。珂怨望。密遣人亡入契丹言。貝州粟多而兵弱。易取也。會令溫入朝。執政以前復州防禦使吳玘權知州事。玘至。推誠撫士。會契丹入寇。玘書生無爪牙。珂自請願効死。玘使將兵守南門。玘自守東門。契丹主自攻貝州。玘悉力拒之。燒其攻具。殆盡。己卯。契丹復攻城。珂引契丹自南門入。玘赴井死。契丹遂陷貝州。所殺且萬人。庚辰。以歸德節度使高行周為北面行營都部署。以河陽節度使符彥卿為馬軍左廂排陳使。以右神武統軍皇甫遇為馬軍右廂排陳使。以陝府節度使王周為步軍左廂排陳使。以左羽林將軍潘環為步軍右廂排陳使。○太原奏契丹入。雁門關。恆邪滄皆奏。契丹入寇。○成德節度使杜威遣幕僚曹光裔詣楊光遠。為陳禍福。光遠遣光裔入奏。稱承祚逃歸。母疾故爾。既蒙恩宥。闔族荷恩。朝廷信其言。遣使與光裔復往慰諭之。○唐以侍中周宗為鎮南節度使。左僕射兼門下侍郎同平章事張居詠為鎮海節度使。○唐主決欲傳位於齊燕二王。翰林學士馮延巳等因之。欲隔絕中外。以擅權。辛巳。敕齊王景遂。參決庶政。百官惟樞密副使魏岑。查文徽。得白事。餘非召對不得見。國人大駭。給事中蕭儼。上疏極論。不報。侍衛都虞候賈崇。叩閣求見曰。臣事先帝三十年。觀其延接疎遠。孜孜不忘。下情猶有不通者。陛下新即

位。所任者何人。而頓與羣臣謝絕。臣老矣。不復得奉顏色。因涕泗嗚咽。唐主感悟。遽收前敕。唐主於宮中作高樓。召侍臣觀之。眾皆歎美。蕭儼曰。恨樓下無井。唐主問其故。對曰。以此不及景陽樓耳。唐主怒。貶於舒州。觀察使孫晟遣兵防之。儼曰。儼以諫諍得罪。非有他志。昔顧命之際。君幾危社稷。其罪顧不重於儼乎。今日反見防邪。晟慙懼。遽罷之。○帝遣使持書遣契丹。契丹已屯鄴都。不得通而返。壬午。以待衛馬步都指揮使景延廣為御營使。前靜難節度使李周為東京留守。是日。高行周以前軍先發。時用兵。方略號令。皆出延廣。宰相以下。皆無所預。延廣乘勢使氣。陵侮諸將。雖天子亦不能制。乙酉。帝發東京。丁亥。滑州奏契丹至黎陽。戊子。帝至澶州。契丹主屯元城。趙延壽屯南樂。以延壽為魏博節度使。封魏王。契丹寇太原。劉知遠與白承福合兵二萬擊之。甲午。以知遠為幽州道行營招討使。杜威為副使。馬全節為都虞候。丙申。遣右武衛上將軍張彥澤等將兵拒契丹於黎陽。○戊戌。蜀主復以將相遙領節度使。○帝復遣譯者孟守忠致書於契丹。求修舊好。契丹主復書曰。已成之勢。不可改也。辛丑。太原奏破契丹偉王於秀容。斬首三千級。契丹自鴉鳴谷遁去。○殷鑄天德通寶大鐵錢。一當百。○唐主遣使遣閩主曦及殷主延政書責以兄弟尋戈。曦復書引周公誅管蔡。唐太宗誅建成元吉為比。延政復書斥唐主奪楊氏國。唐主怒。遂與殷絕。○天平節度副使知鄆州顏衍遣觀察判官竇儀奏。博州刺史周儒以城降契丹。又與楊光遠通。使往還。引契丹自馬家口濟河。擒左武衛將軍蔡行遇。儀謂景延廣曰。虜若濟河。與光遠合。則河南危矣。延廣然之。儀。薊州人也。

資治通鑑卷第二百八十三

後晉紀 齊王上開運元年

資治通鑑卷第二百八十四

後晉紀五

齊王中

開運元年二月甲辰朔命前保義節度使石贊守麻家口前威勝節度使何重建守楊劉鎮護聖都指揮使白再榮守馬家口西京留守安彥威守河陽未幾周儒引契丹將麻荅自馬家口濟河營於東岸攻鄆州北津以應楊光遠麻荅契丹主之從弟也乙巳遣侍衛馬軍都指揮使義成節度使李守貞神武統軍皇甫遇陳州防禦使梁漢璋懷州刺史薛懷讓將兵萬人緣河水陸俱進守貞河陽漢璋應州懷讓太原人也丙午契丹圍高行周符彥卿及先鋒指揮使石公霸於戚城先是景延廣令諸將分地而守無得相救行周等告急延廣徐白帝帝自將救之契丹解去三將泣訴救兵之緩幾不免戊申李守貞等至馬家口契丹遣步卒萬人築壘散騎兵於其外餘兵數萬屯河西船數千艘度兵未已晉兵薄之契丹騎兵退走晉兵進攻其壘拔之契丹大敗乘馬赴河溺死者數千人俘斬亦數千人河西之兵慟哭而去由是不敢復東○辛亥定難節度使李彝殷奏將兵四萬自麟州濟河侵契丹之境壬子以彝殷為契丹西南面招討使初契丹主得貝州博州皆撫慰其人或拜官賜服章及敗於戚城及馬家口忿恚所得民皆殺之得軍士燔炙之由是晉人憤怒戮力爭奮楊光遠將青州兵欲西會契丹戊午詔石贊分兵屯鄆州以備之詔劉知遠將部兵自土門出恆州擊契丹又詔會杜威馬全節於邢州知遠引兵屯樂平不進○帝居喪期年即於宮中奏細聲

女樂及出師常令左右奏三絃琵琶和以羌笛擊鼓歌舞曰此非樂也庚申百官表請聽樂詔不許○壬戌楊光遠圍棣州刺史李瓊出兵擊敗之光遠燒營走還青州癸亥以前威勝節度使何重建為東面馬步都部署將兵屯鄆州○階州義軍指揮使王君懷帥所部千餘人叛降蜀請為鄉道以取階成甲子蜀人攻階州○契丹偽棄元城去伏精騎於古頓丘城以俟晉軍與恆定之兵合而擊之鄴都留守張從恩屢奏虜已遁去大軍欲進追之會霖雨而止契丹設伏旬日人馬飢疲趙延壽曰晉軍悉在河上畏我鋒銳必不敢前不如即其城下四合攻之奪其浮梁則天下定矣契丹主從之三月癸酉朔自將兵十餘萬陳於澶州城北東西橫掩城之兩隅登城望之不見其際高行周前軍在戚城之南與契丹戰自午至晡互有勝負契丹主以精兵當中軍而來帝亦出陳以待之契丹主望見晉軍之盛謂左右曰楊光遠言晉兵半已餒死今何其多也以精騎左右略陳晉軍不動萬弩齊發飛矢蔽地契丹稍却又攻晉陳之東偏不克苦戰至暮兩軍死者不可勝數昏後契丹引去營於三十里之外乙亥契丹主帳中小校竊其馬亡來云契丹已傳木書收軍北去景延廣疑其詐閉壁不敢追○漢主命書令都元帥越王弘昌謁烈宗陵於海曲至昌華宮使盜殺之○契丹主自澶州北分為兩軍一出滄德一出深冀而歸所過焚掠方廣千里民物殆盡留趙延照為貝州留後麻荅陷德州擒刺史尹居璠○閩拱宸都指揮使朱文進閩門使連重遇既弒康宗常懼國人之討相與結昏以自固閩主曦果於誅殺嘗遊西園因醉殺控鶴指揮使魏從朗從朗朱連之黨也又嘗酒酣誦白居易詩云惟有人心相對問咫尺之情不能料因舉酒屬二人二人起流涕再拜曰臣子事君父安有它志曦不應二人大懼李后妬尚賢妃之寵欲弒曦而立其子亞澄使人告二人曰主上殊不平於二公奈何會后父李真有疾乙酉曦如真第問疾文進重遇使拱宸馬步使錢達弒曦於馬上召百官集朝堂告之曰太祖昭

武皇帝。光啓閩國。今子孫淫虐。荒墜厥緒。天厭王氏。宜更擇有德者立之。衆莫敢言。重遇乃推文進升殿。被袞冕。帥羣臣北面。再拜稱臣。文進自稱閩主。悉收王氏宗族。延喜以下少長五十餘人。皆殺之。葬閩主曦。諡曰睿。文廣武明聖元德隆道大孝皇帝。廟號景宗。以重遇總六軍。禮部尚書。判三司。鄭元弼抗辭不屆。黜歸田里。將奔建州。文進殺之。文進下令。出宮人。罷營造。以反曦之政。殷主延政遣統軍使吳成義。將兵討文進。不克。文進加樞密使。鮑思潤同平章事。以羽林統軍使黃紹頗爲泉州刺史。左軍使程文緯爲漳州刺史。汀州刺史同安許文積。舉郡降之。○丁亥。詔太原恆定兵各還本鎮。○辛卯。馬全節攻契丹泰州。拔之。○勅天下籍鄉兵。每七戶共出兵械資一卒。○秦州兵救階州。出黃階嶺。敗蜀兵於西平。○漢以戶部侍郎陳偃同平章事。○夏四月丁未。緣河巡檢使梁進以鄉社兵復取德州。己酉。命歸德節度使高行周保義節度使王周留鎮澶州。庚戌。帝發澶州。甲寅。至大梁。侍衛馬步都指揮使。天平節度使。同平章事。景延廣。旣爲上下所惡。帝亦憚其不遜難制。桑維翰引其不救咸城之罪。辛酉。加延廣兼侍中。出爲西京留守。以歸德節度使兼侍中高行周爲侍衛馬步都指揮使。延廣鬱鬱不得志。見契丹疆盛。始憂國破身危。遂日夜縱酒。朝廷因契丹入寇。國用愈竭。復遣使者三十六人。分道括率民財。各封劔以授之。使者多從吏卒。攜鎖械刀杖入民家。小大驚懼。求死無地。州縣吏復因緣爲姦。河南府出緡錢二十萬。景延廣率三十七萬留守判官盧億言於延廣曰。公位兼將相。富貴極矣。今國家不幸。府庫空竭。不得已取於民。公何忍復因而求利。爲子孫之累乎。延廣慙而止。先是。詔以楊光遠叛。命兗州脩守備。泰寧節度使安審信。以治樓堞爲名。率民財以實私藏。大理卿張仁愿爲括率使。至兗州。賦緡錢十萬。值審信不在。拘其守藏吏。指取錢一困。已滿其數。○戊寅。命侍衛馬步軍都虞候泰寧節度使李守貞將步騎二萬討楊光遠於青州。又遣神武統軍洛陽潘環及張彥澤等將兵

屯澶州。以備契丹。契丹遣兵救青州。齊州防禦使堂陽薛可言邀擊敗之。○丙戌。詔諸州所籍鄉兵。號武定軍。凡得七萬餘人。時兵荒之餘。復有此擾。民不聊生。○丁亥。鄴都留守張從恩上言。趙延照雖據貝州。麾下兵皆久客思歸。宜速進軍攻之。詔以從恩爲貝州行營都部署。督諸將擊之。辛卯。從恩奏。趙延照縱火大掠。棄城而遁。屯於瀛莫。阻水自固。○朱文進遣使如唐。唐主囚其使。將伐之。會天暑疾疫而止。○六月辛丑朔。官軍拔淄州。斬其刺史劉翰。譬如使禪僧飛鷹耳。○癸卯。以道爲匡國節度使。兼侍中。○乙巳。漢主幽齊王弘弼于私第。○或謂帝曰。陛下欲禦北狄。安天下。非桑維翰不可。丙午。復置樞密院。以維翰爲中書令。兼樞密使。事無大小。悉以委之。數月之間。朝廷差治。○滑州河決。浸汴曹單濮鄆五州之境。環梁山。合于汶。詔大發數道丁夫塞之。旣塞。帝欲刻碑紀其事。中書舍人楊昭儉諫曰。陛下刻石紀功。不若降哀痛之詔。染翰頌美。不若頌罪己之文。帝善其言而止。○初。高祖割北邊之地。以賂契丹。由是府州刺史折從遠亦北屬契丹。欲盡徙河西之民。以實遼東。州人大恐。從遠因保險拒之。及帝與契丹絕。遣使諭從遠。使攻契丹。從遠引兵深入。拔十餘寨。戊午。以從遠爲府州團練使。從遠雲州人也。○甲子。復置翰林學士。戊辰。以右散騎常侍李愼儀爲兵部侍郎。翰林學士承旨都官郎中劉溫叟。金部郎中知制誥武強徐台符。禮部郎中李潛。主客員外郎宗城范質。皆爲學士。溫叟岳之子也。○秋七月辛未朔。大赦。改元。○己丑。以太子太傅劉昫爲司空。兼門下侍郎。同平章事。○八月辛丑朔。以河東節度使劉知遠爲北面行營都統。順國節度使杜威爲都招討使。督十三節度。以備契丹。桑維翰兩秉朝政。出楊光遠景延廣於外。至是一制指揮。節度使十五人。無敢違者。時人服其膽略。朔方節度使馮暉。上章自陳。未老可用。而制書見遺。維翰詔禁直學士。使爲答詔曰。非制書忽忘。實以朔方重地。

非卿無以彈壓。比欲移卿內地，受代亦須奇才。暉得詔甚喜。時軍國多事，百司及使者咨請輻湊。維翰隨事裁決。初若不經思慮，人疑其疎略。退而熟議之，亦終不能易也。然為相，頗任愛憎。一飯之恩，睚眦之怨，必報。人以此少之。契丹之入寇也，帝再命劉知遠會兵山東。皆後期不至。帝疑之，謂所親曰：「太原殊不助朕，必有異圖。果有分，何不速為之。至是，雖為都統，而實無臨制之權。密謀大計，皆不得預。知遠亦自知見疎，但慎事自守而已。郭威見知遠有憂色，謂知遠曰：「河東山川險固，風俗尚武，士多戰馬，靜則勤稼穡，動則習軍旅。此霸王之資也。何憂乎？」朱文進自稱威武留後，權知閩國事。遣使奉表稱藩于晉。癸丑，以文進為威武節度使。知閩國事。○癸亥，置鎮寧軍於澶州，以濮州隸焉。○初，吳濠州刺史劉金卒，子仁規代之。仁規卒，子崇俊代之。唐烈祖置定遠軍於濠州，以崇俊為節度使。會清淮節度使姚景卒，崇俊厚賂權要，求兼領壽州。唐主陽為不知其意，徙崇俊為清淮節度使，以楚州刺史劉彥貞為濠州觀察使，馳往代之。崇俊悔之，彥貞信之子也。○九月，庚午朔，日有食之。○丙子，契丹寇遂城。樂壽、深州刺史康彥進擊却之。○冬，十月，丙午，漢主毒殺鎮王弘澤于邕州。○殷主延政遣其將陳敬佺以兵三千屯尤溪，及古田。盧進以兵二千屯長溪。泉州散員指揮使桃林留從效謂同列王忠順、董思安、張漢思曰：「朱文進屠滅王氏，遣腹心分據諸州，吾屬世受王氏恩，而交臂事賊。一旦富沙王克福州，吾屬死有餘愧。衆以為然。十一月，從效等各引軍中所善壯士，夜飲於從效之家。從效給之曰：「富沙王已平福州，密旨令吾屬討黃紹顛，吾觀諸君狀貌，皆非久處貧賤者。從吾言，富貴可圖。不然，禍且至矣。衆皆踊躍，操白梃踰垣而入。執紹顛，斬之。從效持州印詣王繼勳第，請主軍府。從效自稱平賊統軍使，函紹顛首，遣副兵馬使臨淮陳洪進齎詣建州。洪進至尤溪，福州戍兵數千遮道，洪進給之曰：「義師已誅朱福州，吾倍道逆嗣君于建州，爾輩尚守此，何為乎？以紹顛首示之，衆遂潰。大將數人從洪進

詣建州。延政以繼勳為侍中、泉州刺史，從效忠順、思安、洪進皆為都指揮使。漳州將程謨聞之，亡殺刺史程文緯，立王繼成權州事。繼勳繼成皆延政之從子也。朱文進之滅王氏，二人以疎遠獲全。汀州刺史許文稹奉表請降於殷。○十二月，癸丑，加朱文進同平章事，封閩國王。○李守貞圍青州。經時，城中食盡，餓死者大半。契丹援兵不至，楊光遠遙稽首于契丹曰：「皇帝皇帝誤光遠矣。其子承勳承祚承信，勸光遠降。冀全其族。光遠不許曰：「吾昔在代北，嘗以紙錢祭天池，而沈人皆言當為天子。姑待之。丁巳，承勳斬勸光遠反者節度判官丘濬等，送其首于守貞。縱火大譟，劫其父，出居私第。上表待罪，開城納官軍。○朱文進聞黃紹顛死，大懼，以重賞募兵二萬，遣統軍使林守諒、內客省使李廷鏐將之，攻泉州。鉦鼓相聞五百里。殷主延政遣大將軍杜進將兵二萬救泉州，留從效開門與福州兵戰，大破之。斬守諒，執廷鏐。延政遣統軍使吳成義帥戰艦千艘攻福州。朱文進遣子弟為質於吳越，以求救。初，唐翰林待詔臧循與樞密副使查文徽同鄉里，循常為賈人習福建山川，為文徽畫取建州之策。文徽表請用兵擊王延政，國人多以為不可。唐主以文徽為江西安撫使，循行境上，覘其可否。文徽至信州，奏言：「攻之必克。唐主以洪州營屯都虞候邊鎬為行營，招討諸軍都虞候將兵從文徽伐殷。文徽自建陽進屯蓋竹，聞泉漳汀三州皆降于殷，殷將張漢卿自鏞州將兵八千將至。文徽懼，退保建陽。臧循屯邵武，邵武民導殷兵，襲破循軍，執循送建州。斬之。○朝廷以楊光遠罪大，而諸子歸命，難於顯誅，命李守貞以便宜從事。閏月，癸酉，守貞入青州，遣人拉殺光遠於別第，以病死聞。丙戌，起復楊承勳除汝州防禦使。○殷吳成義聞有唐兵詐使人告福州吏民曰：「唐助我討賊臣，大兵今至矣。福人益懼。乙未，朱文進遣同平章事李光準等奉國寶于殷。丁酉，福州南廊承旨林仁翰謂其徒曰：「吾曹世事王氏，今受制賊臣，富沙王至，何面見之。帥其徒三十人，被甲趣連重遇第，重遇方嚴，兵自衛，三十人者望之，稍稍遁

去。仁翰執契直前刺重遇殺之。斬其首以示衆曰：富沙王且至，汝輩族矣。今重遇已死，何不亟取文進以贖罪。衆踊躍從之。遂斬文進，迎吳成義入城，函二首送建州。○契丹復大舉入寇。盧龍節度使趙延壽引兵先進，契丹前鋒至邢州。順國節度使杜威遣使問道告急。帝欲自將拒之。會有疾，命天平節度使張從恩、鄴都留守馬全節、護國節度使安審琦會諸道兵屯邢州。武寧節度使趙在禮屯鄴都。契丹主以大兵繼至，建牙於元氏。朝廷憚契丹之盛，詔從恩等引兵稍却。於是諸軍情懼，無復部伍，委棄器甲。所過焚掠，比至相州，不復能整。二年春正月，詔趙在禮還屯澶州，馬全節還鄴都。又遣右神武統軍張彥澤屯黎陽，西京留守景延廣自滑州引兵守胡梁渡。庚子，張從恩奏契丹逼邢州，詔滑州鄴都復進軍拒之。義成節度使皇甫遇將兵趣邢州。契丹寇邢，洛磁三州殺掠殆盡，入鄴都境。壬子，張從恩、馬全節、安審琦悉以行營兵數萬陳於相州安陽水之南。皇甫遇與濮州刺史慕容彥超將數千騎前覘契丹，至鄴縣，將度漳水。遇契丹數萬，遇等且戰且却。至榆林店，契丹大至。二將謀曰：吾屬今走，死無遺矣。乃止布陳。自午至未，力戰百餘合，相殺傷甚衆。遇馬斃，因步戰。其僕杜知敏以所乘馬授之，遇乘馬復戰。久之稍解，顧知敏已為契丹所擒，遇曰：知敏義士，不可棄也。與彥超躍馬入契丹陳，取知敏而還。俄而契丹繼出新兵來戰。二將曰：吾屬勢不可走，以死報國耳。日且暮，安陽諸將怪覘兵不還。安審琦曰：皇甫太師寂無音問，必為虜所困，語未卒，有二騎白，遇等為虜數萬所圍。審琦即引騎兵出將救之。張從恩曰：此言未足信，必若虜衆狠至，盡吾軍，恐未足以當之。公往何益。審琦曰：成敗天也。萬一不濟，當共受之。借使虜不南來，坐失皇甫太師，吾屬何顏。以見天子。遂踰水而進。契丹望見塵起，即解去。遇等乃得還。與諸將俱歸相州。軍中皆服二將之勇。彥超本吐谷渾也。與劉知遠同母。契丹亦引軍退。其衆自相驚曰：晉軍悉至矣。時契丹主在邯鄲聞之，即時北遁，不再宿至鼓城。是夕，張從恩等

議曰：契丹傾國而來，吾兵不多，城中糧不支一旬，萬一姦人往告吾虛實，虜悉衆圍我，死無日矣。不若引軍就黎陽倉，南倚大河以拒之，可以萬全。議未決，從恩引兵先發，諸軍繼之。擾亂失亡，復如發邢州之時。從恩留步兵五百守安陽橋，夜四鼓，知相州事符彥倫謂將佐曰：此夕紛紜，人無固志，五百弊卒，安能守橋。即召入，乘城為備。至曙，望之。契丹數萬騎已陳于安陽水北。彥倫命城上揚旌，鼓譟約束。契丹不測，日加辰，趙延壽與契丹惕隱帥衆踰水環相州而南。詔右神武統軍張彥澤將兵趣相州。延壽等至湯陰，聞之。甲寅，引還。馬全節等擁大軍在黎陽，不敢追。延壽悉陳甲騎於相州城下。若將攻城，狀符彥倫曰：此虜將走耳。出甲卒五百，陳於城北以待之。契丹果引去。以天平節度使張從恩權東京留守。庚申，振武節度使折從遠擊契丹，圍勝州。遂攻朔州。帝疾小愈，河北相繼告急。帝曰：此非安寢之時，乃部分諸將為行計。○更命武定軍曰天威軍。○北面副招討使馬全節等奏：據降者言，虜衆不多，宜乘其散歸，種落大舉徑襲幽州。帝以為然，徵兵諸道。壬戌，下詔親征。乙丑，帝發大梁。○閩之故臣共迎殷主延政，請歸福州。改國號曰閩。延政以方有唐兵，未暇徙都。以從子門下侍郎同平章事繼昌都督南都內外諸軍事，鎮福州。以飛捷指揮使黃仁諷為鎮遏使，將兵衛之。林仁翰至福州，閩主賞之甚薄。仁翰未嘗自言其功，發南都侍衛及兩軍甲士萬五千人詣建州，以拒唐。○二月，戊辰朔，帝至滑州。命安審琦屯鄴都，甲戌，帝發滑州。乙亥，至澶州。已卯，馬全節等諸軍以次北上。劉知遠聞之曰：中國疲弊，自守恐不足，乃橫挑強胡，勝之猶有後患，況不勝乎。契丹自恆州還，以羸兵驅牛羊過邢州城下。刺史下邳沈斌出兵擊之。契丹以精騎奪其城門，州兵不得還。趙延壽知城中無餘兵，引契丹急攻之。斌在上，延壽語之曰：沈使君，吾之故人，擇禍莫若輕，何不早降。斌曰：侍中父子失計，陷身虜庭，忍帥犬羊以殘父母之邦，不自愧恥，更有驕色，何哉。沈斌弓折矢盡，寧為國家死耳。終不効。公所為，明日城陷。

斌自殺。○丙戌，詔北面行營都招討使杜威以本道兵會馬全節等進軍。○端明殿學士戶部侍郎馮玉宣徽北院使權侍衛馬步都虞候太原李彥韜皆挾恩用事。惡中書令桑維翰數毀之。帝欲罷維翰政事。李崧劉昫固諫而止。維翰知之。請以玉爲樞密副使。玉殊不平。丙申。中旨以玉爲戶部尚書樞密使。以分維翰之權。彥韜少事閻寶。爲僕夫。後隸高祖帳下。高祖自太原南下。留彥韜侍帝。爲腹心。由是有寵。性纖巧。與嬖幸相結。以蔽帝耳目。帝委信之。至于升黜將相。亦得預議。常謂人曰。吾不知朝廷設文官何所用。且欲澄汰。徐當盡去之。○唐查文徽表求益兵。唐主以天威都虞候何敬洙爲建州行營招討馬步都指揮使。將軍祖全恩爲應援使。姚鳳爲都監。將兵數千。會攻建州。自崇安進屯赤嶺。閩主延政遣僕射楊思恭統軍使陳望將兵萬人拒之。列柵水南。旬餘不戰。唐人不敵。逼思恭以延政之命督望戰。望曰。江淮兵精。其將習武事。國之安危繫此。一舉不可不萬全。而後動。思恭怒曰。唐兵深侵。陛下寢不交睫。委之將軍。今唐兵不出數千。將軍擁衆萬餘。不乘其未定而擊之。有如唐兵懼而自退。將軍何面目。以見陛下乎。望不得已。引兵涉水與唐戰。全恩等以大兵當其前。使奇兵出其後。大破之。望死。思恭僅以身免。延政大懼。嬰城自守。召董思安王忠順使將泉州兵五千詣建州分守要害。○初高祖置德清軍於故澶州城。及契丹入寇。澶州鄴都之間。城戍俱陷。議者以爲澶州鄴都相去百五十里。宜於中途築城。以應接南北。從之。三月。戊戌。更築德清軍城。合德清南樂之民以實之。○初光州人李仁達仕閩。爲元從指揮使。十五年。不遷職。閩主曦之世。叛奔建州。閩主延政以爲將。及朱文進弒曦。復叛奔福州。陳取建州之策。文進惡其反覆。黜居福清。浦城人陳繼珣亦叛。閩主延政奔福州。爲曦畫策取建州。曦以爲著作郎。及延政得福州。二人皆不自安。王繼昌闇弱嗜酒。不恤將士。將士多怨。仁達潛入福州。說黃仁諷曰。今唐兵乘勝建州。孤危富沙王不能保建州。安能保福州。昔王潮兄弟光山

布衣耳。取福建如反掌。況吾輩乘此機會。自圖富貴。何患不如彼乎。仁諷然之。是夕。仁達等引甲士突入府舍。殺繼昌及吳成義。仁達欲自立。恐衆心未服。以雪峯寺僧卓巖明素爲衆所重。乃言。此僧目重瞳子。手垂過膝。真天子也。相與迎之。己亥。立爲帝。解去衲衣。被以袞冕。帥將吏北面拜之。然猶稱天福十年。遣使奉表稱藩于晉。延政聞之。族黃仁諷家。命統軍使張漢真將水軍五千。會漳泉兵討巖明。○乙巳。杜威等諸軍會于定州。以供奉官蕭處鈞權知祁州事。庚戌。諸軍攻契丹泰州。刺史晉廷謙舉州降。甲寅。取滿城。獲契丹酋長沒刺。及其兵二千人。乙卯。取遂城。趙延壽部曲有降者言。契丹主還至虎北口。聞晉取泰州。復擁衆南向。約八萬餘騎。計來夕當至。宜速爲備。杜威等懼。丙辰。退保泰州。戊午。契丹至泰州。己未。晉軍南行。契丹踵之。晉軍至陽城。庚申。契丹大至。晉軍與戰。逐北十餘里。契丹踰白溝而去。壬戌。晉軍結陳而南。胡騎四合如山。諸軍力戰拒之。是日。纔行十餘里。人馬饑乏。癸亥。晉軍至白團衛村。埋鹿角爲行寨。契丹圍之。數重。奇兵出寨後。斷糧道。是夕。東北風大起。破屋折樹。營中掘井。方及水。輒崩。士卒取其泥。帛絞而飲之。人馬俱渴。至曙。風尤甚。契丹主坐大奚車中。令其衆曰。晉軍止此耳。當盡擒之。然後南取大梁。命鐵鷁四面下馬。拔鹿角而入。奮短兵以擊晉軍。又順風縱火揚塵。以助其勢。軍士皆憤怒大呼曰。都招討使何不用兵。令士卒徒死。諸將請出戰。杜威曰。俟風稍緩。徐觀可否。馬步都監李守貞曰。彼衆我寡。風沙之內。莫測多少。惟力鬪者勝。此風乃助我也。若俟風止。吾屬無類矣。卽呼曰。諸軍齊擊賊。又謂威曰。令公善守禦。守貞以中軍決死矣。馬軍左廂都排陳使張彥澤召諸將問計。皆曰。虜得風勢。宜俟風回與戰。彥澤亦以爲然。諸將退。馬軍右廂副排陳使太原藥元福獨留。謂彥澤曰。今軍中饑渴已甚。若俟風回。吾屬已爲虜矣。敵謂我不能逆風以戰。宜出其不意急擊之。此兵之詭道也。馬步左右廂都排陳使符彥卿曰。與其束手就擒。曷若以身殉國。乃與彥澤元福及

左廂都排陳使皇甫遇引精騎出西門擊之。諸將繼至。契丹却數百步。彥卿等謂守貞曰。且曳隊往來乎。直前奮擊。以勝爲度乎。守貞曰。事勢如此。安可迴輅。宜長驅取勝耳。彥卿等躍馬而去。風勢益甚。昏晦如夜。彥卿等擁萬餘騎。橫擊契丹。呼聲動天地。契丹大敗而走。勢如崩山。李守貞亦令步兵盡拔鹿角出鬪。步騎俱進。逐北二十餘里。鐵鶴既下馬。蒼皇不能復上。皆委棄馬。及鎧仗蔽地。契丹散卒至陽城東南水上。稍復布列。杜威曰。賊已破膽。不宜更令成列。遣精騎擊之。皆度水去。契丹主乘奚車。走十餘里。追兵急。獲一乘。馳乘之而走。諸將請急追之。杜威揚言曰。逢賊幸不死。更索衣囊邪。李守貞曰。兩日人馬渴甚。今得水飲之。皆足重。難以追寇。不若全軍而還。乃退保定州。契丹主至幽州。散兵稍集。以軍失利。杖其酋長各數百。唯趙廷壽得免。乙丑。諸軍自定州引歸。詔以秦州隸定州。○夏。四月。辛巳。帝發澶州。甲申。還大梁。○己丑。復以鄴都爲天雄軍。○閩張漢真至福州。攻其東關。黃仁諷聞家夷滅。開門力戰。大破閩兵。執漢真入城。斬之。卓巖明無它方略。但於殿上噴水散豆。作諸法事而已。又遣使迎其父於莆田。尊爲太上皇。李仁達既立巖明。自判六軍諸衛事。使黃仁諷屯西門。陳繼珣屯北門。仁諷從容謂繼珣曰。人之所以爲人者。以有忠信仁義也。吾頃嘗有功於富沙。中間叛之。非忠也。人以從子託我。而與人殺之。非信也。屬者與建兵戰。所殺皆鄉曲故人。非仁也。棄妻子。使人魚肉之。非義也。此身十沈九浮。死有餘愧。因拊膺慟哭。繼珣曰。大丈夫功名。何顧妻子。宜置此事。勿以取禍。仁達聞之。使人告仁諷。繼珣謀反。皆殺之。由是兵權盡歸仁達。○五月。丙申朔。大赦。○順國節度使杜威。久鎮恆州。性貪殘。自恃貴戚。多不法。每以備邊爲名。斂吏民錢帛。以充私藏。富室有珍貨。或名姝。駿馬。皆虐取之。或誣以罪殺之。籍沒其家。又畏懦過甚。每契丹數十騎入境。威已閉門登陴。或數騎驅所掠華人千百。過城下。威但瞋目延頸望之。無意邀取。由是虜無所忌憚。屬城多爲所屠。威竟不出一卒救之。千

里之間。暴骨如莽。村落殆盡。威見所部殘弊。爲衆所怨。又畏契丹之強。累表請入朝。帝不許。威不俟報。遽委鎮入朝。朝廷聞之。驚駭。桑維翰言於帝曰。威固違朝命。擅離邊鎮。居常憑恃勳舊。邀求姑息。及疆場多事。曾無守禦之意。宜因此時廢之。庶無後患。帝不悅。維翰曰。陛下不忍廢之。宜授以近京小鎮。勿復委以雄藩。帝曰。威朕之密親。必無異志。但宋國長公主。切欲相見耳。公勿以爲疑。維翰自是不敢復言國事。以足疾辭位。丙辰。威至大梁。○丁巳。李仁達大閱戰士。請卓巖明臨視。仁達陰教軍士。突前登階。刺殺巖明。仁達陽驚。狼狽而走。軍士共執仁達。使居巖明之坐。仁達乃自稱威武節度使。用保大年號。奉表稱藩于唐。亦遣使入貢于晉。并殺巖明之父。唐以仁達爲威武節度使。同平章事。賜名弘義。編之屬籍。弘義又遣使修好於吳越。○己未。杜威獻部曲步騎合四千人。并鎧仗。庚申。又獻粟十萬斛。芻二十萬束。云皆在本道。帝以其所獻騎兵。隸扈聖步兵。隸護國威復請以爲衛隊。而稟賜皆仰縣官。威又令公主白帝。求天雄節度。帝許之。○唐兵圍建州。屢破泉州兵。許文稹敗唐兵于汀州。執其將時厚卿。○六月。癸酉。以杜威爲天雄節度使。○契丹連歲入寇。中國疲於奔命。邊民塗地。契丹人畜亦多死。國人厭苦之。述律太后謂契丹主曰。使漢人爲胡主。可乎。曰。不可。太后曰。然則汝何故欲爲漢主。曰。石氏負恩。不可容。太后曰。汝今雖得漢地。不能居也。萬一蹉跌。悔何所及。又謂其羣下曰。漢兒何得一向眠。自古但聞漢和蕃。未聞蕃和漢。漢兒果能回意。我亦何惜與和。桑維翰屢勸帝。復請和於契丹。以紓國患。帝假開封軍將張暉供奉官。使奉表稱臣。詣契丹。卑辭謝過。契丹主曰。使景延廣。桑維翰。自來。仍割鎮定兩道隸我。則可和。朝廷以契丹語忿。謂其無和意。乃止。及契丹主入大梁。謂李崧等曰。曩使晉使再來。則南北不戰矣。○秋。七月。閩人或告福州援兵謀叛。閩主延政。收其鎧仗。遣還。伏兵於隘。盡殺之。死者八千餘人。脯其肉。以歸爲食。唐邊鎬拔鐔州。查文徽之黨魏岑。馮延巳。延魯。以師出有功。皆

踴躍贊成之。徵求供億。府庫爲之耗竭。洪饒撫信之民。尤苦之。延政遣使奉表。稱臣於吳越。請爲附庸。以求救。○楚王希範。疑靜江節度使兼侍中知朗州希杲。得人心。遣人伺之。希杲懼。稱疾求歸。不許。遣醫往視疾。因毒殺之。

資治通鑑卷第二百八十四

資治通鑑卷第二百八十五

後晉紀六

齊王下

開運二年八月甲子朔日有食之。○丙寅右僕射兼中書侍郎同平章事和凝。罷守本官。加樞密使。戶部尚書馮玉。中書侍郎同平章事。事無大小。悉以委之。帝自陽城之捷。謂天下無虞。驕侈益甚。四方貢獻珍奇。皆歸內府。多造器玩。廣宮室。崇飾後庭。近朝莫之及。作織錦樓。以織地衣。用織工數百。期年乃成。又賞賜優伶。無度。桑維翰諫曰。曷者陛下親禦胡寇。戰士重傷者。賞不過帛數端。今優人一談一笑。稱旨。往往賜束帛萬錢。錦袍銀帶。彼戰士見之。能不歎望曰。我曹冒白刃。絕筋折骨。曾不如一談一笑之功乎。如此。則士卒解體。陛下誰與衛社稷乎。帝不聽。馮玉每善承迎帝意。由是益有寵。嘗有疾在家。帝謂諸宰相曰。自刺史以上。俟馮玉出乃得除。其倚任如此。玉乘勢弄權。四方賂遺。輻輳其門。由是朝政益壞。○唐兵圍建州既久。建人離心。或謂董思安宜早擇去就。思安曰。吾世事王氏。危而叛之。天下其誰容我。衆感其言。無叛者。丁亥。唐先鋒橋道使上元王建封先登。遂克建州。閩主延政降。王忠順戰死。董思安整衆奔泉州。初唐兵之來。建人苦王氏之亂。與楊思恭之重斂。爭伐木開道。以迎之。及破建州。縱兵大掠。焚宮室。廬舍俱盡。是夕寒雨。凍死者相枕。建人失望。唐主以其有功。皆不問。○漢主殺詔王弘雅。○九月。許文稹以汀州。王繼勳以泉州。王繼成以漳州。皆降於唐。唐置永安軍於建州。○丙申。以西京留守兼侍中景延廣充北面行營副招討使。○殿

中監王欽祚。權知恆州事。會乏軍儲。詔欽祚括糴民粟。杜威有粟十餘萬斛。在恆州。欽祚舉籍以聞。威大怒。表稱臣有何罪。欽祚籍沒臣粟。朝廷爲之召欽祚還。仍厚賜威。以慰安之。○戊申。置威信軍於曹州。遣侍衛馬步都指揮使李守貞戍澶州。○乙卯。遣彰德節度使張彥澤戍恆州。○漢主殺劉思潮。林少強。林少良。何昌廷。以左僕射王翽。嘗與高祖謀立弘昌。出爲英州刺史。未至。賜死。內外皆懼。不自保。○冬。十月。癸巳。置鎮安軍於陳州。○唐元敬宋太后殂。○王延政至金陵。唐主以爲羽林大將軍。斬楊思恭。以謝建人。以百勝節度使王崇文爲永安節度使。崇文治以寬簡。建人遂安。○初。高麗王建。用兵吞滅鄰國。頗彊大。因胡僧襪囉言於高祖曰。勃海我昏姻也。其王爲契丹所虜。請與朝廷共擊取之。高祖不報。及帝與契丹爲仇。襪囉復言之。帝欲使高麗擾契丹東邊。以分其兵勢。會建卒。子武自稱。權知國事。上表告喪。十一月。戊戌。以武爲大義軍使。高麗王遣通事舍人郭仁遇。使其國諭指使擊契丹。仁遇至其國。見其兵極弱。羸者襪囉之言。特建爲誇誕耳。實不敢與契丹爲敵。仁遇還。武更以它故爲解。○乙卯。吳越王弘佐。誅內都監使杜昭達。己未。誅內牙上統軍使明州刺史關璠。昭達。建徽之孫也。與璠皆好貨。錢塘富人程昭悅。以貨結二人。得待弘佐左右。昭悅爲人狡佞。王悅之。寵待踰於舊將。璠不能平。昭悅知之。詣璠頓首謝罪。璠責讓久之。乃曰。吾始者決欲殺汝。今既悔過。吾亦釋然。昭悅懼。謀去璠。璠專而復。國人惡之者衆。昭悅欲出璠於外。恐璠覺之。私謂右統軍使胡進思曰。今欲除公及璠。各爲本州使。璠不疑。可乎。進思許之。乃以璠爲明州刺史。進思爲湖州刺史。璠怒曰。出我於外。是棄我也。進思曰。老兵得大州。幸矣。不行何爲。璠乃受命。既而復以它故留進思。內外馬步都統軍使錢仁俊。母杜昭達之姑也。昭悅因譖璠。昭達謀奉仁俊作亂。下獄。鍛鍊成之。璠昭達既誅。奪仁俊官。幽于東府。於是昭悅治關杜之黨。凡權任與己侔。意所忌者。誅放百餘人。國人畏之。側目。胡進思重厚寡言。昭

悅以爲憊。故獨存之。昭悅收仁俊故吏。愼溫其使。證仁俊之罪。拷掠備至。溫其堅守不屈。弘佐嘉之。擢爲國官。溫其。衢州人也。○十二月。乙丑。加吳越王弘佐東南面兵馬都元帥。○辛未。以前中書舍人廣晉陰鵬爲給事中。樞密直學士。鵬。馮玉之黨也。朝廷每有遷除。玉皆與鵬議之。由是請謁賂遺。充滿其門。○初。帝疾未平。會正旦。樞密使中書令桑維翰。遣女僕入宮。起居太后。因問皇弟睿。近讀書否。帝聞之。以告馮玉。玉因譖維翰。有廢立之志。帝疑之。李守貞素惡維翰。馮玉。李彥韜。與守貞合謀排之。以中書令行。開封尹趙瑩。柔而易制。共薦以代維翰。丁亥。罷維翰政事。爲開封尹。以瑩爲中書令。李崧爲樞密使。守侍中。維翰遂稱足疾。希復朝謁。杜絕賓客。或謂馮玉曰。桑公元老。今既解其樞務。縱不留之相位。猶當優以大藩。奈何使之尹京。親猥細之務乎。玉曰。恐其反耳。曰。儒生安能反。玉曰。縱不自反。恐其教人耳。○楚湘陰處士戴偃。爲詩多譏刺。楚王希範囚之。天策副都軍使丁思瑾。上書切諫。希範削其官爵。○唐齊王景達。府屬謝仲宣。言於景達曰。宋齊丘。先帝布衣之交。今棄之草萊。不厭衆心。景達爲之言於唐主曰。齊丘宿望。勿用可也。何必棄之。以爲名。唐主乃使景達。自至青陽。召之。

三年春正月。以齊丘爲太傅。兼中書令。但一朝請。不預政事。以昭武節度使李建勳爲右僕射。兼門下侍郎。與中書侍郎馮延巳。皆同平章事。建勳。練習吏事。而儒怯少斷。延巳。工文辭。而狡佞喜大言。多樹朋黨。水部郎中高越。上書指延巳兄弟過惡。唐主怒。貶越。蕪州司士。初唐主置宣政院於禁中。以翰林學士給事中常夢錫領之。專典機密。與中書侍郎嚴續。皆忠直無私。唐主謂夢錫曰。大臣惟嚴續中立。然無才。恐不勝其黨。卿宜左右之。未幾。夢錫罷。宣政院續亦出爲池州觀察使。夢錫於是移疾。縱酒。不復預朝廷事。續可求之子也。○二月。壬戌朔。日有食之。○晉昌節度使兼侍中趙在禮。更歷十鎮。所至貪暴。家貲爲諸帥之最。帝利

其富。三月庚申，為皇子鎮寧節度使延煦，娶其女。在禮自費緡錢十萬，縣官之費數倍過之。延煦及弟延寶，皆高祖諸孫，帝養以為子。○唐泉州刺史王繼勳，致書修好於威武節度使李弘義，弘義以泉州故隸威武軍，怒其抗禮。夏四月，遣弟弘通將兵萬人伐之。○初，朔方節度使馮暉在靈州，留党項會長拓跋彥超於州下，故諸部不敢為寇。及將罷鎮而縱之，前彰武節度使王令溫代暉鎮朔方，不存撫羌胡，以中國法繩之，羌胡怨怒，競為寇鈔。拓跋彥超石存也，廝褒三族共攻靈州，殺令溫弟令周。戊午，令溫上表告急。○泉州都指揮使留從效謂刺史王繼勳曰：李弘通兵勢甚盛，士卒以君賞罰不當，莫肯力戰。使君宜避位自省，乃廢繼勳，歸私第。代領軍府事，勅兵擊李弘通，大破之。表聞于唐，唐主以從效為泉州刺史，召繼勳還金陵，遣將兵戍泉州。徙漳州刺史王繼成為和州刺史，汀州刺史許文積為贛州刺史。○定州西北二百里，有狼山，土人築堡於山上，以避胡寇。堡中有佛舍，尼孫深意居之，以妖術惑眾，言事頗驗，遠近信奉之。中山人孫方簡及弟行友，自言深意之姪，不飲酒食肉，事深意甚謹，深意卒，方簡嗣行其術，稱深意坐化，嚴飾事之如生。其徒日滋，會晉與契丹絕好，北邊賦役煩重，寇盜充斥，民不安其業。方簡行友因帥鄉里豪健者，據寺為寨，以自保。契丹入寇，方簡帥眾邀擊，頗獲其甲兵、牛馬、軍資。人挈家往依之者，日益眾。久之，至千餘家，遂為群盜懼，為吏所討，乃歸款朝廷。朝廷亦資其禦寇，署東北招收指揮使。方簡時入契丹境，鈔掠多所殺獲，既而邀求不已。朝廷小不副其意，則舉寨降於契丹，請為鄉道以入寇。時河北大饑，民餓死者所在以萬數，兗、鄆、滄、貝之間，盜賊蓋起，吏不能禁。天雄節度使杜威遣元隨軍將劉延翰、市馬於邊，方簡執之，獻於契丹。延翰逃歸。六月壬戌，至大梁，言方簡欲乘中國凶饑，引契丹入寇，宜為之備。○初，朔方節度使馮暉在靈武，得羌胡心，市馬，每年得五千匹，朝廷忌之，徙鎮邠州。及陝州入為侍衛步軍都指揮使，領河陽節度使，暉知朝廷之意，悔

離靈武，乃厚事馮玉。李彥韜求復鎮靈州，朝廷亦以羌胡方擾，丙寅，復以暉為朔方節度使。將關西兵擊羌胡，以威州刺史藥元福為行營馬步軍都指揮使。○乙丑，定州言契丹勒兵壓境，詔以天平節度使侍衛馬步都指揮使李守貞為北面行營都部署，義成節度使皇甫遇副之。彰德節度使張彥澤充馬軍都指揮使，兼都虞候。義武節度使蘄人李殷充步軍都指揮使，兼都排陳使。遣護聖指揮使臨清王彥超、太原白延遇，以部兵十營詣邢州。時馬軍都指揮使鎮安節度使李彥韜方用事，視守貞蔑如也。守貞在外所為，事無大小，彥韜必知之。守貞外雖敬奉，而內恨之。○初，唐人既克建州，欲乘勝取福州。唐主不許，樞密使陳覺請自往說李弘義，必令入朝。宋齊丘薦覺才辯，可不煩寸刃，坐致弘義。唐主乃拜弘義母妻，皆為國夫人。四弟皆遷官，以覺為福州宣諭使，厚賜弘義金帛。弘義知其謀，見覺辭色甚倨，待之疎薄，覺不敢言入朝事而還。○秋七月，河決楊劉西入莘縣，廣四十里，自朝城北流。○有自幽州來者言，趙延壽有意歸國，樞密使李崧、馮玉信之，命天雄節度使杜威致書於延壽，具述朝旨，啖以厚利。洺州軍將趙行實嘗事延壽，遣書潛往遺之。延壽復書言：久處異域，思歸中國，乞發大軍應接，拔身南去。辭旨懇密，朝廷欣然，復遣行實詣延壽，與為期約。○八月，李守貞言與契丹千餘騎，遇於長城北，轉鬪四十里，斬其酋帥解里，擁餘眾入水，溺死者甚眾。○丁卯，詔李守貞還屯澶州。○帝既與契丹絕好，數召吐谷渾酋長白承福入朝，宴賜甚厚。承福從帝，與契丹戰澶州，又與張從恩、成滑州屬歲大熱，遣其部落還太原，畜牧於嵐石之境。部落多犯法，劉知遠無所縱捨，部落知朝廷微弱，且畏知遠之嚴，謀相與遁歸。故地有白可久者，位亞承福，帥所部先亡歸契丹。契丹用為雲州觀察使，以誘承福。知遠與郭威謀曰：今天下多事，置此屬於太原，乃腹心之疾也，不如去之。承福家甚富，飼馬用銀槽，威勸知遠誅之，收其貨以贍軍。知遠密表吐谷渾反覆難保，請遷於內地。帝遣使發其部落千九

百人分置河陽及諸州。知遠遣威誘承福等入居太原城中。因誣承福等五族謀叛。以兵圍而殺之。合四百口。籍沒其家貲。詔褒賞之。吐谷渾由是遂微。○濮州刺史慕容彥超。坐違法科斂。擅取官麥五百斛。造麴賦與部民。李彥韜素與彥超有隙。發其事。罪應死。彥韜趣馮玉使殺之。劉知遠上表論救。李崧曰。如彥超之罪。今天下藩侯皆有之。若盡其法。恐人人不自安。甲戌。勅免彥超死。削官爵。流房州。○唐陳覺自福州還。至劍州。恥無功。矯詔使侍衛官顧忠。召弘義入朝。自稱權福州軍府事。擅發汀建撫信州兵。及戍卒。命建州監軍使馮延魯將之趣福州。迎弘義。延魯先遣弘義書諭以禍福。弘義復書請戰。遣樓船指揮使楊崇保將州師拒之。覺以劍州刺史陳誨為緣江戰棹指揮使。表福州孤危。旦夕可克。唐主以覺專命甚怒。羣臣多言。兵已傅城下。不可中止。當發兵助之。丁丑。覺延魯敗。楊崇保於候官。戊寅。乘勝進攻福州西關。弘義出擊。大破之。執唐左神威指揮使楊匡鄴。唐主以永安節度使王崇文為東南面都招討使。以漳泉安撫使諫議大夫魏岑為東面監軍使。延魯為南面監軍使。會兵攻福州。克其外郭。弘義固守第二城。○馮暉引兵過旱海。至輝德。糗糧已盡。拓拔彥超眾數萬。為三陳。扼要路。據永泉。以待之。軍中大懼。暉以賂求和於彥超。彥超許之。自旦至日中。使者往返數四。兵未解。藥元福曰。虜知我飢渴。陽許和以困我耳。若至暮。則吾輩成擒矣。今虜雖眾。精兵不多。依西山而陳者。是也。其餘步卒。不足為患。請公嚴陳以待我。我以精騎先犯西山。兵小勝。則舉黃旗。大軍合勢擊之。破之必矣。乃帥騎先進。用短兵力戰。彥超小却。元福舉黃旗。暉引兵赴之。彥超大敗。明日。暉入靈州。○九月。契丹三萬寇河東。壬辰。劉知遠敗之於陽武谷。斬首七千級。○漢劉思潮等既死。陳道庠內不自安。特進鄧仲遺之。漢紀。道庠問其故。仲曰。悉獠。此書有誅韓信。臨彭越事。宜審讀之。漢主聞之。族道庠及仲。○李弘義自稱威武留後。更名弘達。奉表請命于晉。甲午。以弘達為威武節度使。同平章事。知閩國事。○

張彥澤奏。敗契丹於定州北。又敗之於秦州。斬首二千級。○辛丑。福州排陳使馬捷。引唐兵自馬牧山拔寨而入。至善化門橋。都指揮使丁彥貞。以兵百人拒之。弘達退保善化門。外城再重。皆為唐兵所據。弘達更名達。遣使奉表稱臣。乞師于吳越。○楚王希範。知帝好奢靡。屢以珍玩為獻。求都元帥甲辰。以希範為諸道兵馬都元帥。○丙辰。河決澶州臨黃。○契丹使瀛州刺史劉延祚。遣樂壽監軍王繼書。請舉城內附。且云。城中契丹兵不滿千人。乞朝廷發輕兵襲之。已為內應。又今秋多雨。自瓦橋以北。積水無際。契丹主已歸牙帳。雖聞關南有變。地遠阻水。不能救也。繼與天雄節度使兼中書令杜威。屢奏。瀛莫乘此可取。深州刺史慕容遷。獻瀛莫圖。馮玉。李崧。信以為然。欲發大兵。迎趙延壽。及延祚。先是。侍衛馬步都指揮使天平節度使李守貞。數將兵過廣晉。杜威厚待之。贈金帛甲兵。動以萬計。守貞由是與威親善。守貞入朝。帝勞之曰。聞卿為將。常費私財。以賞戰士。對曰。此皆杜威盡忠於國。以金帛資臣。臣安敢掠有其美。因言。陛下若它日用兵。臣願與威戮力。以清沙漠。帝由是亦賢之。及將北征。帝與馮玉。李崧議。以威為元帥。守貞副之。趙瑩私謂馮李曰。杜令國戚。貴為將相。而所欲未厭。心常慊慊。豈可復假以兵權。必若有事北方。不若止任守貞為愈也。不從。冬。十月。辛未。以威為北面行營都招討使。以守貞為兵馬都監。泰寧節度使安審琦為左右廂都指揮使。武寧節度使符彥卿為馬軍左廂都指揮使。義成節度使皇甫遇為馬軍右廂都指揮使。永清節度使梁漢璋為馬軍都排陳使。前威勝節度使宋彥筠為步軍左廂都指揮使。奉國左廂都指揮使王饒為步軍右廂都指揮使。洺州團練使薛懷讓為先鋒都指揮使。仍下勅。勝曰。專發大軍。往平黠虜。先取瀛莫。安定。關南。次復幽燕。盪平塞北。又曰。有擒獲虜主者。除上鎮節度使。賞錢萬緡。絹萬匹。銀萬兩。時自六月積雨。至是未止。軍行及饋運者甚艱苦。○唐漳州將林贊堯作亂。殺監軍使周承義。劍州刺史陳誨。泉州刺史留從效。舉兵逐贊堯。以泉

州裨將董思安權知漳州。唐主以思安爲漳州刺史。思安辭以父名章。唐主改漳州爲南州。命思安及留從效將州兵。會攻福州。庚辰。圍之。福州使者至。錢塘吳越王弘佐召諸將謀之。皆曰。道險遠難救。惟內都監使臨安水丘昭券以爲當救。弘佐曰。唇亡齒寒。吾爲天下元帥。曾不能救鄰道。將安用之。諸君但樂飽食安坐邪。壬午。遣統軍張筠。趙承泰。將兵三萬。水陸救福州。先是募兵。久無應者。弘佐命糾之曰。糾而爲兵者。糧賜減半。明日應募者雲集。弘佐命昭券專掌用兵。昭券憚程昭悅以用兵事讓之。弘佐命昭悅掌應援饋運事。而以軍謀委元德昭。德昭危仔倡之子也。弘佐議鑄鐵錢。以益將士祿賜。其弟牙內都虞候弘億諫曰。鑄鐵錢有八害。新錢既行。舊錢皆流入鄰國。一也。可用於吾國。而不可用於它國。則商賈不行。百貨不通。二也。銅禁至嚴。民猶盜鑄。況家有鐮釜。野有錘犂。犯法必多。三也。閩人鑄鐵錢而亂亡。不足爲法。四也。國用幸豐。而自示空乏。五也。祿賜有常。而無故益之。以啓無厭之心。六也。法變而弊不可遽復。七也。錢者國姓。易之不祥。八也。弘佐乃止。○杜威。李守貞。會兵於廣晉。而北行。威屢使公主入奏。請益兵。曰。今深入虜境。必資衆力。由是禁軍皆在其麾下。而宿衛空虛。十一月。丁酉。以李守貞權知幽州行府事。己亥。杜威等至瀛州。城門洞啓。寂若無人。威等不敢進。聞契丹將高謨翰先已引兵潛出。威遣梁漢璋將二千騎追之。遇契丹於南陽。越兵至福州。自晉浦南潛入州城。唐兵進據東武門。李達與吳越兵共禦之。不利。自是內外斷絕。城中益危。唐主遣信州刺史王建封助攻福州。時王崇文雖爲元帥。而陳覺。馮延魯。魏岑。爭用事。留從效。王建封。備彊不用命。各爭功。進退不相應。由是將士皆解體。故攻城不克。唐主以江州觀察使杜昌業爲吏部尚書。判省事。先是。昌業自兵部尚書。判省事。出江州。及還。閱簿籍。撫案歎曰。未數年。而所耗者半。其能久乎。○契丹主大舉入寇。自易定趣恆州。杜

威等至武強。聞之。將自冀貝而南。彰德節度使張彥澤時在恆州。引兵會之。言契丹可破之。狀。威等復趣恆州。以彥澤爲前鋒。甲寅。威等至中度橋。契丹已據橋。彥澤帥騎爭之。契丹焚橋而退。晉兵與契丹夾滹沱而軍。始契丹見晉軍大至。又爭橋不勝。恐晉軍急渡滹沱。與恆州合勢擊之。議引兵還。及聞晉軍築壘。爲持久之計。遂不去。○蜀施州刺史田行皐叛。遣供奉官耿彥珣將兵討之。○杜威雖以貴戚爲上將。性懦怯。偏裨皆節度使。但日相承迎。置酒作樂。罕議軍事。磁州刺史兼北面轉運使李穀。說威及李守貞曰。今大軍去恆州咫尺。煙火相望。若多以三股木置水中。積薪布土其上。橋可立成。密約城中。舉火相應。夜募將士。斫虜營而入。表裏合勢。虜必遁逃。諸將皆以爲然。獨杜威不可。遣穀南至懷孟。督軍糧。契丹以兵當晉軍之前。潛遣其將蕭翰。通事劉重進。將百騎及羸卒。竝西山。出晉軍之後。斷晉糧道。及歸路。樵采者遇之。盡爲所掠。有逸歸者。皆稱虜衆之盛。軍中懼。翰等至樂城。城中戍兵千餘人。不覺其至。狼狽降之。契丹獲晉民。皆黥其面。曰。奉勅不殺。縱之南走。運夫在道。遇之。皆棄車驚潰。翰契丹主之舅也。十二月。丁巳朔。李穀自書密奏。具言大軍危急之勢。請車駕幸滑州。遣高行周符彥卿扈從。及發。兵守澶州。河陽。以備虜之奔衝。遣軍將關勳走馬上之。己未。帝始聞大軍屯中度。是夕。關勳至。庚申。杜威奏請益兵。詔悉發守宮禁者。得數百人。赴之。又詔發河北及滑孟澤潞芻糧五十萬。詣軍前。督迫嚴急。所在鼎沸。辛酉。威又遣從者張祚等來告急。祚等還。爲契丹所獲。自是朝廷與軍前聲問兩不相通。時宿衛兵皆在行營。人心懷懼。莫知爲計。開封尹桑維翰以國家危在旦夕。求見帝言事。帝方在苑中。調鷹。辭不見。又詣執政言之。執政不以爲然。退謂所親曰。晉氏不血食矣。帝欲自將北征。李彥韜諫而止。時符彥卿雖任行營職事。帝留之。使戍荊州口。壬戌。詔以歸德節度使高行周爲北面都部署。以彥卿副之。共戍澶州。以西京留守景延廣戍河陽。且張形勢。奉國都指揮使王清言於

杜威曰。今大軍去恆州五里。守此何爲。營孤食盡。勢將自潰。請以步卒二千爲前鋒。奪橋開道。公帥諸軍繼之。得入恆州。則無憂矣。威許諾。遣清與宋彥筠俱進。清戰甚銳。契丹不能支。勢小却。諸將請以大軍繼之。威不許。彥筠爲契丹所敗。浮水抵岸得免。清獨帥麾下。陳於水北。力戰。互有殺傷。屢請救於威。威竟不遣一騎助之。清謂其衆曰。上將握兵。坐觀吾輩困急而不救。此必有異志。吾輩當以死報國耳。衆感其言。莫有退者。至暮。戰不息。契丹以新兵繼之。清及士衆盡死。由是諸軍皆奪氣。清。洛州人也。甲子。契丹遙以兵環晉營。內外斷絕。軍中食且盡。杜威與李守貞。宋彥筠。謀降契丹。威潛遣腹心詣契丹牙帳。邀求重賞。契丹主給之。曰。趙延壽威望素淺。恐不能帝中國。汝果降者。當以汝爲之。威喜。遂定降計。丙寅。伏甲召諸將。出降表示之。使署名。諸將駭愕。莫敢言者。但唯唯聽命。威遣閤門使高勳齎契丹書。契丹主賜詔慰納之。是日。威悉命軍士出陳於外。軍士皆踴躍。以爲且戰。威親諭之曰。今食盡塗窮。當與汝曹共求生計。因命釋甲。軍士皆慟哭。聲振原野。威守貞仍於衆中揚言。主上失德。信任奸邪。猜忌於己。聞者無不切齒。契丹主遣趙延壽衣赭袍。至晉營。慰撫士卒曰。彼皆汝物也。杜威以下。皆迎謁於馬前。亦以赭袍衣威。以示晉軍。其實皆戲之耳。以威爲太傅。李守貞爲司徒。威引契丹主。至恆州城下。諭順國節度使王周。以已降之狀。周亦出降。戊辰。契丹主入恆州。遣兵襲代州。刺史王暉。以城降之。先是。契丹屢攻易州。刺史郭磷固守拒之。契丹主每過城下。指而歎曰。吾能吞併天下。而爲此人所扼。及杜威既降。契丹主遣通事耿崇美。至易州。誘諭其衆。衆皆降。磷不能制。遂爲崇美所殺。磷。邢州人也。義武節度使李殷。安國留後。方太。皆降於契丹。契丹主以孫方簡爲義武節度使。麻答爲安國節度使。以客省副使馬崇祚。權知恆州事。契丹翰林承旨吏部尚書張礪。言於契丹主曰。今大遼已得天下。中國將相。宜用中國人爲之。不宜用北人。及左右近習。苟政令乖失。則人心不服。雖得之。猶將失之。

契丹主不從。引兵自邢相而南。杜威將降兵以從。遣張彥澤將二千騎。先取大梁。且撫安吏民。以通事傅住兒爲都監。杜威之降也。皇甫遇初不預謀。契丹主欲遣遇。先將兵入大梁。遇辭。退謂所親曰。吾位爲將相。敗不能死。忍復圖其主乎。至平棘。謂從者曰。吾不食累日矣。何面目復南行。遂扼吭而死。張彥澤倍道疾驅。夜度白馬津。壬申。帝始聞杜威等降。是夕。又聞彥澤至滑州。召李崧。馮玉。李彥韜。入禁中。計事。欲詔劉知遠發兵入援。癸酉。未明。彥澤自封丘門斬關而入。李彥韜帥禁兵五百赴之。不能遏。彥澤頓兵明德門外。城中大擾。帝於宮中起火。自攜劍。驅後宮十餘人。將赴火。爲親軍將薛超所持。俄而彥澤自寬仁門傳契丹主與太后書。慰撫之。且召桑維翰。景延廣。帝乃命滅火。悉開宮城門。帝坐苑中。與后妃相聚而泣。召翰林學士范質。草降表。自稱孫男。臣重貴。禍至神惑。運盡天亡。今與太后及妻馮氏舉族於郊野。面縛待罪。次遣男鎮寧節度使延煦。威信節度使延寶。奉國寶一。金印三。出迎。太后亦上表。稱新婦李氏妾。傅住兒入宣契丹主命。帝脫黃袍。服素衫。再拜受宣。左右皆掩泣。帝使召張彥澤。欲與計事。彥澤曰。臣無面目見陛下。帝復召之。彥澤微笑不應。或勸桑維翰逃去。維翰曰。吾大臣。逃將安之。坐而俟命。彥澤以帝命召維翰。維翰至天街。遇李崧。駐馬語。未畢。有軍吏於馬前揖維翰。赴侍衛司。維翰知不免。顧謂崧曰。侍中當國。今日國亡。反令維翰死之。何也。崧有愧色。彥澤踞坐。見維翰。維翰責之曰。去年拔公於罪人之中。復領大鎮。授以兵權。何乃負恩至此。彥澤無以應。遣兵守之。宣徽使孟承誨。素以佞巧有寵於帝。至是。帝召承誨。欲與之謀。承誨伏匿不至。張彥澤捕而殺之。彥澤縱兵大掠。貧民乘之。亦爭入富室。殺入。取其貨。二日方止。都城爲之一空。彥澤所居山積。自謂有功於契丹。晝夜以酒樂自娛。出入騎從常數百人。其旗幟皆題赤心爲主。見者笑之。軍士擒罪人。至前。彥澤不問所犯。但瞋目豎三指。即驅出。斷其腰領。彥澤素與閤門使高勳不協。乘醉至其家。殺其叔父及弟。尸諸

門首士民不寒而慄。中書舍人李濤謂人曰：吾與其逃於溝瀆而不免，不若往見之。乃投刺謁彥澤曰：上書請殺太尉人李濤，謹來請死。彥澤欣然接之，謂濤曰：舍人今日懼乎？濤曰：濤今日之懼，亦猶足下昔年之懼也。曷使高祖用濤言，事安至此？彥澤大笑，命酒飲之。濤引滿而去。旁若無人。甲戌，張彥澤遷帝於開封府。頃刻不得留宮中，慟哭。帝與太后、皇后乘肩輿，宮人宦者十餘人步從。見者流涕。帝悉以內庫金珠自隨。彥澤使人諷之曰：契丹主至此，物不可匿也。帝悉歸之，亦分以遺彥澤。彥澤擇取其奇貨而封其餘，以待契丹。彥澤遣控鶴指揮使李筠以兵守帝，內外不通。帝姑烏氏公主賂守門者，入與帝訣。歸第自經。帝與太后所上契丹主表章皆先示彥澤，然後敢發。帝使取內庫帛數段，主者不與曰：此非帝物也。又求酒於李崧，崧亦辭以它故不進。又欲見李彥韜，彥韜亦辭不往。帝惆悵久之。馮玉佞張彥澤，求自送傳國寶，冀契丹復任用。楚國夫人丁氏延煦之母也，有美色。彥澤使人取之。太后遲迴未與。彥澤詬詈，立載之去。是夕，彥澤殺桑維翰，以帶加頸。白契丹主云：其自經。契丹主曰：吾無意殺維翰，何為如是？命厚撫其家。高行周符彥卿皆詣契丹牙帳降。契丹主以陽城之戰為彥卿所敗，詰之。彥卿曰：臣當時惟知為晉主竭力，今日死生惟命。契丹主笑而釋之。己卯，延煦、延寶自牙帳還。契丹主賜帝手詔，且遣解里謂帝曰：孫勿憂，必使汝有噉飯之所。帝心稍安。上表謝恩。契丹以所獻傳國寶追琢非工，又不與前史相應，疑其非真，以詔書詰帝。使獻真者。帝奏：頃王從珂自焚，舊傳國寶不知所在，必與之俱燼。此寶先帝所為，羣臣備知。臣今日焉敢匿寶？乃止。帝聞契丹主將度河，欲與太后於前途奉迎。張彥澤先奏之。契丹主不許。有司又欲使帝銜璧牽羊，大臣輒迎於郊外，先具儀注。白契丹主，契丹主曰：吾遣奇兵直取大梁，非受降也。亦不許。又詔晉文武羣官一切如故。朝廷制度竝用漢禮。有司欲備法駕迎契丹主，契丹主報曰：吾方擐甲總戎，太常儀衛未暇施也。皆却之。先是，契丹主至相

州，即遣兵趣河陽，捕景延廣、延廣蒼猝，無所逃伏。往見契丹主於封丘。契丹主詰之曰：致兩主失歡，皆汝所為也。十萬橫磨劍安在？召喬榮，使相辯證。事凡十條。延廣初不服，榮以紙所記語示之，乃服。每服一事，輒授一籌，至八籌。延廣但以面伏地，請死。乃鎖之。丙戌晦，百官宿於封禪寺。

資治通鑑卷第二百八十五